資料８-1

# 第２回　医療者調査

# 報告書

2024 年 3 月

沖縄県がん診療連携協議会

1. 調査概要
（1）調査手法 ..... 2
（2）調査対象者 ..... 2
（3）調査実施医療施設 ..... 2
（4）調査期間 ..... 2
（5）有効回収数 ..... 2
（6）回答者のプロフィール ..... 3
2. 調査結果概要
（1）本調査の分析方法 ..... 6
（2）各項目の実現率一覧 ..... 7
（3）各項目の平均スコア一覧 ..... 8
3. 調査結果詳細（平均スコア・実現率）
（1） レジメン登録の遅延による投薬の遅れ（医師のみへの質問） ..... 10
（2） モニタリング結果の主治医（チーム）への速やかな伝達 ..... 12
（3） モニタリング結果を受け、主治医（チーム）が緩和ケア実施 ..... 14
（4） 主治医（チーム）から緩和ケアチームへの迅速な紹介 ..... 16
（5） 治療方針説明時の医師以外の職種参加 ..... 18
（6） 治療スケジュール見通しの十分な情報提供 ..... 20
（7） 医療費の十分な情報提供 ..... 22
（8） 就労継続可否の十分な情報提供 ..... 24
（9） アピアランスケアの十分な情報提供 ..... 26
（10）がん相談支援センターに関する十分な情報提供 ..... 28
（11）患者サロン、ピアサポート、患者会に関する十分な情報提供 ..... 30
（12）副作用を含めた薬物療法に関する十分な情報提供 ..... 32
（13）がんゲノム医療に関する十分な情報提供 ..... 34
（14）妊孕性温存療法が必要な患者への同療法の説明（医師と看護師のみ） ..... 36
（15）質の高い最適な手術の提供 ..... 38
（16）多職種で議論した上での放射線治療実施 ..... 40
（17）質の高い薬物療法の提供 ..... 42
（18）患者の希望を受けての在宅医療移行 ..... 44
（19）リハビリテーション実施 ..... 46
（20）高齢がん患者への「高齢者機能評価」 ..... 48
（21）希少がん患者の中部病院、琉大病院、県外医療機関への紹介 ..... 50
（22）難治がん患者の県内・県外医療機関への紹介 ..... 52
（23）AYA 世代がん患者の県内・県外医療機関への紹介 ..... 54
（24）離島・へき地患者の本島医療機関へのスムーズな送り出し ..... 56
（25）離島・へき地と本島との医療格差解消 ..... 58
（26）離島・へき地患者に対する通院回数への配慮 ..... 60

（27）県内におけるがん医療の集約化と機能分化 ..... 62
（28）医師への意見の言いやすさ（医師以外が回答） ..... 64
（29）他スタッフの意見の尊重（医師が回答） ..... 66
（30）職場のキャリア育成環境 ..... 68
4. 調査結果詳細（クロス集計表）
（1） レジメン登録の遅延による投薬の遅れ（医師のみへの質問） ..... 72
（2） モニタリング結果の主治医（チーム）への速やかな伝達 ..... 74
（3） モニタリング結果を受け、主治医（チーム）が緩和ケア実施 ..... 76
（4） 主治医（チーム）から緩和ケアチームへの迅速な紹介 ..... 78
（5） 治療方針説明時の医師以外の職種参加 ..... 80
（6） 治療スケジュール見通しの十分な情報提供 ..... 82
（7） 医療費の十分な情報提供 ..... 84
（8） 就労継続可否の十分な情報提供 ..... 86
（9） アピアランスケアの十分な情報提供 ..... 88
（10）がん相談支援センターに関する十分な情報提供 ..... 90
（11）患者サロン、ピアサポート、患者会に関する十分な情報提供 ..... 92
（12）副作用を含めた薬物療法に関する十分な情報提供 ..... 94
（13）がんゲノム医療に関する十分な情報提供 ..... 96
（14）妊孕性温存療法が必要な患者への同療法の説明（医師と看護師のみ） ..... 98
（15）質の高い最適な手術の提供 ..... 100
（16）多職種で議論した上での放射線治療実施 ..... 102
（17）質の高い薬物療法の提供 ..... 104
（18）患者の希望を受けての在宅医療移行 ..... 106
（19）リハビリテーション実施 ..... 108
（20）高齢がん患者への「高齢者機能評価」 ..... 110
（21）希少がん患者の中部病院、琉大病院、県外医療機関への紹介 ..... 112
（22）難治がん患者の県内・県外医療機関への紹介 ..... 116
（23）AYA 世代がん患者の県内・県外医療機関への紹介 ..... 120
（24）離島・へき地患者の本島医療機関へのスムーズな送り出し ..... 124
（25）離島・へき地と本島との医療格差解消 ..... 126
（26）離島・へき地患者に対する通院回数への配慮 ..... 128
（27）県内におけるがん医療の集約化と機能分化 ..... 130
（28）医師への意見の言いやすさ（医師以外が回答） ..... 132
（29）他スタッフの意見の尊重（医師が回答） ..... 134
（30）職場のキャリア育成環境 ..... 136
5. 調査票

# 1. 調査概要

## （1） 調査手法

医療施設において本調査に関する協力案内を掲示し、スマートフォンかパソコンから専用 WEB フォームにアクセスし、回答いただいた。

## （2） 調査対象者

がん診療連携拠点病院等 6 施設および「がん診療を行う診療施設」20 施設の合計 26 施設に勤務する以下の医療者全員（合計約1万人の中で、がん診療に携わっている医療者）

【内訳】

| | | |
|---|---|---|
| ◯ 医師 | 2130 人 | 各医療機関1～384 人 |
| ◯ 看護師 | 7054 人 | 各医療機関1～625 人 |
| ◯ 薬剤師 | 423 人 | 各医療機関 0～55 人 |
| ◯ 医療ソーシャルワーカー | 100 人 | 各医療機関1～10 人 |

## （3） 調査実施医療施設

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 北部病院 | 14 | 宮良クリニック |
| 2 | たいら内科クリニック | 15 | 那覇市立病院 |
| 3 | 北部地区医師会病院 | 16 | 那覇西クリニックまかび |
| 4 | 中部病院 | 17 | 那覇西クリニック |
| 5 | 中頭病院 | 18 | 沖縄赤十字病院 |
| 6 | 中部徳洲会病院 | 19 | 大浜第一病院 |
| 7 | ハートライフ病院 | 20 | 沖縄協同病院 |
| 8 | 沖縄病院 | 21 | 南部医療センター・こども医療センター |
| 9 | 琉球大学病院 | 22 | 豊見城中央病院 |
| 10 | アドベンチストメディカルセンター | 23 | 友愛医療センター |
| 11 | 与那原中央病院 | 24 | 南部徳洲会病院 |
| 12 | 浦添総合病院 | 25 | 宮古病院 |
| 13 | マンマ家クリニック | 26 | 八重山病院 |

## （4） 調査期間

2024 年 3 月 15 日～3 月 31 日

## （5） 有効回収数

951 票（回答総数は 1267 票、うち 2023 年にがん患者に携わっていない 316 票は除外）

## （６） 回答者のプロフィール

有効回答者数は 951 人で、属性の内訳は以下の通り。

【職種】

| | 選択肢 | n | % |
|---|---|---|---|
| 1 | 医師 | 219 | 23.0 |
| 2 | 看護師 | 621 | 65.3 |
| 3 | 薬剤師 | 63 | 6.6 |
| 4 | 医療ソーシャルワーカー | 48 | 5.0 |
| | 全体 | 951 | 100.0 |

【性別】

| | 選択肢 | n | % |
|---|---|---|---|
| 1 | 男性 | 317 | 33.3 |
| 2 | 女性 | 622 | 65.4 |
| 3 | 答えたくない | 11 | 1.2 |
| 4 | その他 | 1 | 0.1 |
| | 全体 | 951 | 100.0 |

【年代別】

| | 選択肢 | n | % |
|---|---|---|---|
| 1 | 20代 | 206 | 21.7 |
| 2 | 30代 | 251 | 26.4 |
| 3 | 40代 | 259 | 27.2 |
| 4 | 50代 | 178 | 18.7 |
| 5 | 60代 | 54 | 5.7 |
| 6 | 70歳以上 | 3 | 0.3 |
| | 全体 | 951 | 100.0 |

【勤務施設の医療圏】

| | 選択肢 | n | % |
|---|---|---|---|
| 1 | 北部医療圏 | 49 | 5.2 |
| 2 | 中部医療圏 | 217 | 22.8 |
| 3 | 南部医療圏※ | 504 | 53.0 |
| 4 | 宮古医療圏 | 45 | 4.7 |
| 5 | 八重山医療圏 | 136 | 14.3 |
| | 全体 | 951 | 100.0 |

※南部医療圏は琉球大学病院と浦添市、西原町所在の病院を含む

【勤務先医療施設の種類】

| | 選択肢 | n | % |
|---|---|---|---|
| 1 | 都道府県または地域がん診療連携拠点病院※ | 373 | 39.2 |
| 2 | 地域がん診療病院※ | 223 | 23.4 |
| 3 | その他の医療機関 | 355 | 37.3 |
| | 全体 | 951 | 100.0 |

※地域がん診療連携拠点病院：琉球大学病院、中部病院、那覇市立病院

※地域がん診療病院：北部地区医師会病院、宮古病院、八重山病院

【医師の専門分野】（医師のみの回答）

| | 選択肢 | n | % |
|---|---|---|---|
| 1 | 手術が主 | 120 | 54.8 |
| 2 | 放射線治療が主 | 8 | 3.7 |
| 3 | 薬物療法が主 | 91 | 41.6 |
| | 全体 | 219 | 100.0 |

# 2. 調査結果概要

## （１） 本調査の分析方法

本調査は、適切な医療や情報の提供に関し、「75～99%」など一定の幅を持った選択肢を設け、その実施状況を尋ねている。回答結果をそのまま集計し、「『75～99%』に◯%の回答が集まった」とする調査結果のみでは、結果の全体像が把握しづらいと思われるため、以下の方法で結果概要を取りまとめた。

① 各選択肢の平均の値を「代表値」とする。
② 代表値に各回答者数を掛ける。
③ 掛けた値の合計を、総回答者数で割る（※算出に際し、「わからない」の回答は除外）。
④ 算出された値を、その質問に対する**「実現率」**とみなす。

※「実現率」算出例

| 選択肢 | 代表値（選択肢の平均値） | 回答者数 | 代表値×各回答者数 | |
|---|---|---|---|---|
| 0～24% | 12 | 22 | 264 | |
| 25～49% | 37 | 52 | 1924 | |
| 50～74% | 62 | 159 | 9858 | |
| 75～99% | 87 | 277 | 24099 | |
| 100% | 100 | 90 | 9000 | |
| | 小計 | 600 | 45145 | 75.2 |

↑実現率

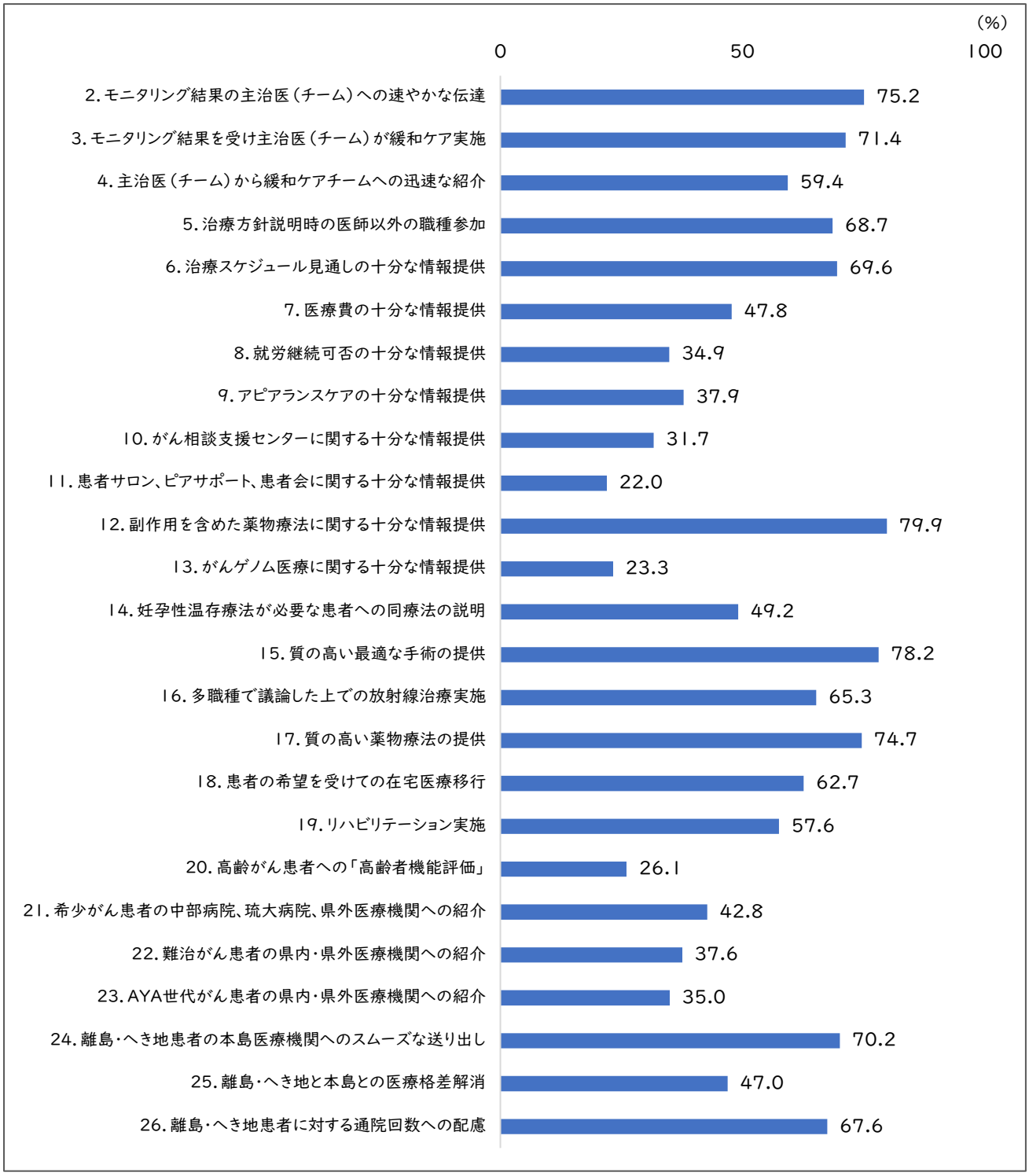
（代表値×各回答者数の小計を回答者総数で割った値）

上記のような、一定の幅を持つ選択肢以外に、「そう思う」「あまりなかった」など定性的な選択肢を設けた質問もある。それらの質問については、以下の方法で結果概要を取りまとめた。

① 「そう思う（なかった）」＝100、「おおむねそう思う（あまりなかった）」＝50、「どちらともいえない」＝0、「あまりそう思わない（ややあった）」＝-50、「そう思わない（あった）」＝-100 とスコアを設定する。
② スコアに各回答者数を掛ける。
③ 掛けた値の合計を、総回答者数で割る（※算出に際し、「わからない」の回答は除外）。
④ 算出された値を、その質問に対する**「平均スコア」**とみなす（-100～100 の幅で算出される）

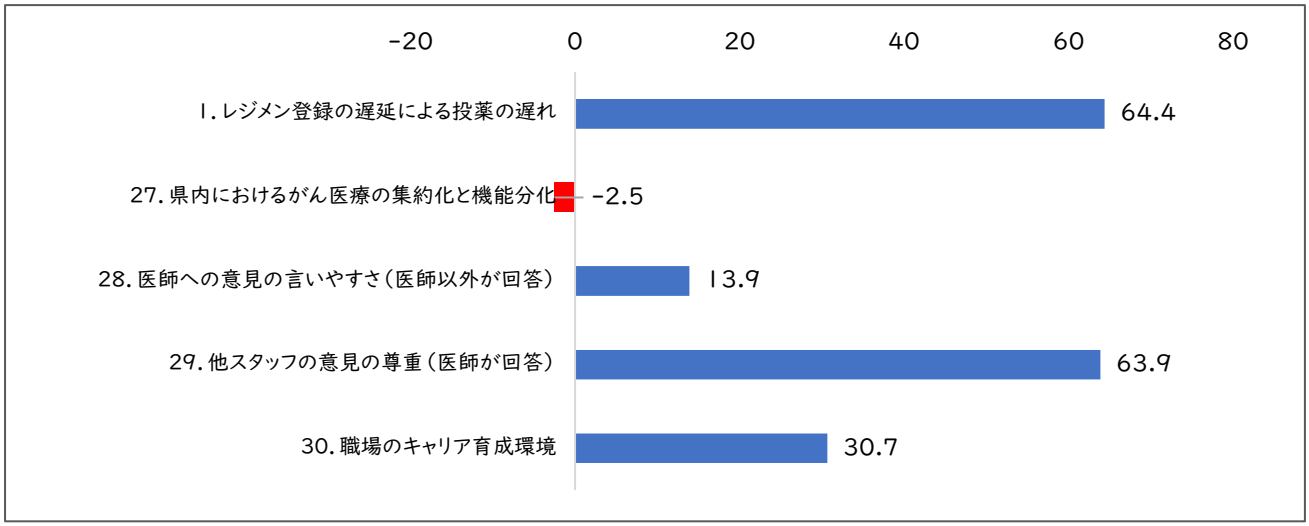
次ページ以降に、各質問の**「実現率」**と**「平均スコア」**を一覧でまとめた。

## （２） 各項目の実現率一覧




※「質問 25」に前述計算式を適用した場合、算出値は「格差残存率」を表すことになるため、100 から算出値を差し引いた「格差解消率」をグラフに記載している。

（３） 各項目の平均スコア一覧



# 3. 調査結果詳細（平均スコア･実現率）

## （1） レジメン登録の遅延による投薬の遅れ（医師のみへの質問）

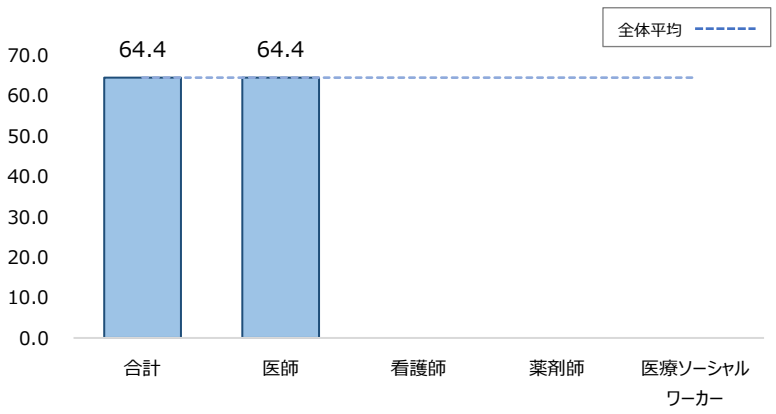
**平均スコア：64.4（※数値が高いほど遅れは少ない）**

Q. 2023 年に、レジメン登録が遅かったために、患者へのタイムリーな投薬が遅れたことがありましたか。

（※-100～100 の幅で算出）

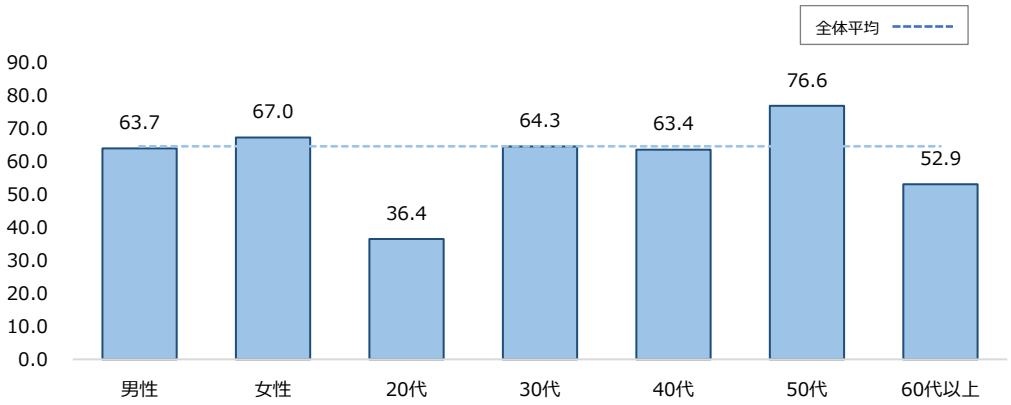
**【全体、職種別】**

- この質問は医師のみの回答で、平均スコアは 64.4 だった。



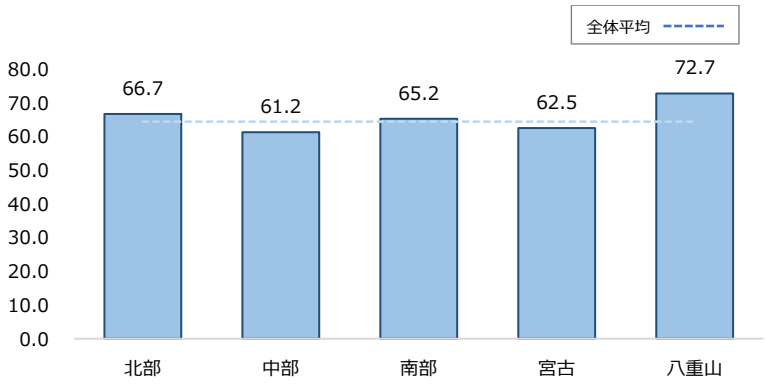

**【性別、年代別】**

- 年代別では、50 代が高く、20 代と 60 代以上が低かった。



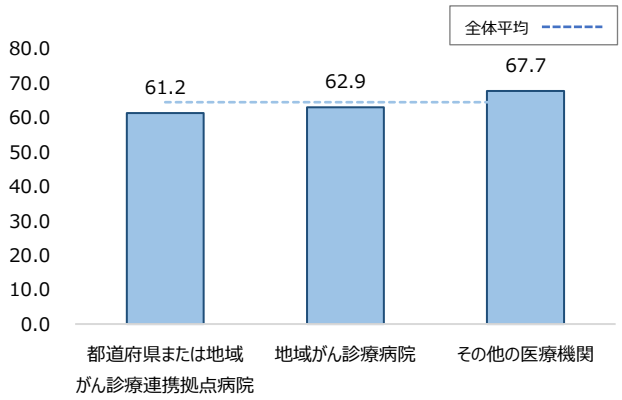
**【医療圏別】**

- 医療圏別で、大きな差異は見られなかった。



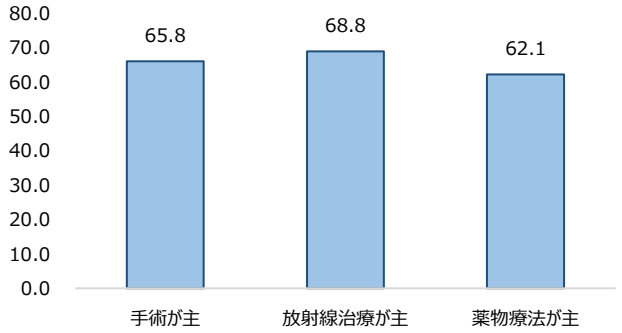

**【医療施設別】**

- 医療施設別で、大きな差異は見られなかった。




**【医師の主たる分野別】**

- 主たる分野別で、大きな差異は見られなかった。



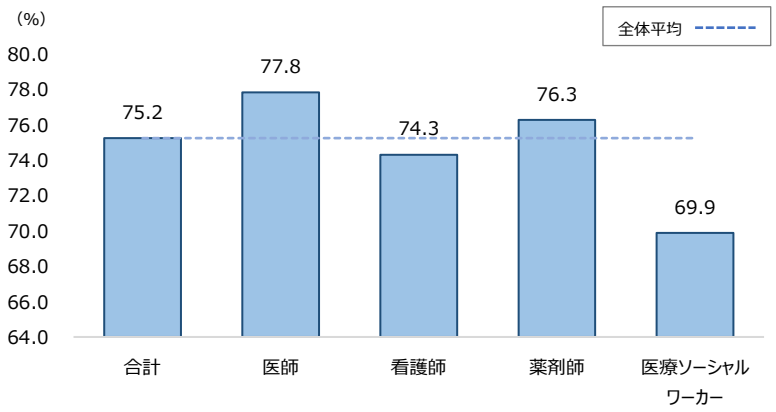
## （2） モニタリング結果の主治医（チーム）への速やかな伝達

**実現率：75.2%**

Q. 2023 年に、看護師による痛みのモニタリング結果で痛みがあるとした患者のうち、その結果が主治医（チーム）に速やかに伝えられた患者の割合はどの程度ですか。

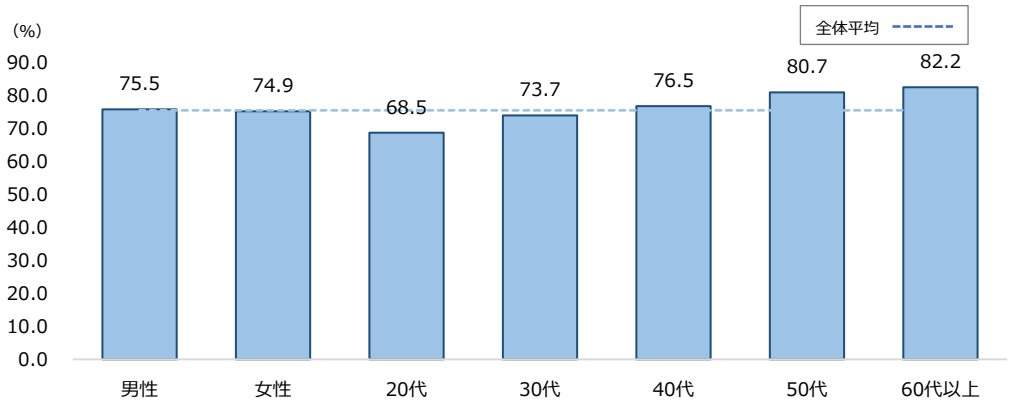
**【全体、職種別】**

- 職種別では、医療ソーシャルワーカーと看護師が低かった。



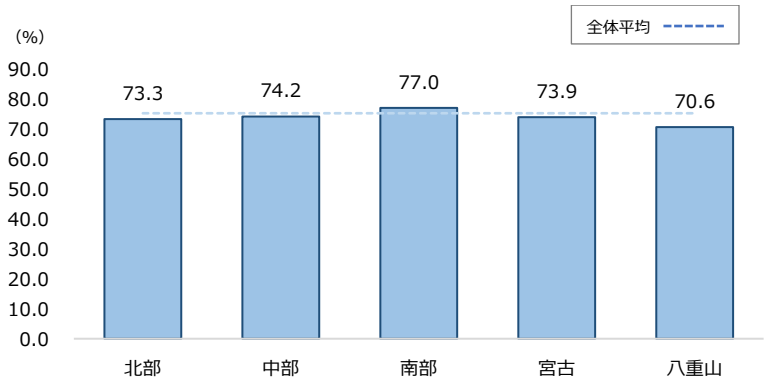

**【性別、年代別】**

- 年代別では、60 代以上と 50 代が高く、20 代がやや低かった。



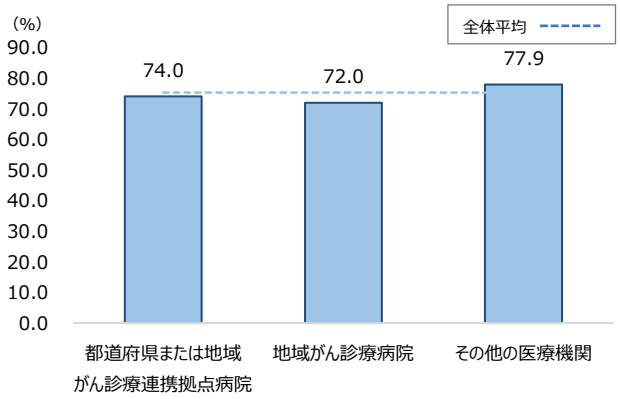
【医療圏別】

➢ 医療圏別で、大きな差異は見られなかった。



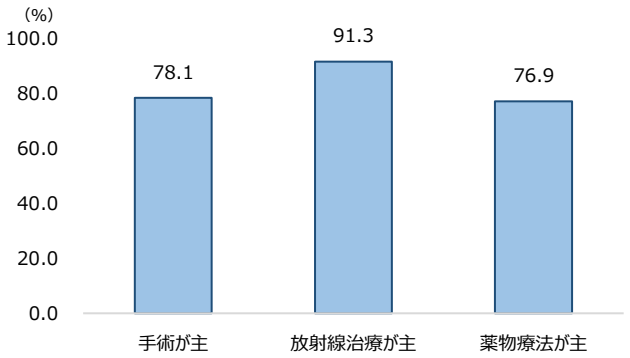

【医療施設別】

➢ 医療施設別で、大きな差異は見られなかった。




【医師の主たる分野別】

➢ 医師の主たる分野別では、「放射線治療が主」が高かった。



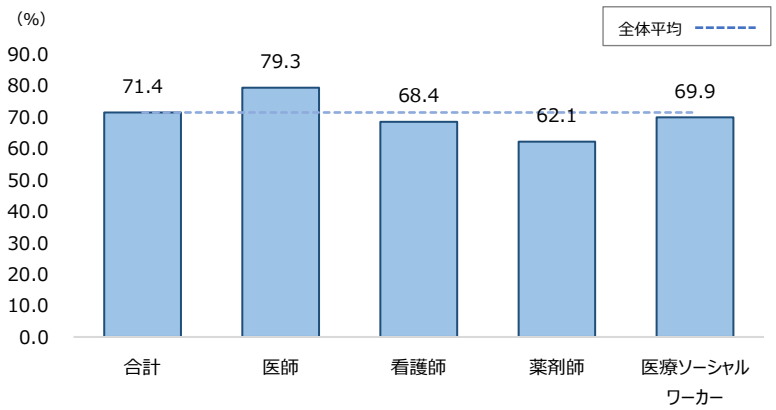
## （3） モニタリング結果を受け、主治医（チーム）が緩和ケア実施

**実現率：71.4%**

Q. 2023 年に、看護師による痛みのモニタリング結果が主治医（チーム）に伝えられた患者のうち、主治医（チーム）が速やかに必要な緩和結果を行った患者の割合はどの程度ですか。

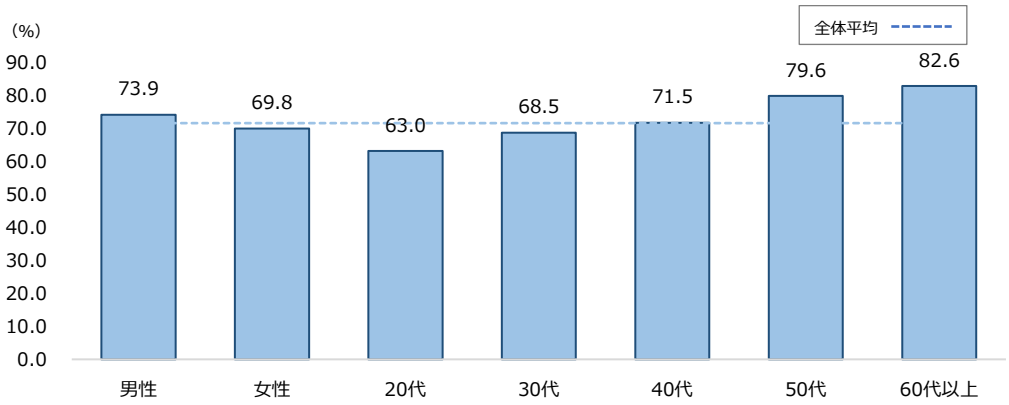
**【全体、職種別】**

- 職種別では、医師が高く、薬剤師が低かった



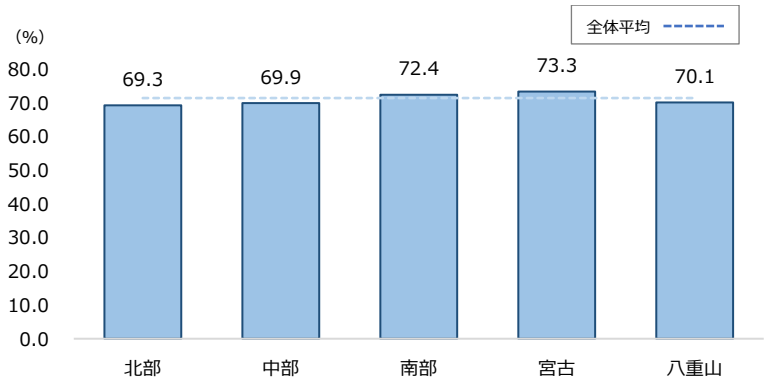

**【性別、年代別】**

- 年代別では、年代が上がるにつれて、高い実現率となった。



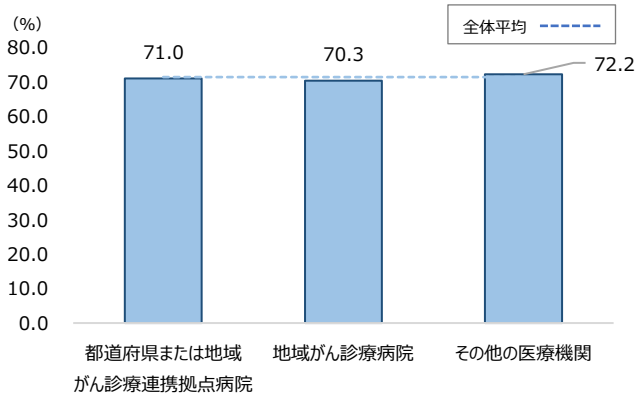
【医療圏別】

➢ 医療圏別で、大きな差異は見られなかった。



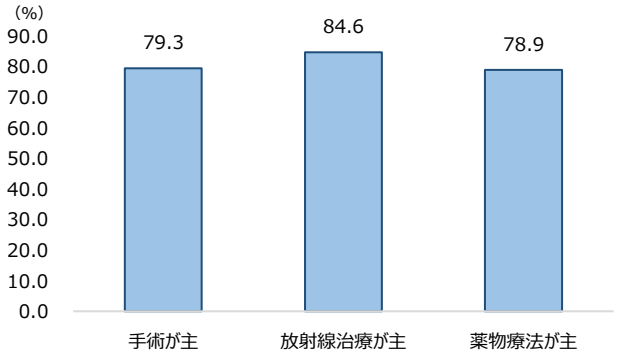

【医療施設別】

➢ 医療施設別では、大きな差異は見られなかった。




【医師の主たる分野別】

➢ 医師の主たる分野別では、「放射線治療が主」が高かった。



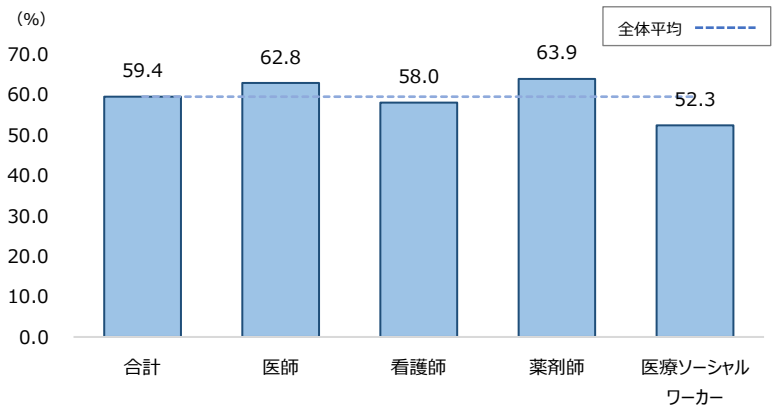
## （4） 主治医（チーム）から緩和ケアチームへの迅速な紹介

**実現率：59.4%**

Q. 2023 年に、看護師による痛みのモニタリング結果が主治医（チーム）に伝えられた患者において、主治医（チーム）では対応が十分に行えない患者のうち、主治医（チーム）から速やかに緩和ケアチームに紹介が行われた患者の割合はどの程度ですか。

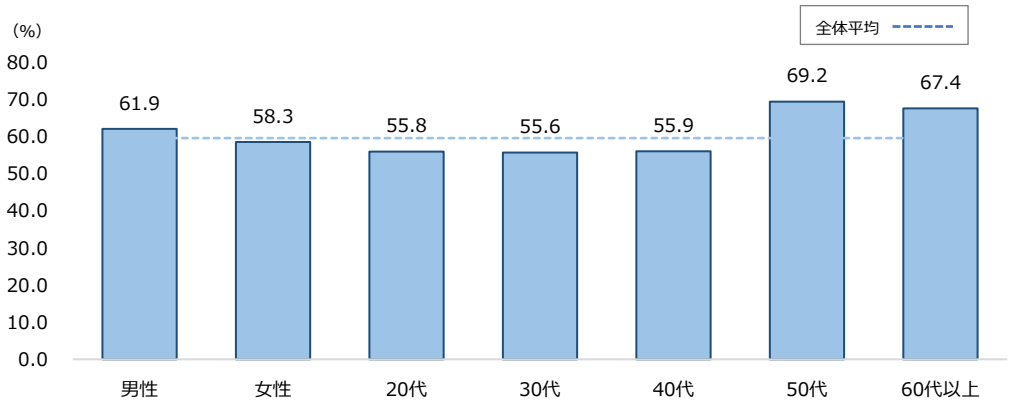
**【全体、職種別】**

- 職種別では、薬剤師と医師がやや高く、医療ソーシャルワーカーが低かった。



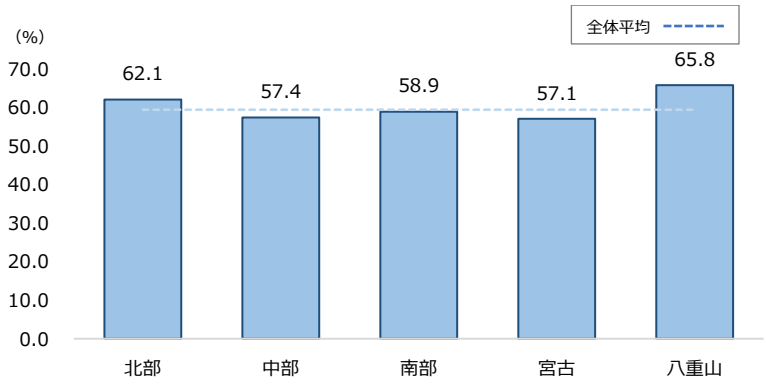

**【性別、年代別】**

- 年代別では、50 代、60 代以上が高かった。



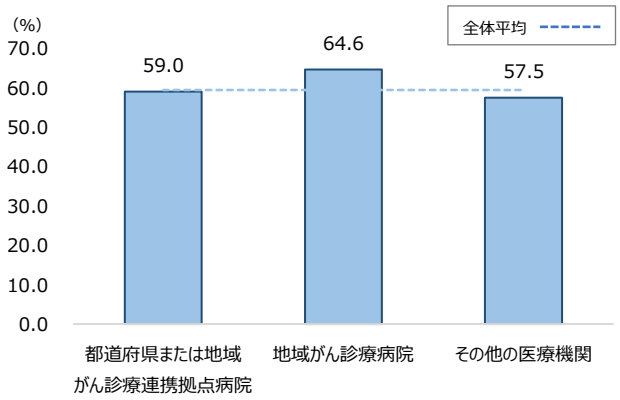
【医療圏別】

➢ 医療圏別では、八重山が高かった。



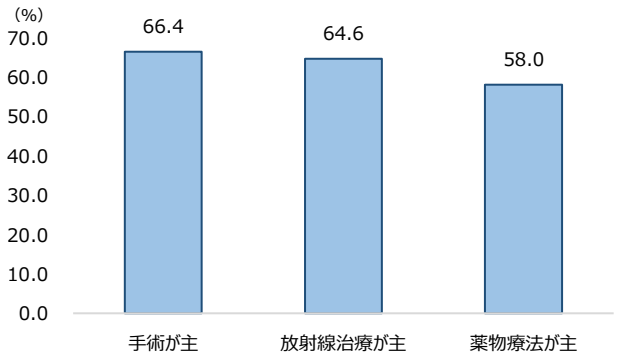

【医療施設別】

➢ 医療施設別では、地域がん診療病院が高かった。




【医師の主たる分野別】

➢ 医師の主たる分野別では、「手術が主」と「放射線治療が主」が高かった。



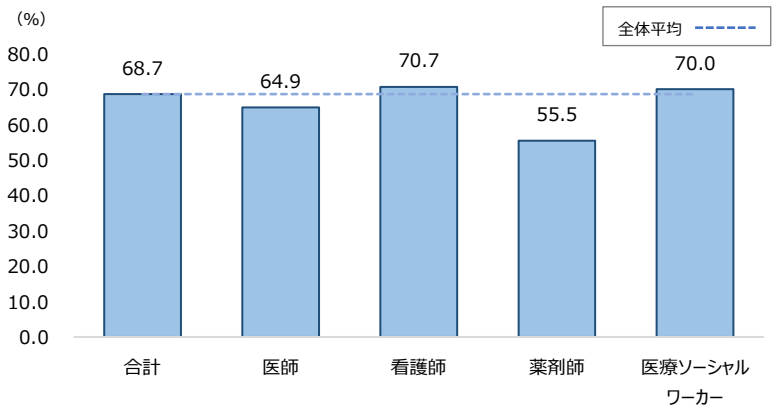
## （5） 治療方針説明時の医師以外の職種参加

**実現率：68.7%（前回調査：59.1%）**

Q. 治療方針（告知等）の説明の際に、医師外の職種も参加している割合はどの程度ですか。

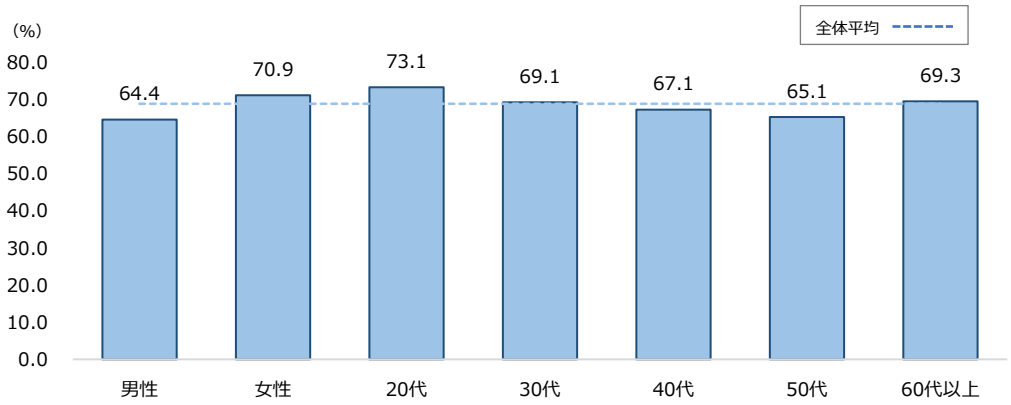
**【全体、職種別】**

- 職種別では、薬剤師と医師が低かった。



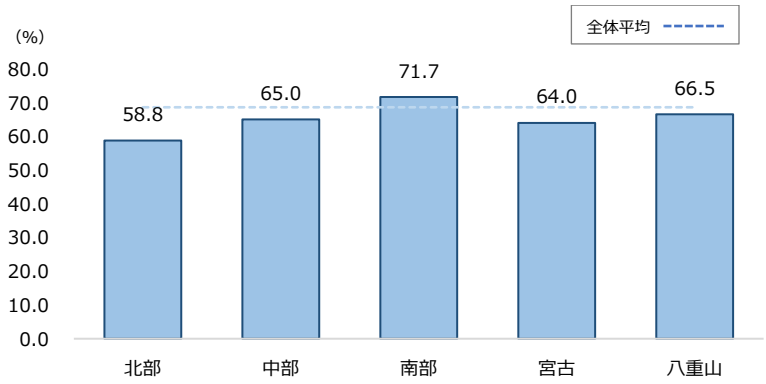

**【性別、年代別】**

- 年代別では、20 代が高かった。



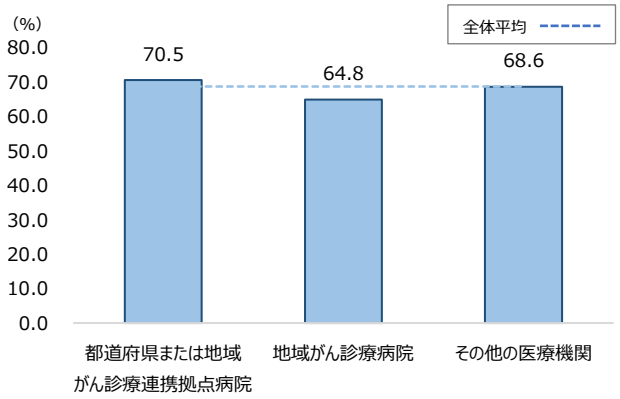
【医療圏別】

➢ 医療圏別では、南部が高かった。



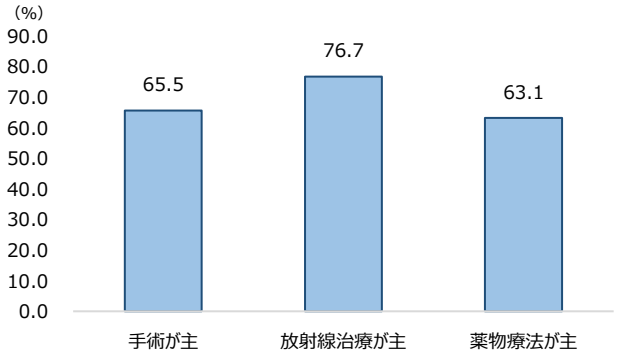

【医療施設別】

➢ 医療施設別では、都道府県または地域がん診療連携拠点病院がやや高かった。




【医師の主たる分野別】

➢ 主たる分野別では、「放射線治療が主」が高かった。



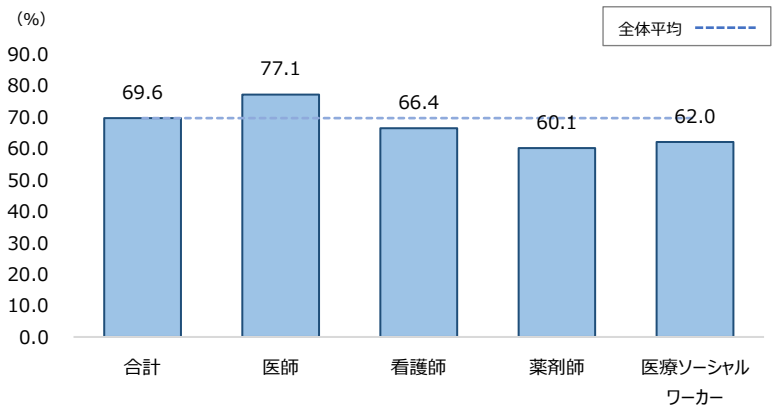
## （6） 治療スケジュール見通しの十分な情報提供

**実現率：69.6%**

Q. 治療スケジュールの見通しについて、治療方針の決定までに、十分な情報を提供できた患者の割合はどの程度ですか。

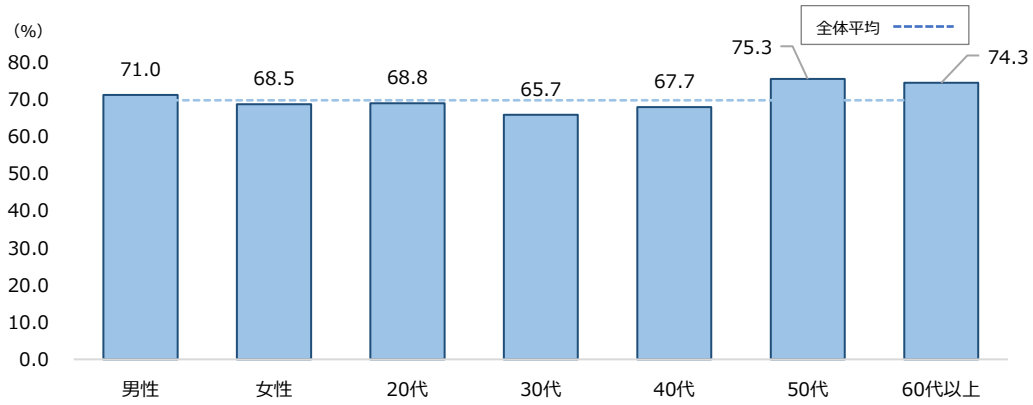
**【全体、職種別】**

- 職種別では、医師が高く、薬剤師が低かった。



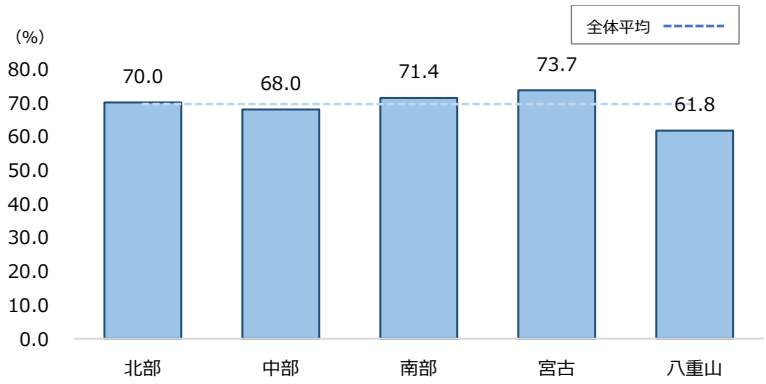

**【性別、年代別】**

- 年代別では、50 代と 60 代以上が高く、30 代がやや低かった。



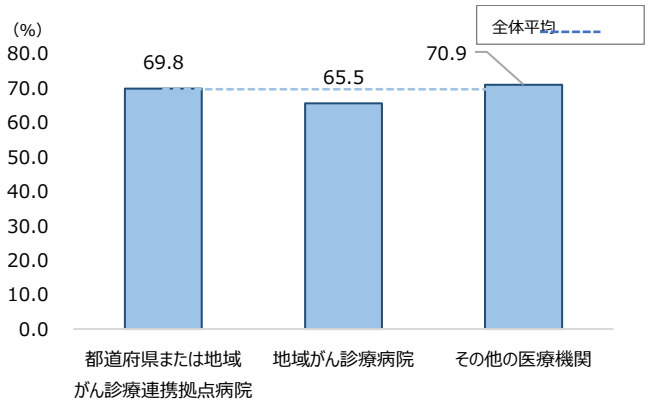
【医療圏別】

➢ 医療圏別では、宮古がやや高く、八重山が低かった。



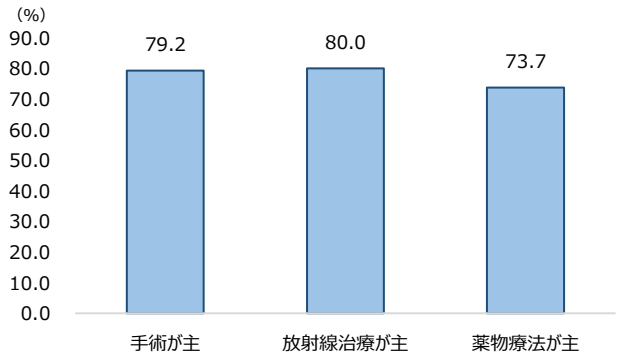

【医療施設別】

➢ 医療施設別では、地域がん診療病院がやや低かった。




【医師の主たる分野別】

➢ 医師の主たる分野別では、「放射線治療が主」「手術が主」が高かった。



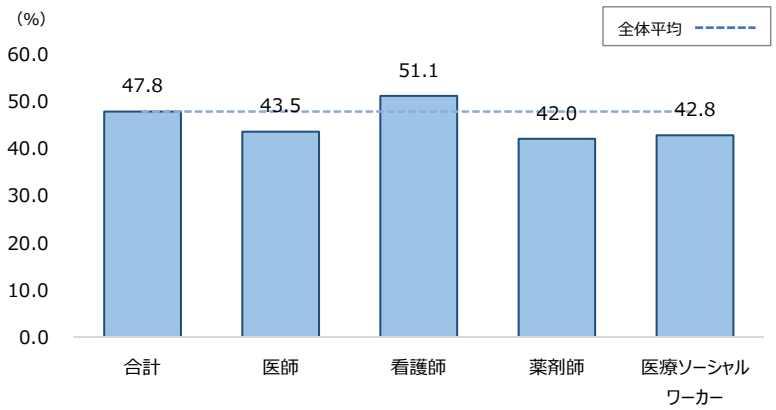
## （7） 医療費の十分な情報提供

**実現率：47.8%**

Q. 医療費について、治療方針の決定までに、十分な情報を提供できた患者の割合はどの程度ですか。

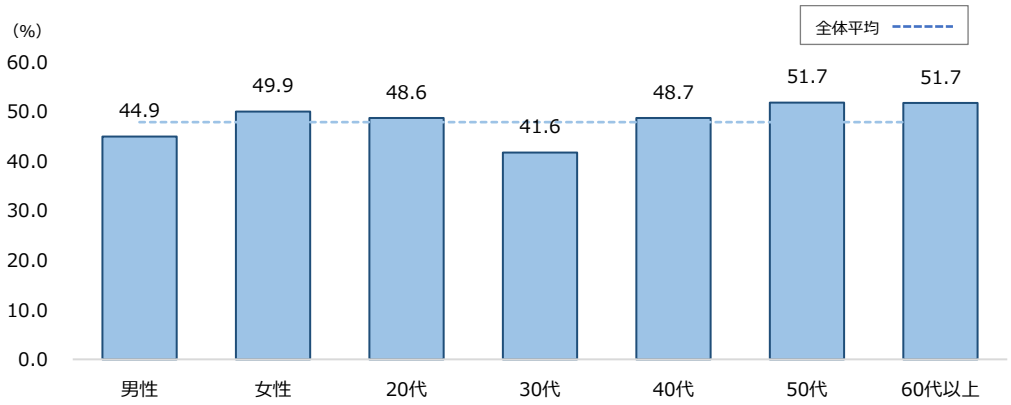
**【全体、職種別】**

- 職種別では、看護師が高かった。



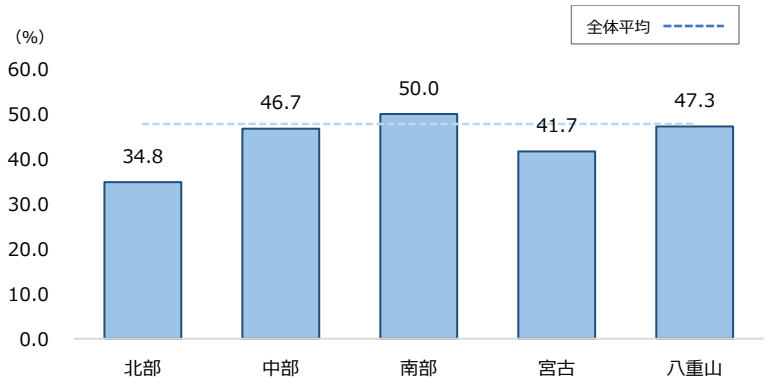

**【性別、年代別】**

- 年代別では、50 代と 60 代以上が高く、30 代が低かった。



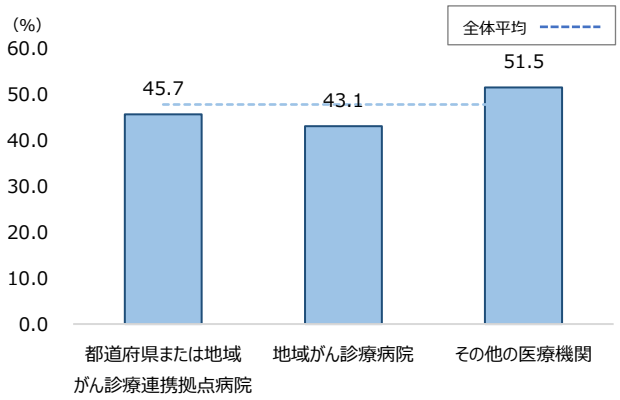
【医療圏別】

➢ 医療圏別では、北部と宮古が低かった。



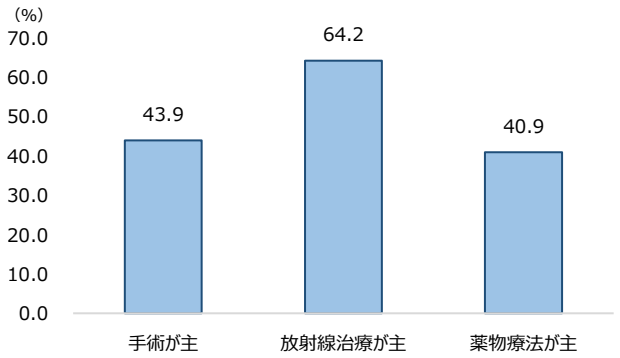

【医療施設別】

➢ 医療施設別では、地域がん診療病院が低かった。




【医師の主たる分野別】

➢ 医師の主たる分野別では、「放射線治療が主」が高かった



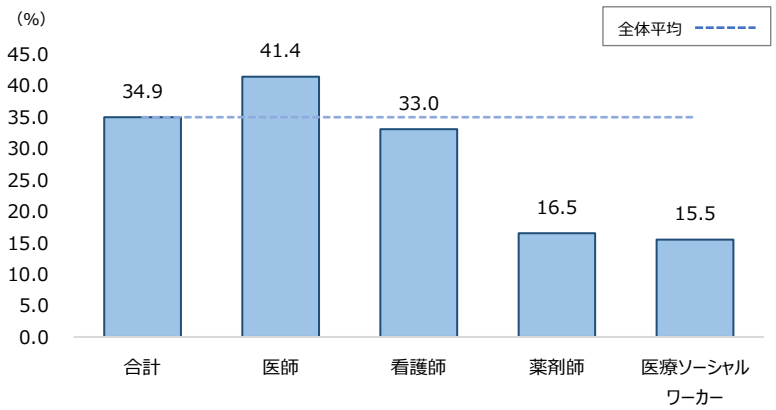
## （8） 就労継続可否の十分な情報提供

**実現率：34.9%**

Q. 就労の継続について、治療開始前に、十分な情報を提供できた患者の割合はどの程度ですか。

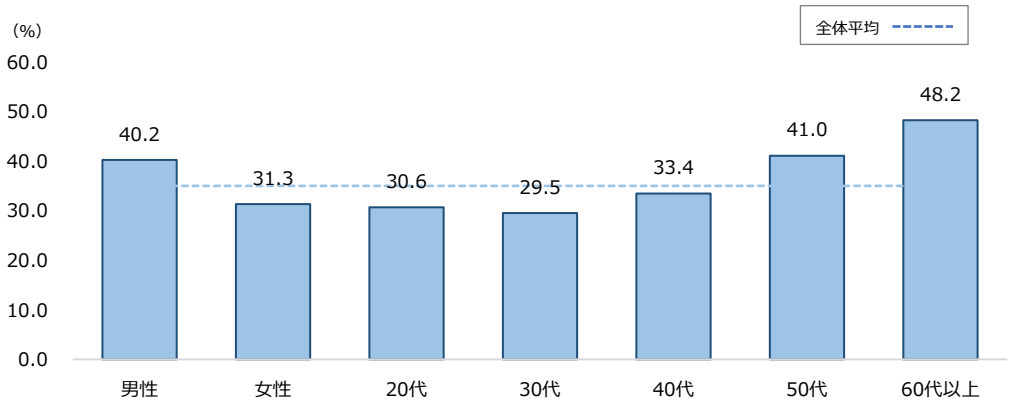
**【全体、職種別】**

- 職種別では、医師が高く、医療ソーシャルワーカーと薬剤師が低かった。



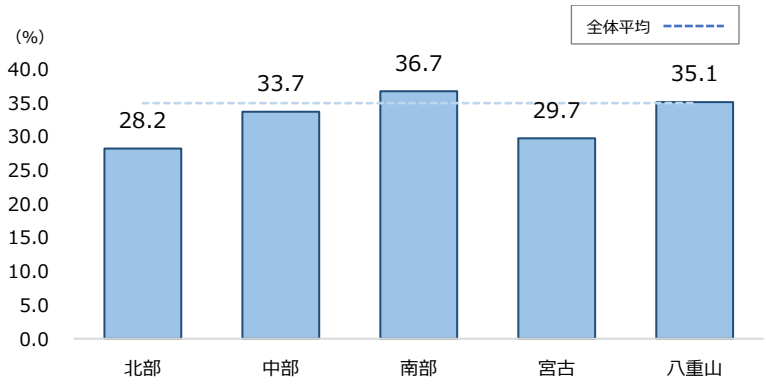

**【性別、年代別】**

- 年代別では、60 代以上と 50 代が高く、30 代と 20 代が低かった。



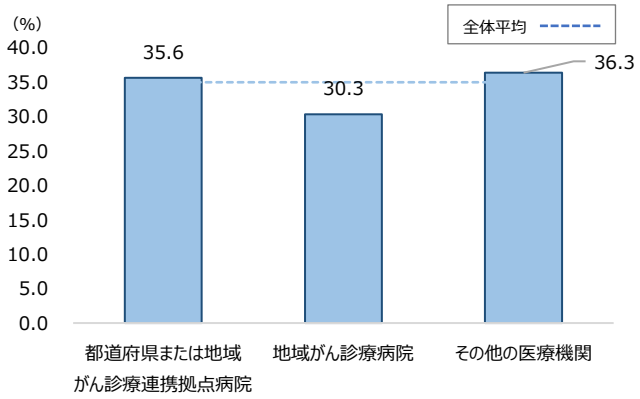
【医療圏別】

➢ 医療圏別では、北部と宮古が低かった。



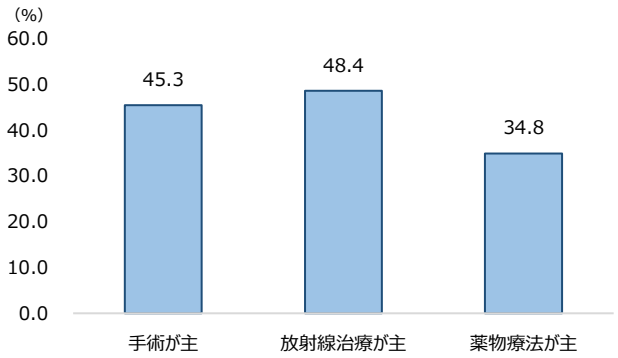

【医療施設別】

➢ 医療施設別では、地域がん診療病院が低かった。




【医師の主たる分野別】

➢ 医師の主たる分野別では、「放射線治療が主」と「手術が主」が高かった。



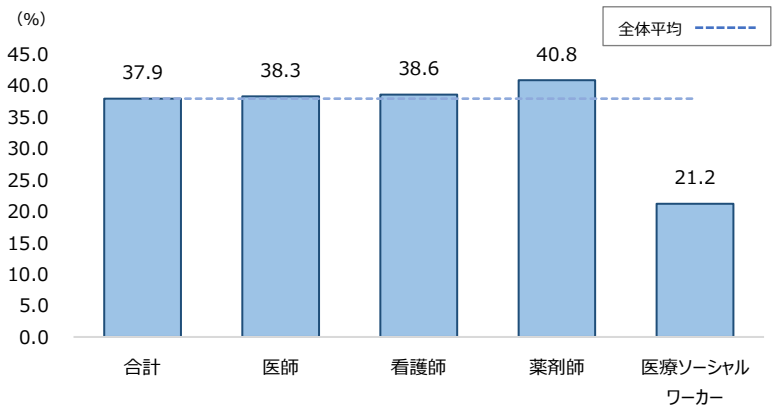
## （9） アピアランスケアの十分な情報提供

**実現率：37.9%**

Q. アピアランスケアについて、治療開始前に、十分な情報を提供できた患者の割合はどの程度ですか。

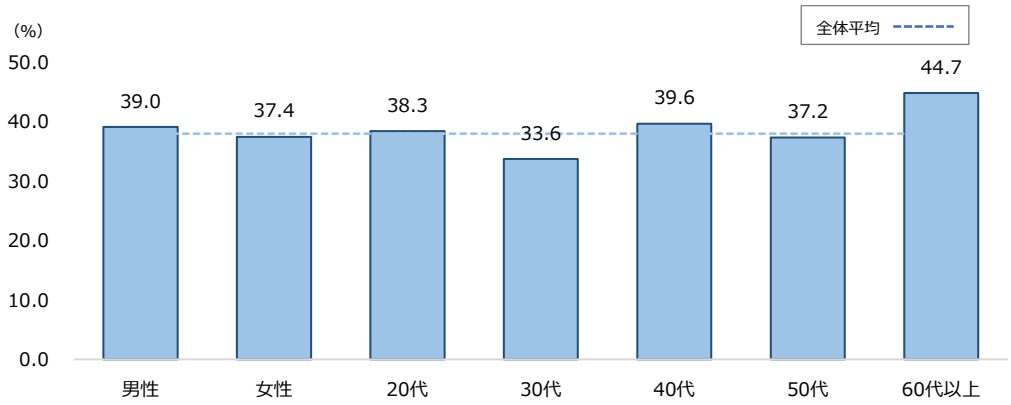
**【全体、職種別】**

- 職種別では、医療ソーシャルワーカーが低く、薬剤師がやや高かった。



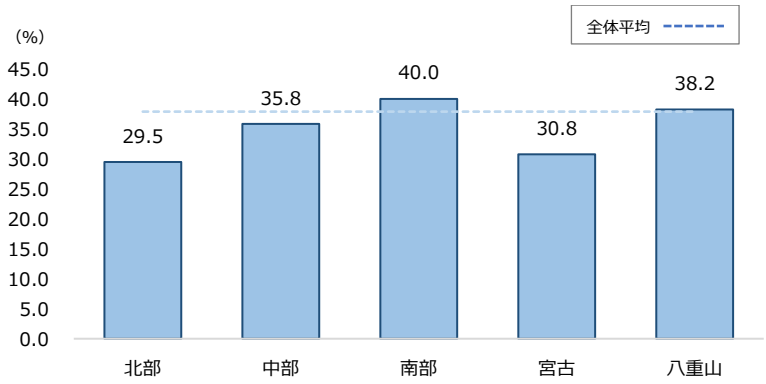

**【性別、年代別】**

- 年代別では、60 代以上が高く、30 代が低かった。



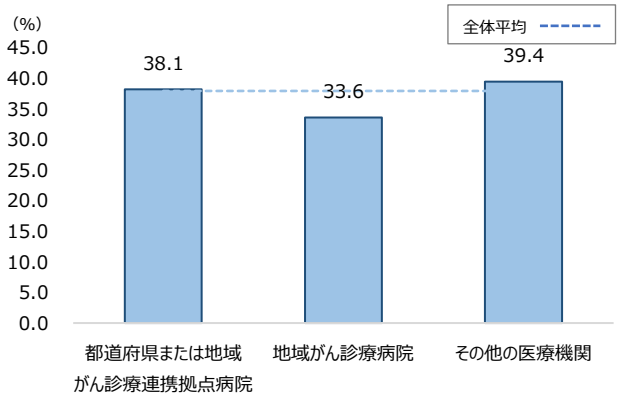
【医療圏別】

➢ 医療圏別では、南部が高く、北部と宮古が低かった。



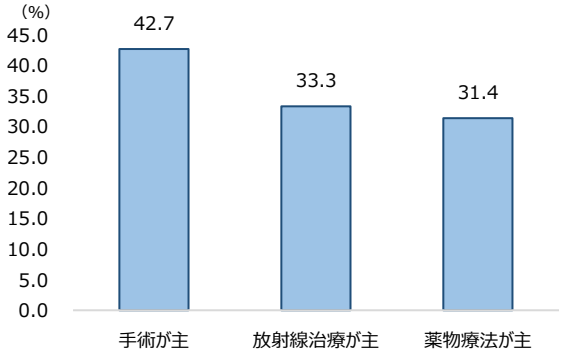

【医療施設別】

➢ 医療施設別では、地域がん診療病院が低かった。




【医師の主たる分野別】

➢ 医師の主たる分野別では、「手術が主」が高かった。



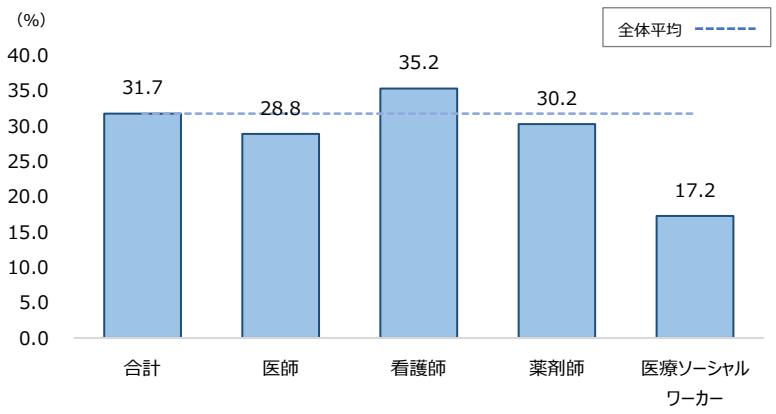
## （10）がん相談支援センターに関する十分な情報提供

**実現率：31.7%**

Q. がん診療連携拠点病院等に設置されている「がん相談支援センター」について、十分な情報提供を行った患者の割合はどの程度ですか。

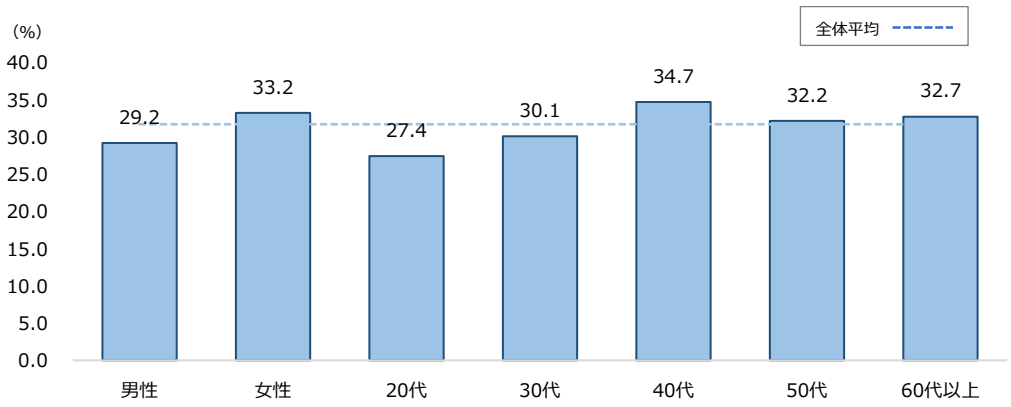
**【全体、職種別】**

- 職種別では、看護師が高く、医療ソーシャルワーカーが低かった。



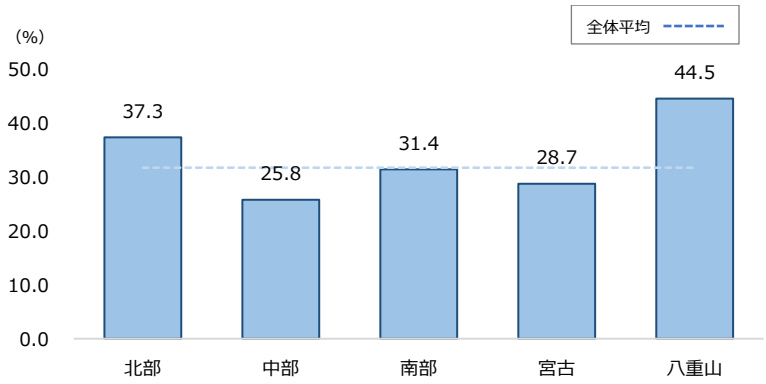

**【性別、年代別】**

- 年代別では、40 代以上は平均を超えていて、20 代、30 代が低かった。



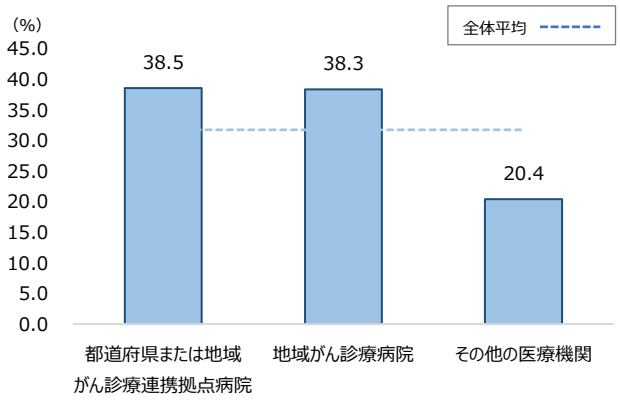
【医療圏別】

➢ 医療圏別では、八重山と北部が高く、中部と宮古が低かった。



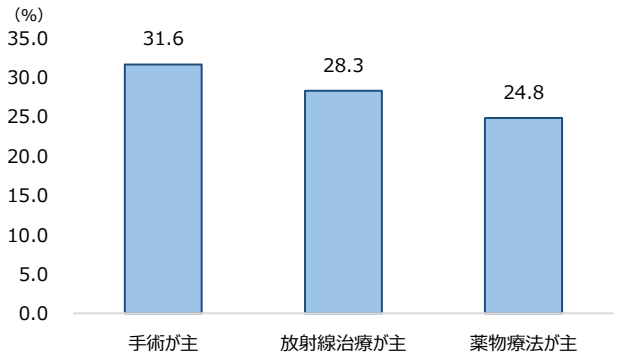

【医療施設別】

➢ 医療施設別では、その他の医療機関が低かった。




【医師の主たる分野別】

➢ 医師の主たる分野別では、「薬物療法が主」と「放射線治療が主」が低かった。



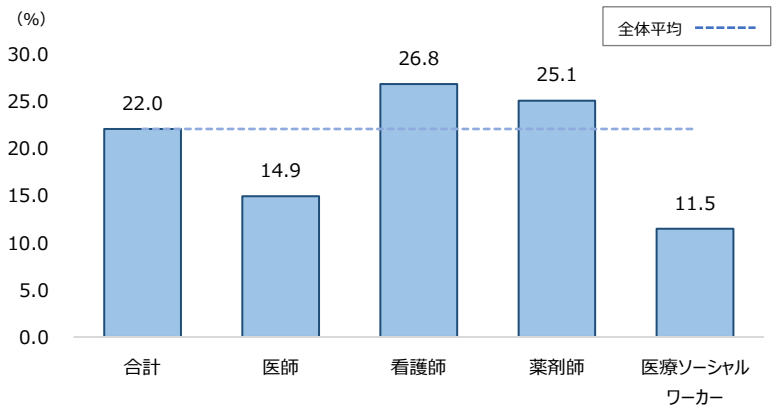
## （11）患者サロン、ピアサポート、患者会に関する十分な情報提供

**実現率：22.0%**

Q. 患者サロン（ゆんたく会）、ピアサポート、患者会について、十分な情報提供を行った患者の割合はどの程度ですか。

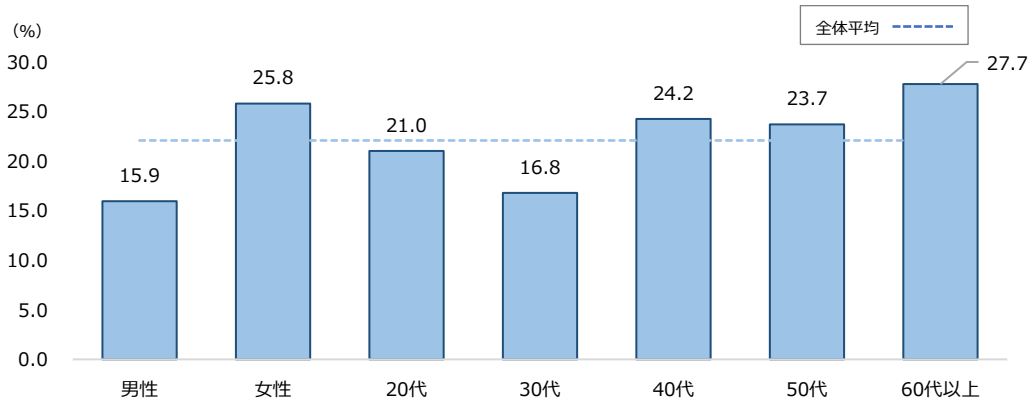
**【全体、職種別】**

- 職種別では、看護師と薬剤師が高く、医療ソーシャルワーカーと医師が低かった。



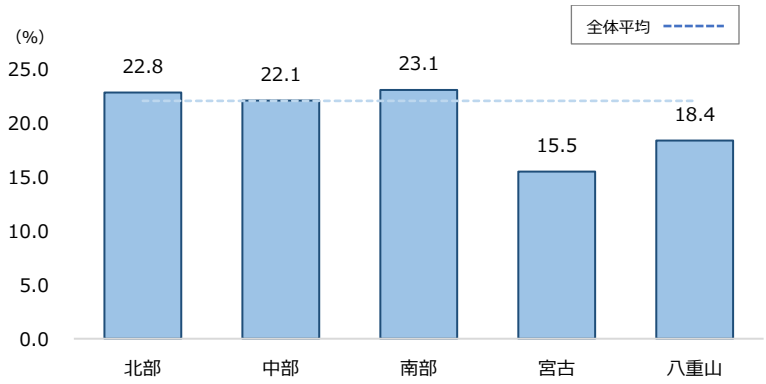

**【性別、年代別】**

- 年代別では、60 代以上が高く、30 代と 20 代が低かった。



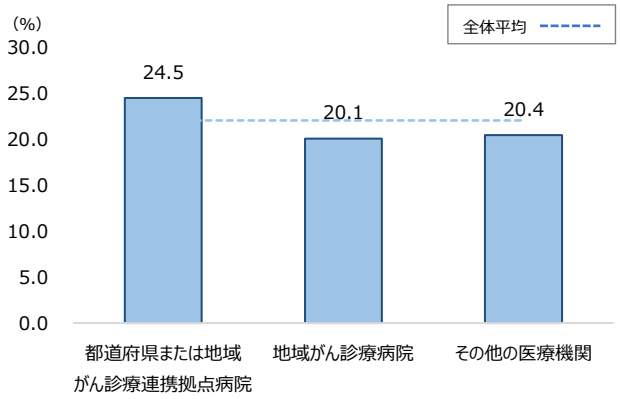
【医療圏別】

➢ 医療圏別では、宮古と八重山が低かった。



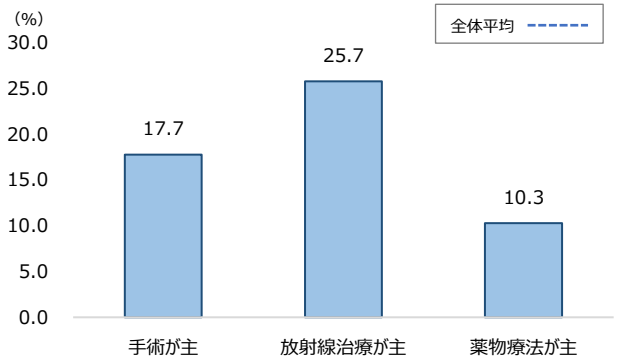

【医療施設別】

➢ 医療施設別では、地域がん診療病院とその他の医療機関が低かった。




【医師の主たる分野別】

➢ 医師の主たる分野別では、「薬物療法が主」と「手術が主」が低かった。



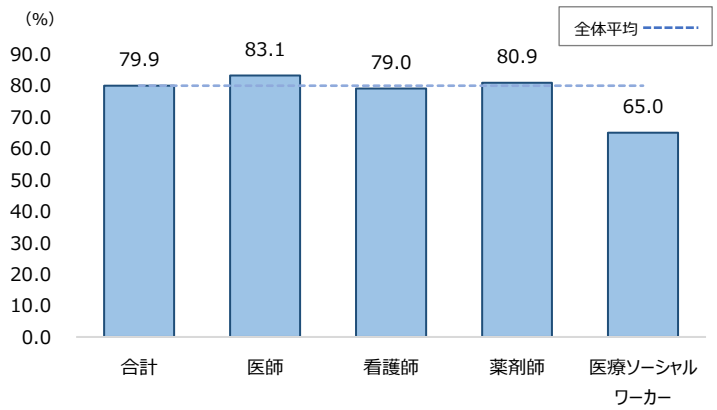
## （12）副作用を含めた薬物療法に関する十分な情報提供

**実現率：79.9%**

Q. 薬物療法の開始前に、副作用の出る時期の説明も含めて、十分な説明を行った患者の割合はどの程度ですか。

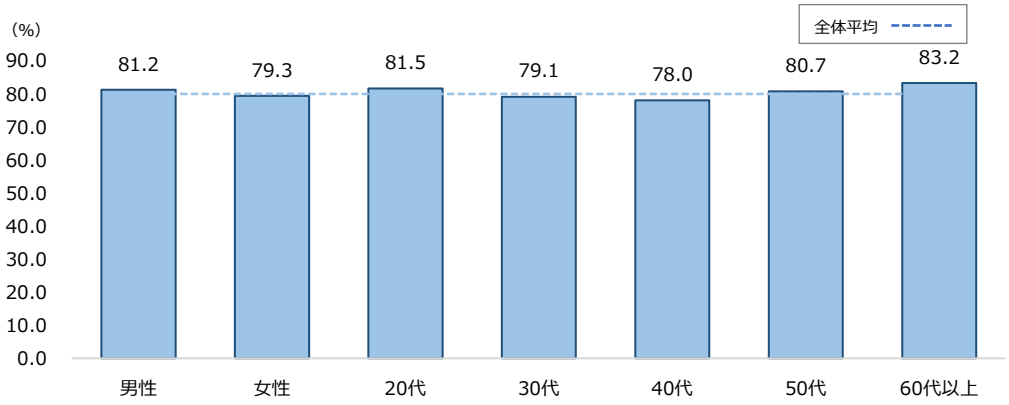
**【全体、職種別】**

- 職種別では、医療ソーシャルワーカーが低かった。



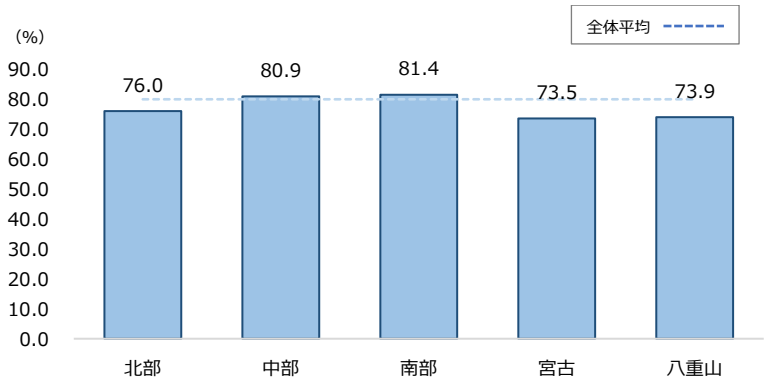

**【性別、年代別】**

- 年代別で、差異は見られなかった。



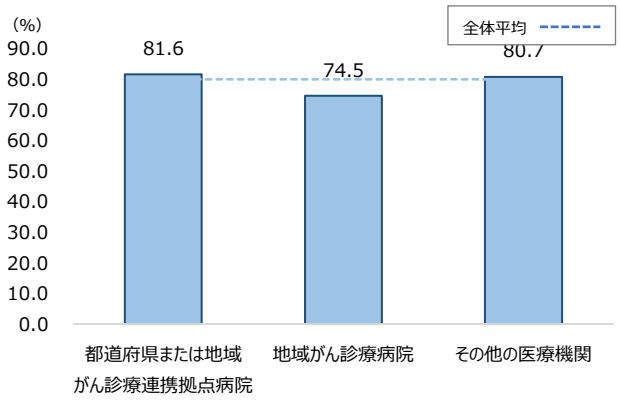
【医療圏別】

➢ 医療圏別では、宮古と八重山がやや低かった。



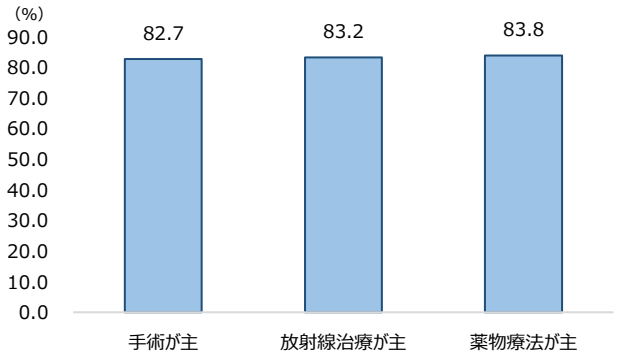

【医療施設別】

➢ 医療施設別では、地域がん診療病院がやや低かった。




【医師の主たる分野別】

➢ 医師の主たる分野別で、差異は見られなかった。



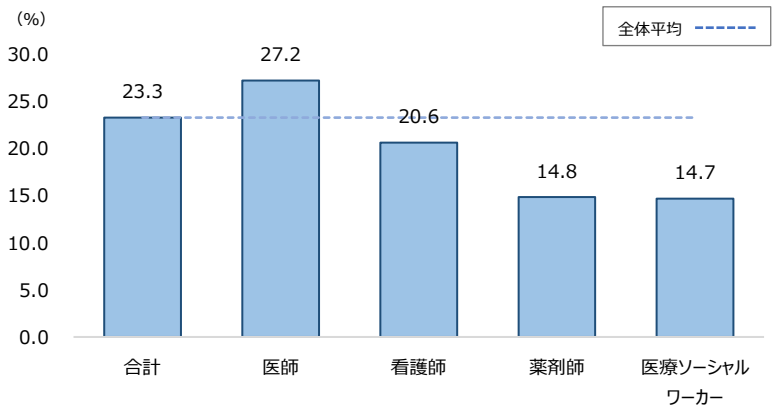
## （13）がんゲノム医療に関する十分な情報提供

**実現率：23.3%**

Q. がんゲノム医療に関する十分な情報提供をした割合はどの程度ですか。

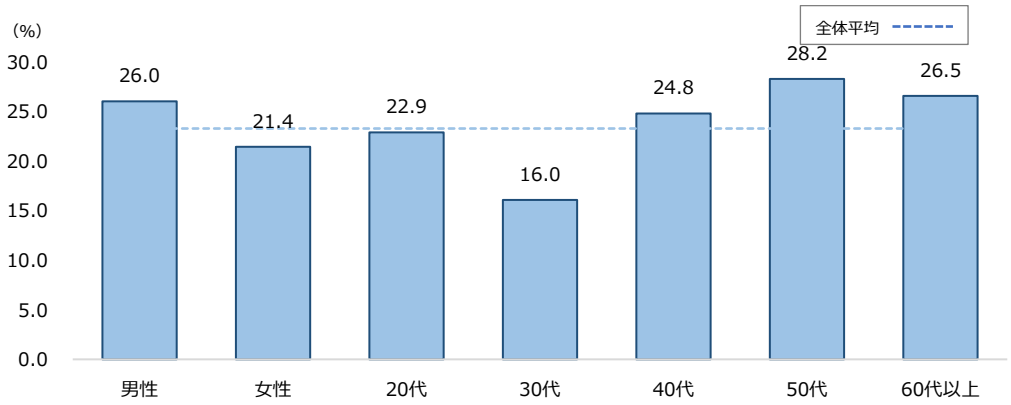
**【全体、職種別】**

- 職種別では、医師が高く、その他の職種は低かった。



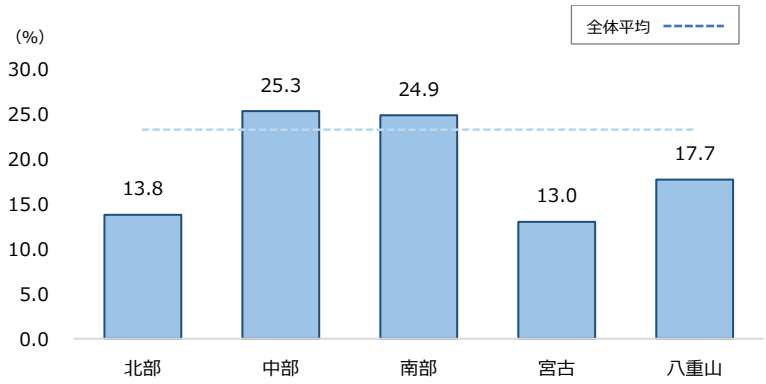

**【性別、年代別】**

- 年代別では、50 代が高く、30 代が低かった。



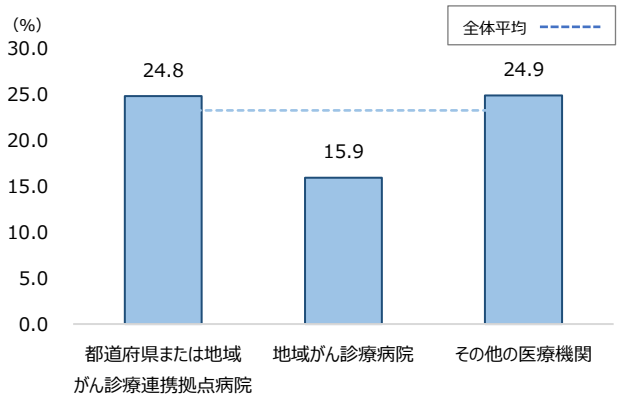
【医療圏別】

➢ 医療圏別では、宮古と北部、八重山が低かった。



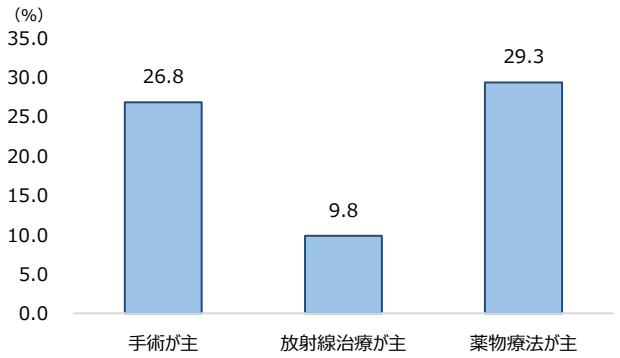

【医療施設別】

➢ 医療施設別では、地域がん診療病院が低かった。




【医師の主たる分野別】

➢ 医師の主たる分野別では、「放射線治療が主」が低かった。



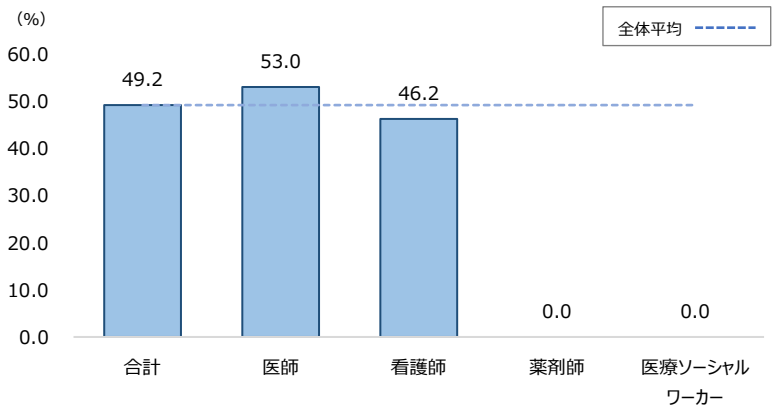
## （14）妊孕性温存療法が必要な患者への同療法の説明（医師と看護師のみ）

**実現率：49.2%**

Q. 医師と看護師の方にお尋ねします。妊孕性温存療法が必要な患者のうち、実際に妊孕性温存療法の説明を行った患者の割合はどの程度ですか。

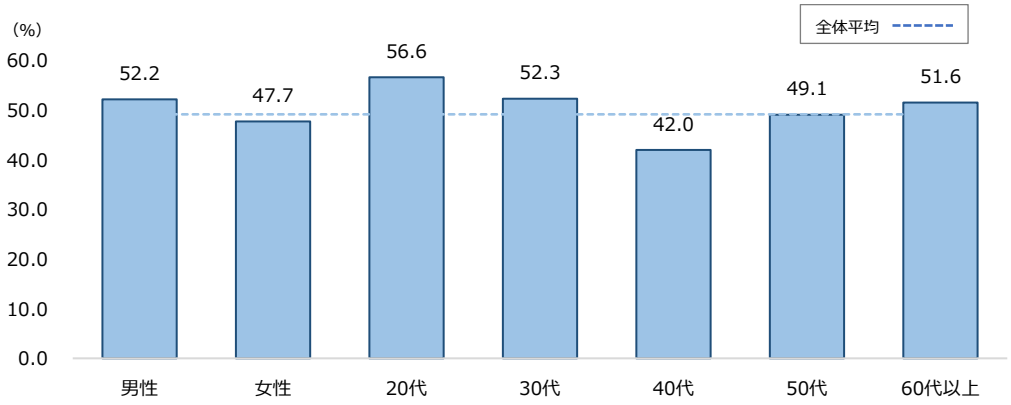
**【全体、職種別】**

- 職種別では、看護師がやや低かった。



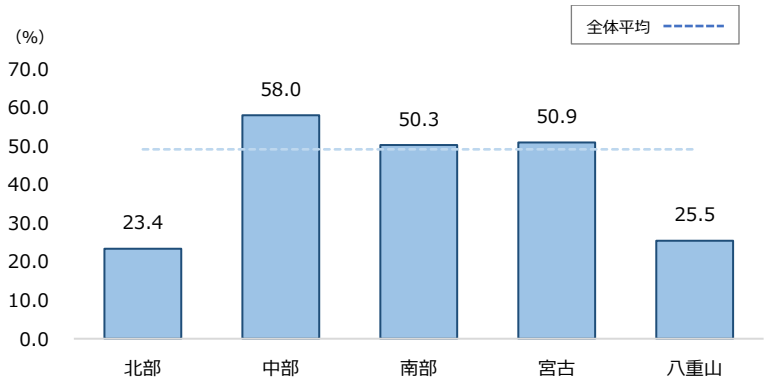

**【性別、年代別】**

- 年代別では、20 代が高く、40 代が低かった。



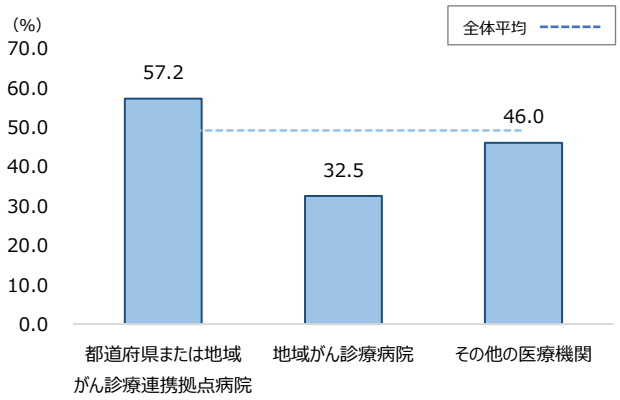
【医療圏別】

➢ 医療圏別では、中部が高く、北部と八重山が低かった。



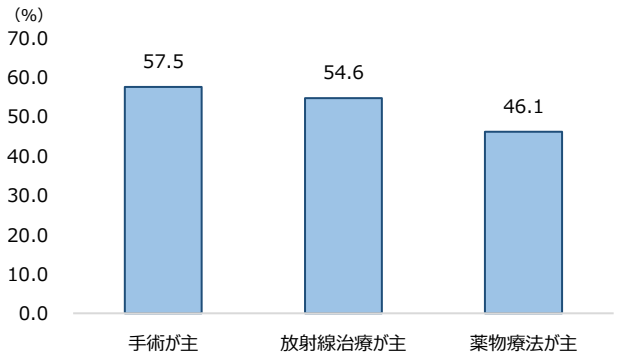

【医療施設別】

➢ 医療施設別では、地域がん診療病院が低かった。




【医師の主たる分野別】

➢ 医師の主たる分野別では、「薬物療法が主」が低かった。



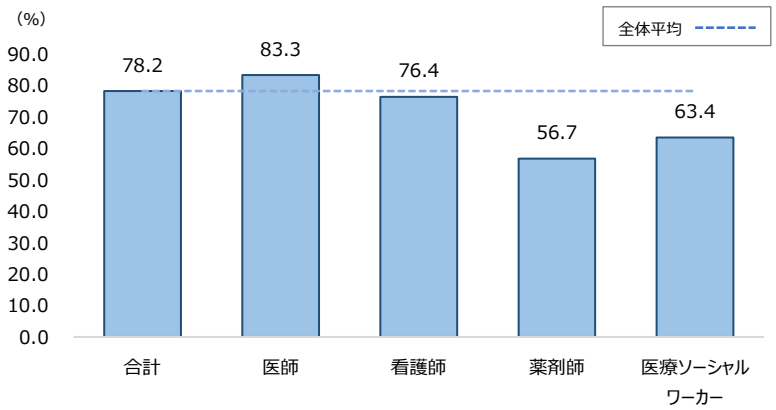
## （15）質の高い最適な手術の提供

**実現率：78.2%**

Q. 手術を受けた患者のうち、質の高い最適な手術を提供できた患者の割合はどの程度ですか。

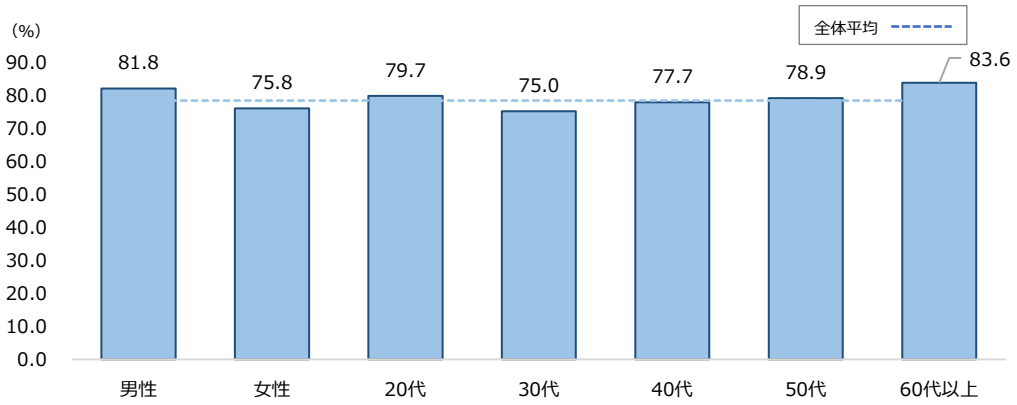
**【全体、職種別】**

- 職種別では、薬剤師と医療ソーシャルワーカーが低かった。



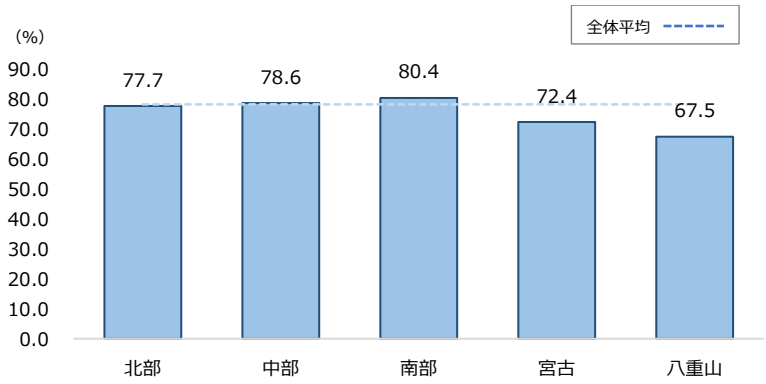

**【性別、年代別】**

- 年代別では、60 代以上が高かった。



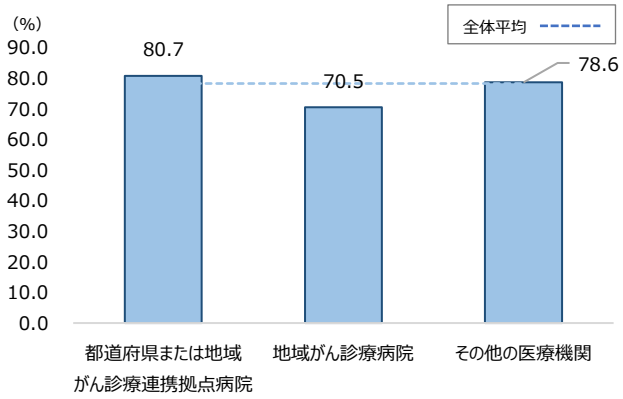
【医療圏別】

➢ 医療圏別では、八重山と宮古が低かった。



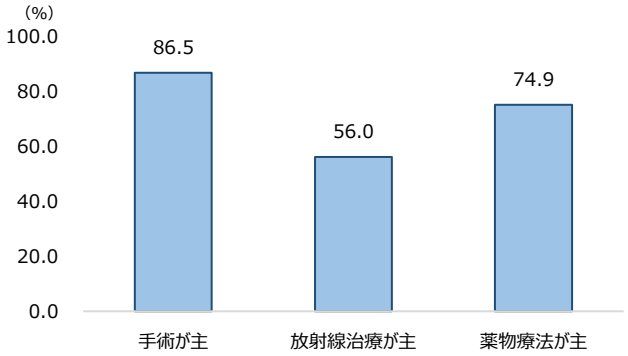

【医療施設別】

➢ 医療施設別では、地域がん診療病院が低かった。




【医師の主たる分野別】

➢ 医師の主たる分野別では、「放射線治療が主」が低かった。



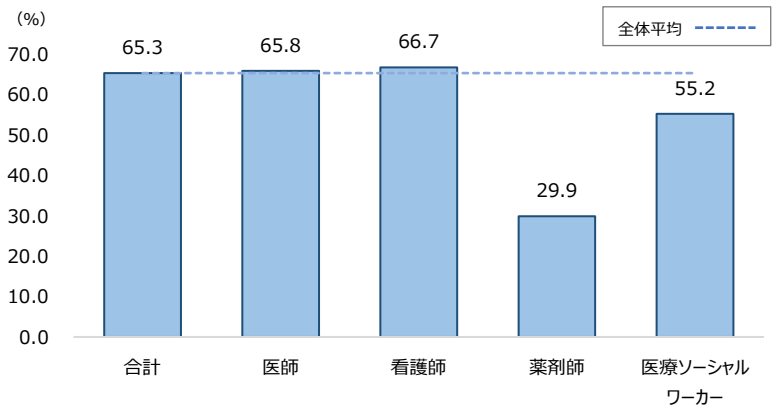
## （16）多職種で議論した上での放射線治療実施

**実現率：65.3%**

Q. 放射線治療を受けた患者のうち、その適応の判断を多職種で議論された上で、提供できた患者の割合はどの程度ですか。

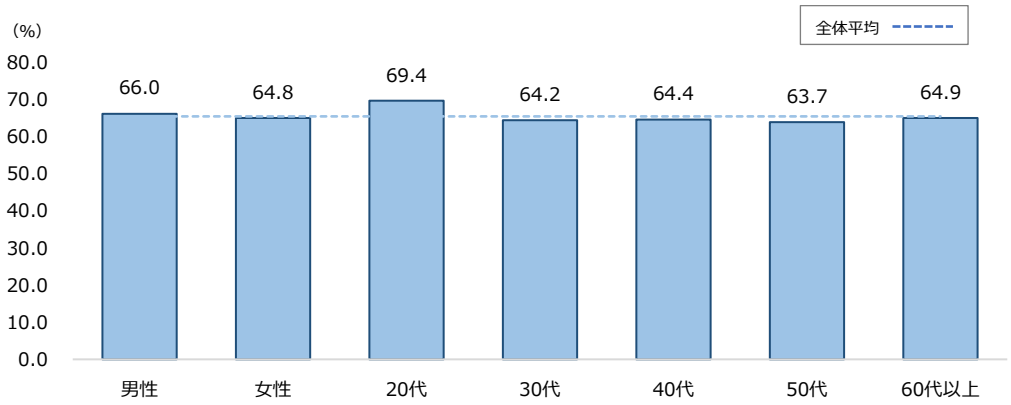
**【全体、職種別】**

- 職種別では、薬剤師と医療ソーシャルワーカーが低かった。



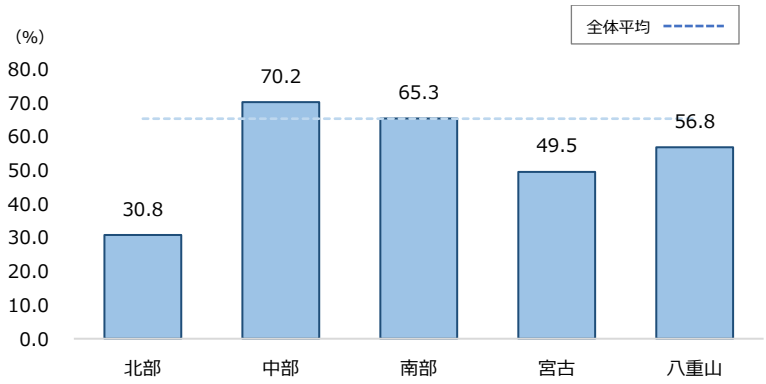

**【性別、年代別】**

- 年代別で、20 代がやや高かった。



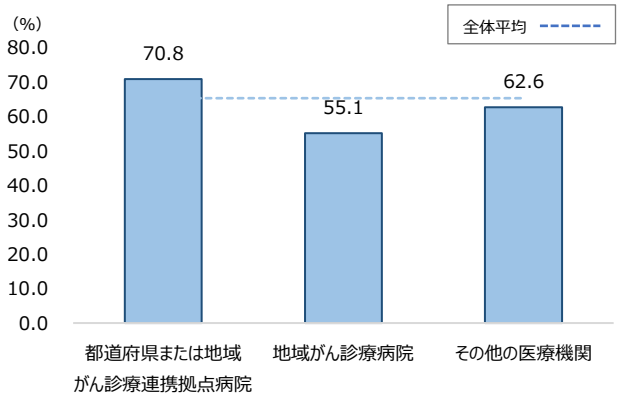
【医療圏別】

➢ 医療圏別では、北部と宮古、八重山が低かった。



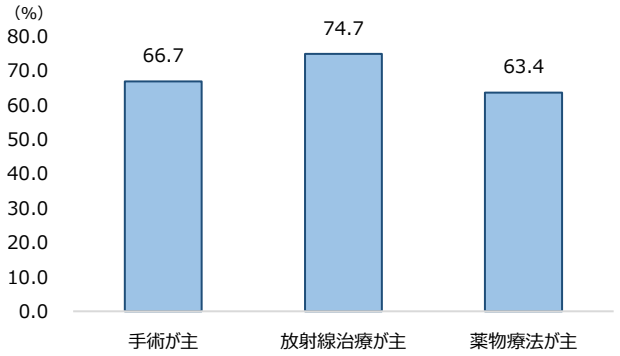

【医療施設別】

➢ 医療施設別では、地域がん診療病院が低かった。




【医師の主たる分野別】

➢ 医師の主たる分野別では、「放射線治療が主」が高かった。



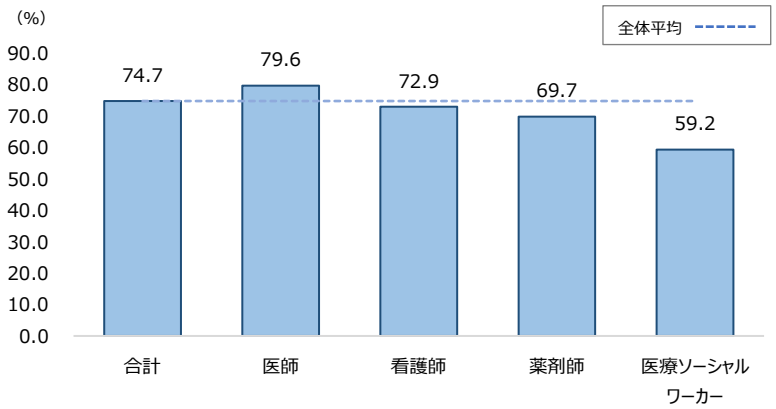
## （17）質の高い薬物療法の提供

**実現率：74.7%**

Q. 薬物療法を受けた患者のうち、質の高い薬物療法を提供できた患者の割合はどの程度ですか。

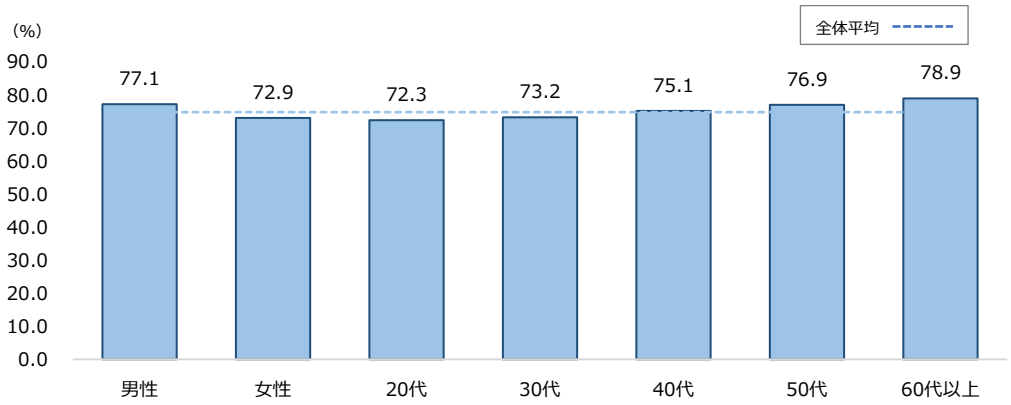
**【全体、職種別】**

- 職種別では、医療ソーシャルワーカーが低かった。



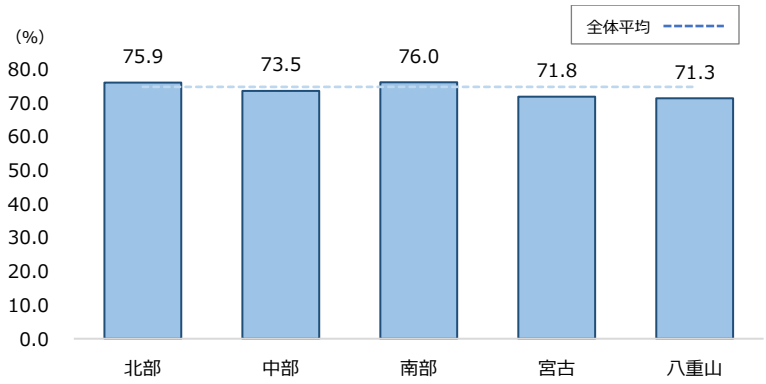

**【性別、年代別】**

- 年代別で、差異は見られなかった。



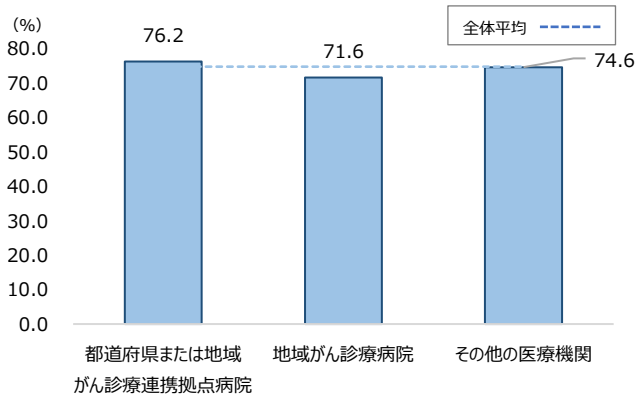
【医療圏別】

➢ 医療圏別で、差異は見られなかった。



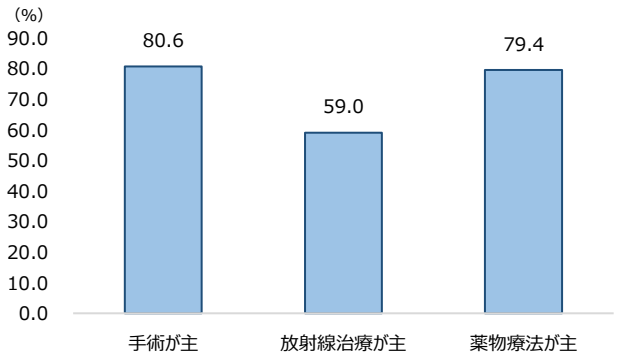

【医療施設別】

➢ 医療施設別で、差異は見られなかった。




【医師の主たる分野別】

➢ 医師の主たる分野別では、「放射線治療が主」が低かった。



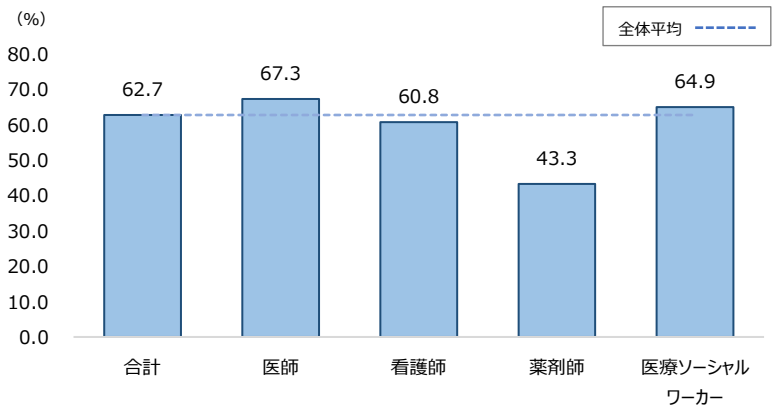
## （18）患者の希望を受けての在宅医療移行

**実現率：62.7%　（前回調査：45.8%）**

Q. 在宅医療を希望された患者のうち、実際に在宅医療に移行した患者の割合はどの程度ですか。

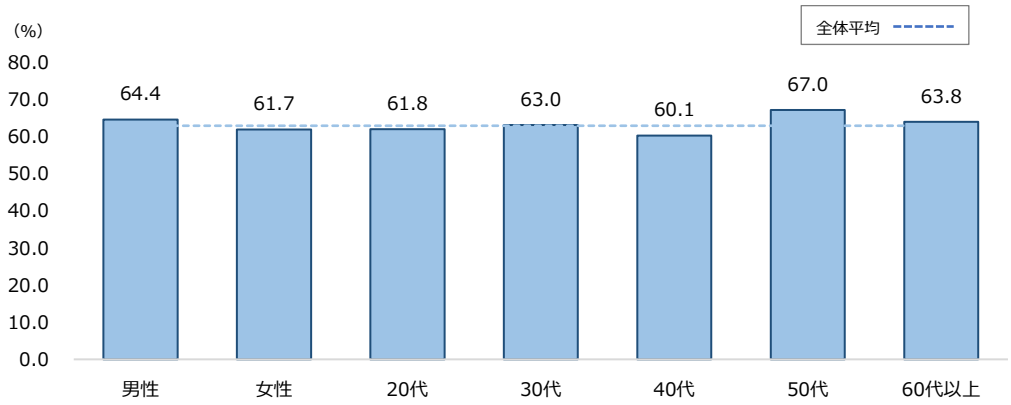
**【全体、職種別】**

- 職種別では、薬剤師が低かった。



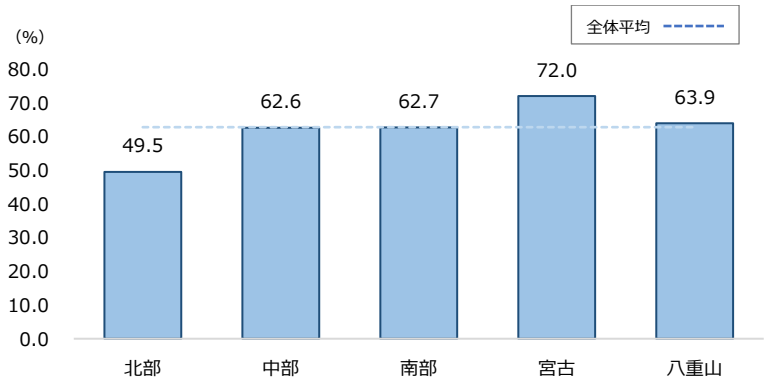

**【性別、年代別】**

- 年代別で、50 代がやや高かった。



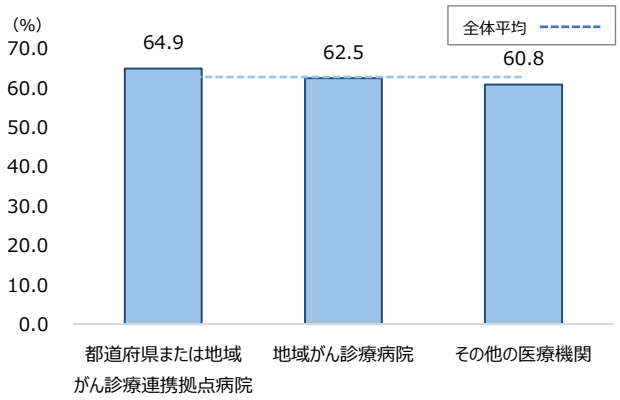
【医療圏別】

➢ 医療圏別では、宮古が高く、北部が低かった。



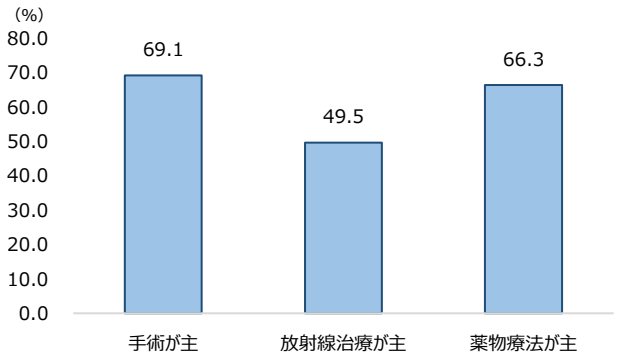

【医療施設別】

➢ 医療施設別では、都道府県または地域がん診療連携拠点病院がやや高かった。




【医師の主たる分野別】

➢ 医師の主たる分野別では、「放射線治療が主」が低かった。



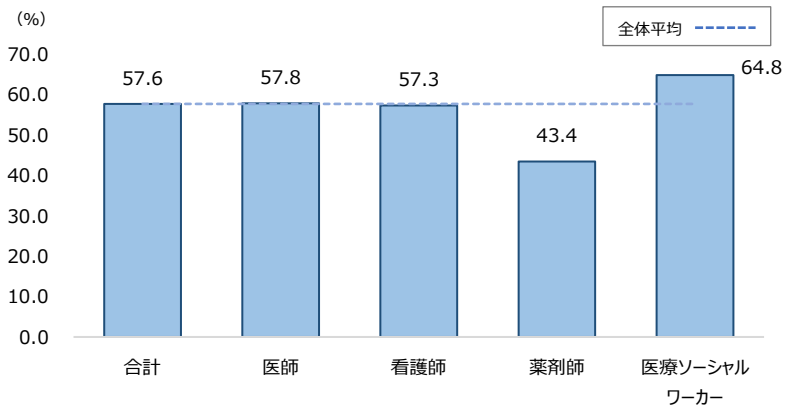
## （19）リハビリテーション実施

**実現率：57.6%**

Q. リハビリテーションを行った患者の割合はどの程度ですか。

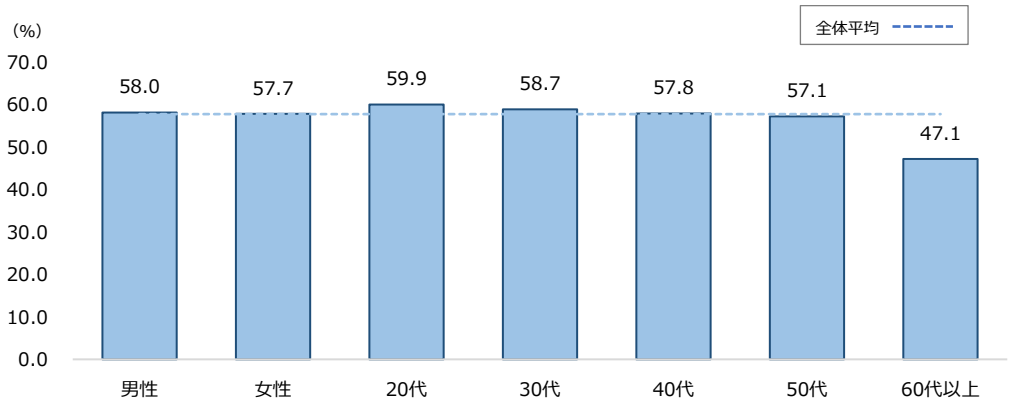
**【全体、職種別】**

- 職種別では、医療ソーシャルワーカーが高く、薬剤師が低かった。



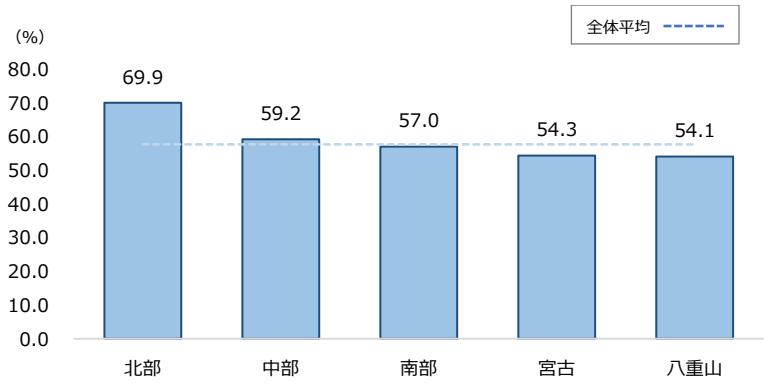

**【性別、年代別】**

- 年代別では、60 代以上が低かった。



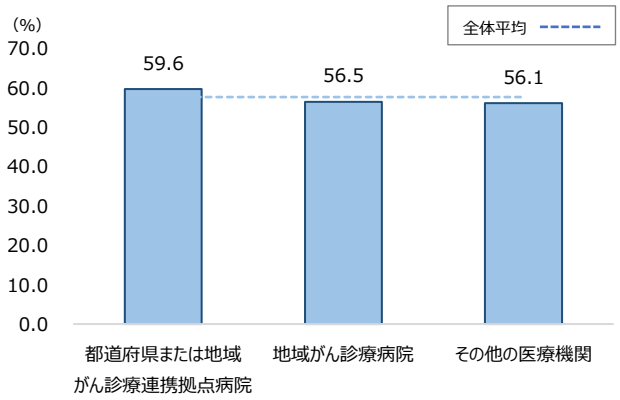
【医療圏別】

➢ 医療圏別では、北部が高く、八重山と宮古がやや低かった。



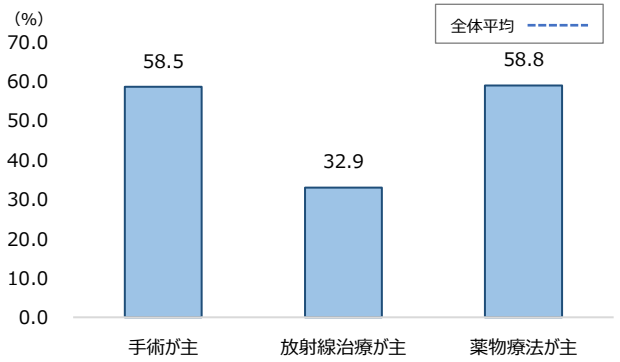

【医療施設別】

➢ 医療施設別で、差異は見られなかった。




【医師の主たる分野別】

➢ 医師の主たる分野別では、「放射線療法が主」が低かった。



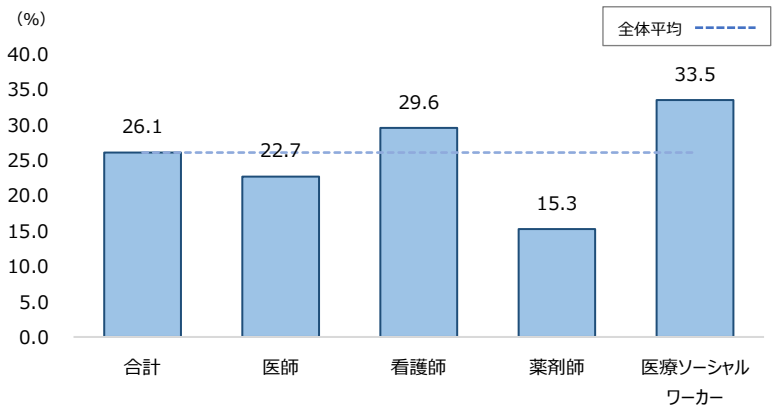
## （20）高齢がん患者への「高齢者機能評価」

**実現率：26.1%**

Q. 高齢者のがん患者に対して、治療前に「※高齢者機能評価」を行った割合はどの程度ですか。

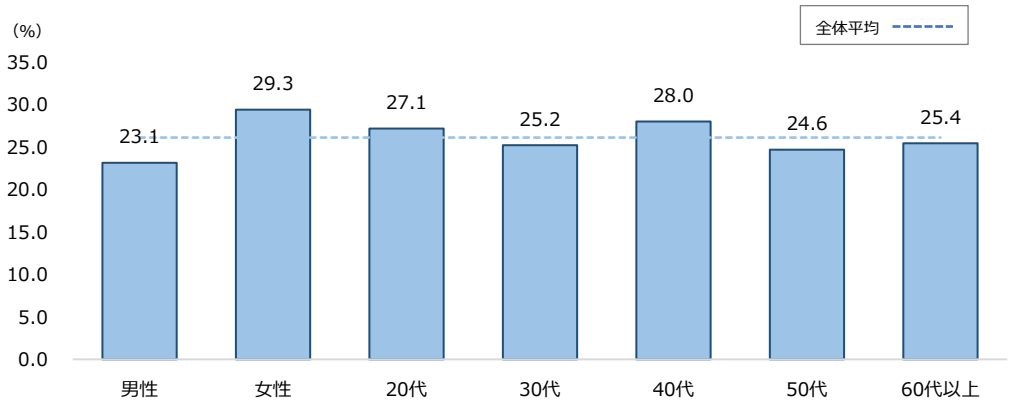
**【全体、職種別】**

- 職種別では、医療ソーシャルワーカーが高く、薬剤師と医師が低かった。



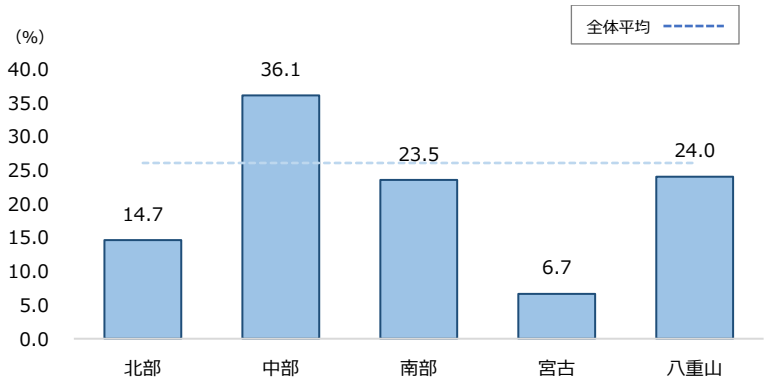

**【性別、年代別】**

- 年代別では、50 代と 30 代がやや低かった。



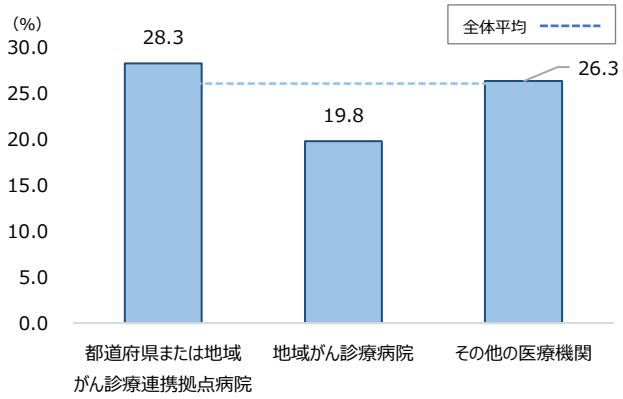
【医療圏別】

➢ 医療圏別では、中部が高く、宮古と北部が低かった。



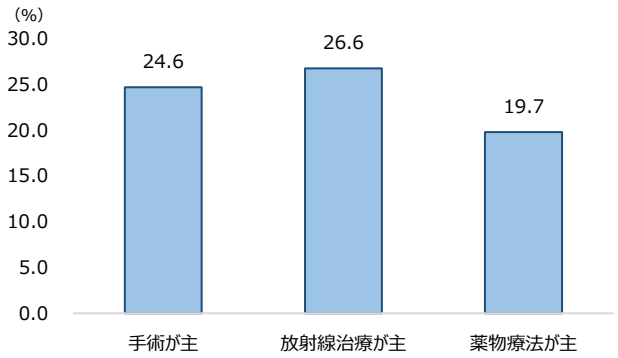

【医療施設別】

➢ 医療施設別では、地域がん診療病院が低かった。




【医師の主たる分野別】

➢ 医師の主たる分野別では、「薬物療法が主」が低かった。



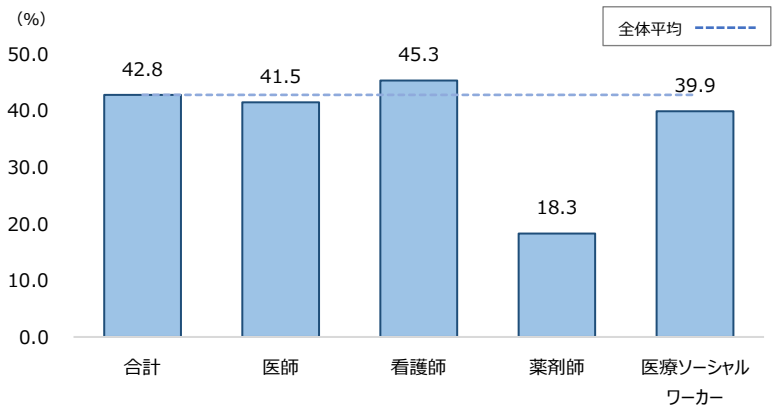
## （21）希少がん患者の中部病院、琉大病院、県外医療機関への紹介

**実現率：42.8%**

Q. 希少がん患者のうち、診断又は治療目的で、県立中部病院、琉球大学病院または本土の専門医療機関に紹介した割合はどの程度ですか。

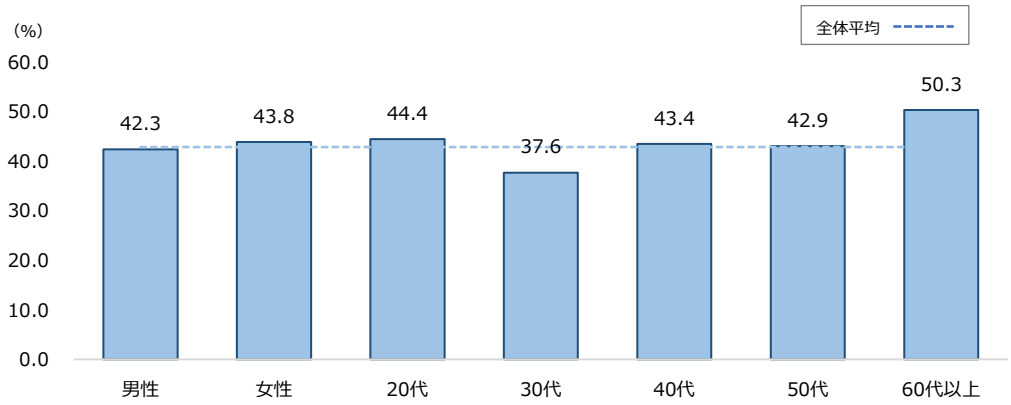
**【全体、職種別】**

- 職種別では、看護師がやや高く、薬剤師が低かった。



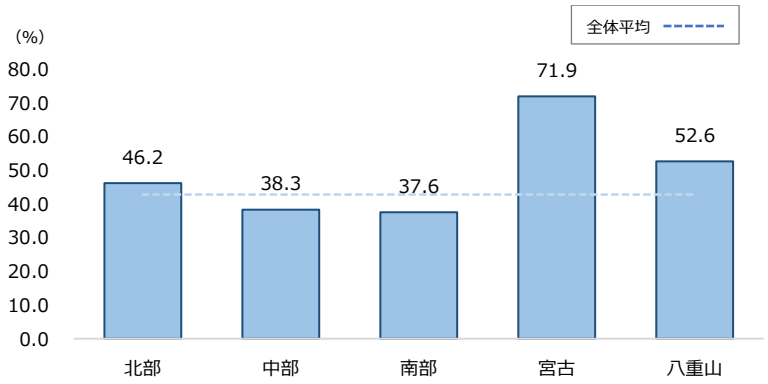

**【性別、年代別】**

- 年代別では、60 代以上が高く、30 代が低かった。



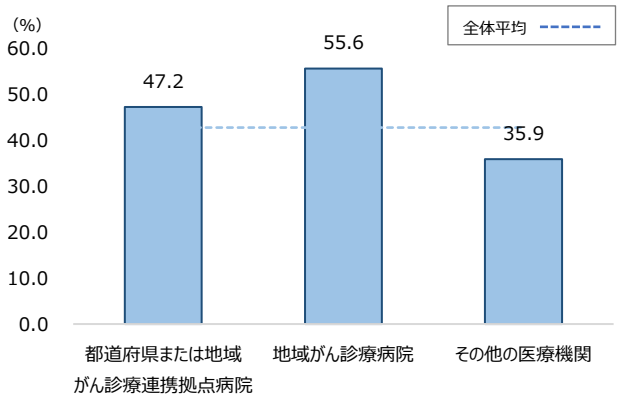
【医療圏別】

➢ 医療圏別では、宮古と八重山が高かった。



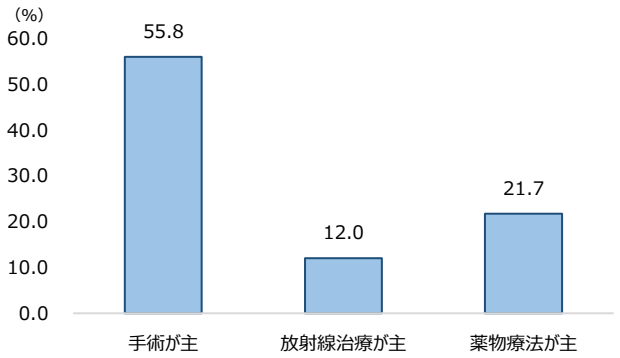

【医療施設別】

➢ 医療施設別では、地域がん診療病院が高く、その他の医療機関が低かった。




【医師の主たる分野別】

➢ 医師の主たる分野別では、「手術が主」が高く、「放射線治療が主」と「薬物療法が主」が低かった。



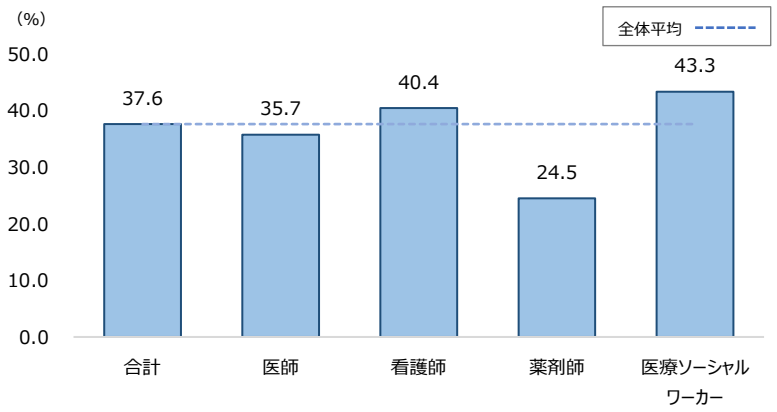
## （22）難治がん患者の県内・県外医療機関への紹介

**実現率：37.6%**

Q. 難治がん患者のうち、診断又は治療目的で、沖縄県における「掲載要件を満たす、がん診療を行う県内医療施設一覧」または本土の専門医療機関に紹介した割合はどの程度ですか。

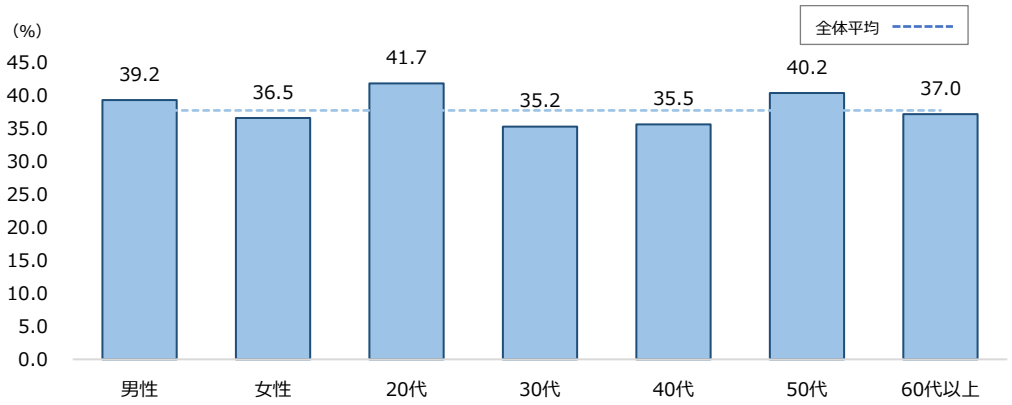
**【全体、職種別】**

- 職種別では、医療ソーシャルワーカーと看護師が高く、薬剤師が低かった。



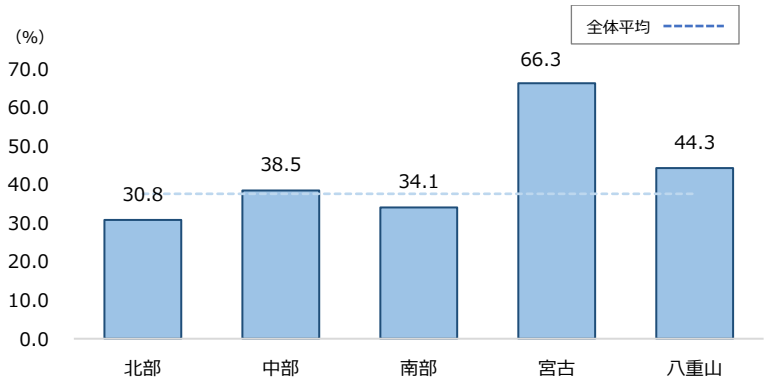

**【性別、年代別】**

- 年代別では、20 代と 50 代がやや高く、30 代と 40 代がやや低かった。



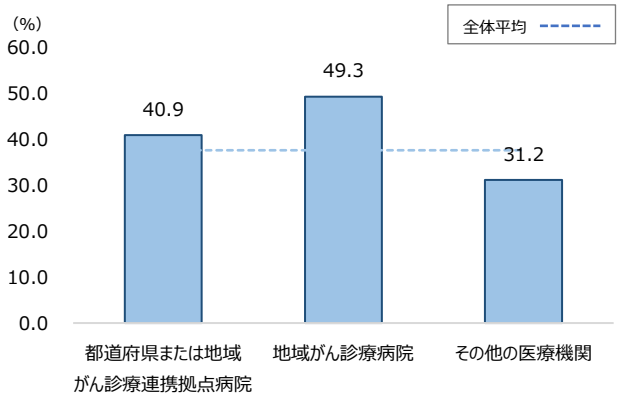
**【医療圏別】**

➢ 医療圏別では、宮古と八重山が高く、北部と南部が低かった。



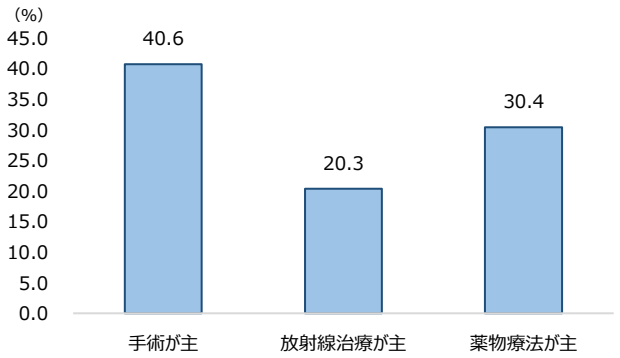

**【医療施設別】**

➢ 医療施設別では、地域がん診療病院が高く、その他の医療機関が低かった。




**【医師の主たる分野別】**

➢ 医師の主たる分野別では、「放射線治療が主」と「薬物療法が主」が低かった。



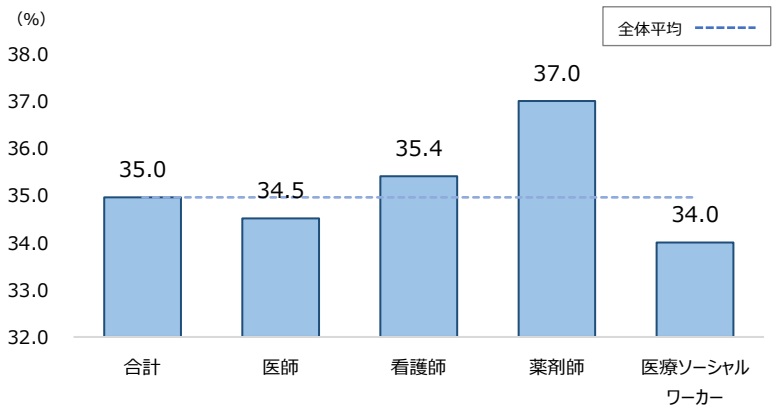
## （23）AYA 世代がん患者の県内・県外医療機関への紹介

**実現率：35.0%**

Q. 県立中部病院、那覇市立病院、琉球大学病院以外の方にのみお尋ねします。AYA 世代のがん患者のうち、県内のがん診療連携拠点病院または本土の専門医療機関に紹介した割合はどの程度ですか。

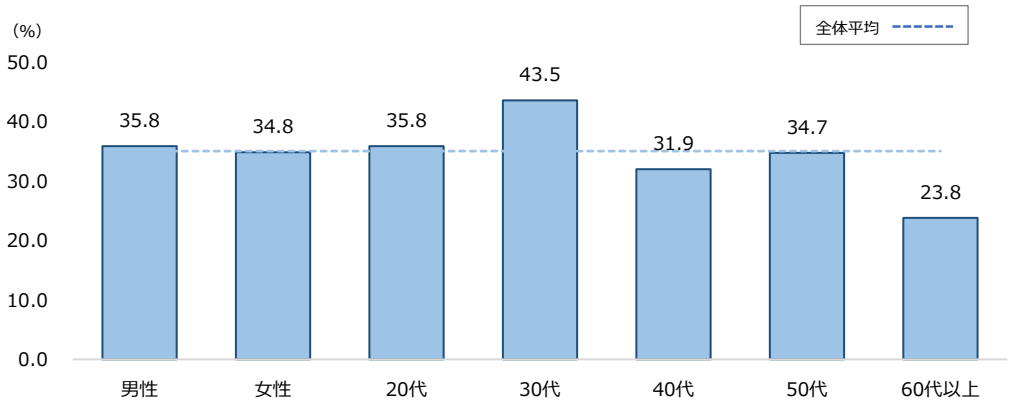
**【全体、職種別】**

- 職種別では、薬剤師が高く、医療ソーシャルワーカーと医師が低かった。



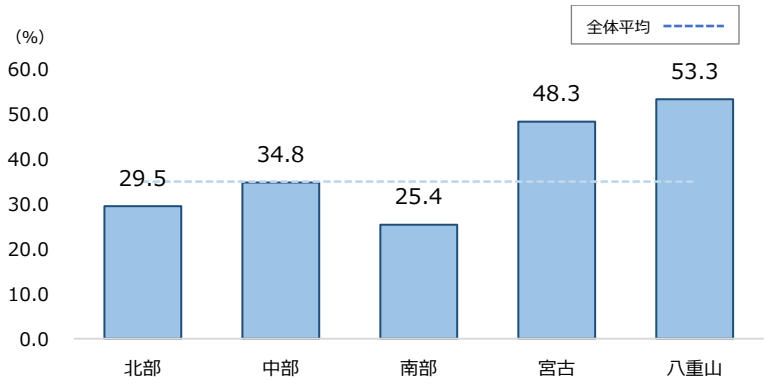

**【性別、年代別】**

- 年代別では、30 代が高く、60 代以上と 40 代が低かった。



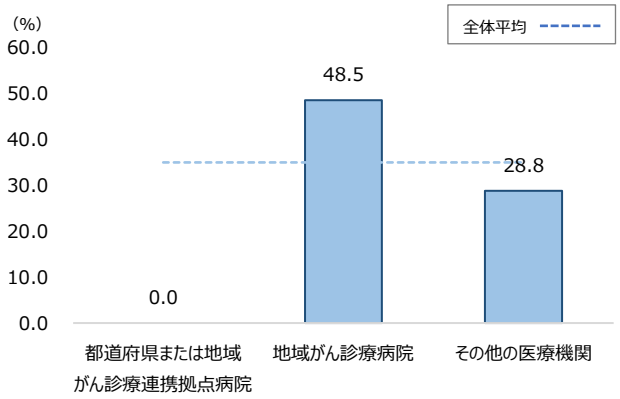
【医療圏別】

➢ 医療圏別では、八重山と宮古が高く、南部と北部が低かった。



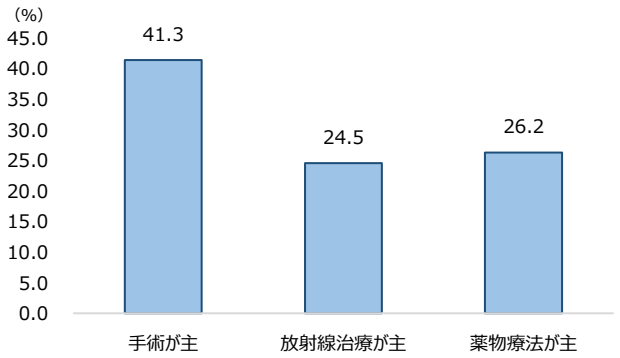

【医療施設別】

➢ 医療施設別では、地域がん診療病院が高く、その他の医療機関が低かった。




【医師の主たる分野別】

➢ 医師の主たる分野別では、「手術が主」が高く、「放射線治療が主」と「薬物療法が主」は低かった。



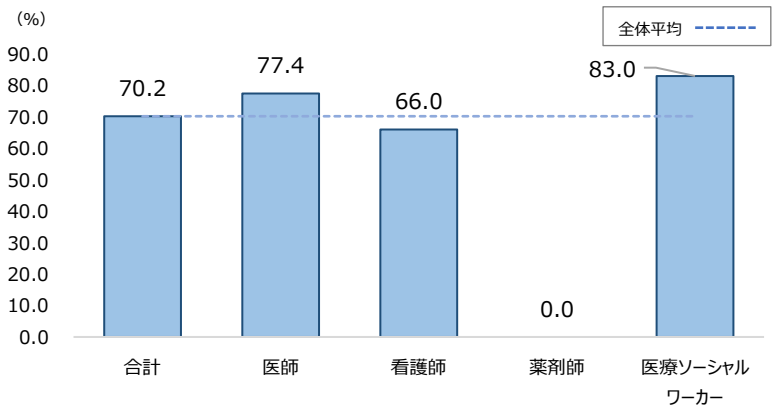
## （24）離島・へき地患者の本島医療機関へのスムーズな送り出し

**実現率：70.2%　（前回調査：60.3%）**

Q. 北部地区医師会病院、県立北部病院、たいら内科クリニック、宮古病院、八重山病院の医療者の方にのみお尋ねします。離島やへき地に住む患者において、自施設から本島の専門医療機関に送った方が良いと評価した患者のうち、スムーズに送ることができた患者の割合はどの程度ですか。

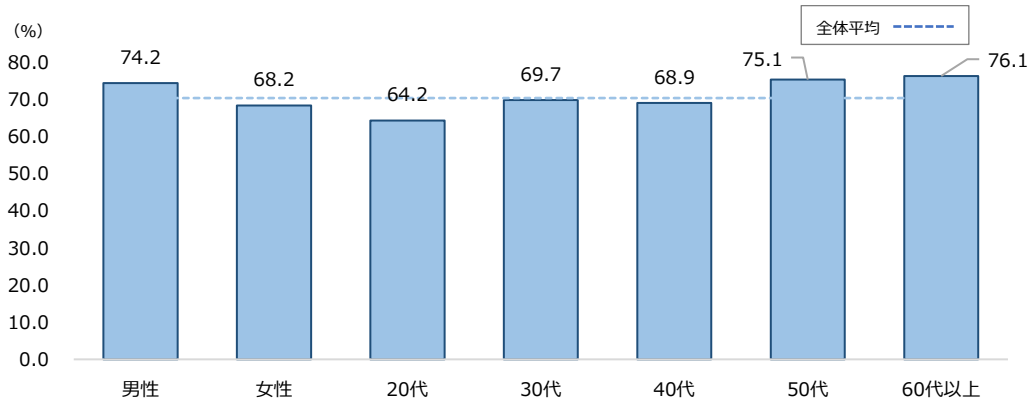
**【全体、職種別】**

- 職種別では、医療ソーシャルワーカーと医師が高かった。薬剤師は算出対象の回答者がいなかった。



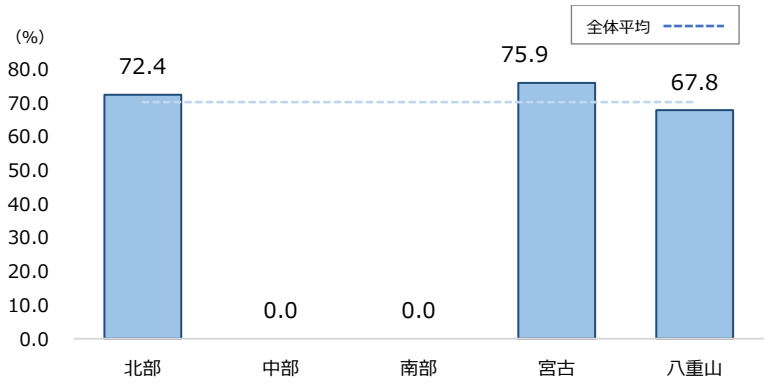

**【性別、年代別】**

- 年代別では、60 代以上、50 代が高く、20 代が低かった。



【医療圏別】

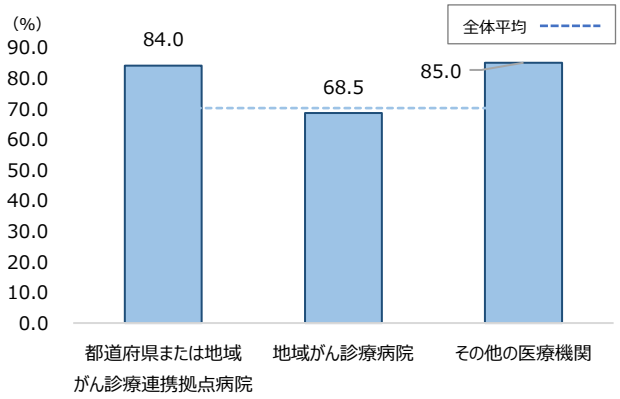
➢ 医療圏別では、宮古が高かった。




【医療施設別】

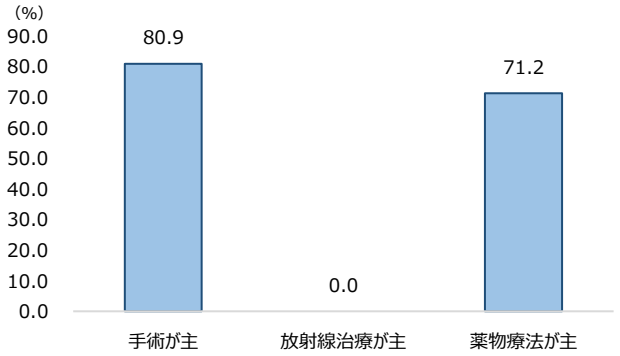
➢ 医療施設別では、その他の医療機関が高かった。

※一部回答において、「医療圏」と「医療施設」の組み合わせの齟齬が見られるが、回答内容のまま分析した。




【医師の主たる分野別】

➢ 医師の主たる分野別では、「手術が主」が高かった。「放射線療法が主」は算出対象の回答者がいなかった。



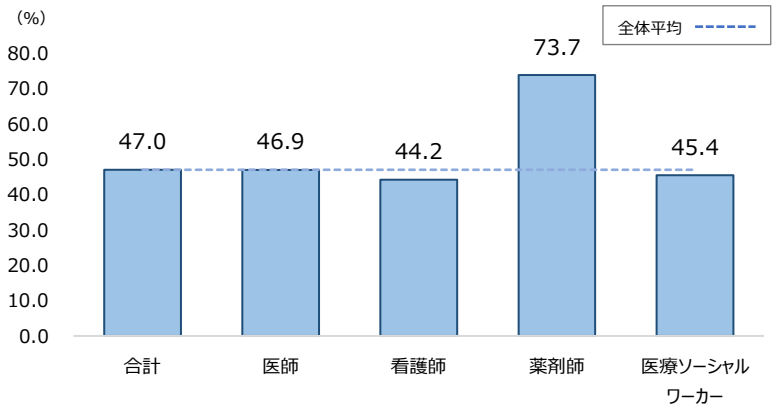
## （25）離島・へき地と本島との医療格差解消

**実現率：47.0%（※回答結果を 100 から差し引いた値）**

Q. 北部地区医師会病院、県立北部病院、たいら内科クリニック、宮古病院、八重山病院の医療者の方にのみお聞きします。離島やへき地に住むがん患者に対する医療において、中部医療圏や南部医療圏との医療格差が明らかに感じられた患者の割合はどの程度ですか。

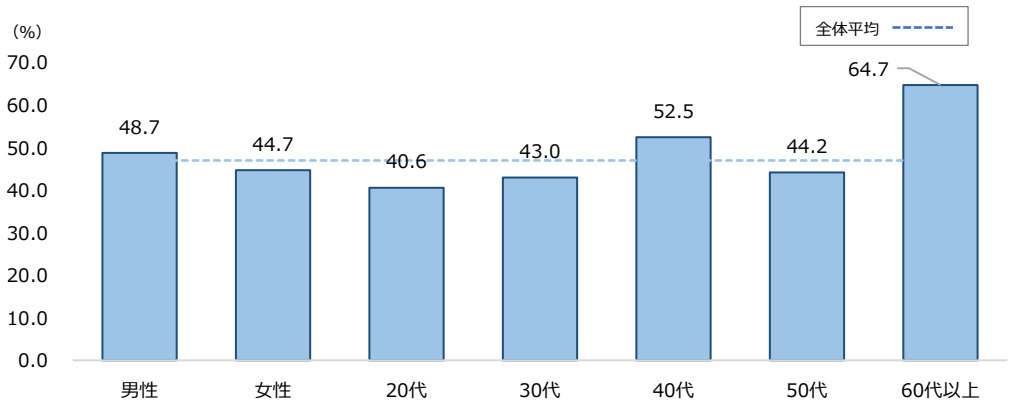
**【全体、職種別】**

- 職種別では、薬剤師が高く、看護師がやや低かった。



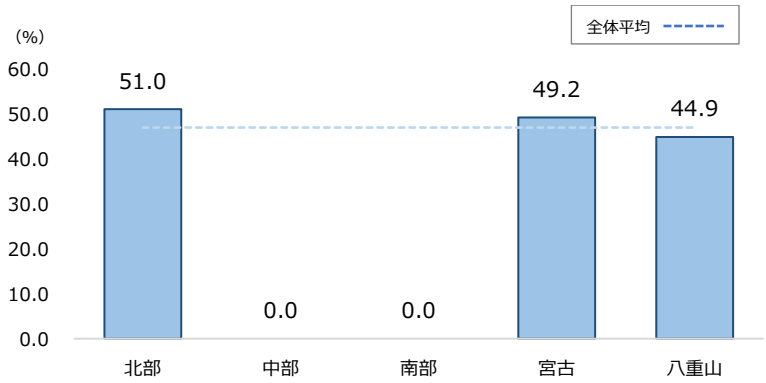

**【性別、年代別】**

- 年代別では、60 代以上と 40 代が高く、20 代と 30 代、50 代が低かった。



【医療圏別】

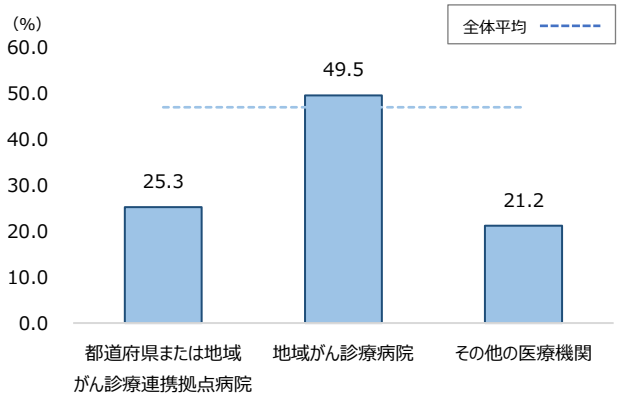
➢ 医療圏別では、北部がやや高く、八重山がやや低かった。




【医療施設別】

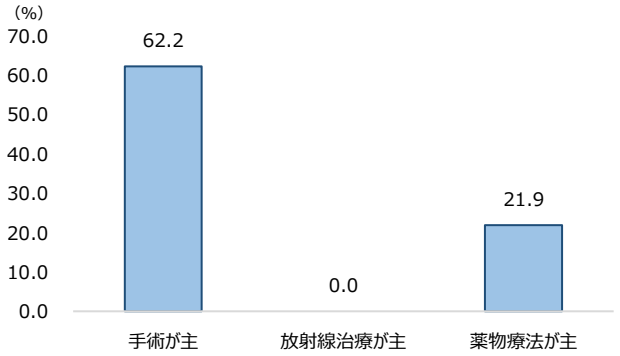
➢ 医療施設別では、地域がん診療病院が高く、その他の医療機関が低かった。

※一部回答において、「医療圏」と「医療施設」の組み合わせの齟齬が見られるが、回答内容のまま分析した。




【医師の主たる分野別】

➢ 医師の主たる分野別では、「手術が主」が高く、「薬物療法が主」が低かった。



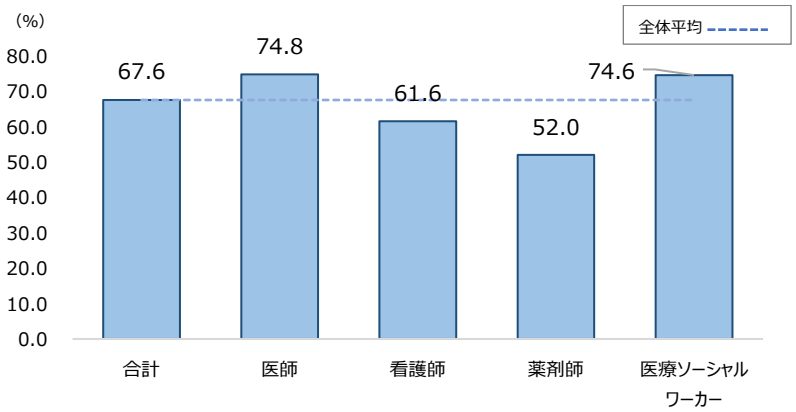
## （26）離島・へき地患者に対する通院回数への配慮

**実現率：67.6%**

Q. 離島の医療施設勤務者を含む全ての医療従事者にお尋ねします。離島やへき地に住むがん患者のうち、なるべく少ない回数で通院が終わるように配慮した患者の割合はどの程度ですか。

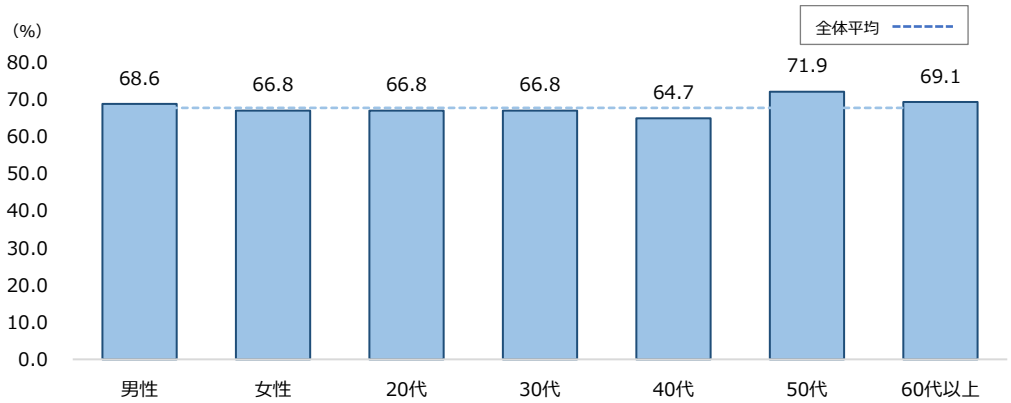
**【全体、職種別】**

- 職種別では、医療ソーシャルワーカーと医師が高く、薬剤師と看護師が低かった。



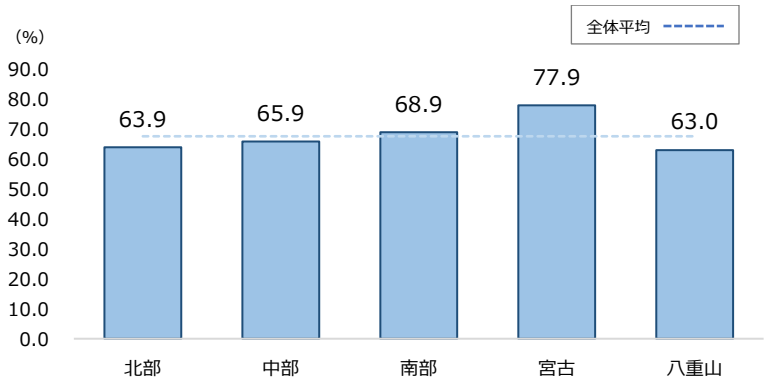

**【性別、年代別】**

- 年代別では、50 代が高かった。



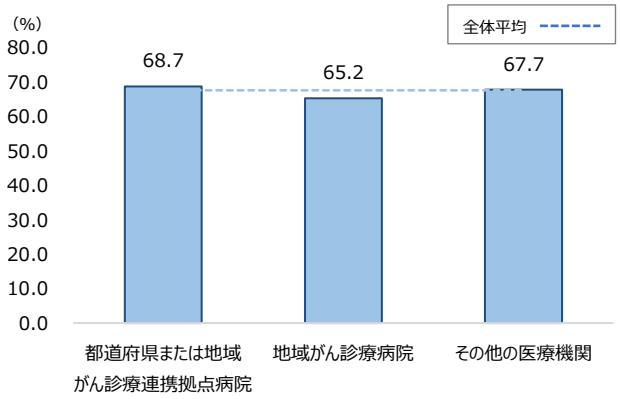
【医療圏別】

➢ 医療圏別では、宮古が高かった。



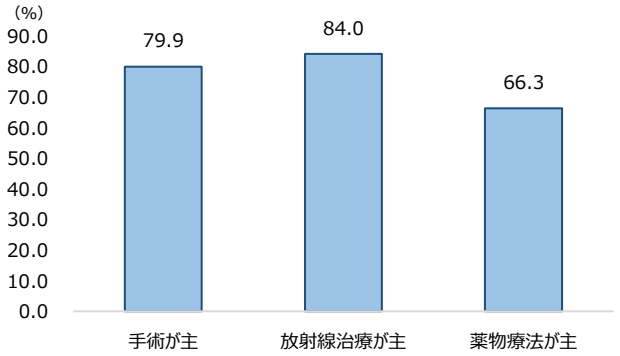

【医療施設別】

➢ 医療施設別では、差異は見られなかった。




【医師の主たる分野別】

➢ 医師の主たる分野別では、「放射線治療が主」と「手術が主」が高かった。



## （27）県内におけるがん医療の集約化と機能分化

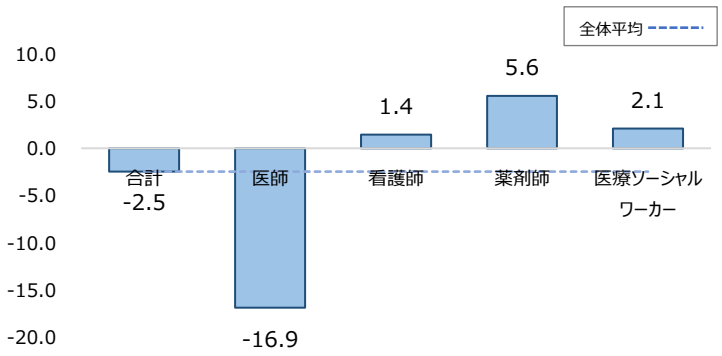
**平均スコア：-2.5**

Q. 沖縄県内において、がん医療の適切な集約化と機能分化が十分にできていると思いますか。

（※-100～100 の幅で算出）

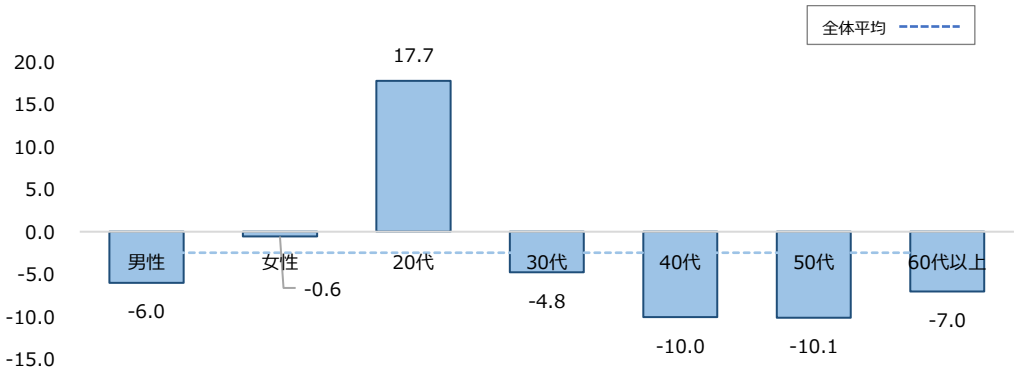
**【全体、職種別】**

- 職種別では、医師がマイナスだった。



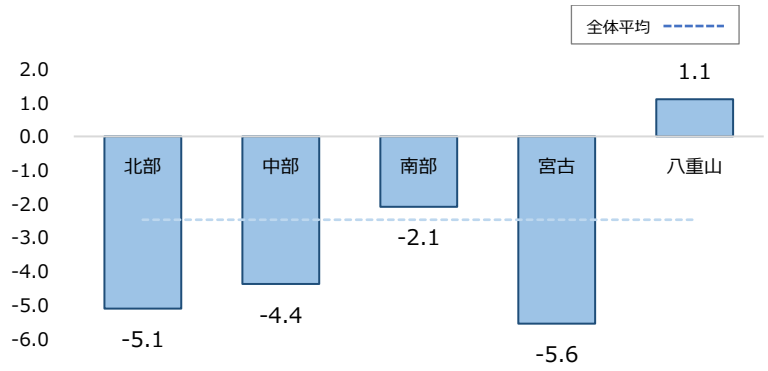

**【性別、年代別】**

- 年代別では、20 代のみがプラスで、30 代以上はマイナスだった。



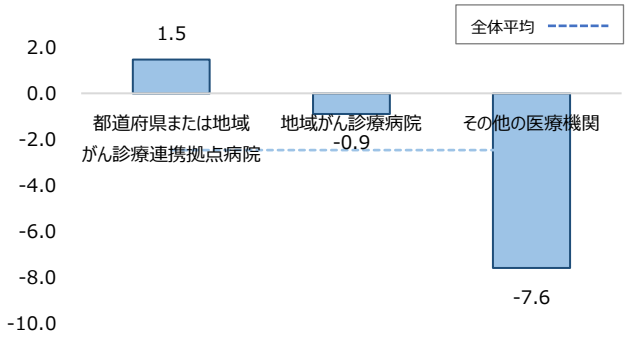
【医療圏別】

➢ 医療圏別では、八重山のみがプラスで、他の医療圏はマイナスだった。



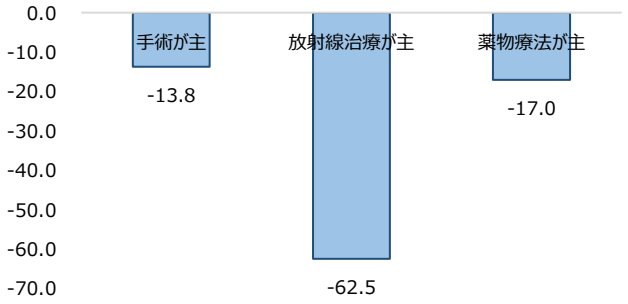

【医療施設別】

➢ 医療施設別では、都道府県または地域がん診療連携拠点病院のみがプラスで、他の医療施設はマイナスだった。




【医師の主たる分野別】

➢ 医師の主たる分野別では、各分野ともマイナスだった。



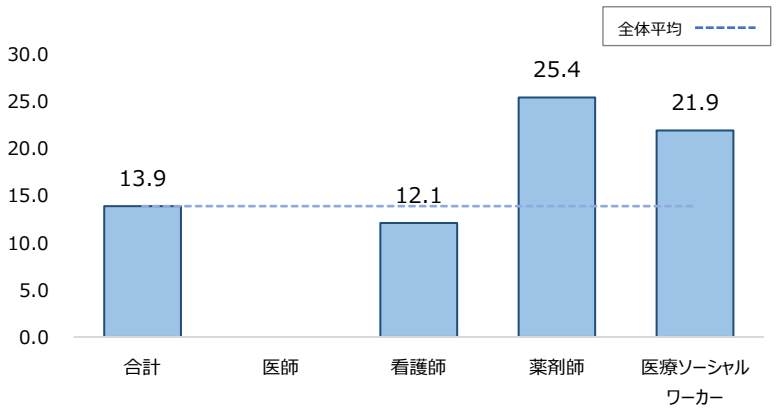
## （28）医師への意見の言いやすさ（医師以外が回答）

**平均スコア：13.9　（前回調査：17.2）**

Q. 医師以外の医療スタッフの方にお聞きします。がん患者のケアに関して、自分の意見を医師に対して自由に言えますか。（※-100～100 の幅で算出）

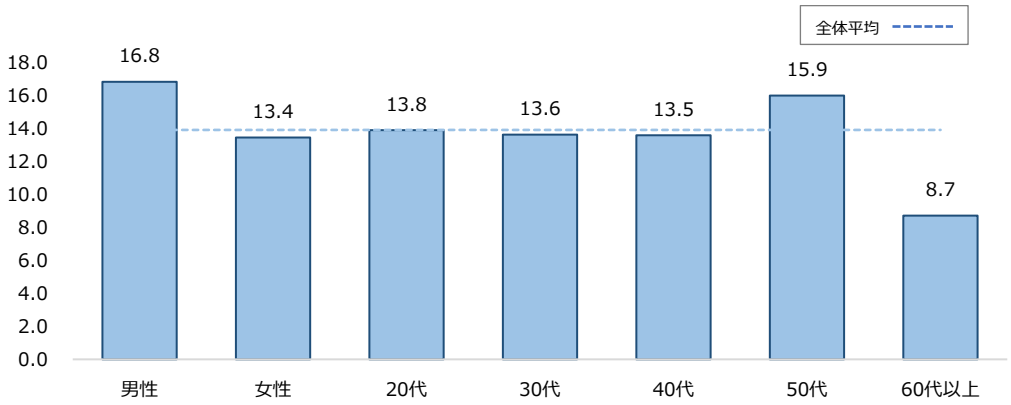
**【全体、職種別】**

- 職種別では、薬剤師と医療ソーシャルワーカーは高く、看護師は低かった。



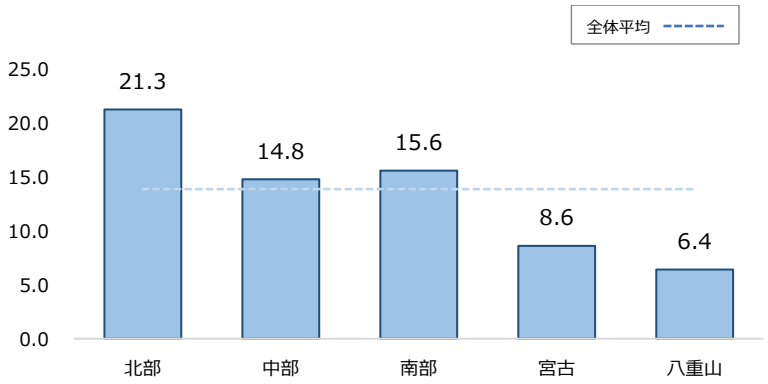

**【性別、年代別】**

- 年代別では、50 代は高く、60 代以上は低かった。



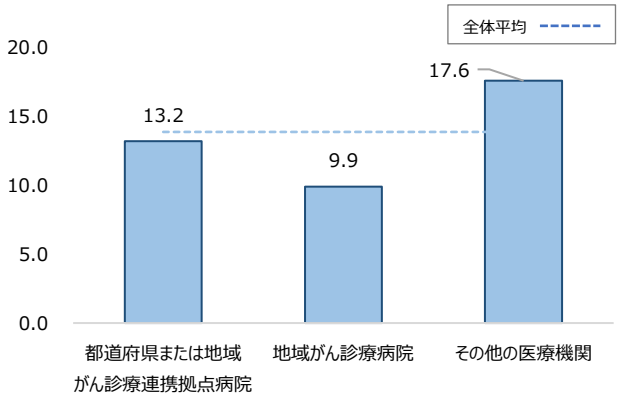
【医療圏別】

➢ 医療圏別では、八重山と宮古が低かった。




【医療施設別】

➢ 医療施設別では、その他医療機関は高く、地域がん診療病院は低かった。



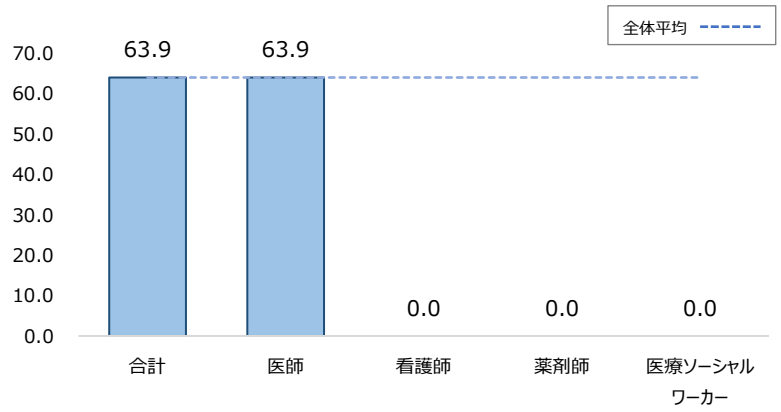
## （29）他スタッフの意見の尊重（医師が回答）

**平均スコア：63.9　（前回調査：66.5）**

Q. 医師の方にお聞きします。他の医療スタッフの話に耳を傾けていますか。（※-100～100 の幅で算出）

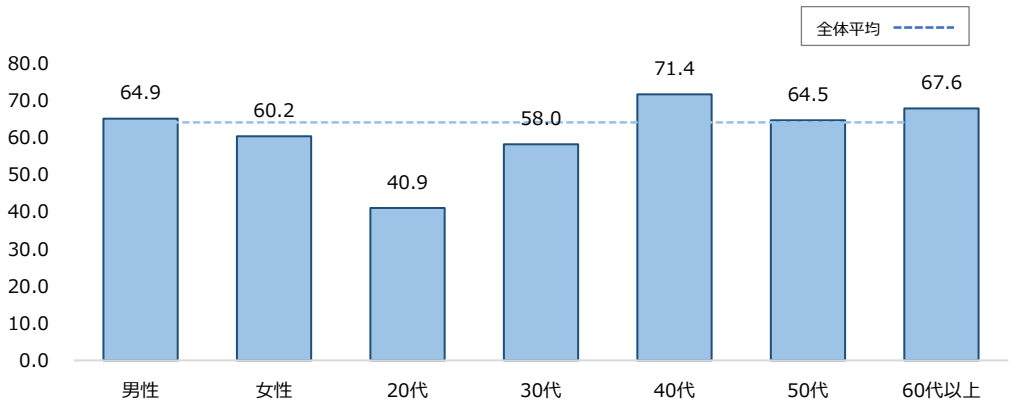
**【全体、職種別】**

- この質問は医師のみの回答で、平均スコアは 63.9 だった。



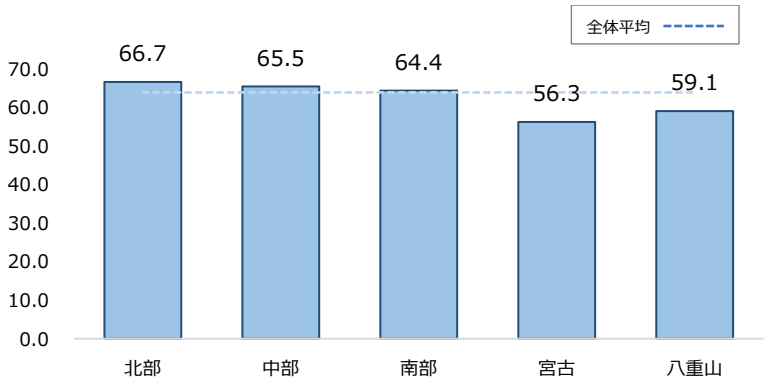

**【性別、年代別】**

- 年代別では、40 代と 60 代以上が高く、20 代と 30 代は低かった。



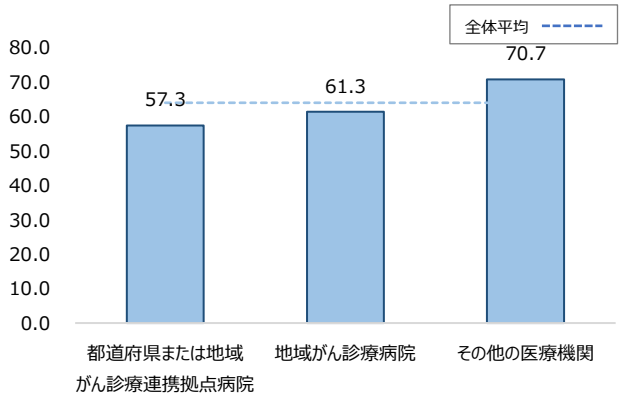
**【医療圏別】**

- 医療圏別では、宮古と八重山が低かった。



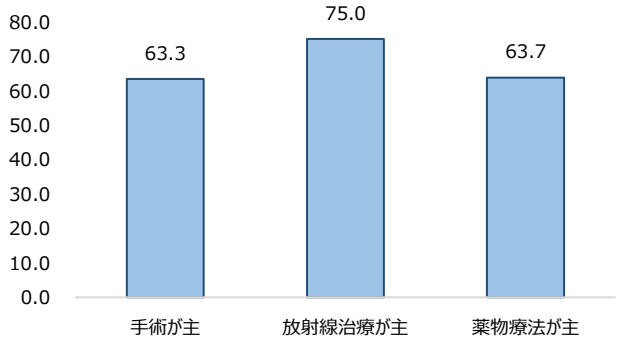

**【医療施設別】**

- 医療施設別では、その他の医療機関が高く、都道府県または地域がん診療連携拠点病院が低かった。




**【医師の主たる分野別】**

- 医師の主たる分野別では「放射線治療が主」が高かった。



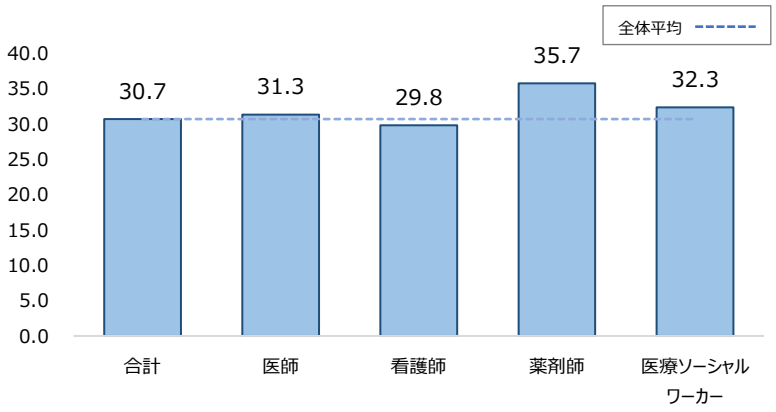
## （30）職場のキャリア育成環境

**平均スコア：30.7**

Q. 今の職場は、あなたが必要な知識を備えた専門的人材になれる環境やキャリア形成（専門資格を取得するなど）を、支援してくれていますか。（※-100～100 の幅で算出）

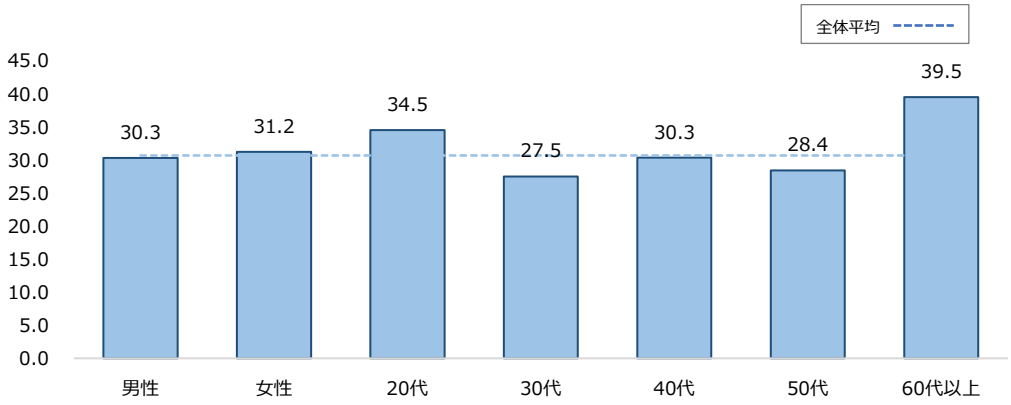
**【全体、職種別】**

- 職種別では、薬剤師が高かった。



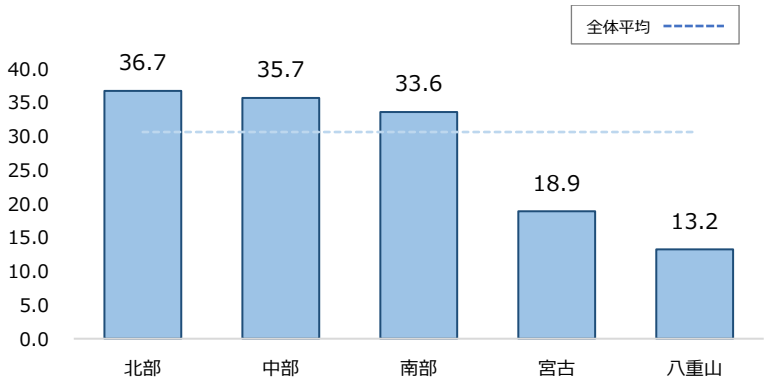

**【性別、年代別】**

- 年代別では、60 代以上と 20 代が高く、30 代と 50 代が低かった。



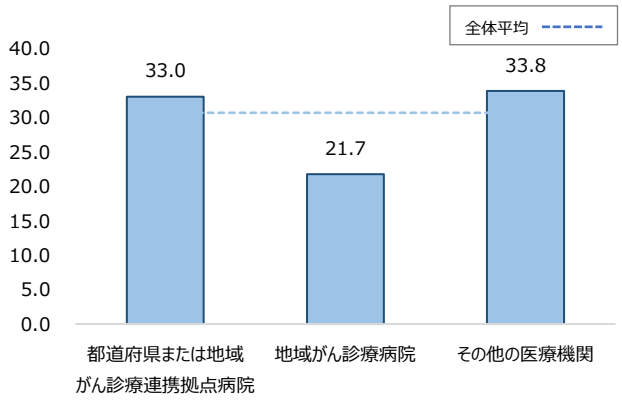
【医療圏別】

➢ 医療圏別では、北部と中部が高く、八重山と宮古が低かった。



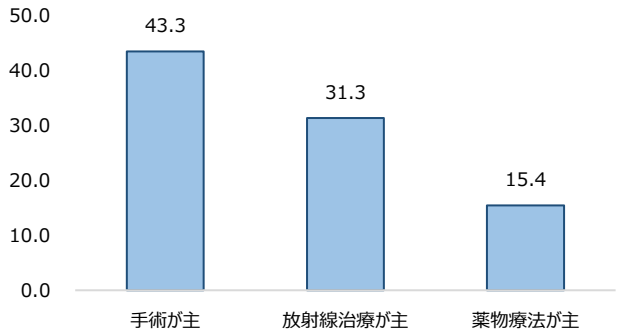

【医療施設別】

➢ 医療施設別では、その他の医療機関が高く、地域がん診療病院が低かった。




【医師の主たる分野別】

➢ 医師の主たる分野別では、「手術が主」が高く、「薬物療法が主」が低かった。



# 4. 調査結果詳細（クロス集計表）

**クロス集計表の見方**

※　単一回答結果数値は、少数点第2位を四捨五入しており、内訳の和が 100.0 にならないことがある

※　統計表中の「0.0」は、数値が表章単位に満たないものを指す場合もある。ただし、墨色の「0.0」は回答者が 0 であった項目である。

※　統計表において数値に以下の背景色が付いている場合は、下記の意味である。
　　は全体平均より 5 ポイント以上、　は 5 ポイント以下の場合

※　上記同様、数値が**太字**の場合は全体平均より 5 ポイント以上、数値が墨色の場合は全体平均より 5 ポイント以下の場合である。

## （1） レジメン登録の遅延による投薬の遅れ（医師のみへの質問）

**平均スコア：64.4（※数値が高いほど遅れは少ない）**

Q. 2023 年に、レジメン登録が遅かったために、患者へのタイムリーな投薬が遅れたことがありましたか。

**【全体】**

- 「なかった」が 56.2%と最も多く、次いで「あまりなかった」21.9%、「どちらともいえない」16.9%、「ややあった」4.6%、「あった」0.5%と続いた。

（%）

| 選択肢 | 全体（n=219） |
|---|---|
| あった | 0.5 |
| ややあった | 4.6 |
| どちらともいえない | 16.9 |
| あまりなかった | 21.9 |
| なかった | 56.2 |

**【年代別】**

- 年代別では、「なかった」は 50 代に多く、「あまりなかった」は 30 代、20 代に多く、「どちらともいえない」は 20 代、60 代以上に多かった。

（%）

| 選択肢 | 全体（n=219） | 性別 | | 年代別 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 男性（n=171） | 女性（n=44） | 20代（n=11） | 30代（n=56） | 40代（n=56） | 50代（n=62） | 60代以上（n=34） |
| あった | 0.5 | 0.6 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 2.9 |
| ややあった | 4.6 | 4.7 | 2.3 | 9.1 | 8.9 | 5.4 | 0.0 | 2.9 |
| どちらともいえない | 16.9 | 17.0 | 18.2 | **36.4** | 7.1 | 16.1 | 16.1 | **29.4** |
| あまりなかった | 21.9 | 22.2 | 22.7 | **27.3** | **30.4** | 25.0 | 14.5 | 14.7 |
| なかった | 56.2 | 55.6 | 56.8 | 27.3 | 53.6 | 53.6 | **69.4** | 50.0 |

【医療圏別】

➢ 医療圏別では、「なかった」は北部に多く、「あまりなかった」は宮古、八重山に多く、「ややあった」は宮古、北部に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=219) | 医療圏 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 北部医療圏 (n=9) | 中部医療圏 (n=58) | 南部医療圏 (n=125) | 宮古医療圏 (n=16) | 八重山医療圏 (n=11) |
| あった | 0.5 | 0.0 | 1.7 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| ややあった | 4.6 | **11.1** | 3.4 | 4.0 | **12.5** | 0.0 |
| どちらともいえない | 16.9 | 11.1 | 20.7 | 18.4 | 0.0 | 9.1 |
| あまりなかった | 21.9 | 11.1 | 19.0 | 20.8 | **37.5** | **36.4** |
| なかった | 56.2 | **66.7** | 55.2 | 56.8 | 50.0 | 54.5 |

【医療施設別】

➢ 医療施設別では、「あまりなかった」と「ややあった」が地域がん診療病院に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=219) | 医療施設分類 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 都道府県または地域がん診療連携拠点病院 (n=89) | 地域がん診療病院 (n=31) | その他の医療機関 (n=99) |
| あった | 0.5 | 0.0 | 0.0 | 1.0 |
| ややあった | 4.6 | 5.6 | **9.7** | 2.0 |
| どちらともいえない | 16.9 | 20.2 | 6.5 | 17.2 |
| あまりなかった | 21.9 | 20.2 | **32.3** | 20.2 |
| なかった | 56.2 | 53.9 | 51.6 | 59.6 |

【医師の主たる分野別】

➢ 「あまりなかった」が「放射線治療が主」の医師に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=219) | 職種 | 医師の主たる分野 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=219) | 手術が主 (n=120) | 放射線治療が主 (n=8) | 薬物療法が主 (n=91) |
| あった | 0.5 | 0.5 | 0.0 | 0.0 | 1.1 |
| ややあった | 4.6 | 4.6 | 3.3 | 0.0 | 6.6 |
| どちらともいえない | 16.9 | 16.9 | 19.2 | 12.5 | 14.3 |
| あまりなかった | 21.9 | 21.9 | 20.0 | **37.5** | 23.1 |
| なかった | 56.2 | 56.2 | 57.5 | 50.0 | 54.9 |

## （2） モニタリング結果の主治医（チーム）への速やかな伝達

**実現率：75.2%**

Q. 2023 年に、看護師による痛みのモニタリング結果で痛みがあるとした患者のうち、その結果が主治医（チーム）に速やかに伝えられた患者の割合はどの程度ですか。

**【全体、職種別】**

- 全体では「75～99%」が 29.1%と最も多く、ついで「50～74%」が 16.7%、「100%」が 9.5%、「25～49%」が 5.5%、「0～24%」が 2.3%と続いた。
- 職種別では、「75～99%」に医師の回答が多かった。

（%）

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 職種 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=219) | 看護師 (n=621) | 薬剤師 (n=63) | 医療ソーシャルワーカー (n=48) |
| 0～24% | 2.3 | 3.2 | 2.4 | 0.0 | 0.0 |
| 25～49% | 5.5 | 4.1 | 6.1 | 4.8 | 4.2 |
| 50～74% | 16.7 | 16.0 | 19.3 | 3.2 | 4.2 |
| 75～99% | 29.1 | **37.9** | 29.6 | 11.1 | 6.3 |
| 100% | 9.5 | 12.8 | 9.3 | 4.8 | 2.1 |
| わからない | 36.9 | 26.0 | 33.2 | **76.2** | **83.3** |

**【年代別】**

- 年代別では、「100%」と「75～99%」の回答に 50 代、60 代以上が多く、「50～74%」の回答に 20 代が多かった。

（%）

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 性別 | | 年代別 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 男性 (n=317) | 女性 (n=622) | 20代 (n=206) | 30代 (n=251) | 40代 (n=259) | 50代 (n=178) | 60代以上 (n=57) |
| 0～24% | 2.3 | 2.5 | 2.3 | 3.9 | 2.0 | 1.5 | 2.2 | 1.8 |
| 25～49% | 5.5 | 5.7 | 5.5 | 7.8 | 6.8 | 4.6 | 3.4 | 1.8 |
| 50～74% | 16.7 | 17.0 | 16.7 | **21.8** | 17.1 | 16.6 | 11.8 | 12.3 |
| 75～99% | 29.1 | 30.9 | 28.1 | 22.8 | 30.3 | 28.2 | **34.3** | **35.1** |
| 100% | 9.5 | 10.4 | 9.0 | 5.8 | 6.4 | 9.7 | **15.7** | **15.8** |
| わからない | 36.9 | 33.4 | 38.4 | 37.9 | 37.5 | 39.4 | 32.6 | 33.3 |

【医療圏別】

➢ 医療圏別では、「わからない」の回答が北部、宮古、八重山に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 医療圏 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 北部医療圏 (n=49) | 中部医療圏 (n=217) | 南部医療圏 (n=504) | 宮古医療圏 (n=45) | 八重山医療圏 (n=136) |
| 0～24% | 2.3 | 2.0 | 2.8 | 1.8 | 2.2 | 3.7 |
| 25～49% | 5.5 | 6.1 | 6.9 | 5.6 | 0.0 | 4.4 |
| 50～74% | 16.7 | 6.1 | 21.7 | 14.7 | 20.0 | 19.1 |
| 75～99% | 29.1 | 22.4 | 30.9 | 33.3 | 11.1 | 19.1 |
| 100% | 9.5 | 4.1 | 11.5 | 9.7 | 8.9 | 7.4 |
| わからない | 36.9 | **59.2** | 26.3 | 34.9 | **57.8** | **46.3** |

【医療施設別】

➢ 医療施設別では、「わからない」の回答が地域がん診療病院に多く、「75～99%」の回答がその他の医療機関に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 医療施設分類 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 都道府県または地域がん診療連携拠点病院 (n=373) | 地域がん診療病院 (n=223) | その他の医療機関 (n=355) |
| 0～24% | 2.3 | 1.9 | 2.2 | 2.8 |
| 25～49% | 5.5 | 7.2 | 4.5 | 4.2 |
| 50～74% | 16.7 | 18.2 | 17.5 | 14.6 |
| 75～99% | 29.1 | 28.2 | 18.4 | **36.9** |
| 100% | 9.5 | 9.1 | 6.7 | 11.5 |
| わからない | 36.9 | 35.4 | **50.7** | 29.9 |

【医師の主たる分野別】

➢ 医師の主たる分野別では、「100%」の回答が「手術が主」の医師に多く、「75～99%」の回答が「手術が主」「薬物療法が主」の医師に多かった。「わからない」の回答が「放射線治療が主」の医師に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 職種 | 医師の主たる分野 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=219) | 手術が主 (n=120) | 放射線治療が主 (n=8) | 薬物療法が主 (n=91) |
| 0～24% | 2.3 | 3.2 | 3.3 | 0.0 | 3.3 |
| 25～49% | 5.5 | 4.1 | 5.0 | 0.0 | 3.3 |
| 50～74% | 16.7 | 16.0 | 14.2 | 0.0 | 19.8 |
| 75～99% | 29.1 | **37.9** | **36.7** | 25.0 | **40.7** |
| 100% | 9.5 | 12.8 | **15.0** | 12.5 | 9.9 |
| わからない | 36.9 | 26.0 | 25.8 | **62.5** | 23.1 |

## （3） モニタリング結果を受け、主治医（チーム）が緩和ケア実施

**実現率：71.4%**

Q. 2023 年に、看護師による痛みのモニタリング結果が主治医（チーム）に伝えられた患者のうち、主治医（チーム）が速やかに必要な緩和結果を行った患者の割合はどの程度ですか。

**【全体、職種別】**

- 全体では「75～99%」が 26.8%と最も多く、ついで「50～74%」が 16.3%、「100%」が 7.9%、「25～49%」が 5.6%、「0～24%」が 3.9%と続いた。
- 職種別では、「75～99%」と「100%」に、医師の回答が多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 職種 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=219) | 看護師 (n=621) | 薬剤師 (n=63) | 医療ソーシャルワーカー (n=48) |
| 0～24% | 3.9 | 2.3 | 4.8 | 3.2 | 0.0 |
| 25～49% | 7.6 | 3.7 | 9.5 | 6.3 | 2.1 |
| 50～74% | 16.3 | 16.9 | 17.9 | 4.8 | 8.3 |
| 75～99% | 26.8 | **42.0** | 25.1 | 7.9 | 4.2 |
| 100% | 7.9 | **13.2** | 6.9 | 3.2 | 2.1 |
| わからない | 37.5 | 21.9 | 35.7 | **74.6** | **83.3** |

**【性別、年代別】**

- 年代別では、「100%」と「75～99%」に 50 代、60 代以上の回答が多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 性別 | | 年代別 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 男性 (n=317) | 女性 (n=622) | 20代 (n=206) | 30代 (n=251) | 40代 (n=259) | 50代 (n=178) | 60代以上 (n=57) |
| 0～24% | 3.9 | 3.2 | 4.3 | 5.8 | 4.8 | 2.7 | 2.8 | 1.8 |
| 25～49% | 7.6 | 8.2 | 7.4 | 10.7 | 8.0 | 8.5 | 3.9 | 1.8 |
| 50～74% | 16.3 | 15.5 | 16.7 | 19.4 | 18.7 | 15.1 | 12.4 | 12.3 |
| 75～99% | 26.8 | 30.9 | 24.6 | 19.4 | 23.9 | 29.3 | **33.1** | **35.1** |
| 100% | 7.9 | 10.7 | 6.6 | 3.4 | 6.4 | 5.0 | **16.3** | **17.5** |
| わからない | 37.5 | 31.5 | 40.4 | 41.3 | 38.2 | 39.4 | 31.5 | 31.6 |

【医療圏別】

➢ 医療圏別では、「わからない」の回答が北部、宮古、八重山に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 医療圏 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 北部医療圏 (n=49) | 中部医療圏 (n=217) | 南部医療圏 (n=504) | 宮古医療圏 (n=45) | 八重山医療圏 (n=136) |
| 0～24% | 3.9 | 2.0 | 5.1 | 4.0 | 0.0 | 3.7 |
| 25～49% | 7.6 | 6.1 | 10.6 | 6.7 | 6.7 | 6.6 |
| 50～74% | 16.3 | 10.2 | 17.5 | 17.3 | 13.3 | 14.0 |
| 75～99% | 26.8 | 18.4 | 29.5 | 28.8 | 20.0 | 20.6 |
| 100% | 7.9 | 2.0 | 9.2 | 8.5 | 4.4 | 6.6 |
| わからない | 37.5 | **61.2** | 28.1 | 34.7 | **55.6** | **48.5** |

【医療施設別】

➢ 医療施設別では、「わからない」の回答が地域がん診療病院に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 医療施設分類 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 都道府県または地域がん診療連携拠点病院 (n=373) | 地域がん診療病院 (n=223) | その他の医療機関 (n=355) |
| 0～24% | 3.9 | 2.7 | 2.2 | 6.2 |
| 25～49% | 7.6 | 8.6 | 6.7 | 7.0 |
| 50～74% | 16.3 | 19.8 | 13.9 | 14.1 |
| 75～99% | 26.8 | 26.3 | 20.2 | 31.5 |
| 100% | 7.9 | 7.2 | 4.5 | 10.7 |
| わからない | 37.5 | 35.4 | **52.5** | 30.4 |

【医師の主たる分野別】

➢ 医師の主たる分野別では、「100%」の回答が「手術が主」「薬物治療が主」の医師に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 職種 | 医師の主たる分野 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=219) | 手術が主 (n=120) | 放射線治療が主 (n=8) | 薬物療法が主 (n=91) |
| 0～24% | 3.9 | 2.3 | 1.7 | 0.0 | 3.3 |
| 25～49% | 7.6 | 3.7 | 5.0 | 0.0 | 2.2 |
| 50～74% | 16.3 | 16.9 | 15.8 | 12.5 | 18.7 |
| 75～99% | 26.8 | **42.0** | **41.7** | **37.5** | **42.9** |
| 100% | 7.9 | **13.2** | **13.3** | 12.5 | **13.2** |
| わからない | 37.5 | 21.9 | 22.5 | 37.5 | 19.8 |

## （4） 主治医（チーム）から緩和ケアチームへの迅速な紹介

**実現率：59.4%**

Q. 2023 年に、看護師による痛みのモニタリング結果が主治医（チーム）に伝えられた患者において、主治医（チーム）では対応が十分に行えない患者のうち、主治医（チーム）から速やかに緩和ケアチームに紹介が行われた患者の割合はどの程度ですか。

**【全体、職種別】**

- 全体では「50～74%」が 15.4%と最も多く、ついで「75～99%」が 14.2%、「25～49%」が 10.8%、「0～24%」が 8.7%、「100%」が 5.6%と続いた。
- 職種別では、「75～99%」に、医師の回答が多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 職種 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=219) | 看護師 (n=621) | 薬剤師 (n=63) | 医療ソーシャルワーカー (n=48) |
| 0～24% | 8.7 | 11.0 | 9.0 | 3.2 | 2.1 |
| 25～49% | 10.8 | 11.0 | 11.6 | 4.8 | 8.3 |
| 50～74% | 15.4 | 15.1 | 17.6 | 3.2 | 4.2 |
| 75～99% | 14.2 | **21.9** | 13.0 | 7.9 | 2.1 |
| 100% | 5.6 | 8.7 | 5.0 | 3.2 | 2.1 |
| わからない | 45.3 | 32.4 | 43.8 | **77.8** | **81.3** |

**【性別、年代別】**

- 年代別では、「100%」の回答に 50 代が、「75～99%」に 50 代、60 代以上が多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 性別 | | 年代別 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 男性 (n=317) | 女性 (n=622) | 20代 (n=206) | 30代 (n=251) | 40代 (n=259) | 50代 (n=178) | 60代以上 (n=57) |
| 0～24% | 8.7 | 9.8 | 8.0 | 8.7 | 11.2 | 8.5 | 6.2 | 7.0 |
| 25～49% | 10.8 | 10.4 | 10.9 | 10.7 | 11.2 | 13.1 | 7.9 | 8.8 |
| 50～74% | 15.4 | 13.6 | 16.6 | 18.4 | 13.5 | 14.3 | 16.3 | 14.0 |
| 75～99% | 14.2 | 15.5 | 13.7 | 10.2 | 12.0 | 12.7 | **21.3** | **22.8** |
| 100% | 5.6 | 9.5 | 3.7 | 3.4 | 5.2 | 3.1 | **11.2** | 8.8 |
| わからない | 45.3 | 41.3 | 47.1 | 48.5 | 47.0 | 48.3 | 37.1 | 38.6 |

【医療圏別】

➢ 医療圏別では、「わからない」の回答が北部、宮古、八重山に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 医療圏 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 北部医療圏 (n=49) | 中部医療圏 (n=217) | 南部医療圏 (n=504) | 宮古医療圏 (n=45) | 八重山医療圏 (n=136) |
| 0～24% | 8.7 | 2.0 | 10.6 | 9.5 | 8.9 | 5.1 |
| 25～49% | 10.8 | 8.2 | 11.5 | 11.3 | 8.9 | 9.6 |
| 50～74% | 15.4 | 14.3 | 18.9 | 16.1 | 11.1 | 8.8 |
| 75～99% | 14.2 | 6.1 | 13.4 | 14.9 | 11.1 | 16.9 |
| 100% | 5.6 | 4.1 | 5.5 | 5.6 | 4.4 | 6.6 |
| わからない | 45.3 | **65.3** | 40.1 | 42.7 | **55.6** | **52.9** |

【医療施設別】

➢ 医療施設別では、「わからない」の回答が地域がん診療病院に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 医療施設分類 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 都道府県または地域がん診療連携拠点病院 (n=373) | 地域がん診療病院 (n=223) | その他の医療機関 (n=355) |
| 0～24% | 8.7 | 7.5 | 4.9 | 12.4 |
| 25～49% | 10.8 | 12.6 | 8.5 | 10.4 |
| 50～74% | 15.4 | 17.7 | 9.9 | 16.3 |
| 75～99% | 14.2 | 13.9 | 14.8 | 14.1 |
| 100% | 5.6 | 4.6 | 5.4 | 6.8 |
| わからない | 45.3 | 43.7 | **56.5** | 40.0 |

【医師の主たる分野別】

➢ 医師の主たる分野別では、「100%」の回答が「放射線治療が主」の医師に多く、「75～99%」の回答が「手術が主」「放射線治療が主」の医師に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 職種 | 医師の主たる分野 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=219) | 手術が主 (n=120) | 放射線治療が主 (n=8) | 薬物療法が主 (n=91) |
| 0～24% | 8.7 | 11.0 | 9.2 | 12.5 | 13.2 |
| 25～49% | 10.8 | 11.0 | 9.2 | 12.5 | 13.2 |
| 50～74% | 15.4 | 15.1 | 15.0 | 0.0 | 16.5 |
| 75～99% | 14.2 | **21.9** | **24.2** | **25.0** | 18.7 |
| 100% | 5.6 | 8.7 | 10.0 | **12.5** | 6.6 |
| わからない | 45.3 | 32.4 | 32.5 | 37.5 | 31.9 |

## （5） 治療方針説明時の医師以外の職種参加

**実現率:68.7%（前回調査:59.1%）**

Q. 治療方針（告知等）の説明の際に、医師外の職種も参加している割合はどの程度ですか。

**【全体、職種別】**

- 全体では「75～99%」が 25.6%と最も多く、ついで「50～74%」が 18.9%、「100%」が 12.6%、「25～49%」が 9.8%、「0～24%」が 7.6%と続いた。
- 職種別では、「25～49%」「0～24%」に医師の回答が多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 職種 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=219) | 看護師 (n=621) | 薬剤師 (n=63) | 医療ソーシャルワーカー (n=48) |
| 0～24% | 7.6 | **12.8** | 6.0 | 7.9 | 4.2 |
| 25～49% | 9.8 | **15.1** | 8.4 | 6.3 | 8.3 |
| 50～74% | 18.9 | 19.6 | 20.3 | 3.2 | 18.8 |
| 75～99% | 25.6 | 26.0 | 27.4 | 9.5 | 20.8 |
| 100% | 12.6 | 16.4 | 12.4 | 3.2 | 10.4 |
| わからない | 25.6 | 10.0 | 25.6 | **69.8** | **37.5** |

**【性別、年代別】**

- 年代別では、「75～99%」に 20 代の回答が多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 性別 | | 年代別 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 男性 (n=317) | 女性 (n=622) | 20代 (n=206) | 30代 (n=251) | 40代 (n=259) | 50代 (n=178) | 60代以上 (n=57) |
| 0～24% | 7.6 | 11.4 | 5.6 | 5.8 | 6.4 | 9.7 | 7.9 | 8.8 |
| 25～49% | 9.8 | 12.3 | 8.5 | 6.3 | 10.8 | 8.9 | 13.5 | 10.5 |
| 50～74% | 18.9 | 18.3 | 19.5 | 16.0 | 19.1 | 18.9 | 21.9 | 19.3 |
| 75～99% | 25.6 | 22.4 | 27.0 | **34.0** | 25.1 | 22.0 | 20.8 | 28.1 |
| 100% | 12.6 | 13.2 | 12.4 | 10.7 | 12.7 | 13.9 | 11.8 | 15.8 |
| わからない | 25.6 | 22.4 | 27.0 | 27.2 | 25.9 | 26.6 | 24.2 | 17.5 |

【医療圏別】

➢ 医療圏別では、「わからない」の回答が宮古、八重山、北部に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 医療圏 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 北部医療圏 (n=49) | 中部医療圏 (n=217) | 南部医療圏 (n=504) | 宮古医療圏 (n=45) | 八重山医療圏 (n=136) |
| 0～24% | 7.6 | 10.2 | 11.5 | 6.0 | 6.7 | 6.6 |
| 25～49% | 9.8 | 12.2 | 9.7 | 10.1 | 11.1 | 7.4 |
| 50～74% | 18.9 | 18.4 | 21.2 | 18.5 | 11.1 | 19.9 |
| 75～99% | 25.6 | 18.4 | 20.3 | 30.2 | 22.2 | 20.6 |
| 100% | 12.6 | 4.1 | 14.3 | 14.9 | 4.4 | 7.4 |
| わからない | 25.6 | **36.7** | 23.0 | 20.4 | **44.4** | **38.2** |

【医療施設別】

➢ 医療施設別では、「わからない」の回答が地域がん診療病院に多く、「75～99%」の回答が都道府県または地域がん診療連携拠点病院に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 医療施設分類 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 都道府県または地域がん診療連携拠点病院 (n=373) | 地域がん診療病院 (n=223) | その他の医療機関 (n=355) |
| 0～24% | 7.6 | 7.5 | 6.3 | 8.5 |
| 25～49% | 9.8 | 9.1 | 9.9 | 10.4 |
| 50～74% | 18.9 | 17.4 | 18.4 | 20.8 |
| 75～99% | 25.6 | **32.4** | 19.7 | 22.0 |
| 100% | 12.6 | 12.1 | 6.3 | 17.2 |
| わからない | 25.6 | 21.4 | **39.5** | 21.1 |

【医師の主たる分野別】

➢ 主たる分野別では、「100%」の回答が「手術が主」の医師に多く、「75～99%」の回答が「放射線治療が主」の医師に、「25～49%」が「手術が主」「薬物療法が主」に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 職種 | 医師の主たる分野 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=219) | 手術が主 (n=120) | 放射線治療が主 (n=8) | 薬物療法が主 (n=91) |
| 0～24% | 7.6 | **12.8** | 12.5 | 12.5 | **13.2** |
| 25～49% | 9.8 | **15.1** | **15.0** | 0.0 | **16.5** |
| 50～74% | 18.9 | 19.6 | 20.0 | 0.0 | 20.9 |
| 75～99% | 25.6 | 26.0 | 25.0 | **50.0** | 25.3 |
| 100% | 12.6 | 16.4 | **18.3** | 12.5 | 14.3 |
| わからない | 25.6 | 10.0 | 9.2 | 25.0 | 9.9 |

## （6） 治療スケジュール見通しの十分な情報提供

**実現率：69.6%**

Q. 治療スケジュールの見通しについて、治療方針の決定までに、十分な情報を提供できた患者の割合はどの程度ですか。

**【全体、職種別】**

- 全体では「75～99%」が 22.5%と最も多く、ついで「50～74%」が 18.7%、「25～49%」が 8.2%、「100%」が 5.4%、「0～24%」が 2.5%と続いた。
- 職種別では、「75～99%」と「100%」に医師の回答が、「50～74%」に医療ソーシャルワーカーの回答がそれぞれ多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 職種 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=219) | 看護師 (n=621) | 薬剤師 (n=63) | 医療ソーシャルワーカー (n=48) |
| 0～24% | 2.5 | 1.4 | 2.9 | 3.2 | 2.1 |
| 25～49% | 8.2 | 8.7 | 8.5 | 3.2 | 8.3 |
| 50～74% | 18.7 | 18.7 | 19.5 | 6.3 | **25.0** |
| 75～99% | 22.5 | **39.7** | 18.7 | 7.9 | 12.5 |
| 100% | 5.4 | **14.2** | 3.2 | 0.0 | 0.0 |
| わからない | 42.7 | 17.4 | 47.2 | **79.4** | **52.1** |

**【性別、年代別】**

- 年代別では、「75～99%」の回答に 50 代、60 代以上が多く、30 代が少なかった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 性別 | | 年代別 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 男性 (n=317) | 女性 (n=622) | 20代 (n=206) | 30代 (n=251) | 40代 (n=259) | 50代 (n=178) | 60代以上 (n=57) |
| 0～24% | 2.5 | 3.5 | 2.1 | 1.9 | 2.8 | 3.5 | 1.7 | 1.8 |
| 25～49% | 8.2 | 9.8 | 7.6 | 7.8 | 9.6 | 8.5 | 6.7 | 7.0 |
| 50～74% | 18.7 | 17.4 | 19.6 | 17.5 | 20.3 | 18.5 | 16.9 | 22.8 |
| 75～99% | 22.5 | 27.4 | 20.1 | 20.4 | 16.3 | 20.1 | **33.7** | **33.3** |
| 100% | 5.4 | 8.8 | 3.5 | 3.4 | 4.4 | 5.4 | 7.9 | 8.8 |
| わからない | 42.7 | 33.1 | 47.1 | **49.0** | 46.6 | 44.0 | 33.1 | 26.3 |

**【医療圏別】**

➢ 医療圏別では、「75～99%」の回答が宮古、八重山で少なかった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 医療圏 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 北部医療圏 (n=49) | 中部医療圏 (n=217) | 南部医療圏 (n=504) | 宮古医療圏 (n=45) | 八重山医療圏 (n=136) |
| 0～24% | 2.5 | 2.0 | 2.8 | 2.6 | 0.0 | 2.9 |
| 25～49% | 8.2 | 4.1 | 12.9 | 6.9 | 4.4 | 8.1 |
| 50～74% | 18.7 | 22.4 | 20.7 | 19.4 | 11.1 | 14.0 |
| 75～99% | 22.5 | 18.4 | 22.6 | 26.8 | 8.9 | 12.5 |
| 100% | 5.4 | 4.1 | 7.8 | 5.6 | 6.7 | 0.7 |
| わからない | 42.7 | **49.0** | 33.2 | 38.7 | **68.9** | **61.8** |

**【医療施設別】**

➢ 医療施設別では、「75～99%」の回答が地域がん診療病院で少なかった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 医療施設分類 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 都道府県または地域がん診療連携拠点病院 (n=373) | 地域がん診療病院 (n=223) | その他の医療機関 (n=355) |
| 0～24% | 2.5 | 2.4 | 1.8 | 3.1 |
| 25～49% | 8.2 | 7.0 | 7.6 | 9.9 |
| 50～74% | 18.7 | 21.7 | 14.8 | 18.0 |
| 75～99% | 22.5 | 25.2 | 13.5 | 25.4 |
| 100% | 5.4 | 3.5 | 2.2 | 9.3 |
| わからない | 42.7 | 40.2 | **60.1** | 34.4 |

**【医師の主たる分野別】**

➢ 医師の主たる分野別では、「100%」「75～99%」に各分野の医師の回答が多く集まった。「0～24%」に「放射線治療が主」の医師の回答が多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 職種 | 医師の主たる分野 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=219) | 手術が主 (n=120) | 放射線治療が主 (n=8) | 薬物療法が主 (n=91) |
| 0～24% | 2.5 | 1.4 | 0.0 | **12.5** | 2.2 |
| 25～49% | 8.2 | 8.7 | 7.5 | 0.0 | 11.0 |
| 50～74% | 18.7 | 18.7 | 19.2 | 0.0 | 19.8 |
| 75～99% | 22.5 | **39.7** | **43.3** | **50.0** | **34.1** |
| 100% | 5.4 | **14.2** | **15.0** | **25.0** | **12.1** |
| わからない | 42.7 | 17.4 | 15.0 | 12.5 | 20.9 |

## （7） 医療費の十分な情報提供

**実現率：47.8%**

Q. 医療費について、治療方針の決定までに、十分な情報を提供できた患者の割合はどの程度ですか。

**【全体、職種別】**

- 全体では「0～24%」「25～49%」がそれぞれ 12.7%で最も多く、ついで「50～74%」が 12.3%、「75～99%」が 8.0%、「100%」が 2.0%と続いた。
- 職種別では、「50～74%」に医療ソーシャルワーカーの回答が多く、「0～24%」に医師、医療ソーシャルワーカーの回答が多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 職種 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=219) | 看護師 (n=621) | 薬剤師 (n=63) | 医療ソーシャルワーカー (n=48) |
| 0～24% | 12.7 | **27.4** | 7.4 | 7.9 | **20.8** |
| 25～49% | 12.7 | 16.0 | 13.4 | 0.0 | 6.3 |
| 50～74% | 12.3 | 13.2 | 12.1 | 4.8 | **20.8** |
| 75～99% | 8.0 | 11.9 | 7.2 | 3.2 | 6.3 |
| 100% | 2.0 | 3.7 | 1.8 | 0.0 | 0.0 |
| わからない | 52.3 | 27.9 | **58.1** | **84.1** | 45.8 |

**【性別、年代別】**

- 年代別では、「0～24%」と「75～99%」に 60 代以上の回答が、「50～74%」の回答に 50 代の回答がそれぞれ多かった。「わからない」が 20 代に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 性別 | | 年代別 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 男性 (n=317) | 女性 (n=622) | 20代 (n=206) | 30代 (n=251) | 40代 (n=259) | 50代 (n=178) | 60代以上 (n=57) |
| 0～24% | 12.7 | **18.6** | 9.6 | 6.3 | 15.9 | 12.4 | 12.9 | **22.8** |
| 25～49% | 12.7 | 12.0 | 13.0 | 13.6 | 12.7 | 14.3 | 10.1 | 10.5 |
| 50～74% | 12.3 | 12.6 | 12.4 | 7.8 | 10.8 | 12.0 | **19.7** | 14.0 |
| 75～99% | 8.0 | 9.1 | 7.6 | 6.8 | 6.4 | 7.3 | 8.4 | **21.1** |
| 100% | 2.0 | 1.9 | 2.1 | 0.5 | 0.4 | 3.5 | 3.4 | 3.5 |
| わからない | 52.3 | 45.7 | 55.3 | **65.0** | 53.8 | 50.6 | 45.5 | 28.1 |

【医療圏別】

➢ 医療圏別では、「0～24%」の回答が北部に多く、「25～49%」の回答が中部に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 医療圏 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 北部医療圏 (n=49) | 中部医療圏 (n=217) | 南部医療圏 (n=504) | 宮古医療圏 (n=45) | 八重山医療圏 (n=136) |
| 0～24% | 12.7 | **24.5** | 13.8 | 12.7 | 11.1 | 7.4 |
| 25～49% | 12.7 | 6.1 | **18.0** | 12.7 | 13.3 | 6.6 |
| 50～74% | 12.3 | 12.2 | 16.1 | 11.9 | 4.4 | 10.3 |
| 75～99% | 8.0 | 4.1 | 6.5 | 10.1 | 6.7 | 4.4 |
| 100% | 2.0 | 0.0 | 2.8 | 2.6 | 0.0 | 0.0 |
| わからない | 52.3 | 53.1 | 42.9 | 50.0 | **64.4** | **71.3** |

【医療施設別】

➢ 医療施設別では、「わからない」の回答が地域がん診療病院に多く、その他の医療機関に少なかった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 医療施設分類 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 都道府県または地域がん診療連携拠点病院 (n=373) | 地域がん診療病院 (n=223) | その他の医療機関 (n=355) |
| 0～24% | 12.7 | 12.3 | 11.2 | 14.1 |
| 25～49% | 12.7 | 13.9 | 9.0 | 13.8 |
| 50～74% | 12.3 | 13.4 | 9.9 | 12.7 |
| 75～99% | 8.0 | 7.0 | 4.9 | 11.0 |
| 100% | 2.0 | 0.5 | 0.0 | 4.8 |
| わからない | 52.3 | 52.8 | **65.0** | 43.7 |

【医師の主たる分野別】

➢ 医師の主たる分野別では、「75～99%」の回答が「放射線治療が主」の医師に多く、「0～24%」の回答が全分野の医師に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 職種 | 医師の主たる分野 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=219) | 手術が主 (n=120) | 放射線治療が主 (n=8) | 薬物療法が主 (n=91) |
| 0～24% | 12.7 | **27.4** | **26.7** | **25.0** | **28.6** |
| 25～49% | 12.7 | 16.0 | **19.2** | 0.0 | 13.2 |
| 50～74% | 12.3 | 13.2 | 14.2 | 0.0 | 13.2 |
| 75～99% | 8.0 | 11.9 | 12.5 | **37.5** | 8.8 |
| 100% | 2.0 | 3.7 | 3.3 | **12.5** | 3.3 |
| わからない | 52.3 | 27.9 | 24.2 | 25.0 | 33.0 |

## （8） 就労継続可否の十分な情報提供

**実現率：34.9%**

Q. 就労の継続について、治療開始前に、十分な情報を提供できた患者の割合はどの程度ですか。

**【全体、職種別】**

- 全体では「51～100%」が 12.1%と最も多く、ついで「21～50%」が 11.4%、「11～20%」が 5.9%、「6～10%」が 4.9%、「1～5%」が 3.9%、「0%」が 3.6%と続いた。
- 職種別では、「わからない」に看護師、薬剤師の回答が多く、「51～100%」「21～50%」に医師の回答が多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 職種 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=219) | 看護師 (n=621) | 薬剤師 (n=63) | 医療ソーシャルワーカー (n=48) |
| 0% | 3.6 | 5.5 | 2.6 | 1.6 | **10.4** |
| 1～5% | 3.9 | 3.7 | 3.2 | 4.8 | **12.5** |
| 6～10% | 4.9 | 8.7 | 4.3 | 0.0 | 2.1 |
| 11～20% | 5.9 | 7.3 | 5.5 | 3.2 | 8.3 |
| 21～50% | 11.4 | **17.8** | 9.8 | 0.0 | **16.7** |
| 51～100% | 12.1 | **27.9** | 8.5 | 1.6 | 0.0 |
| わからない | 58.3 | 29.2 | **66.0** | **88.9** | 50.0 |

**【性別、年代別】**

- 年代別では、「51～100%」の回答に 60 代以上、50 代の回答が多く、「21～50%」に 20 代の回答が少なかった。「わからない」が 20 代に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 性別 | | 年代別 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 男性 (n=317) | 女性 (n=622) | 20代 (n=206) | 30代 (n=251) | 40代 (n=259) | 50代 (n=178) | 60代以上 (n=57) |
| 0% | 3.6 | 4.4 | 3.2 | 3.4 | 3.2 | 3.5 | 3.9 | 5.3 |
| 1～5% | 3.9 | 3.5 | 4.0 | 4.4 | 4.4 | 5.0 | 2.2 | 0.0 |
| 6～10% | 4.9 | 6.0 | 4.3 | 4.9 | 6.8 | 4.2 | 3.4 | 5.3 |
| 11～20% | 5.9 | 4.4 | 6.8 | 2.9 | 6.4 | 7.7 | 6.2 | 5.3 |
| 21～50% | 11.4 | 12.9 | 10.8 | 6.3 | 10.0 | 13.5 | 15.2 | 14.0 |
| 51～100% | 12.1 | **18.9** | 8.5 | 7.8 | 8.4 | 11.6 | **17.4** | **29.8** |
| わからない | 58.3 | 49.8 | 62.4 | **70.4** | 61.0 | 54.4 | 51.7 | 40.4 |

【医療圏別】

➢ 医療圏別では、「1～5%」の回答が宮古に、「0%」の回答が北部にそれぞれ多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 医療圏 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 北部医療圏 (n=49) | 中部医療圏 (n=217) | 南部医療圏 (n=504) | 宮古医療圏 (n=45) | 八重山医療圏 (n=136) |
| 0% | 3.6 | **10.2** | 5.1 | 2.6 | 0.0 | 3.7 |
| 1～5% | 3.9 | 6.1 | 4.1 | 3.6 | **11.1** | 1.5 |
| 6～10% | 4.9 | 2.0 | 6.9 | 4.6 | 8.9 | 2.9 |
| 11～20% | 5.9 | 8.2 | 6.0 | 6.5 | 2.2 | 3.7 |
| 21～50% | 11.4 | 14.3 | 13.4 | 13.3 | 2.2 | 2.9 |
| 51～100% | 12.1 | 10.2 | 13.4 | 12.9 | 11.1 | 8.1 |
| わからない | 58.3 | 49.0 | 51.2 | 56.5 | **64.4** | **77.2** |

【医療施設別】

➢ 医療施設別では、「わからない」の回答が地域がん診療病院に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 医療施設分類 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 都道府県または地域がん診療連携拠点病院 (n=373) | 地域がん診療病院 (n=223) | その他の医療機関 (n=355) |
| 0% | 3.6 | 2.7 | 3.1 | 4.8 |
| 1～5% | 3.9 | 3.5 | 4.9 | 3.7 |
| 6～10% | 4.9 | 4.0 | 4.0 | 6.5 |
| 11～20% | 5.9 | 5.9 | 5.4 | 6.2 |
| 21～50% | 11.4 | 13.9 | 6.7 | 11.5 |
| 51～100% | 12.1 | 11.0 | 8.1 | 15.8 |
| わからない | 58.3 | 59.0 | **67.7** | 51.5 |

【医師の主たる分野別】

➢ 医師の主たる分野別では、「51～100%」に各分野の医師の回答が集まり、「21～50%」は「手術が主」が多かった。「0%」に「放射線治療が主」「薬物療法が主」が多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 職種 | 医師の主たる分野 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=219) | 手術が主 (n=120) | 放射線治療が主 (n=8) | 薬物療法が主 (n=91) |
| 0% | 3.6 | 5.5 | 2.5 | **12.5** | **8.8** |
| 1～5% | 3.9 | 3.7 | 5.0 | 0.0 | 2.2 |
| 6～10% | 4.9 | 8.7 | 7.5 | 0.0 | **11.0** |
| 11～20% | 5.9 | 7.3 | 6.7 | **12.5** | 7.7 |
| 21～50% | 11.4 | **17.8** | **20.8** | 0.0 | 15.4 |
| 51～100% | 12.1 | **27.9** | **33.3** | **37.5** | **19.8** |
| わからない | 58.3 | 29.2 | 24.2 | 37.5 | 35.2 |

## （9） アピアランスケアの十分な情報提供

**実現率：37.9%**

Q. アピアランスケアについて、治療開始前に、十分な情報を提供できた患者の割合はどの程度ですか。

**【全体、職種別】**

- 全体では「51～100%」が 13.7%と最も多く、ついで「21～50%」が 12.1%、「11～20%」と「6～10%」がそれぞれ 4.5%、「0%」が 3.5%、「1～5%」が 3.4%と続いた。
- 職種別では、「51～100%」に医師の回答が多く、医療ソーシャルワーカーの回答が少なかった。「21～50%」に薬剤師の回答が少なかった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 職種 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=219) | 看護師 (n=621) | 薬剤師 (n=63) | 医療ソーシャルワーカー (n=48) |
| 0% | 3.5 | 8.2 | 1.8 | 0.0 | 8.3 |
| 1～5% | 3.4 | 5.0 | 3.1 | 1.6 | 2.1 |
| 6～10% | 4.5 | 5.0 | 4.7 | 4.8 | 0.0 |
| 11～20% | 4.5 | 5.0 | 4.2 | 3.2 | 8.3 |
| 21～50% | 12.1 | 15.1 | 11.8 | 6.3 | 10.4 |
| 51～100% | 13.7 | **21.5** | 12.2 | 9.5 | 2.1 |
| わからない | 58.4 | 40.2 | 62.3 | **74.6** | **68.8** |

**【性別、年代別】**

- 年代別では、「51～100%」に 60 代以上の回答が多く、「21～50%」に 50 代の回答が多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 性別 | | 年代別 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 男性 (n=317) | 女性 (n=622) | 20代 (n=206) | 30代 (n=251) | 40代 (n=259) | 50代 (n=178) | 60代以上 (n=57) |
| 0% | 3.5 | 5.0 | 2.6 | 2.4 | 3.6 | 3.1 | 4.5 | 5.3 |
| 1～5% | 3.4 | 3.5 | 3.2 | 4.4 | 2.8 | 2.7 | 3.4 | 5.3 |
| 6～10% | 4.5 | 5.0 | 4.3 | 5.8 | 3.2 | 5.8 | 2.2 | 7.0 |
| 11～20% | 4.5 | 3.8 | 5.0 | 1.9 | 5.6 | 6.2 | 5.1 | 0.0 |
| 21～50% | 12.1 | 12.3 | 12.1 | 6.8 | 12.0 | 10.8 | **20.8** | 10.5 |
| 51～100% | 13.7 | 16.7 | 12.2 | 13.1 | 8.8 | 16.6 | 12.9 | **26.3** |
| わからない | 58.4 | 53.6 | 60.6 | **65.5** | **64.1** | 54.8 | 51.1 | 45.6 |

**【医療圏別】**

➢ 医療圏別では、「11～20%」が北部に多く、「21～50%」の回答が八重山に少なかった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 医療圏 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 北部医療圏 (n=49) | 中部医療圏 (n=217) | 南部医療圏 (n=504) | 宮古医療圏 (n=45) | 八重山医療圏 (n=136) |
| 0% | 3.5 | 6.1 | 2.8 | 3.6 | 4.4 | 2.9 |
| 1～5% | 3.4 | 4.1 | 4.6 | 2.8 | 6.7 | 2.2 |
| 6～10% | 4.5 | 4.1 | 5.5 | 4.8 | 2.2 | 2.9 |
| 11～20% | 4.5 | **10.2** | 5.1 | 4.6 | 4.4 | 1.5 |
| 21～50% | 12.1 | 8.2 | 14.7 | 13.3 | 8.9 | 5.9 |
| 51～100% | 13.7 | 10.2 | 12.9 | 16.1 | 8.9 | 8.8 |
| わからない | 58.4 | 57.1 | 54.4 | 55.0 | **64.4** | **75.7** |

**【医療施設別】**

➢ 医療施設別では、「わからない」の回答が地域がん診療病院に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 医療施設分類 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 都道府県または地域がん診療連携拠点病院 (n=373) | 地域がん診療病院 (n=223) | その他の医療機関 (n=355) |
| 0% | 3.5 | 2.7 | 3.6 | 4.2 |
| 1～5% | 3.4 | 4.0 | 3.6 | 2.5 |
| 6～10% | 4.5 | 4.8 | 2.7 | 5.4 |
| 11～20% | 4.5 | 4.0 | 4.9 | 4.8 |
| 21～50% | 12.1 | 15.3 | 6.3 | 12.4 |
| 51～100% | 13.7 | 13.9 | 9.0 | 16.3 |
| わからない | 58.4 | 55.2 | **70.0** | 54.4 |

**【医師の主たる分野別】**

➢ 医師の主たる分野別では、「51～100%」の回答が「手術が主」「放射線治療が主」の医師に多く、「0%」の回答が「放射線治療が主」「薬物療法が主」の医師に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 職種 | 医師の主たる分野 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=219) | 手術が主 (n=120) | 放射線治療が主 (n=8) | 薬物療法が主 (n=91) |
| 0% | 3.5 | 8.2 | 5.8 | **25.0** | **9.9** |
| 1～5% | 3.4 | 5.0 | 5.8 | 0.0 | 4.4 |
| 6～10% | 4.5 | 5.0 | 4.2 | 0.0 | 6.6 |
| 11～20% | 4.5 | 5.0 | 5.8 | **12.5** | 3.3 |
| 21～50% | 12.1 | 15.1 | 16.7 | 0.0 | 14.3 |
| 51～100% | 13.7 | **21.5** | **27.5** | **25.0** | 13.2 |
| わからない | 58.4 | 40.2 | 34.2 | 37.5 | 48.4 |

## （10）がん相談支援センターに関する十分な情報提供

**実現率：31.7%**

Q. がん診療連携拠点病院等に設置されている「がん相談支援センター」について、十分な情報提供を行った患者の割合はどの程度ですか。

**【全体、職種別】**

- 全体では「51～100%」が 11.4%と最も多く、ついで「21～50%」が 9.7%、「0%」が 7.8%、「11～20%」が 4.6%、「1～5%」が 4.1%、「6～10%」が 4.0%と続いた。
- 職種別では、「51～100%」に医師の回答が多く、「0%」に医師、医療ソーシャルワーカーの回答が多かった。

（%）

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 職種 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=219) | 看護師 (n=621) | 薬剤師 (n=63) | 医療ソーシャルワーカー (n=48) |
| 0% | 7.8 | **17.8** | 4.0 | 3.2 | **16.7** |
| 1～5% | 4.1 | 6.8 | 3.1 | 3.2 | 6.3 |
| 6～10% | 4.0 | 4.1 | 4.2 | 1.6 | 4.2 |
| 11～20% | 4.6 | 7.3 | 3.5 | 1.6 | **10.4** |
| 21～50% | 9.7 | 9.6 | 10.1 | 4.8 | 10.4 |
| 51～100% | 11.4 | **17.4** | 10.5 | 4.8 | 4.2 |
| わからない | 58.5 | 37.0 | **64.6** | **81.0** | 47.9 |

**【性別、年代別】**

- 年代別では、「51～100%」「0%」「11～20%」に 60 代以上の回答が多かった。「わからない」に 20 代が多かった。

（%）

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 性別 | | 年代別 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 男性 (n=317) | 女性 (n=622) | 20代 (n=206) | 30代 (n=251) | 40代 (n=259) | 50代 (n=178) | 60代以上 (n=57) |
| 0% | 7.8 | 12.0 | 5.6 | 4.9 | 8.0 | 7.7 | 9.0 | **14.0** |
| 1～5% | 4.1 | 4.4 | 3.9 | 3.9 | 5.2 | 3.9 | 3.9 | 1.8 |
| 6～10% | 4.0 | 3.2 | 4.5 | 3.9 | 4.8 | 3.9 | 3.4 | 3.5 |
| 11～20% | 4.6 | 5.7 | 4.2 | 2.9 | 5.2 | 4.2 | 4.5 | **10.5** |
| 21～50% | 9.7 | 8.8 | 10.0 | 7.3 | 6.8 | 10.8 | 14.6 | 10.5 |
| 51～100% | 11.4 | 12.0 | 11.1 | 5.8 | 11.6 | 13.9 | 11.8 | **17.5** |
| わからない | 58.5 | 53.9 | 60.8 | **71.4** | 58.6 | 55.6 | 52.8 | 42.1 |

**【医療圏別】**

➢ 医療圏別では、「51～100%」が北部に多く、「21～50%」の回答が八重山に少なかった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 医療圏 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 北部医療圏 (n=49) | 中部医療圏 (n=217) | 南部医療圏 (n=504) | 宮古医療圏 (n=45) | 八重山医療圏 (n=136) |
| 0% | 7.8 | 12.2 | 11.5 | 6.5 | 4.4 | 5.9 |
| 1～5% | 4.1 | 2.0 | 4.1 | 4.4 | 8.9 | 2.2 |
| 6～10% | 4.0 | 2.0 | 4.6 | 5.0 | 2.2 | 0.7 |
| 11～20% | 4.6 | 8.2 | 5.1 | 5.4 | 0.0 | 1.5 |
| 21～50% | 9.7 | 8.2 | 6.9 | 12.3 | 13.3 | 3.7 |
| 51～100% | 11.4 | **20.4** | 9.2 | 10.9 | 6.7 | 14.7 |
| わからない | 58.5 | 46.9 | 58.5 | 55.6 | **64.4** | **71.3** |

**【医療施設別】**

➢ 医療施設別では、「0%」にその他の医療機関の回答が多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 医療施設分類 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 都道府県または地域がん診療連携拠点病院 (n=373) | 地域がん診療病院 (n=223) | その他の医療機関 (n=355) |
| 0% | 7.8 | 3.5 | 5.8 | **13.5** |
| 1～5% | 4.1 | 2.9 | 3.6 | 5.6 |
| 6～10% | 4.0 | 4.6 | 2.2 | 4.5 |
| 11～20% | 4.6 | 5.9 | 2.7 | 4.5 |
| 21～50% | 9.7 | 13.4 | 7.2 | 7.3 |
| 51～100% | 11.4 | 15.0 | 13.5 | 6.2 |
| わからない | 58.5 | 54.7 | **65.0** | 58.3 |

**【医師の主たる分野別】**

➢ 医師の主たる分野別では、「51～100%」に「放射線治療が主」「手術が主」の医師の回答が多く、「0%」に各分野の医師の回答が集まった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 職種 | 医師の主たる分野 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=219) | 手術が主 (n=120) | 放射線治療が主 (n=8) | 薬物療法が主 (n=91) |
| 0% | 7.8 | **17.8** | **14.2** | **25.0** | **22.0** |
| 1～5% | 4.1 | 6.8 | 6.7 | **12.5** | 6.6 |
| 6～10% | 4.0 | 4.1 | 5.0 | 0.0 | 3.3 |
| 11～20% | 4.6 | 7.3 | 8.3 | **12.5** | 5.5 |
| 21～50% | 9.7 | 9.6 | 12.5 | 0.0 | 6.6 |
| 51～100% | 11.4 | **17.4** | **19.2** | **25.0** | 14.3 |
| わからない | 58.5 | 37.0 | 34.2 | 25.0 | 41.8 |

## （11）患者サロン、ピアサポート、患者会に関する十分な情報提供

**実現率：22.0%**

Q. 患者サロン（ゆんたく会）、ピアサポート、患者会について、十分な情報提供を行った患者の割合はどの程度ですか。

**【全体、職種別】**

- 全体では「0%」が12.4%と最も多く、ついで「21～50%」が9.5%、「51～100%」が6.9%、「1～5%」が6.0%、「6～10%」が5.5%、「11～20%」が5.2%と続いた。
- 職種別では、「0%」に「医師」と「医療ソーシャルワーカー」の回答が多かった。

（%）

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 職種 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=219) | 看護師 (n=621) | 薬剤師 (n=63) | 医療ソーシャルワーカー (n=48) |
| 0% | 12.4 | **26.9** | 7.6 | 4.8 | **18.8** |
| 1～5% | 6.0 | 7.8 | 5.6 | 0.0 | 10.4 |
| 6～10% | 5.5 | 8.2 | 5.0 | 1.6 | 4.2 |
| 11～20% | 5.2 | 7.3 | 4.7 | 0.0 | 8.3 |
| 21～50% | 9.5 | 7.8 | 10.6 | 6.3 | 6.3 |
| 51～100% | 6.9 | 6.4 | 8.1 | 1.6 | 2.1 |
| わからない | 54.6 | 35.6 | 58.5 | **85.7** | 50.0 |

**【性別、年代別】**

- 年代別では、「51～100%」に60代以上が多く、「わからない」が20代に多かった。

（%）

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 性別 | | 年代別 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 男性 (n=317) | 女性 (n=622) | 20代 (n=206) | 30代 (n=251) | 40代 (n=259) | 50代 (n=178) | 60代以上 (n=57) |
| 0% | 12.4 | **18.9** | 9.2 | 10.7 | 13.5 | 13.1 | 10.7 | 15.8 |
| 1～5% | 6.0 | 6.0 | 5.8 | 4.4 | 5.2 | 6.2 | 7.9 | 8.8 |
| 6～10% | 5.5 | 6.9 | 4.8 | 5.8 | 6.4 | 4.6 | 4.5 | 7.0 |
| 11～20% | 5.2 | 5.4 | 5.0 | 3.4 | 4.4 | 6.6 | 5.6 | 7.0 |
| 21～50% | 9.5 | 6.9 | 10.8 | 7.3 | 8.0 | 11.2 | 12.9 | 5.3 |
| 51～100% | 6.9 | 5.0 | 8.0 | 5.3 | 3.6 | 8.9 | 7.3 | **17.5** |
| わからない | 54.6 | 50.8 | 56.4 | **63.1** | 59.0 | 49.4 | 51.1 | 38.6 |

【医療圏別】

➢ 医療圏別では、「わからない」が宮古と八重山に多く、「1～5%」が宮古に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 医療圏 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 北部医療圏 (n=49) | 中部医療圏 (n=217) | 南部医療圏 (n=504) | 宮古医療圏 (n=45) | 八重山医療圏 (n=136) |
| 0% | 12.4 | 14.3 | 16.1 | 10.9 | 11.1 | 11.8 |
| 1～5% | 6.0 | 8.2 | 7.8 | 4.8 | **11.1** | 5.1 |
| 6～10% | 5.5 | 2.0 | 4.6 | 7.3 | 0.0 | 2.9 |
| 11～20% | 5.2 | 2.0 | 4.1 | 6.2 | 2.2 | 5.1 |
| 21～50% | 9.5 | 8.2 | 7.8 | 12.1 | 2.2 | 5.1 |
| 51～100% | 6.9 | 8.2 | 9.2 | 6.7 | 4.4 | 4.4 |
| わからない | 54.6 | 57.1 | 50.2 | 52.0 | **68.9** | **65.4** |

【医療施設別】

➢ 医療施設別では、「わからない」が地域がん診療病院に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 医療施設分類 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 都道府県または地域がん診療連携拠点病院 (n=373) | 地域がん診療病院 (n=223) | その他の医療機関 (n=355) |
| 0% | 12.4 | 9.7 | 10.8 | 16.3 |
| 1～5% | 6.0 | 5.4 | 6.7 | 6.2 |
| 6～10% | 5.5 | 7.5 | 2.7 | 5.1 |
| 11～20% | 5.2 | 5.6 | 5.4 | 4.5 |
| 21～50% | 9.5 | 11.8 | 5.8 | 9.3 |
| 51～100% | 6.9 | 7.8 | 5.4 | 7.0 |
| わからない | 54.6 | 52.3 | **63.2** | 51.5 |

【医師の主たる分野別】

➢ 医師の主たる分野別では、「0%」の回答が各分野に多く、「51～100%」の回答が「放射線治療が主」の医師に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 職種 | 医師の主たる分野 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=219) | 手術が主 (n=120) | 放射線治療が主 (n=8) | 薬物療法が主 (n=91) |
| 0% | 12.4 | **26.9** | **22.5** | **37.5** | **31.9** |
| 1～5% | 6.0 | 7.8 | 7.5 | **12.5** | 7.7 |
| 6～10% | 5.5 | 8.2 | 9.2 | 0.0 | 7.7 |
| 11～20% | 5.2 | 7.3 | 6.7 | 0.0 | 8.8 |
| 21～50% | 9.5 | 7.8 | 10.0 | 0.0 | 5.5 |
| 51～100% | 6.9 | 6.4 | 7.5 | **25.0** | 3.3 |
| わからない | 54.6 | 35.6 | 36.7 | 25.0 | 35.2 |

## （12）副作用を含めた薬物療法に関する十分な情報提供

**実現率：79.9%**

Q. 薬物療法の開始前に、副作用の出る時期の説明も含めて、十分な説明を行った患者の割合はどの程度ですか。

**【全体、職種別】**

- 全体では「75～99%」が 31.4%と最も多く、ついで「100%」が 18.5%、「50～74%」が 12.2%、「25～49%」が 3.8%、「0～24%」が 3.2%と続いた。
- 職種別では、「75～99%」に医師と薬剤師の回答が多く、「100%」に医師の回答が多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 職種 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=219) | 看護師 (n=621) | 薬剤師 (n=63) | 医療ソーシャルワーカー (n=48) |
| 0～24% | 3.2 | 4.1 | 2.4 | 4.8 | 6.3 |
| 25～49% | 3.8 | 2.7 | 4.5 | 1.6 | 2.1 |
| 50～74% | 12.2 | 9.6 | 13.4 | 11.1 | 10.4 |
| 75～99% | 31.4 | **37.4** | 30.0 | **39.7** | 12.5 |
| 100% | 18.5 | **28.3** | 16.1 | 19.0 | 4.2 |
| わからない | 30.9 | 17.8 | 33.7 | 23.8 | **64.6** |

**【性別、年代別】**

- 年代別では、「75～99%」「100%」に 60 代以上の回答が多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 性別 | | 年代別 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 男性 (n=317) | 女性 (n=622) | 20代 (n=206) | 30代 (n=251) | 40代 (n=259) | 50代 (n=178) | 60代以上 (n=57) |
| 0～24% | 3.2 | 4.1 | 2.6 | 1.9 | 3.2 | 4.6 | 1.1 | 7.0 |
| 25～49% | 3.8 | 3.5 | 4.0 | 3.4 | 3.6 | 3.9 | 5.1 | 1.8 |
| 50～74% | 12.2 | 9.8 | 13.3 | 13.1 | 12.4 | 12.7 | 13.5 | 1.8 |
| 75～99% | 31.4 | 35.6 | 29.6 | 33.5 | 31.5 | 27.8 | 32.0 | **38.6** |
| 100% | 18.5 | 22.1 | 16.9 | 19.4 | 15.5 | 18.9 | 18.0 | **28.1** |
| わからない | 30.9 | 24.9 | 33.6 | 28.6 | 33.9 | 32.0 | 30.3 | 22.8 |

**【医療圏別】**

➢ 医療圏別では、「50～74%」の回答が宮古に多く、「100%」の回答が宮古、八重山で少なかった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 医療圏 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 北部医療圏 (n=49) | 中部医療圏 (n=217) | 南部医療圏 (n=504) | 宮古医療圏 (n=45) | 八重山医療圏 (n=136) |
| 0～24% | 3.2 | 6.1 | 2.8 | 2.4 | 4.4 | 5.1 |
| 25～49% | 3.8 | 4.1 | 4.1 | 3.8 | 0.0 | 4.4 |
| 50～74% | 12.2 | 6.1 | 13.8 | 12.3 | **17.8** | 9.6 |
| 75～99% | 31.4 | 26.5 | 34.6 | 32.7 | 22.2 | 26.5 |
| 100% | 18.5 | 14.3 | 22.1 | 20.8 | 6.7 | 9.6 |
| わからない | 30.9 | **42.9** | 22.6 | 28.0 | **48.9** | **44.9** |

**【医療施設別】**

➢ 医療施設別では、「わからない」の回答が地域がん診療病院に多く、「100%」の回答がその他医療機関に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 医療施設分類 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 都道府県または地域がん診療連携拠点病院 (n=373) | 地域がん診療病院 (n=223) | その他の医療機関 (n=355) |
| 0～24% | 3.2 | 1.6 | 4.9 | 3.7 |
| 25～49% | 3.8 | 3.2 | 3.6 | 4.5 |
| 50～74% | 12.2 | 13.9 | 11.2 | 11.0 |
| 75～99% | 31.4 | 36.2 | 24.7 | 30.7 |
| 100% | 18.5 | 18.0 | 10.8 | **23.9** |
| わからない | 30.9 | 27.1 | **44.8** | 26.2 |

**【医師の主たる分野別】**

➢ 医師の主たる分野別では、「100%」の回答が全分野で多く、「75～99%」に「手術が主」「薬物療法が主」が多かった。「0～24%」に「放射線治療が主」が多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 職種 | 医師の主たる分野 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=219) | 手術が主 (n=120) | 放射線治療が主 (n=8) | 薬物療法が主 (n=91) |
| 0～24% | 3.2 | 4.1 | 3.3 | **12.5** | 4.4 |
| 25～49% | 3.8 | 2.7 | 3.3 | 0.0 | 2.2 |
| 50～74% | 12.2 | 9.6 | 11.7 | 0.0 | 7.7 |
| 75～99% | 31.4 | **37.4** | **38.3** | 12.5 | **38.5** |
| 100% | 18.5 | **28.3** | **26.7** | **50.0** | **28.6** |
| わからない | 30.9 | 17.8 | 16.7 | 25.0 | 18.7 |

## （13）がんゲノム医療に関する十分な情報提供

**実現率：23.3%**

Q. がんゲノム医療に関する十分な情報提供をした割合はどの程度ですか。

**【全体、職種別】**

- 全体では「0%」が 10.1%と最も多く、ついで「51～100%」が 6.9%、「21～50%」が 5.8%、「1～5%」が 5.5%、「11～20%」が 4.5%、「6～10%」が 3.5%と続いた。
- 職種別では、「0%」「51～100%」「21～50%」に医師の回答が多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 職種 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=219) | 看護師 (n=621) | 薬剤師 (n=63) | 医療ソーシャルワーカー (n=48) |
| 0% | 10.1 | **20.1** | 6.4 | 11.1 | 10.4 |
| 1～5% | 5.5 | 8.2 | 5.0 | 1.6 | 4.2 |
| 6～10% | 3.5 | 6.8 | 2.6 | 1.6 | 2.1 |
| 11～20% | 4.5 | 6.8 | 4.0 | 3.2 | 2.1 |
| 21～50% | 5.8 | **14.2** | 3.5 | 0.0 | 4.2 |
| 51～100% | 6.9 | **17.4** | 4.0 | 3.2 | 2.1 |
| わからない | 63.7 | 26.5 | **74.4** | **79.4** | **75.0** |

**【性別、年代別】**

- 年代別では、「51～100%」と「6～10%」に 60 代以上の回答が多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 性別 | | 年代別 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 男性 (n=317) | 女性 (n=622) | 20代 (n=206) | 30代 (n=251) | 40代 (n=259) | 50代 (n=178) | 60代以上 (n=57) |
| 0% | 10.1 | **15.1** | 7.4 | 7.3 | 12.0 | 10.0 | 9.6 | 14.0 |
| 1～5% | 5.5 | 4.7 | 5.6 | 2.9 | 6.4 | 6.6 | 5.6 | 5.3 |
| 6～10% | 3.5 | 4.7 | 2.9 | 2.9 | 3.6 | 2.3 | 3.4 | **10.5** |
| 11～20% | 4.5 | 5.4 | 4.0 | 3.4 | 5.2 | 3.1 | 6.7 | 5.3 |
| 21～50% | 5.8 | 8.5 | 4.5 | 2.9 | 3.6 | 8.1 | 8.4 | 7.0 |
| 51～100% | 6.9 | 11.4 | 4.8 | 4.9 | 4.0 | 7.3 | 10.7 | **14.0** |
| わからない | 63.7 | 50.2 | **70.7** | **75.7** | 65.3 | 62.5 | 55.6 | 43.9 |

【医療圏別】

➢ 医療圏別では、「0%」が北部に多く、「わからない」が八重山、宮古に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 医療圏 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 北部医療圏 (n=49) | 中部医療圏 (n=217) | 南部医療圏 (n=504) | 宮古医療圏 (n=45) | 八重山医療圏 (n=136) |
| 0% | 10.1 | **16.3** | 9.7 | 9.1 | 11.1 | 11.8 |
| 1～5% | 5.5 | 4.1 | 6.0 | 5.6 | 8.9 | 3.7 |
| 6～10% | 3.5 | 0.0 | 5.5 | 3.6 | 2.2 | 1.5 |
| 11～20% | 4.5 | 6.1 | 5.1 | 5.0 | 2.2 | 2.2 |
| 21～50% | 5.8 | 6.1 | 8.3 | 6.0 | 4.4 | 1.5 |
| 51～100% | 6.9 | 2.0 | 8.8 | 7.7 | 2.2 | 4.4 |
| わからない | 63.7 | 65.3 | 56.7 | 63.1 | **68.9** | **75.0** |

【医療施設別】

➢ 医療施設別では、「わからない」の回答が地域がん診療病院に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 医療施設分類 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 都道府県または地域がん診療連携拠点病院 (n=373) | 地域がん診療病院 (n=223) | その他の医療機関 (n=355) |
| 0% | 10.1 | 8.0 | 12.1 | 11.0 |
| 1～5% | 5.5 | 4.6 | 4.5 | 7.0 |
| 6～10% | 3.5 | 3.8 | 1.8 | 4.2 |
| 11～20% | 4.5 | 5.9 | 3.1 | 3.9 |
| 21～50% | 5.8 | 7.2 | 2.7 | 6.2 |
| 51～100% | 6.9 | 6.7 | 3.6 | 9.3 |
| わからない | 63.7 | 63.8 | **72.2** | 58.3 |

【医師の主たる分野別】

➢ 医師の主たる分野別では、「0%」の回答が「放射線治療が主」の医師に多く、「51～100%」の回答が「手術が主」「薬物療法が主」の医師に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 職種 | 医師の主たる分野 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=219) | 手術が主 (n=120) | 放射線治療が主 (n=8) | 薬物療法が主 (n=91) |
| 0% | 10.1 | **20.1** | **18.3** | **37.5** | **20.9** |
| 1～5% | 5.5 | 8.2 | 8.3 | 0.0 | 8.8 |
| 6～10% | 3.5 | 6.8 | **10.0** | **12.5** | 2.2 |
| 11～20% | 4.5 | 6.8 | 7.5 | **12.5** | 5.5 |
| 21～50% | 5.8 | **14.2** | **12.5** | **12.5** | **16.5** |
| 51～100% | 6.9 | **17.4** | **17.5** | 0.0 | **18.7** |
| わからない | 63.7 | 26.5 | 25.8 | 25.0 | 27.5 |

## （14）妊孕性温存療法が必要な患者への同療法の説明（医師と看護師のみ）

**実現率：49.2%**

Q. 医師と看護師の方にお尋ねします。妊孕性温存療法が必要な患者のうち、実際に妊孕性温存療法の説明を行った患者の割合はどの程度ですか。

**【全体、職種別】**

- 全体では「0～24%」が14.5%と最も多く、ついで「75～99%」が7.1%、「100%」が5.4%、「25～49%」が4.6%、「50～74%」が4.2%と続いた。
- 職種別では、「わからない」に看護師が多く、「0～24%」と「100%」に医師が多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=840) | 職種 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=219) | 看護師 (n=621) | 薬剤師 (n=0) | 医療ソーシャルワーカー (n=0) |
| 0～24% | 14.5 | **25.1** | 10.8 | 0.0 | 0.0 |
| 25～49% | 4.6 | 3.7 | 5.0 | 0.0 | 0.0 |
| 50～74% | 4.2 | 5.9 | 3.5 | 0.0 | 0.0 |
| 75～99% | 7.1 | 9.6 | 6.3 | 0.0 | 0.0 |
| 100% | 5.4 | **15.1** | 1.9 | 0.0 | 0.0 |
| わからない | 64.2 | 40.6 | **72.5** | 0.0 | 0.0 |

**【性別、年代別】**

- 年代別では、「75～99%」に60代以上が多く、「わからない」に20代が多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=840) | 性別 | | 年代別 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 男性 (n=317) | 女性 (n=622) | 20代 (n=206) | 30代 (n=251) | 40代 (n=259) | 50代 (n=178) | 60代以上 (n=57) |
| 0～24% | 14.5 | 18.7 | 12.2 | 6.3 | 13.0 | 19.4 | 18.8 | 16.1 |
| 25～49% | 4.6 | 2.6 | 5.7 | 4.2 | 4.3 | 4.5 | 4.8 | 7.1 |
| 50～74% | 4.2 | 4.4 | 3.9 | 3.7 | 2.4 | 4.5 | 6.7 | 3.6 |
| 75～99% | 7.1 | 7.3 | 7.2 | 6.9 | 5.8 | 6.8 | 7.9 | **12.5** |
| 100% | 5.4 | 10.3 | 3.1 | 3.2 | 7.7 | 3.6 | 7.3 | 5.4 |
| わからない | 64.2 | 56.8 | 67.9 | **75.7** | 66.8 | 61.3 | 54.5 | 55.4 |

【医療圏別】

➢ 医療圏別では、「0～24%」が北部に多く、「わからない」が八重山、宮古に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=840) | 医療圏 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 北部医療圏 (n=49) | 中部医療圏 (n=217) | 南部医療圏 (n=504) | 宮古医療圏 (n=45) | 八重山医療圏 (n=136) |
| 0～24% | 14.5 | **25.0** | 10.9 | 15.7 | 10.8 | 14.7 |
| 25～49% | 4.6 | 6.3 | 5.4 | 5.0 | 2.7 | 2.3 |
| 50～74% | 4.2 | 0.0 | 4.0 | 5.5 | 5.4 | 0.8 |
| 75～99% | 7.1 | 3.1 | 11.4 | 7.5 | 0.0 | 2.3 |
| 100% | 5.4 | 0.0 | 6.4 | 6.6 | 8.1 | 0.0 |
| わからない | 64.2 | 65.6 | 61.9 | 59.8 | **73.0** | **79.8** |

【医療施設別】

➢ 医療施設別では、「わからない」の回答が地域がん診療病院に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=840) | 医療施設分類 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 都道府県または地域がん診療連携拠点病院 (n=373) | 地域がん診療病院 (n=223) | その他の医療機関 (n=355) |
| 0～24% | 14.5 | 12.5 | 15.0 | 16.4 |
| 25～49% | 4.6 | 5.0 | 3.1 | 5.3 |
| 50～74% | 4.2 | 5.5 | 2.6 | 3.6 |
| 75～99% | 7.1 | 10.2 | 2.1 | 6.9 |
| 100% | 5.4 | 7.9 | 1.6 | 4.9 |
| わからない | 64.2 | 58.9 | **75.6** | 62.8 |

【医師の主たる分野別】

➢ 医師の主たる分野別では、「0～24%」と「100%」に各分野とも回答が多く集まった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=840) | 職種 | 医師の主たる分野 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=219) | 手術が主 (n=120) | 放射線治療が主 (n=8) | 薬物療法が主 (n=91) |
| 0～24% | 14.5 | **25.1** | **23.3** | **25.0** | **27.5** |
| 25～49% | 4.6 | 3.7 | 3.3 | 0.0 | 4.4 |
| 50～74% | 4.2 | 5.9 | 6.7 | **12.5** | 4.4 |
| 75～99% | 7.1 | 9.6 | 10.8 | **12.5** | 7.7 |
| 100% | 5.4 | **15.1** | **18.3** | **12.5** | **11.0** |
| わからない | 64.2 | 40.6 | 37.5 | 37.5 | 45.1 |

## （15）質の高い最適な手術の提供

**実現率：78.2%**

Q. 手術を受けた患者のうち、質の高い最適な手術を提供できた患者の割合はどの程度ですか。

**【全体、職種別】**

- 全体では「75～99%」が 22.6%と最も多く、ついで「50～74%」が 9.1%、「100%」が 6.2%、「25～49%」が 2.3%、「0～24%」が 1.4%と続いた。
- 職種別では、「75～99%」と「100%」に、医師の回答が多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 職種 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=219) | 看護師 (n=621) | 薬剤師 (n=63) | 医療ソーシャルワーカー (n=48) |
| 0～24% | 1.4 | 1.8 | 0.8 | 4.8 | 2.1 |
| 25～49% | 2.3 | 1.8 | 2.6 | 0.0 | 4.2 |
| 50～74% | 9.1 | 7.3 | 11.1 | 0.0 | 4.2 |
| 75～99% | 22.6 | **40.2** | 19.5 | 4.8 | 6.3 |
| 100% | 6.2 | **13.2** | 4.5 | 1.6 | 2.1 |
| わからない | 58.4 | 35.6 | 61.5 | **88.9** | **81.3** |

**【性別、年代別】**

- 年代別では、「75～99%」と「100%」に 60 代以上の回答が多く、「わからない」に 30 代が多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 性別 | | 年代別 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 男性 (n=317) | 女性 (n=622) | 20代 (n=206) | 30代 (n=251) | 40代 (n=259) | 50代 (n=178) | 60代以上 (n=57) |
| 0～24% | 1.4 | 1.3 | 1.4 | 1.0 | 2.0 | 1.2 | 0.6 | 3.5 |
| 25～49% | 2.3 | 1.9 | 2.6 | 1.9 | 2.0 | 3.1 | 2.8 | 0.0 |
| 50～74% | 9.1 | 7.3 | 10.0 | 7.3 | 9.6 | 9.7 | 11.8 | 3.5 |
| 75～99% | 22.6 | **30.3** | 18.6 | 24.3 | 17.9 | 21.2 | 24.7 | **36.8** |
| 100% | 6.2 | 8.8 | 5.0 | 4.9 | 4.4 | 6.9 | 7.3 | **12.3** |
| わからない | 58.4 | 50.5 | 62.4 | 60.7 | **64.1** | 57.9 | 52.8 | 43.9 |

【医療圏別】

➢ 医療圏別では、「75～99%」に中部が多く、「わからない」に北部、八重山が多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 医療圏 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 北部医療圏 (n=49) | 中部医療圏 (n=217) | 南部医療圏 (n=504) | 宮古医療圏 (n=45) | 八重山医療圏 (n=136) |
| 0～24% | 1.4 | 0.0 | 1.8 | 0.8 | 4.4 | 2.2 |
| 25～49% | 2.3 | 0.0 | 2.3 | 2.6 | 2.2 | 2.2 |
| 50～74% | 9.1 | 10.2 | 9.7 | 8.3 | 6.7 | 11.8 |
| 75～99% | 22.6 | 12.2 | **31.3** | 23.0 | 20.0 | 11.8 |
| 100% | 6.2 | 2.0 | 5.5 | 8.5 | 4.4 | 0.7 |
| わからない | 58.4 | **75.5** | 49.3 | 56.7 | 62.2 | **71.3** |

【医療施設別】

➢ 医療施設別では、「わからない」の回答が地域がん診療病院に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 医療施設分類 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 都道府県または地域がん診療連携拠点病院 (n=373) | 地域がん診療病院 (n=223) | その他の医療機関 (n=355) |
| 0～24% | 1.4 | 0.0 | 2.2 | 2.3 |
| 25～49% | 2.3 | 2.4 | 1.8 | 2.5 |
| 50～74% | 9.1 | 9.1 | 9.0 | 9.3 |
| 75～99% | 22.6 | 26.8 | 13.0 | 24.2 |
| 100% | 6.2 | 5.6 | 1.8 | 9.6 |
| わからない | 58.4 | 56.0 | **72.2** | 52.1 |

【医師の主たる分野別】

➢ 医師の主たる分野別では、「100%」の回答が「手術が主」「放射線治療が主」の医師に多く、「75～99%」の回答が「手術が主」の医師に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 職種 | 医師の主たる分野 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=219) | 手術が主 (n=120) | 放射線治療が主 (n=8) | 薬物療法が主 (n=91) |
| 0～24% | 1.4 | 1.8 | 0.0 | **12.5** | 3.3 |
| 25～49% | 2.3 | 1.8 | 2.5 | 0.0 | 1.1 |
| 50～74% | 9.1 | 7.3 | 6.7 | 0.0 | 8.8 |
| 75～99% | 22.6 | **40.2** | **59.2** | 0.0 | 18.7 |
| 100% | 6.2 | **13.2** | **19.2** | **12.5** | 5.5 |
| わからない | 58.4 | 35.6 | 12.5 | **75.0** | 62.6 |

## （16）多職種で議論した上での放射線治療実施

**実現率：65.3%**

Q. 放射線治療を受けた患者のうち、その適応の判断を多職種で議論された上で、提供できた患者の割合はどの程度ですか。

**【全体、職種別】**

- 全体では「75～99%」が 14.3%と最も多く、ついで「50～74%」が 8.3%、「0～24%」と「25～49%」がそれぞれ 5.4%、「100%」が 4.4%と続いた。
- 職種別では、「わからない」の回答が薬剤師、医療ソーシャルワーカー、看護師に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 職種 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=219) | 看護師 (n=621) | 薬剤師 (n=63) | 医療ソーシャルワーカー (n=48) |
| 0～24% | 5.4 | **11.9** | 2.9 | 7.9 | 4.2 |
| 25～49% | 5.4 | 7.8 | 5.0 | 0.0 | 6.3 |
| 50～74% | 8.3 | 9.6 | 8.9 | 1.6 | 4.2 |
| 75～99% | 14.3 | **23.3** | 12.9 | 1.6 | 8.3 |
| 100% | 4.4 | **11.9** | 2.6 | 0.0 | 0.0 |
| わからない | 62.3 | 35.6 | **67.8** | **88.9** | **77.1** |

**【性別、年代別】**

- 年代別では、「75～99%」「0～24%」「100%」に 60 代以上の回答が多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 性別 | | 年代別 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 男性 (n=317) | 女性 (n=622) | 20代 (n=206) | 30代 (n=251) | 40代 (n=259) | 50代 (n=178) | 60代以上 (n=57) |
| 0～24% | 5.4 | 7.9 | 4.2 | 2.4 | 5.2 | 5.4 | 6.7 | **12.3** |
| 25～49% | 5.4 | 4.7 | 5.6 | 4.9 | 4.8 | 5.4 | 6.2 | 7.0 |
| 50～74% | 8.3 | 8.5 | 8.4 | 8.7 | 7.2 | 7.7 | 9.6 | 10.5 |
| 75～99% | 14.3 | 17.7 | 12.7 | 15.5 | 10.8 | 13.9 | 15.7 | **22.8** |
| 100% | 4.4 | 6.6 | 3.4 | 2.9 | 4.8 | 3.9 | 4.5 | **10.5** |
| わからない | 62.3 | 54.6 | 65.8 | 65.5 | **67.3** | 63.7 | 57.3 | 36.8 |

【医療圏別】

➢ 医療圏別では、「75～99%」の回答が中部に多く、「わからない」の回答が北部、八重山、宮古に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 医療圏 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 北部医療圏 (n=49) | 中部医療圏 (n=217) | 南部医療圏 (n=504) | 宮古医療圏 (n=45) | 八重山医療圏 (n=136) |
| 0～24% | 5.4 | 2.0 | 4.6 | 6.3 | 8.9 | 2.9 |
| 25～49% | 5.4 | 6.1 | 5.5 | 5.8 | 4.4 | 3.7 |
| 50～74% | 8.3 | 0.0 | 11.5 | 8.9 | 4.4 | 5.1 |
| 75～99% | 14.3 | 0.0 | **20.3** | 15.9 | 8.9 | 5.9 |
| 100% | 4.4 | 0.0 | 6.9 | 5.4 | 0.0 | 0.0 |
| わからない | 62.3 | **91.8** | 51.2 | 57.7 | **73.3** | **82.4** |

【医療施設別】

➢ 医療施設別では、「わからない」の回答が地域がん診療病院に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 医療施設分類 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 都道府県または地域がん診療連携拠点病院 (n=373) | 地域がん診療病院 (n=223) | その他の医療機関 (n=355) |
| 0～24% | 5.4 | 3.5 | 3.6 | 8.5 |
| 25～49% | 5.4 | 4.3 | 3.6 | 7.6 |
| 50～74% | 8.3 | 9.7 | 4.0 | 9.6 |
| 75～99% | 14.3 | 19.0 | 5.4 | 14.9 |
| 100% | 4.4 | 4.3 | 0.4 | 7.0 |
| わからない | 62.3 | 59.2 | **83.0** | 52.4 |

【医師の主たる分野別】

➢ 医師の主たる分野別では、「100%」の回答が「放射線治療が主」の医師に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 職種 | 医師の主たる分野 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=219) | 手術が主 (n=120) | 放射線治療が主 (n=8) | 薬物療法が主 (n=91) |
| 0～24% | 5.4 | **11.9** | **13.3** | **12.5** | 9.9 |
| 25～49% | 5.4 | 7.8 | 5.0 | **12.5** | **11.0** |
| 50～74% | 8.3 | 9.6 | 10.0 | 0.0 | 9.9 |
| 75～99% | 14.3 | **23.3** | **25.0** | **25.0** | **20.9** |
| 100% | 4.4 | **11.9** | **12.5** | **37.5** | 8.8 |
| わからない | 62.3 | 35.6 | 34.2 | 12.5 | 39.6 |

## （17）質の高い薬物療法の提供

**実現率：74.7%**

Q. 薬物療法を受けた患者のうち、質の高い薬物療法を提供できた患者の割合はどの程度ですか。

**【全体、職種別】**

- 全体では「75～99%」が 25.9%と最も多く、ついで「50～74%」が 15.2%、「100%」が 4.7%、「25～49%」が 3.7%、「0～24%」が 1.7%と続いた。
- 職種別では、「75～99%」と「100%」に、医師の回答が多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 職種 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=219) | 看護師 (n=621) | 薬剤師 (n=63) | 医療ソーシャルワーカー (n=48) |
| 0～24% | 1.7 | 2.7 | 1.3 | 1.6 | 2.1 |
| 25～49% | 3.7 | 3.2 | 3.7 | 6.3 | 2.1 |
| 50～74% | 15.2 | 13.7 | 15.6 | **20.6** | 10.4 |
| 75～99% | 25.9 | **45.7** | 20.8 | 23.8 | 4.2 |
| 100% | 4.7 | **11.0** | 3.2 | 1.6 | 0.0 |
| わからない | 48.8 | 23.7 | **55.4** | 46.0 | **81.3** |

**【性別、年代別】**

- 年代別では、「75～99%」と「100%」に、60 代以上の回答が多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 性別 | | 年代別 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 男性 (n=317) | 女性 (n=622) | 20代 (n=206) | 30代 (n=251) | 40代 (n=259) | 50代 (n=178) | 60代以上 (n=57) |
| 0～24% | 1.7 | 1.9 | 1.6 | 1.9 | 1.6 | 1.9 | 0.0 | 5.3 |
| 25～49% | 3.7 | 4.4 | 3.4 | 3.9 | 4.8 | 2.7 | 3.9 | 1.8 |
| 50～74% | 15.2 | 13.6 | 16.2 | 14.6 | 15.9 | 15.4 | 16.9 | 8.8 |
| 75～99% | 25.9 | **34.4** | 21.4 | 22.8 | 23.1 | 27.0 | 27.5 | **38.6** |
| 100% | 4.7 | 7.3 | 3.5 | 2.4 | 4.8 | 4.2 | 5.6 | **12.3** |
| わからない | 48.8 | 38.5 | **53.9** | **54.4** | 49.8 | 48.6 | 46.1 | 33.3 |

【医療圏別】

➢ 医療圏別では、「わからない」の回答が北部、八重山、宮古に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 医療圏 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 北部医療圏 (n=49) | 中部医療圏 (n=217) | 南部医療圏 (n=504) | 宮古医療圏 (n=45) | 八重山医療圏 (n=136) |
| 0～24% | 1.7 | 0.0 | 4.1 | 0.6 | 2.2 | 2.2 |
| 25～49% | 3.7 | 0.0 | 4.1 | 4.4 | 4.4 | 1.5 |
| 50～74% | 15.2 | 18.4 | 16.1 | 15.3 | 11.1 | 14.0 |
| 75～99% | 25.9 | 14.3 | 29.5 | 27.8 | 17.8 | 19.9 |
| 100% | 4.7 | 4.1 | 7.4 | 5.0 | 4.4 | 0.0 |
| わからない | 48.8 | **63.3** | 38.7 | 47.0 | **60.0** | **62.5** |

【医療施設別】

➢ 医療施設別では、「わからない」の回答が地域がん診療病院に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 医療施設分類 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 都道府県または地域がん診療連携拠点病院 (n=373) | 地域がん診療病院 (n=223) | その他の医療機関 (n=355) |
| 0～24% | 1.7 | 1.1 | 1.8 | 2.3 |
| 25～49% | 3.7 | 3.2 | 2.2 | 5.1 |
| 50～74% | 15.2 | 15.3 | 13.0 | 16.6 |
| 75～99% | 25.9 | 27.9 | 17.5 | 29.0 |
| 100% | 4.7 | 4.6 | 1.3 | 7.0 |
| わからない | 48.8 | 48.0 | **64.1** | 40.0 |

【医師の主たる分野別】

➢ 医師の主たる分野別では、「75～99%」に「手術が主」「薬物療法が主」の医師の回答が多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 職種 | 医師の主たる分野 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=219) | 手術が主 (n=120) | 放射線治療が主 (n=8) | 薬物療法が主 (n=91) |
| 0～24% | 1.7 | 2.7 | 2.5 | **12.5** | 2.2 |
| 25～49% | 3.7 | 3.2 | 3.3 | 0.0 | 3.3 |
| 50～74% | 15.2 | 13.7 | 10.8 | **25.0** | 16.5 |
| 75～99% | 25.9 | **45.7** | **48.3** | 0.0 | **46.2** |
| 100% | 4.7 | **11.0** | **10.8** | **12.5** | **11.0** |
| わからない | 48.8 | 23.7 | 24.2 | 50.0 | 20.9 |

## （18）患者の希望を受けての在宅医療移行

**実現率：62.7%　（前回調査：45.8%）**

Q. 在宅医療を希望された患者のうち、実際に在宅医療に移行した患者の割合はどの程度ですか。

**【全体、職種別】**

- 全体では「75～99%」が 18.6%と最も多く、ついで「50～74%」が 16.3%、「25～49%」が 11.0%、「0～24%」が 5.7%、「100%」が 3.6%と続いた。
- 職種別では、「75～99%」に、医師と医療ソーシャルワーカーの回答が多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 職種 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=219) | 看護師 (n=621) | 薬剤師 (n=63) | 医療ソーシャルワーカー (n=48) |
| 0～24% | 5.7 | 6.8 | 5.5 | 1.6 | 8.3 |
| 25～49% | 11.0 | 12.3 | 11.3 | 6.3 | 8.3 |
| 50～74% | 16.3 | 17.8 | 17.1 | 4.8 | 14.6 |
| 75～99% | 18.6 | **29.2** | 15.9 | 0.0 | **29.2** |
| 100% | 3.6 | 8.2 | 2.4 | 0.0 | 2.1 |
| わからない | 44.8 | 25.6 | 47.8 | **87.3** | 37.5 |

**【性別、年代別】**

- 年代別では、「100%」の回答に 60 代以上が多かった。「わからない」「50～74%」に 60 代以上が少なかった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 性別 | | 年代別 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 男性 (n=317) | 女性 (n=622) | 20代 (n=206) | 30代 (n=251) | 40代 (n=259) | 50代 (n=178) | 60代以上 (n=57) |
| 0～24% | 5.7 | 5.7 | 5.6 | 2.9 | 4.0 | 10.0 | 4.5 | 7.0 |
| 25～49% | 11.0 | 12.0 | 10.8 | 13.1 | 10.8 | 9.3 | 10.1 | 15.8 |
| 50～74% | 16.3 | 14.2 | 17.7 | 18.4 | 18.3 | 14.3 | 15.7 | 10.5 |
| 75～99% | 18.6 | 20.8 | 17.5 | 15.5 | 15.9 | 22.0 | 20.2 | 21.1 |
| 100% | 3.6 | 5.4 | 2.6 | 1.9 | 3.2 | 1.9 | 6.7 | **8.8** |
| わからない | 44.8 | 42.0 | 45.8 | 48.1 | 47.8 | 42.5 | 42.7 | 36.8 |

【医療圏別】

➢ 医療圏別では、「50～74%」「100%」に宮古の回答がそれぞれ多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 医療圏 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 北部医療圏 (n=49) | 中部医療圏 (n=217) | 南部医療圏 (n=504) | 宮古医療圏 (n=45) | 八重山医療圏 (n=136) |
| 0～24% | 5.7 | 4.1 | 6.9 | 6.2 | 2.2 | 3.7 |
| 25～49% | 11.0 | 14.3 | 12.4 | 11.7 | 0.0 | 8.8 |
| 50～74% | 16.3 | 8.2 | 18.9 | 16.3 | **24.4** | 12.5 |
| 75～99% | 18.6 | 6.1 | 22.1 | 20.2 | 4.4 | 16.2 |
| 100% | 3.6 | 0.0 | 3.7 | 3.6 | **11.1** | 2.2 |
| わからない | 44.8 | **67.3** | 35.9 | 42.1 | **57.8** | **56.6** |

【医療施設別】

➢ 医療施設別では、「わからない」の回答が地域がん診療病院に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 医療施設分類 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 都道府県または地域がん診療連携拠点病院 (n=373) | 地域がん診療病院 (n=223) | その他の医療機関 (n=355) |
| 0～24% | 5.7 | 5.1 | 4.5 | 7.0 |
| 25～49% | 11.0 | 11.3 | 7.2 | 13.2 |
| 50～74% | 16.3 | 15.3 | 13.5 | 19.2 |
| 75～99% | 18.6 | 22.0 | 12.1 | 19.2 |
| 100% | 3.6 | 4.0 | 3.1 | 3.4 |
| わからない | 44.8 | 42.4 | **59.6** | 38.0 |

【医師の主たる分野別】

➢ 医師の主たる分野別では、「75～99%」に「薬物療法が主」「手術が主」の医師の回答が多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 職種 | 医師の主たる分野 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=219) | 手術が主 (n=120) | 放射線治療が主 (n=8) | 薬物療法が主 (n=91) |
| 0～24% | 5.7 | 6.8 | 6.7 | 0.0 | 7.7 |
| 25～49% | 11.0 | 12.3 | 10.0 | **25.0** | 14.3 |
| 50～74% | 16.3 | 17.8 | 13.3 | **25.0** | **23.1** |
| 75～99% | 18.6 | **29.2** | **30.0** | 0.0 | **30.8** |
| 100% | 3.6 | 8.2 | 8.3 | 0.0 | **8.8** |
| わからない | 44.8 | 25.6 | 31.7 | **50.0** | 15.4 |

## (19) リハビリテーション実施

**実現率：57.6%**

Q. リハビリテーションを行った患者の割合はどの程度ですか。

**【全体、職種別】**

- 全体では「51～100%」が 35.9%と最も多く、ついで「21～50%」が 12.4%、「11～20%」が 2.1%、「1～5%」が 1.9%、「6～10%」が 1.8%、「0%」が 1.5%と続いた。
- 職種別では、「51～100%」に医師、医療ソーシャルワーカーの回答が多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 職種 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=219) | 看護師 (n=621) | 薬剤師 (n=63) | 医療ソーシャルワーカー (n=48) |
| 0% | 1.5 | 1.8 | 1.4 | 0.0 | 2.1 |
| 1～5% | 1.9 | 1.8 | 1.9 | 1.6 | 2.1 |
| 6～10% | 1.8 | 1.8 | 2.1 | 0.0 | 0.0 |
| 11～20% | 2.1 | 2.3 | 2.1 | 3.2 | 0.0 |
| 21～50% | 12.4 | **21.9** | 10.8 | 0.0 | 6.3 |
| 51～100% | 35.9 | **49.8** | 33.7 | 4.8 | **41.7** |
| わからない | 44.5 | 20.5 | 48.0 | **90.5** | 47.9 |

**【性別、年代別】**

- 年代別では、「21～50%」に 60 代以上の回答が多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 性別 | | 年代別 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 男性 (n=317) | 女性 (n=622) | 20代 (n=206) | 30代 (n=251) | 40代 (n=259) | 50代 (n=178) | 60代以上 (n=57) |
| 0% | 1.5 | 0.9 | 1.6 | 0.0 | 1.2 | 2.7 | 0.6 | 5.3 |
| 1～5% | 1.9 | 1.3 | 2.3 | 1.9 | 1.6 | 1.9 | 2.2 | 1.8 |
| 6～10% | 1.8 | 2.2 | 1.6 | 1.9 | 2.0 | 1.2 | 1.1 | 5.3 |
| 11～20% | 2.1 | 2.2 | 2.1 | 1.9 | 1.6 | 2.3 | 2.2 | 3.5 |
| 21～50% | 12.4 | 15.8 | 10.6 | 12.6 | 11.2 | 10.8 | 14.6 | **17.5** |
| 51～100% | 35.9 | 39.1 | 34.7 | 38.8 | 35.1 | 37.1 | 33.7 | 29.8 |
| わからない | 44.5 | 38.5 | 47.1 | 42.7 | 47.4 | 44.0 | 45.5 | 36.8 |

**【医療圏別】**

➢ 医療圏別では、「51～100%」の回答が中部に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 医療圏 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 北部医療圏 (n=49) | 中部医療圏 (n=217) | 南部医療圏 (n=504) | 宮古医療圏 (n=45) | 八重山医療圏 (n=136) |
| 0% | 1.5 | 0.0 | 1.4 | 1.0 | 2.2 | 3.7 |
| 1～5% | 1.9 | 0.0 | 1.8 | 2.6 | 0.0 | 0.7 |
| 6～10% | 1.8 | 0.0 | 3.7 | 1.4 | 0.0 | 1.5 |
| 11～20% | 2.1 | 2.0 | 1.8 | 2.8 | 0.0 | 0.7 |
| 21～50% | 12.4 | 2.0 | 12.0 | 13.9 | 11.1 | 11.8 |
| 51～100% | 35.9 | 32.7 | **45.2** | 36.7 | 15.6 | 25.7 |
| わからない | 44.5 | **63.3** | 34.1 | 41.7 | **71.1** | **55.9** |

**【医療施設別】**

➢ 医療施設別では、「わからない」の回答が地域がん診療病院に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 医療施設分類 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 都道府県または地域がん診療連携拠点病院 (n=373) | 地域がん診療病院 (n=223) | その他の医療機関 (n=355) |
| 0% | 1.5 | 0.3 | 2.7 | 2.0 |
| 1～5% | 1.9 | 1.1 | 0.4 | 3.7 |
| 6～10% | 1.8 | 2.1 | 0.9 | 2.0 |
| 11～20% | 2.1 | 1.6 | 0.9 | 3.4 |
| 21～50% | 12.4 | 15.0 | 9.0 | 11.8 |
| 51～100% | 35.9 | 39.1 | 23.3 | 40.3 |
| わからない | 44.5 | 40.8 | **62.8** | 36.9 |

**【医師の主たる分野別】**

➢ 医師の主たる分野別では、「51～100%」の回答が「薬物療法が主」「手術が主」の医師に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 職種 | 医師の主たる分野 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=219) | 手術が主 (n=120) | 放射線治療が主 (n=8) | 薬物療法が主 (n=91) |
| 0% | 1.5 | 1.8 | 1.7 | **12.5** | 1.1 |
| 1～5% | 1.9 | 1.8 | 0.8 | **12.5** | 2.2 |
| 6～10% | 1.8 | 1.8 | 0.0 | **12.5** | 3.3 |
| 11～20% | 2.1 | 2.3 | 3.3 | 0.0 | 1.1 |
| 21～50% | 12.4 | **21.9** | **22.5** | 12.5 | **22.0** |
| 51～100% | 35.9 | **49.8** | **47.5** | 25.0 | **54.9** |
| わからない | 44.5 | 20.5 | 24.2 | 25.0 | 15.4 |

## （20）高齢がん患者への「高齢者機能評価」

**実現率：26.1%**

Q. 高齢者のがん患者に対して、治療前に「※高齢者機能評価」を行った割合はどの程度ですか。

**【全体、職種別】**

- 全体では「0%」が 10.8%と最も多く、ついで「51～100%」が 7.4%、「21～50%」が 4.9%、「1～5%」と「6～10%」がそれぞれ 2.5%、「11～20%」が 2.3%と続いた。
- 職種別では、「0%」と「51～100%」に医師の回答が多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 職種 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=219) | 看護師 (n=621) | 薬剤師 (n=63) | 医療ソーシャルワーカー (n=48) |
| 0% | 10.8 | **26.9** | 6.3 | 4.8 | 4.2 |
| 1～5% | 2.5 | 4.1 | 2.1 | 0.0 | 4.2 |
| 6～10% | 2.5 | 5.9 | 1.4 | 3.2 | 0.0 |
| 11～20% | 2.3 | 5.5 | 1.6 | 0.0 | 0.0 |
| 21～50% | 4.9 | 7.3 | 4.8 | 0.0 | 2.1 |
| 51～100% | 7.4 | **13.7** | 5.8 | 1.6 | 6.3 |
| わからない | 69.5 | 36.5 | **77.9** | **90.5** | **83.3** |

**【性別、年代別】**

- 年代別では、「0%」「51～100%」に 60 代以上が多く、「わからない」に 20 代が多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 性別 | | 年代別 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 男性 (n=317) | 女性 (n=622) | 20代 (n=206) | 30代 (n=251) | 40代 (n=259) | 50代 (n=178) | 60代以上 (n=57) |
| 0% | 10.8 | **18.0** | 7.1 | 3.9 | 10.8 | 11.6 | 15.7 | **17.5** |
| 1～5% | 2.5 | 3.2 | 2.3 | 1.0 | 2.0 | 3.5 | 2.8 | 5.3 |
| 6～10% | 2.5 | 4.1 | 1.8 | 2.4 | 1.6 | 1.5 | 3.9 | 7.0 |
| 11～20% | 2.3 | 4.4 | 1.1 | 1.9 | 1.6 | 1.5 | 4.5 | 3.5 |
| 21～50% | 4.9 | 5.0 | 5.0 | 6.8 | 3.6 | 2.7 | 9.0 | 1.8 |
| 51～100% | 7.4 | 9.8 | 6.3 | 2.9 | 6.4 | 9.3 | 9.0 | **14.0** |
| わからない | 69.5 | 55.5 | **76.5** | **81.1** | 74.1 | 69.9 | 55.1 | 50.9 |

**【医療圏別】**

➢ 医療圏別では、「0%」に宮古の回答が多く、「51～100%」に中部の回答が多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 医療圏 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 北部医療圏 (n=49) | 中部医療圏 (n=217) | 南部医療圏 (n=504) | 宮古医療圏 (n=45) | 八重山医療圏 (n=136) |
| 0% | 10.8 | 14.3 | 7.8 | 11.3 | **22.2** | 8.8 |
| 1～5% | 2.5 | 0.0 | 2.3 | 3.6 | 0.0 | 0.7 |
| 6～10% | 2.5 | 0.0 | 4.1 | 2.4 | 0.0 | 2.2 |
| 11～20% | 2.3 | 0.0 | 3.2 | 2.6 | 2.2 | 0.7 |
| 21～50% | 4.9 | 4.1 | 6.5 | 4.8 | 4.4 | 3.7 |
| 51～100% | 7.4 | 2.0 | **13.8** | 6.5 | 0.0 | 4.4 |
| わからない | 69.5 | **79.6** | 62.2 | 68.8 | 71.1 | **79.4** |

**【医療施設別】**

➢ 医療施設別では、「わからない」の回答が地域がん診療病院に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 医療施設分類 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 都道府県または地域がん診療連携拠点病院 (n=373) | 地域がん診療病院 (n=223) | その他の医療機関 (n=355) |
| 0% | 10.8 | 8.6 | 10.8 | 13.2 |
| 1～5% | 2.5 | 2.4 | 0.4 | 3.9 |
| 6～10% | 2.5 | 3.2 | 1.3 | 2.5 |
| 11～20% | 2.3 | 2.9 | 1.3 | 2.3 |
| 21～50% | 4.9 | 5.4 | 2.7 | 5.9 |
| 51～100% | 7.4 | 7.8 | 3.6 | 9.3 |
| わからない | 69.5 | 69.7 | **79.8** | 62.8 |

**【医師の主たる分野別】**

➢ 医師の主たる分野別では、「0%」の回答が各分野で多く、「51～100%」の回答が「放射線治療が主」「手術が主」の医師に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 職種 | 医師の主たる分野 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=219) | 手術が主 (n=120) | 放射線治療が主 (n=8) | 薬物療法が主 (n=91) |
| 0% | 10.8 | **26.9** | **24.2** | **50.0** | **28.6** |
| 1～5% | 2.5 | 4.1 | 6.7 | 0.0 | 1.1 |
| 6～10% | 2.5 | 5.9 | 4.2 | 0.0 | **8.8** |
| 11～20% | 2.3 | 5.5 | 5.8 | 0.0 | 5.5 |
| 21～50% | 4.9 | 7.3 | 5.0 | **12.5** | 9.9 |
| 51～100% | 7.4 | **13.7** | **15.8** | **25.0** | 9.9 |
| わからない | 69.5 | 36.5 | 38.3 | 12.5 | 36.3 |

## （21）希少がん患者の中部病院、琉大病院、県外医療機関への紹介

**実現率：42.8%**

Q. 希少がん患者のうち、診断又は治療目的で、県立中部病院、琉球大学病院または本土の専門医療機関に紹介した割合はどの程度ですか。

**【全体、職種別】**

- 全体では「0～24%」が 9.9%と最も多く、ついで「100%」が 2.7%、「50～74%」が 2.6%、「25～49%」と「75～99%」がそれぞれ 2.5%と続いた。
- 職種別では、「0～24%」に医師の回答が多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 職種 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=219) | 看護師 (n=621) | 薬剤師 (n=63) | 医療ソーシャルワーカー (n=48) |
| 0～24% | 9.9 | **21.9** | 6.0 | 4.8 | 12.5 |
| 25～49% | 2.5 | 3.2 | 2.6 | 1.6 | 0.0 |
| 50～74% | 2.6 | 3.2 | 2.9 | 0.0 | 0.0 |
| 75～99% | 2.5 | 3.7 | 2.4 | 0.0 | 2.1 |
| 100% | 2.7 | 7.3 | 1.3 | 0.0 | 4.2 |
| わからない | 41.7 | 18.3 | 46.2 | **60.3** | **66.7** |
| この質問の対象外 | 38.0 | 42.5 | 38.6 | 33.3 | 14.6 |

**【性別、年代別】**

- 年代別では、「0～24%」の回答に 60 代以上が多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 性別 | | 年代別 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 男性 (n=317) | 女性 (n=622) | 20代 (n=206) | 30代 (n=251) | 40代 (n=259) | 50代 (n=178) | 60代以上 (n=57) |
| 0～24% | 9.9 | 14.8 | 7.2 | 3.4 | 8.8 | 12.7 | 12.9 | **15.8** |
| 25～49% | 2.5 | 2.5 | 2.6 | 1.0 | 3.2 | 2.3 | 3.9 | 1.8 |
| 50～74% | 2.6 | 3.2 | 2.4 | 1.9 | 2.0 | 3.1 | 3.9 | 1.8 |
| 75～99% | 2.5 | 2.8 | 2.4 | 1.9 | 1.6 | 2.7 | 2.8 | 7.0 |
| 100% | 2.7 | 4.7 | 1.8 | 0.0 | 1.6 | 4.2 | 3.9 | 7.0 |
| わからない | 41.7 | 31.2 | **46.9** | 40.8 | 41.0 | 44.4 | 43.3 | 31.6 |
| この質問の対象外 | 38.0 | 40.7 | 36.7 | **51.0** | 41.8 | 30.5 | 29.2 | 35.1 |

**【医療圏別】**

➢ 医療圏別では、「0～24%」の回答が中部に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 医療圏 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 北部医療圏 (n=49) | 中部医療圏 (n=217) | 南部医療圏 (n=504) | 宮古医療圏 (n=45) | 八重山医療圏 (n=136) |
| 0～24% | 9.9 | 10.2 | **15.7** | 7.9 | 4.4 | 9.6 |
| 25～49% | 2.5 | 2.0 | 3.2 | 2.4 | 0.0 | 2.9 |
| 50～74% | 2.6 | 4.1 | 3.2 | 1.8 | 2.2 | 4.4 |
| 75～99% | 2.5 | 2.0 | 2.3 | 1.0 | 6.7 | 7.4 |
| 100% | 2.7 | 4.1 | 3.7 | 1.8 | 6.7 | 2.9 |
| わからない | 41.7 | **67.3** | 42.9 | 31.0 | **62.2** | **64.0** |
| この質問の対象外 | 38.0 | 10.2 | 29.0 | **54.2** | 17.8 | 8.8 |

**【医療施設別】**

➢ 医療施設別では、「0～24%」にその他の医療機関の回答が多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 医療施設分類 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 都道府県または地域がん診療連携拠点病院 (n=373) | 地域がん診療病院 (n=223) | その他の医療機関 (n=355) |
| 0～24% | 9.9 | 2.7 | 7.6 | **18.9** |
| 25～49% | 2.5 | 0.8 | 2.2 | 4.5 |
| 50～74% | 2.6 | 2.1 | 3.6 | 2.5 |
| 75～99% | 2.5 | 1.1 | 6.7 | 1.4 |
| 100% | 2.7 | 0.5 | 3.1 | 4.8 |
| わからない | 41.7 | 16.4 | **67.3** | **52.4** |
| この質問の対象外 | 38.0 | **76.4** | 9.4 | 15.5 |

**【医師の主たる分野別】**

➢ 医師の主たる分野別では、「0～24%」に各分野の医師の回答があり、「100%」の回答が「手術が主」の医師に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 職種 | 医師の主たる分野 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=219) | 手術が主 (n=120) | 放射線治療が主 (n=8) | 薬物療法が主 (n=91) |
| 0～24% | 9.9 | **21.9** | **16.7** | **50.0** | **26.4** |
| 25～49% | 2.5 | 3.2 | 3.3 | 0.0 | 3.3 |
| 50～74% | 2.6 | 3.2 | 3.3 | 0.0 | 3.3 |
| 75～99% | 2.5 | 3.7 | 5.8 | 0.0 | 1.1 |
| 100% | 2.7 | 7.3 | **13.3** | 0.0 | 0.0 |
| わからない | 41.7 | 18.3 | 20.0 | 0.0 | 17.6 |
| この質問の対象外 | 38.0 | 42.5 | 37.5 | **50.0** | **48.4** |

【希少がん患者を紹介できなかった理由】（自由記述）

- ✓ 自宅から遠いから
- ✓ 患者の希望
- ✓ 患者さん自身の希望がなかった。
- ✓ 希少癌をみなかった
- ✓ 患者希望、自院での対応が可能だったから
- ✓ 当院での治療希望
- ✓ 自身で対応した患者様は自院での治療継続になったため、紹介はおこなっていない
- ✓ 高齢者では治療を希望しない事が多い。
- ✓ 希望しなかった。
- ✓ 情報提供の不足
- ✓ 症例がなかった
- ✓ 緩和ケア病棟だから
- ✓ 自院で治療を行ったため
- ✓ 専門医がいないと断られたケースがありました
- ✓ 患者家族が希望しなかった。島内での治療を望んだ。
- ✓ 通常は主科から紹介され、放射線治療科から紹介する必要がないため
- ✓ 紹介できる立場にないから
- ✓ わからない
- ✓ 島内での治療を希望されたため
- ✓ 緩和ケア病棟に勤務しているので理由が書けない。
- ✓ 担当疾患のほとんどは当院でも治療可能なため。患者の希望時のみ紹介
- ✓ 上記県内の病院では該当疾患の専門医がいない、治療レジメン・設備がない、また県外の病院を受診することが難しい（経済的・社会的な理由）状況の患者様は紹介できませんでした
- ✓ 分からない
- ✓ 関わっていない為、わからない。
- ✓ 専門医がいないため
- ✓ 当院および近隣医療機関の協力にて治療可能であることが多かったため
- ✓ 緊急手術で術後の病理検査で診断、そのまま当院で化学療法開始となった。サポートバックを使用して希少がんホットラインは紹介したが、特に他院への紹介希望はなく当院で治療継続している
- ✓ 石垣で過ごす事を決めていた
- ✓ 緩和ケア病棟のため
- ✓ 紹介できた
- ✓ ターミナルで移動がままならない。治験の適応にならない、など。そもそも有効な治療がなく、県外に出れば有効な治療手立てがある症例は少ない。
- ✓ 当院での治療を希望
- ✓ 金銭面 家族の都合 体力面 紹介する前にお亡くなりになるパターン
- ✓ 希少がん少ない。
- ✓ 情報提供したが本人家族が希望しなかった
- ✓ 希望されない場合
- ✓ ホスピスで治療期にないため
- ✓ わかりません
- ✓ 希少がんは、ほぼ全て紹介していると思います。
- ✓ 受け入れ先が患者がいっぱいだった
- ✓ 琉大への紹介が多い
- ✓ 受け入れ体制が不十分
- ✓ 対象患者が少ない
- ✓ 当院での治療継続 移植目的なら他院へ
- ✓ 他科へのコンサルトを行ったため
- ✓ 患者またはご家族が検査、精査を希望されなかったことがあります
- ✓ 関与していない
- ✓ ケモ室で１ヶ月勤務したのみで、がん患者さんとの関わりがあまりなかった。
- ✓ 希少がんがあまり入院患者さんにいないため外来での紹介はあると思うが病棟看護師にはわからない部分もあるのかなと感じる。

- ✓ 遠望の為
- ✓ 当院で診療可能であれば紹介はしていません
- ✓ タイミング
- ✓ 県立中部病院、琉大病院さんに乳がん専門職の Dr が不在であるため、本土の医療機関に紹介をしたいが、経済的、時間的に余裕の無い患者さんもいるのが現状である。リモートのセカンドオピニオンを利用することがある。
- ✓ 対象患者がいなかった。
- ✓ わからない
- ✓ 島を離れることに、本人の同意が得られないことがあります
- ✓ 時間が足りなかった
- ✓ 分からん
- ✓ 患者が希望される内容と治療方針があわず、他施設(内地)へ後ほど紹介となった
- ✓ 緩和ケア病棟への転院が多かったから。
- ✓ 希少がんの症例があまりなかった
- ✓ 患者、家族間で治療方針が異なったため
- ✓ 通院がしづらいから患者が希望しない。
- ✓ 患者が希望しない
- ✓ 紹介のハードルが高い
- ✓ 希少がん患者の症例が自部署の病棟では割合が少ないです。2023 年度に入院した患者はほとんど紹介していましたが、患者様の容態が厳しい状態にあり説明して紹介出来なかったことがありました。
- ✓ 受け皿がない
- ✓ あまり希少がんの患者を見なかった。
- ✓ 自施設で対応できない希少がんに関しては、外来での対応となるため把握が難しい
- ✓ 費用、時間の問題
- ✓ 詳しい医師がいない。

## （22）難治がん患者の県内・県外医療機関への紹介

**実現率：37.6%**

Q. 難治がん患者のうち、診断又は治療目的で、沖縄県における「掲載要件を満たす、がん診療を行う県内医療施設一覧」または本土の専門医療機関に紹介した割合はどの程度ですか。

**【全体、職種別】**

- 全体では「0～24%」が 13.2%と最も多く、ついで「75～99%」が 3.2%、「25～49%」が 2.5%、「50～74%」が 2.2%、「100%」が 2.1%と続いた。
- 職種別では、「0～24%」に医師の回答が多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 職種 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=219) | 看護師 (n=621) | 薬剤師 (n=63) | 医療ソーシャルワーカー (n=48) |
| 0～24% | 13.2 | **35.2** | 6.9 | 4.8 | 6.3 |
| 25～49% | 2.5 | 5.0 | 1.9 | 0.0 | 2.1 |
| 50～74% | 2.2 | 2.7 | 2.3 | 1.6 | 0.0 |
| 75～99% | 3.2 | 7.3 | 2.1 | 0.0 | 2.1 |
| 100% | 2.1 | 5.9 | 1.0 | 0.0 | 2.1 |
| わからない | 76.8 | 43.8 | **85.8** | **93.7** | **87.5** |

**【性別、年代別】**

- 年代別では、「0～24%」に 60 代以上と 50 代の回答が多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 性別 | | 年代別 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 男性 (n=317) | 女性 (n=622) | 20代 (n=206) | 30代 (n=251) | 40代 (n=259) | 50代 (n=178) | 60代以上 (n=57) |
| 0～24% | 13.2 | **19.9** | 9.8 | 4.9 | 13.1 | 13.1 | **19.7** | **24.6** |
| 25～49% | 2.5 | 3.5 | 1.9 | 2.4 | 2.0 | 2.3 | 3.4 | 3.5 |
| 50～74% | 2.2 | 2.8 | 1.9 | 1.9 | 1.6 | 2.7 | 2.8 | 1.8 |
| 75～99% | 3.2 | 5.7 | 1.9 | 1.9 | 2.0 | 3.1 | 5.1 | 7.0 |
| 100% | 2.1 | 3.5 | 1.4 | 0.5 | 2.4 | 1.2 | 4.5 | 3.5 |
| わからない | 76.8 | 64.7 | **83.0** | **88.3** | 78.9 | 77.6 | 64.6 | 59.6 |

【医療圏別】

➢ 医療圏別では、「0～24%」の回答が宮古で少なかった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 医療圏 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 北部医療圏 (n=49) | 中部医療圏 (n=217) | 南部医療圏 (n=504) | 宮古医療圏 (n=45) | 八重山医療圏 (n=136) |
| 0～24% | 13.2 | 16.3 | 14.7 | 14.3 | 4.4 | 8.8 |
| 25～49% | 2.5 | 4.1 | 3.2 | 2.0 | 2.2 | 2.9 |
| 50～74% | 2.2 | 0.0 | 3.7 | 2.0 | 2.2 | 1.5 |
| 75～99% | 3.2 | 0.0 | 4.6 | 2.6 | 4.4 | 3.7 |
| 100% | 2.1 | 4.1 | 1.4 | 1.8 | 6.7 | 2.2 |
| わからない | 76.8 | 75.5 | 72.4 | 77.4 | 80.0 | 80.9 |

【医療施設別】

➢ 医療施設別では、「0～24%」の回答がその他の医療機関に多く、地域がん診療病院に少なかった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 医療施設分類 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 都道府県または地域がん診療連携拠点病院 (n=373) | 地域がん診療病院 (n=223) | その他の医療機関 (n=355) |
| 0～24% | 13.2 | 9.4 | 8.1 | **20.6** |
| 25～49% | 2.5 | 2.1 | 2.2 | 3.1 |
| 50～74% | 2.2 | 2.1 | 1.3 | 2.8 |
| 75～99% | 3.2 | 2.7 | 4.0 | 3.1 |
| 100% | 2.1 | 1.9 | 3.1 | 1.7 |
| わからない | 76.8 | **81.8** | 81.2 | 68.7 |

【医師の主たる分野別】

➢ 医師の主たる分野別では、「0～24%」は全分野で回答が多く、「75～99%」「100%」は「手術が主」の医師に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 職種 | 医師の主たる分野 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=219) | 手術が主 (n=120) | 放射線治療が主 (n=8) | 薬物療法が主 (n=91) |
| 0～24% | 13.2 | **35.2** | **33.3** | **62.5** | **35.2** |
| 25～49% | 2.5 | 5.0 | 5.0 | 0.0 | 5.5 |
| 50～74% | 2.2 | 2.7 | 2.5 | **12.5** | 2.2 |
| 75～99% | 3.2 | 7.3 | **9.2** | 0.0 | 5.5 |
| 100% | 2.1 | 5.9 | **8.3** | 0.0 | 3.3 |
| わからない | 76.8 | 43.8 | 41.7 | 25.0 | 48.4 |

【難治がん患者を紹介できなかった理由】（自由記述）

- ✓ 患者、もしくは家族、またはその両方から希望がなかった
- ✓ 当院でも対応可能なため
- ✓ 症例がいなかった。
- ✓ 当院で治療を完遂できたから
- ✓ 困難な手術を引き受ける技量がある施設がなかったから。
- ✓ 患者さんの希望
- ✓ 希望しなかった。
- ✓ 情報不足
- ✓ 症例がなかった、他院から当院への診療依頼あり
- ✓ 緩和ケア病棟だから
- ✓ 自院で治療を行ったため
- ✓ 必要性を感じない
- ✓ 治療適当外だったケースでした
- ✓ 通常は主科から紹介され、放射線治療科から紹介する必要がないため
- ✓ 琉大病院は敷居が高すぎる。
- ✓ 紹介に関わる役割がないから
- ✓ わからない
- ✓ いつどのタイミングで紹介されているかわからない
- ✓ 当院で対応可能なため必要性がない。患者が希望時のみ紹介。
- ✓ 上記県内の病院では該当疾患の専門医がいない、治療レジメン・設備がない、また県外の病院を受診することが難しい（経済的・社会的な理由）状況の患者様は紹介できませんでした
- ✓ 金銭面、高齢化
- ✓ わからない
- ✓ ドクターや退院支援担当が行っているから必要ないと思っていた。
- ✓ 転院希望がなかった。
- ✓ 不明
- ✓ 患者が中南部への紹介や通院を希望しないケースが多い。
- ✓ 病状が悪く予後が短い可能性が高かった為
- ✓ 緩和ケア病棟のため
- ✓ できなかったことはない
- ✓ ターミナルで移動がままならない。治験の適応にならない、など。そもそも有効な治療がなく、県外に出れば有効な治療手立てがある症例は少ない。
- ✓ タイミングが合わなかった
- ✓ 当院での治療希望
- ✓ 知識不足
- ✓ 情報提供したが本人家族が希望しなかった
- ✓ ホスピスで治療期にないため
- ✓ わかりません
- ✓ 患者家族の希望やタイミングの問題
- ✓ 自院で対応できない癌腫に関しては 100%紹介
- ✓ 患者が高齢のため。
- ✓ 希望がなかった
- ✓ 対象患者が少ない
- ✓ 不明
- ✓ 大学病院で完結できるため
- ✓ 関与していない
- ✓ がん患者さんの紹介について関わったことがないため
- ✓ 単に希望されなかっただけです。
- ✓ 遠望の為
- ✓ 当院で診療可能であれば紹介はしていません。
- ✓ 難治がんの定義不明
- ✓ 対象患者がいなかった
- ✓ わからない
- ✓ 島を離れることに、本人の同意が得られないことがあります
- ✓ 時間が足りなかった
- ✓ 緩和ケア病棟への転院が多かったから。
- ✓ 飛行機での渡航に難色を示した

- ✓ 分かりません
- ✓ 患者家族が希望しないため。
- ✓ 患者、家族で希望が異なることが多々ある
- ✓ 受け皿が不十分、遠方
- ✓ セカンドオピニオンの希望などは聞いているが、希望されない人も多い。
- ✓ わかりません
- ✓ 詳しい医師がいない
- ✓ 難治がんでも、PS が悪かったり、高齢であったりして、積極的な治療を望まないケースだったため

## (23) AYA 世代がん患者の県内・県外医療機関への紹介

**実現率：35.0%**

Q. 県立中部病院、那覇市立病院、琉球大学病院以外の方にのみお尋ねします。AYA 世代のがん患者のうち、県内のがん診療連携拠点病院または本土の専門医療機関に紹介した割合はどの程度ですか。

**【全体、職種別】**

- 全体では「0～24%」が 15.2%と最も多く、ついで「25～49%」が 3.5%、「50～74%」が 2.6%、「75～99%」が 2.4%、「100%」が 2.2%と続いた。
- 職種別では、「0～24%」に医師の回答が多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=578) | 職種 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=130) | 看護師 (n=367) | 薬剤師 (n=44) | 医療ソーシャルワーカー (n=37) |
| 0～24% | 15.2 | **35.4** | 10.1 | 4.5 | 8.1 |
| 25～49% | 3.5 | 5.4 | 3.5 | 0.0 | 0.0 |
| 50～74% | 2.6 | 5.4 | 2.2 | 0.0 | 0.0 |
| 75～99% | 2.4 | 5.4 | 1.6 | 2.3 | 0.0 |
| 100% | 2.2 | 5.4 | 1.4 | 0.0 | 2.7 |
| わからない | 74.0 | 43.1 | **81.2** | **93.2** | **89.2** |

**【性別、年代別】**

- 年代別では、「0～24%」に 60 代以上と 50 代の回答が多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=578) | 性別 | | 年代別 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 男性 (n=188) | 女性 (n=382) | 20代 (n=98) | 30代 (n=142) | 40代 (n=173) | 50代 (n=123) | 60代以上 (n=42) |
| 0～24% | 15.2 | **21.8** | 11.8 | 5.1 | 13.4 | 14.5 | **22.0** | **28.6** |
| 25～49% | 3.5 | 4.3 | 3.1 | 2.0 | 2.1 | 2.3 | 6.5 | 7.1 |
| 50～74% | 2.6 | 4.3 | 1.8 | 2.0 | 2.1 | 2.9 | 3.3 | 2.4 |
| 75～99% | 2.4 | 3.2 | 2.1 | 0.0 | 6.3 | 0.6 | 2.4 | 2.4 |
| 100% | 2.2 | 3.7 | 1.6 | 1.0 | 2.1 | 2.3 | 4.1 | 0.0 |
| わからない | 74.0 | 62.8 | **79.6** | **89.8** | 73.9 | 77.5 | 61.8 | 59.5 |

**【医療圏別】**

➢ 医療圏別では、「0～24%」の回答が南部に多く、「25～49%」が北部に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=578) | 医療圏 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 北部医療圏 (n=48) | 中部医療圏 (n=150) | 南部医療圏 (n=206) | 宮古医療圏 (n=42) | 八重山医療圏 (n=132) |
| 0～24% | 15.2 | 8.3 | 16.7 | **21.8** | 11.9 | 6.8 |
| 25～49% | 3.5 | **10.4** | 4.7 | 1.9 | 0.0 | 3.0 |
| 50～74% | 2.6 | 2.1 | 3.3 | 1.9 | 2.4 | 3.0 |
| 75～99% | 2.4 | 0.0 | 2.0 | 1.5 | 7.1 | 3.8 |
| 100% | 2.2 | 0.0 | 2.7 | 1.5 | 2.4 | 3.8 |
| わからない | 74.0 | **79.2** | 70.7 | 71.4 | 76.2 | **79.5** |

**【医療施設別】**

➢ 医療施設別では、「0～24%」の回答が地域がん診療病院で少なかった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=578) | 医療施設分類 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 都道府県または地域がん診療連携拠点病院 (n=0) | 地域がん診療病院 (n=223) | その他の医療機関 (n=355) |
| 0～24% | 15.2 | 0.0 | 8.1 | 19.7 |
| 25～49% | 3.5 | 0.0 | 3.6 | 3.4 |
| 50～74% | 2.6 | 0.0 | 2.7 | 2.5 |
| 75～99% | 2.4 | 0.0 | 3.6 | 1.7 |
| 100% | 2.2 | 0.0 | 3.1 | 1.7 |
| わからない | 74.0 | 0.0 | 78.9 | 71.0 |

**【医師の主たる分野別】**

➢ 医師の主たる分野別では、「0～24%」は全分野で回答が多く、「100%」は「手術が主」の医師に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=578) | 職種 | 医師の主たる分野 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=130) | 手術が主 (n=73) | 放射線治療が主 (n=4) | 薬物療法が主 (n=53) |
| 0～24% | 15.2 | **35.4** | **30.1** | **75.0** | **39.6** |
| 25～49% | 3.5 | 5.4 | 5.5 | 0.0 | 5.7 |
| 50～74% | 2.6 | 5.4 | 5.5 | **25.0** | 3.8 |
| 75～99% | 2.4 | 5.4 | 6.8 | 0.0 | 3.8 |
| 100% | 2.2 | 5.4 | **8.2** | 0.0 | 1.9 |
| わからない | 74.0 | 43.1 | 43.8 | 0.0 | 45.3 |

## 【AYA 世代がん患者を紹介できなかった理由】（自由記述）

- ✓ その世代の癌患者をみたことがないため
- ✓ 自院での治療希望があった。
- ✓ 該当患者はいなかった
- ✓ AYA 世代とは?
- ✓ 当院と上記以外の病院で間に合っているから。
- ✓ 当院で可能
- ✓ 本人が希望されず。
- ✓ 情報不足
- ✓ AYA 世代のかん患者の経験なし
- ✓ 緩和ケア病棟だから
- ✓ 治療は当院で可能だったため。妊孕性温存希望の場合は紹介しています。
- ✓ 通常は主科から紹介され、放射線治療科から紹介する必要がないため
- ✓ 琉大病院は敷居が高すぎる。求められるものが多すぎる。
- ✓ 紹介できる立場にないから
- ✓ 必要性がなかったため
- ✓ 妊孕性温存療法は琉球大学病院で行いましたが、その他の診療は当院の方が診療に係る専門医が多く、多診療科・多職種で連携しやすいと思ったからです。当院に該当疾患の専門医がいない場合は紹介させていただきました。
- ✓ 転院希望がなかった。
- ✓ 当院で対応が可能だから
- ✓ 不明
- ✓ 患者が希望しなかった
- ✓ 緩和ケア病棟のため
- ✓ 困ったことはない
- ✓ 当院で対応可能だった。
- ✓ ホスピスで治療期にないため
- ✓ 患者が、上記以外を希望
- ✓ 当院で治療が可能な場合もあるため
- ✓ オペの時のみ那覇市立などに紹介し当方の医師がオペを行い、通院治療は当方で行なっているシステムです。副作用の強い薬剤（エンハーツ）などを使用しなければならない事象において紹介させていただき加療をお願いしております。
- ✓ 対象患者が少ない
- ✓ 関与していない
- ✓ 上記質問対象の患者さんに関わったことがないため
- ✓ その世代の患者を担当しなかったので、正確には「いなかった。」になります。上記の項目から選べるのが「分からない。」しかないと判断しました。
- ✓ 遠望の為
- ✓ 当院で診療可能であれば紹介はしていません。
- ✓ 当院でコンプリートできる為。拠点病院よりも質が高い為。
- ✓ 対象患者がいなかった
- ✓ わからない
- ✓ 昨年当該病棟にて該当なし
- ✓ 時間が足りなかった
- ✓ 患者の希望を第一優先とするため
- ✓ 担当した患者にいなかったから
- ✓ 受け皿の力量が不十分すぎる
- ✓ 県内の血液担当医師の Web 上の集まりは月 1 回くらいあり定期的に検討している。キャパシティの点からすぐに紹介とならないこともある。
- ✓ わかりません
- ✓ 詳しい医師がいない
- ✓ 本人が望まなかったため。紹介やセカンドオピニオンが遅くなってしまったため。

## （24）離島・へき地患者の本島医療機関へのスムーズな送り出し

**実現率：70.2%　（前回調査：60.3%）**

Q. 北部地区医師会病院、県立北部病院、たいら内科クリニック、宮古病院、八重山病院の医療者の方にのみお尋ねします。離島やへき地に住む患者において、自施設から本島の専門医療機関に送った方が良いと評価した患者のうち、スムーズに送ることができた患者の割合はどの程度ですか。

**【全体、職種別】**

- 全体では「75～99%」が 17.4%と最も多く、ついで「50～74%」が 10.0%、「25～49%」が 6.1%、「100%」が 5.7%、「0～24%」が 3.0%と続いた。
- 職種別では、「75～99%」と「100%」に医師の回答が多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=230) | 職種 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=36) | 看護師 (n=162) | 薬剤師 (n=19) | 医療ソーシャルワーカー (n=13) |
| 0～24% | 3.0 | 5.6 | 3.1 | 0.0 | 0.0 |
| 25～49% | 6.1 | 5.6 | 7.4 | 0.0 | 0.0 |
| 50～74% | 10.0 | 13.9 | 10.5 | 0.0 | 7.7 |
| 75～99% | 17.4 | **44.4** | 14.2 | 0.0 | 7.7 |
| 100% | 5.7 | **16.7** | 3.7 | 0.0 | 7.7 |
| わからない | 57.8 | 13.9 | 61.1 | **100.0** | **76.9** |

**【性別、年代別】**

- 年代別では、「75～99%」に 60 代以上、50 代の回答が多く、「50～74%」に 20 代の回答が多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=230) | 性別 | | 年代別 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 男性 (n=68) | 女性 (n=157) | 20代 (n=43) | 30代 (n=64) | 40代 (n=69) | 50代 (n=40) | 60代以上 (n=14) |
| 0～24% | 3.0 | 2.9 | 2.5 | 0.0 | 4.7 | 2.9 | 2.5 | 7.1 |
| 25～49% | 6.1 | 5.9 | 6.4 | **11.6** | 7.8 | 2.9 | 5.0 | 0.0 |
| 50～74% | 10.0 | 8.8 | 10.8 | **18.6** | 4.7 | 10.1 | 10.0 | 7.1 |
| 75～99% | 17.4 | 22.1 | 15.3 | 4.7 | 18.8 | 13.0 | **30.0** | **35.7** |
| 100% | 5.7 | 8.8 | 3.8 | 7.0 | 7.8 | 2.9 | 5.0 | 7.1 |
| わからない | 57.8 | 51.5 | 61.1 | 58.1 | 56.3 | **68.1** | 47.5 | 42.9 |

【医療圏別】

➢ 医療圏別では、「わからない」の回答が北部に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=230) | 医療圏 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 北部医療圏 (n=49) | 中部医療圏 (n=0) | 南部医療圏 (n=0) | 宮古医療圏 (n=45) | 八重山医療圏 (n=136) |
| 0～24% | 3.0 | 2.0 | 0.0 | 0.0 | 2.2 | 3.7 |
| 25～49% | 6.1 | 4.1 | 0.0 | 0.0 | 2.2 | 8.1 |
| 50～74% | 10.0 | 8.2 | 0.0 | 0.0 | 11.1 | 10.3 |
| 75～99% | 17.4 | 16.3 | 0.0 | 0.0 | 20.0 | 16.9 |
| 100% | 5.7 | 4.1 | 0.0 | 0.0 | 6.7 | 5.9 |
| わからない | 57.8 | **65.3** | 0.0 | 0.0 | 57.8 | 55.1 |

【医療施設別】

➢ 医療施設別では、「75～99%」の回答がその他の医療機関と都道府県または地域がん診療連携拠点病院に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=230) | 医療施設分類 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 都道府県または地域がん診療連携拠点病院 (n=8) | 地域がん診療病院 (n=210) | その他の医療機関 (n=12) |
| 0～24% | 3.0 | 0.0 | 3.3 | 0.0 |
| 25～49% | 6.1 | 0.0 | 6.7 | 0.0 |
| 50～74% | 10.0 | 12.5 | 10.0 | 8.3 |
| 75～99% | 17.4 | **25.0** | 16.2 | **33.3** |
| 100% | 5.7 | **12.5** | 5.2 | 8.3 |
| わからない | 57.8 | 50.0 | 58.6 | 50.0 |

【医師の主たる分野別】

➢ 医師の主たる分野別では、「75～99%」の回答が「手術が主」「薬物療法が主」の医師に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=230) | 職種 | 医師の主たる分野 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=36) | 手術が主 (n=24) | 放射線治療が主 (n=0) | 薬物療法が主 (n=12) |
| 0～24% | 11.7 | **30.6** | **45.8** | 0.0 | 0.0 |
| 25～49% | 7.8 | 2.8 | 4.2 | 0.0 | 0.0 |
| 50～74% | 14.8 | **22.2** | 8.3 | 0.0 | **50.0** |
| 75～99% | 4.3 | 5.6 | 4.2 | 0.0 | 8.3 |
| 100% | 7.0 | **19.4** | **12.5** | 0.0 | **33.3** |
| わからない | 54.3 | 19.4 | 25.0 | 0.0 | 8.3 |

## （25）離島・へき地と本島との医療格差解消

**実現率：47.0%（※回答結果を 100 から差し引いた値）**

Q. 北部地区医師会病院、県立北部病院、たいら内科クリニック、宮古病院、八重山病院の医療者の方にのみお聞きします。離島やへき地に住むがん患者に対する医療において、中部医療圏や南部医療圏との医療格差が明らかに感じられた患者の割合はどの程度ですか。

**【全体、職種別】**

- 全体では「50～74%」が 14.8%と最も多く、ついで「0～24%」が 11.7%、「25～49%」が 7.8%、「100%」が 7.0%、「75～99%」が 4.3%と続いた。
- 職種別では、「0～24%」に医師と薬剤師の回答が多かった。

（%）

| 選択肢 | 全体 (n=230) | 職種 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=36) | 看護師 (n=162) | 薬剤師 (n=19) | 医療ソーシャルワーカー (n=13) |
| 0～24% | 11.7 | **30.6** | 7.4 | **21.1** | 0.0 |
| 25～49% | 7.8 | 2.8 | 7.4 | 10.5 | **23.1** |
| 50～74% | 14.8 | **22.2** | 14.8 | 5.3 | 7.7 |
| 75～99% | 4.3 | 5.6 | 4.9 | 0.0 | 0.0 |
| 100% | 7.0 | **19.4** | 4.9 | 0.0 | 7.7 |
| わからない | 54.3 | 19.4 | **60.5** | **63.2** | **61.5** |

**【性別、年代別】**

- 年代別では、「0～24%」に 60 代以上が多く、「50～74%」に 30 代が多く、「25～49%」に 20 代が多かった。

（%）

| 選択肢 | 全体 (n=230) | 性別 | | 年代別 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 男性 (n=68) | 女性 (n=157) | 20代 (n=43) | 30代 (n=64) | 40代 (n=69) | 50代 (n=40) | 60代以上 (n=14) |
| 0～24% | 11.7 | **22.1** | 6.4 | 2.3 | 12.5 | 15.9 | 7.5 | **28.6** |
| 25～49% | 7.8 | 4.4 | 9.6 | **16.3** | 3.1 | 7.2 | 7.5 | 7.1 |
| 50～74% | 14.8 | 11.8 | 16.6 | 11.6 | **21.9** | 11.6 | 15.0 | 7.1 |
| 75～99% | 4.3 | 4.4 | 4.5 | 9.3 | 1.6 | 4.3 | 5.0 | 0.0 |
| 100% | 7.0 | **13.2** | 4.5 | 4.7 | 10.9 | 5.8 | 5.0 | 7.1 |
| わからない | 54.3 | 44.1 | 58.6 | 55.8 | 50.0 | 55.1 | **60.0** | 50.0 |

【医療圏別】

➢ 医療圏別では、「0～24%」の回答が宮古に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=230) | 医療圏 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 北部医療圏 (n=49) | 中部医療圏 (n=) | 南部医療圏 (n=) | 宮古医療圏 (n=45) | 八重山医療圏 (n=136) |
| 0～24% | 11.7 | 10.2 | 0.0 | 0.0 | **17.8** | 10.3 |
| 25～49% | 7.8 | 10.2 | 0.0 | 0.0 | 6.7 | 7.4 |
| 50～74% | 14.8 | 16.3 | 0.0 | 0.0 | 6.7 | 16.9 |
| 75～99% | 4.3 | 2.0 | 0.0 | 0.0 | 4.4 | 5.1 |
| 100% | 7.0 | 4.1 | 0.0 | 0.0 | 11.1 | 6.6 |
| わからない | 54.3 | 57.1 | 0.0 | 0.0 | 53.3 | 53.7 |

【医療施設別】

➢ 医療施設別では、「100%」の回答が都道府県または地域がん診療連携拠点病院とその他医療機関に多く、「50～74%」の回答がその他の医療機関に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=230) | 医療施設分類 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 都道府県または地域がん診療連携拠点病院 (n=8) | 地域がん診療病院 (n=210) | その他の医療機関 (n=12) |
| 0～24% | 11.7 | 0.0 | 12.9 | 0.0 |
| 25～49% | 7.8 | 12.5 | 8.1 | 0.0 |
| 50～74% | 14.8 | 12.5 | 14.3 | **25.0** |
| 75～99% | 4.3 | 0.0 | 4.3 | 8.3 |
| 100% | 7.0 | **25.0** | 5.7 | **16.7** |
| わからない | 54.3 | 50.0 | 54.8 | 50.0 |

【医師の主たる分野別】

➢ 医師の主たる分野別では、「0～24%」に「手術が主」の医師の回答が多く、「100%」に「薬物療法が主」「手術が主」の医師の回答が多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=230) | 職種 | 医師の主たる分野 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=36) | 手術が主 (n=24) | 放射線治療が主 (n=) | 薬物療法が主 (n=12) |
| 0～24% | 11.7 | **30.6** | **45.8** | 0.0 | 0.0 |
| 25～49% | 7.8 | 2.8 | 4.2 | 0.0 | 0.0 |
| 50～74% | 14.8 | **22.2** | 8.3 | 0.0 | **50.0** |
| 75～99% | 4.3 | 5.6 | 4.2 | 0.0 | 8.3 |
| 100% | 7.0 | **19.4** | **12.5** | 0.0 | **33.3** |
| わからない | 54.3 | 19.4 | 25.0 | 0.0 | 8.3 |

## （26）離島・へき地患者に対する通院回数への配慮

**実現率：67.6%**

Q. 離島の医療施設勤務者を含む全ての医療従事者にお尋ねします。離島やへき地に住むがん患者のうち、なるべく少ない回数で通院が終わるように配慮した患者の割合はどの程度ですか。

**【全体、職種別】**

- 全体では「75～99%」が 11.9%と最も多く、ついで「50～74%」が 8.6%、「100%」が 4.7%、「25～49%」が 4.5%、「0～24%」が 3.6%と続いた。
- 職種別では、「75～99%」「50～74%」「100%」に、医師の回答が多かった。

（%）

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 職種 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=219) | 看護師 (n=621) | 薬剤師 (n=63) | 医療ソーシャルワーカー (n=48) |
| 0～24% | 3.6 | 3.7 | 3.5 | 4.8 | 2.1 |
| 25～49% | 4.5 | 6.4 | 4.3 | 3.2 | 0.0 |
| 50～74% | 8.6 | **15.1** | 7.2 | 1.6 | 6.3 |
| 75～99% | 11.9 | **25.1** | 8.1 | 6.3 | 8.3 |
| 100% | 4.7 | **14.2** | 1.9 | 0.0 | 4.2 |
| わからない | 66.7 | 35.6 | **74.9** | **84.1** | **79.2** |

**【性別、年代別】**

- 年代別では、「100%」の回答に 60 代以上が多かった。

（%）

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 性別 | | 年代別 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 男性 (n=317) | 女性 (n=622) | 20代 (n=206) | 30代 (n=251) | 40代 (n=259) | 50代 (n=178) | 60代以上 (n=57) |
| 0～24% | 3.6 | 5.0 | 2.7 | 1.0 | 3.6 | 5.0 | 3.9 | 5.3 |
| 25～49% | 4.5 | 6.0 | 3.9 | 2.9 | 5.2 | 5.0 | 4.5 | 5.3 |
| 50～74% | 8.6 | 9.1 | 8.5 | 8.3 | 8.0 | 9.3 | 8.4 | 10.5 |
| 75～99% | 11.9 | 15.1 | 10.1 | 7.3 | 10.8 | 13.1 | 16.9 | 12.3 |
| 100% | 4.7 | 8.2 | 3.1 | 1.0 | 5.2 | 3.9 | 7.9 | **10.5** |
| わからない | 66.7 | 56.5 | **71.7** | **79.6** | 67.3 | 63.7 | 58.4 | 56.1 |

【医療圏別】

➢ 医療圏別では、「75～99%」の回答が宮古に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 医療圏 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 北部医療圏 (n=49) | 中部医療圏 (n=217) | 南部医療圏 (n=504) | 宮古医療圏 (n=45) | 八重山医療圏 (n=136) |
| 0～24% | 3.6 | 0.0 | 5.1 | 3.4 | 2.2 | 3.7 |
| 25～49% | 4.5 | 8.2 | 4.6 | 4.4 | 2.2 | 4.4 |
| 50～74% | 8.6 | 12.2 | 8.8 | 7.7 | 4.4 | 11.8 |
| 75～99% | 11.9 | 4.1 | 13.4 | 12.7 | **17.8** | 7.4 |
| 100% | 4.7 | 4.1 | 4.6 | 5.0 | 6.7 | 3.7 |
| わからない | 66.7 | 71.4 | 63.6 | 66.9 | 66.7 | 69.1 |

【医療施設別】

➢ 医療施設別では、目立った特徴は見られなかった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 医療施設分類 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 都道府県または地域がん診療連携拠点病院 (n=373) | 地域がん診療病院 (n=223) | その他の医療機関 (n=355) |
| 0～24% | 3.6 | 1.6 | 2.7 | 6.2 |
| 25～49% | 4.5 | 5.1 | 4.9 | 3.7 |
| 50～74% | 8.6 | 9.9 | 9.0 | 7.0 |
| 75～99% | 11.9 | 11.0 | 8.5 | 14.9 |
| 100% | 4.7 | 3.8 | 3.6 | 6.5 |
| わからない | 66.7 | 68.6 | 71.3 | 61.7 |

【医師の主たる分野別】

➢ 医師の主たる分野別では、「75～99%」に「手術が主」「放射線治療が主」の医師の回答が多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 職種 | 医師の主たる分野 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=219) | 手術が主 (n=120) | 放射線治療が主 (n=8) | 薬物療法が主 (n=91) |
| 0～24% | 3.6 | 3.7 | 1.7 | 0.0 | 6.6 |
| 25～49% | 4.5 | 6.4 | 5.8 | 0.0 | 7.7 |
| 50～74% | 8.6 | **15.1** | 11.7 | 12.5 | **19.8** |
| 75～99% | 11.9 | **25.1** | **33.3** | **25.0** | 14.3 |
| 100% | 4.7 | **14.2** | **16.7** | **12.5** | **11.0** |
| わからない | 66.7 | 35.6 | 30.8 | 50.0 | 40.7 |

## （27）県内におけるがん医療の集約化と機能分化

**平均スコア：-2.5**

Q. 沖縄県内において、がん医療の適切な集約化と機能分化が十分にできていると思いますか。

**【全体、職種別】**

- 全体では「どちらともいえない」が 47.6%と最も多く、ついで「おおむねそう思う」が 24.1%、「あまりそう思わない」が 21.7%、「そう思わない」が 5.2%、「そう思う」が 1.5%と続いた。
- 職種別では、「あまりそう思わない」「そう思わない」に医師の回答が多かった。

（%）

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 職種 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=219) | 看護師 (n=621) | 薬剤師 (n=63) | 医療ソーシャルワーカー (n=48) |
| そう思う | 1.5 | 1.8 | 1.4 | 1.6 | 0.0 |
| おおむねそう思う | 24.1 | 20.5 | 24.6 | 28.6 | 27.1 |
| どちらともいえない | 47.6 | 32.9 | 52.3 | 50.8 | 50.0 |
| あまりそう思わない | 21.7 | **31.5** | 18.5 | 17.5 | 22.9 |
| そう思わない | 5.2 | **13.2** | 3.1 | 1.6 | 0.0 |

**【性別、年代別】**

- 年代別では、「あまりそう思わない」に 50 代、「おおむねそう思う」に 20 代の回答がそれぞれ多かった。

（%）

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 性別 | | 年代別 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 男性 (n=317) | 女性 (n=622) | 20代 (n=206) | 30代 (n=251) | 40代 (n=259) | 50代 (n=178) | 60代以上 (n=57) |
| そう思う | 1.5 | 1.6 | 1.4 | 2.4 | 0.8 | 0.8 | 2.8 | 0.0 |
| おおむねそう思う | 24.1 | 26.2 | 23.3 | **38.3** | 20.3 | 19.3 | 19.7 | 24.6 |
| どちらともいえない | 47.6 | 39.7 | 51.3 | 51.5 | 51.0 | 47.5 | 39.3 | 45.6 |
| あまりそう思わない | 21.7 | 23.7 | 20.6 | 7.8 | 24.3 | 23.9 | **30.9** | 21.1 |
| そう思わない | 5.2 | 8.8 | 3.4 | 0.0 | 3.6 | 8.5 | 7.3 | 8.8 |

【医療圏別】

➢ 医療圏別では、「どちらともいえない」の回答が八重山、宮古に、「あまりそう思わない」の回答が北部にそれぞれ多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 医療圏 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 北部医療圏 (n=49) | 中部医療圏 (n=217) | 南部医療圏 (n=504) | 宮古医療圏 (n=45) | 八重山医療圏 (n=136) |
| そう思う | 1.5 | 2.0 | 0.5 | 1.8 | 0.0 | 2.2 |
| おおむねそう思う | 24.1 | 20.4 | 25.8 | 25.4 | 17.8 | 19.9 |
| どちらともいえない | 47.6 | 44.9 | 43.8 | 45.8 | **55.6** | **58.8** |
| あまりそう思わない | 21.7 | **30.6** | 24.4 | 20.8 | 24.4 | 16.2 |
| そう思わない | 5.2 | 2.0 | 5.5 | 6.2 | 2.2 | 2.9 |

【医療施設別】

➢ 医療施設別では、「どちらともいえない」の回答が地域がん診療病院に、「あまりそう思わない」の回答がその他の医療機関にそれぞれ多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 医療施設分類 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 都道府県または地域がん診療連携拠点病院 (n=373) | 地域がん診療病院 (n=223) | その他の医療機関 (n=355) |
| そう思う | 1.5 | 1.3 | 1.8 | 1.4 |
| おおむねそう思う | 24.1 | 29.0 | 19.7 | 21.7 |
| どちらともいえない | 47.6 | 46.4 | **56.1** | 43.7 |
| あまりそう思わない | 21.7 | 18.0 | 19.7 | **26.8** |
| そう思わない | 5.2 | 5.4 | 2.7 | 6.5 |

【医師の主たる分野別】

➢ 医師の主たる分野別では、「そう思わない」の回答が「放射線治療が主」の医師に多く、「あまりそう思わない」の回答が「薬物療法が主」「手術が主」の医師に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 職種 | 医師の主たる分野 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=219) | 手術が主 (n=120) | 放射線治療が主 (n=8) | 薬物療法が主 (n=91) |
| そう思う | 1.5 | 1.8 | 3.3 | 0.0 | 0.0 |
| おおむねそう思う | 24.1 | 20.5 | 20.8 | 0.0 | 22.0 |
| どちらともいえない | 47.6 | 32.9 | 34.2 | 25.0 | 31.9 |
| あまりそう思わない | 21.7 | **31.5** | **28.3** | 25.0 | **36.3** |
| そう思わない | 5.2 | **13.2** | **13.3** | **50.0** | 9.9 |

## (28) 医師への意見の言いやすさ(医師以外が回答)

**平均スコア:13.9　(前回調査:17.2)**

Q. 医師以外の医療スタッフの方にお聞きします。がん患者のケアに関して、自分の意見を医師に対して自由に言えますか。

**【全体、職種別】**

- 全体では「おおむね言える」が 38.5%と最も多く、ついで「どちらともいえない」が 36.2%、「あまり言えない」が 17.3%、「言える」が 5.6%、「言えない」が 2.3%と続いた。
- 職種別では、「おおむね言える」に医療ソーシャルワーカー、薬剤師の回答が多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=732) | 職種 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=0) | 看護師 (n=621) | 薬剤師 (n=63) | 医療ソーシャルワーカー (n=48) |
| 言える | 5.6 | 0.0 | 5.5 | 9.5 | 2.1 |
| おおむね言える | 38.5 | 0.0 | 36.4 | **44.4** | **58.3** |
| どちらともいえない | 36.2 | 0.0 | 37.5 | 33.3 | 22.9 |
| あまり言えない | 17.3 | 0.0 | 18.0 | 12.7 | 14.6 |
| 言えない | 2.3 | 0.0 | 2.6 | 0.0 | 2.1 |

**【性別、年代別】**

- 性別では、「おおむね言える」に男性の回答が多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=732) | 性別 | | 年代別 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 男性 (n=146) | 女性 (n=578) | 20代 (n=195) | 30代 (n=195) | 40代 (n=203) | 50代 (n=116) | 60代以上 (n=23) |
| 言える | 5.6 | 4.1 | 6.1 | 6.2 | 4.1 | 5.4 | 7.8 | 4.3 |
| おおむね言える | 38.5 | **44.5** | 37.4 | 37.4 | 42.1 | 36.5 | 38.8 | 34.8 |
| どちらともいえない | 36.2 | 33.6 | 36.5 | 35.4 | 33.3 | 39.9 | 35.3 | 39.1 |
| あまり言えない | 17.3 | 16.4 | 17.5 | 20.0 | 17.9 | 16.3 | 13.8 | 17.4 |
| 言えない | 2.3 | 1.4 | 2.6 | 1.0 | 2.6 | 2.0 | 4.3 | 4.3 |

【医療圏別】

➢ 医療圏別では、「どちらともいえない」の回答が宮古に、「おおむね言える」の回答が北部にそれぞれ多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=732) | 医療圏 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 北部医療圏 (n=40) | 中部医療圏 (n=159) | 南部医療圏 (n=379) | 宮古医療圏 (n=29) | 八重山医療圏 (n=125) |
| 言える | 5.6 | 5.0 | 5.7 | 6.1 | 3.4 | 4.8 |
| おおむね言える | 38.5 | **45.0** | 39.0 | 40.9 | 27.6 | 31.2 |
| どちらともいえない | 36.2 | 37.5 | 36.5 | 33.2 | **51.7** | 40.8 |
| あまり言えない | 17.3 | 12.5 | 17.0 | 17.7 | 17.2 | 18.4 |
| 言えない | 2.3 | 0.0 | 1.9 | 2.1 | 0.0 | 4.8 |

【医療施設別】

➢ 医療施設別では、「どちらともいえない」の回答が地域がん診療病院に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=732) | 医療施設分類 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 都道府県または地域がん診療連携拠点病院 (n=284) | 地域がん診療病院 (n=192) | その他の医療機関 (n=256) |
| 言える | 5.6 | 4.2 | 4.7 | 7.8 |
| おおむね言える | 38.5 | 40.8 | 33.3 | 39.8 |
| どちらともいえない | 36.2 | 33.8 | **41.7** | 34.8 |
| あまり言えない | 17.3 | 19.4 | 17.7 | 14.8 |
| 言えない | 2.3 | 1.8 | 2.6 | 2.7 |

## （29）他スタッフの意見の尊重（医師が回答）

**平均スコア：63.9　（前回調査：66.5）**

Q. 医師の方にお聞きします。他の医療スタッフの話に耳を傾けていますか。

**【全体】**

- 全体では「おおむね傾けている」が 53.9%と最も多く、ついで「傾けている」が 37.4%、「どちらともいえない」が 7.8%、「あまり傾けていない」が 0.9%と続いた。

（%）

| 選択肢 | 全体 (n=219) | 職種 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=219) | 看護師 (n=0) | 薬剤師 (n=0) | 医療ソーシャルワーカー (n=0) |
| 傾けている | 37.4 | 37.4 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| おおむね傾けている | 53.9 | 53.9 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| どちらともいえない | 7.8 | 7.8 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| あまり傾けていない | 0.9 | 0.9 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 傾けていない | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |

**【性別、年代別】**

- 年代別では、「おおむね傾けている」に 50 代、「傾けている」に 40 代、「どちらともいえない」「あまり傾けていない」に 20 代が多かった。

（%）

| 選択肢 | 全体 (n=219) | 性別 | | 年代別 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 男性 (n=171) | 女性 (n=44) | 20代 (n=11) | 30代 (n=56) | 40代 (n=56) | 50代 (n=62) | 60代以上 (n=34) |
| 傾けている | 37.4 | 39.2 | 31.8 | 18.2 | 30.4 | **50.0** | 33.9 | 41.2 |
| おおむね傾けている | 53.9 | 52.0 | **59.1** | 54.5 | 57.1 | 42.9 | **61.3** | 52.9 |
| どちらともいえない | 7.8 | 8.2 | 6.8 | **18.2** | 10.7 | 7.1 | 4.8 | 5.9 |
| あまり傾けていない | 0.9 | 0.6 | 2.3 | **9.1** | 1.8 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 傾けていない | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |

【医療圏別】

➢ 医療圏別では、「おおむね傾けている」の回答が宮古、北部、八重山に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=219) | 医療圏 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 北部医療圏 (n=9) | 中部医療圏 (n=58) | 南部医療圏 (n=125) | 宮古医療圏 (n=16) | 八重山医療圏 (n=11) |
| 傾けている | 37.4 | 33.3 | 41.4 | 39.2 | 18.8 | 27.3 |
| おおむね傾けている | 53.9 | **66.7** | 50.0 | 51.2 | **75.0** | **63.6** |
| どちらともいえない | 7.8 | 0.0 | 6.9 | 8.8 | 6.3 | 9.1 |
| あまり傾けていない | 0.9 | 0.0 | 1.7 | 0.8 | 0.0 | 0.0 |
| 傾けていない | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |

【医療施設別】

➢ 医療施設別では、「おおむね傾けている」の回答が地域がん診療病院に、「傾けている」の回答がその他の医療機関に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=219) | 医療施設分類 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 都道府県または地域がん診療連携拠点病院 (n=89) | 地域がん診療病院 (n=31) | その他の医療機関 (n=99) |
| 傾けている | 37.4 | 29.2 | 29.0 | **47.5** |
| おおむね傾けている | 53.9 | 58.4 | **64.5** | 46.5 |
| どちらともいえない | 7.8 | 10.1 | 6.5 | 6.1 |
| あまり傾けていない | 0.9 | 2.2 | 0.0 | 0.0 |
| 傾けていない | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |

【医師の主たる分野別】

➢ 医師の主たる分野別では、「傾けている」の回答が「放射線治療が主」の医師に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=219) | 職種 | 医師の主たる分野 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=219) | 手術が主 (n=120) | 放射線治療が主 (n=8) | 薬物療法が主 (n=91) |
| 傾けている | 37.4 | 37.4 | 37.5 | **62.5** | 35.2 |
| おおむね傾けている | 53.9 | 53.9 | 53.3 | 25.0 | 57.1 |
| どちらともいえない | 7.8 | 7.8 | 7.5 | 12.5 | 7.7 |
| あまり傾けていない | 0.9 | 0.9 | 1.7 | 0.0 | 0.0 |
| 傾けていない | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |

## （30）職場のキャリア育成環境

**平均スコア：30.7**

Q. 今の職場は、あなたが必要な知識を備えた専門的人材になれる環境やキャリア形成（専門資格を取得するなど）を、支援してくれていますか。

**【全体、職種別】**

- 全体では「おおむね支援してくれている」が 49.1%と最も多く、ついで「どちらともいえない」が 30.6%、「支援してくれている」が 11.5%、「あまり支援してくれていない」が 6.9%、「支援してくれていない」が 1.9%と続いた。
- 職種別では、「おおむね支援してくれている」に、医療ソーシャルワーカー、薬剤師の回答が多かった。

（%）

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 職種 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=219) | 看護師 (n=621) | 薬剤師 (n=63) | 医療ソーシャルワーカー (n=48) |
| 支援してくれている | 11.5 | 12.3 | 11.4 | 12.7 | 6.3 |
| おおむね支援してくれている | 49.1 | 52.5 | 45.9 | **57.1** | **64.6** |
| どちらともいえない | 30.6 | 23.3 | 34.9 | 22.2 | 18.8 |
| あまり支援してくれていない | 6.9 | 9.1 | 6.3 | 4.8 | 8.3 |
| 支援してくれていない | 1.9 | 2.7 | 1.4 | 3.2 | 2.1 |

**【性別、年代別】**

- 年代別では、「おおむね支援してくれている」の回答に 60 代以上が多かった。

（%）

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 性別 | | 年代別 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 男性 (n=317) | 女性 (n=622) | 20代 (n=206) | 30代 (n=251) | 40代 (n=259) | 50代 (n=178) | 60代以上 (n=57) |
| 支援してくれている | 11.5 | 11.0 | 11.9 | 9.7 | 10.0 | 13.9 | 11.8 | 12.3 |
| おおむね支援してくれている | 49.1 | 51.7 | 48.1 | 52.4 | 50.2 | 44.0 | 47.2 | **61.4** |
| どちらともいえない | 30.6 | 26.5 | 32.2 | 35.4 | 27.9 | 32.0 | 29.8 | 21.1 |
| あまり支援してくれていない | 6.9 | 8.2 | 6.3 | 1.9 | 8.8 | 8.9 | 8.4 | 3.5 |
| 支援してくれていない | 1.9 | 2.5 | 1.6 | 0.5 | 3.2 | 1.2 | 2.8 | 1.8 |

【医療圏別】

➢ 医療圏別では、「おおむね支援してくれている」の回答が北部に、「どちらともいえない」の回答が宮古、八重山に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 医療圏 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 北部医療圏 (n=49) | 中部医療圏 (n=217) | 南部医療圏 (n=504) | 宮古医療圏 (n=45) | 八重山医療圏 (n=136) |
| 支援してくれている | 11.5 | 14.3 | 13.8 | 12.3 | 0.0 | 7.4 |
| おおむね支援してくれている | 49.1 | **57.1** | 52.5 | 52.8 | 44.4 | 28.7 |
| どちらともいえない | 30.6 | 16.3 | 25.8 | 26.8 | **51.1** | **50.7** |
| あまり支援してくれていない | 6.9 | **12.2** | 6.9 | 6.2 | 2.2 | 9.6 |
| 支援してくれていない | 1.9 | 0.0 | 0.9 | 2.0 | 2.2 | 3.7 |

【医療施設別】

➢ 医療施設別では、「どちらともいえない」の回答が地域がん診療病院に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 医療施設分類 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 都道府県または地域がん診療連携拠点病院 (n=373) | 地域がん診療病院 (n=223) | その他の医療機関 (n=355) |
| 支援してくれている | 11.5 | 12.1 | 8.5 | 12.7 |
| おおむね支援してくれている | 49.1 | 53.4 | 39.0 | 51.0 |
| どちらともいえない | 30.6 | 25.5 | **42.6** | 28.5 |
| あまり支援してくれていない | 6.9 | 6.7 | 7.2 | 7.0 |
| 支援してくれていない | 1.9 | 2.4 | 2.7 | 0.8 |

【医師の主たる分野別】

➢ 医師の主たる分野別では、「おおむね支援してくれている」の回答が「手術が主」の医師に多く、「支援してくれている」の回答が「放射線治療が主」「手術が主」の医師に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 職種 | 医師の主たる分野 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=219) | 手術が主 (n=120) | 放射線治療が主 (n=8) | 薬物療法が主 (n=91) |
| 支援してくれている | 11.5 | 12.3 | **17.5** | **25.0** | 4.4 |
| おおむね支援してくれている | 49.1 | 52.5 | **56.7** | 37.5 | 48.4 |
| どちらともいえない | 30.6 | 23.3 | 20.8 | 25.0 | 26.4 |
| あまり支援してくれていない | 6.9 | 9.1 | 5.0 | 0.0 | **15.4** |
| 支援してくれていない | 1.9 | 2.7 | 0.0 | **12.5** | 5.5 |

# 5. 調査票

# 第2回医療者調査　最終案　2024.2.5

**【回答者の同意・対象確認】**

問１．冒頭の説明を読み、この調査に参加することに同意しますか。

１．同意します　　２．同意しません

２➡調査終了です。ありがとうございました。

問２．2023年に、がん患者さんの診療に携わったことがありますか。

１．ある　　２．ない

２➡がん患者さんの診療に携わったことがない場合は、こちらで調査終了です。ありがとうございました。

**【回答者の属性】**

問３．あなたの職種をお選びください。

１．医師　２．看護師　３．薬剤師　４．医療ソーシャルワーカー

問４．あなたの性別をお選びください。

１．男性　２．女性　３．答えたくない　４．その他（　　）

問５．あなたの年齢をお選びください。

１．20代　２．30代　３．40代　４．50代　５．60代　６．70歳以上

問６．あなたが勤務する施設の医療圏をお選びください。

１．北部医療圏　２．中部医療圏　３．南部医療圏（琉球大学病院と浦添市、西原町所在の病院を含む）
４．宮古医療圏　５．八重山医療圏

問７．あなたが勤務している医療施設はどれに当てはまりますか。

１．都道府県または地域がん診療連携拠点病院（琉球大学病院、中部病院、那覇市立病院）
２．地域がん診療病院（北部地区医師会病院、宮古病院、八重山病院）　３．その他の医療機関

問８．医師の方にお尋ねします。あなたの主たる分野をお選びください。

１．手術が主　２．放射線治療が主　３．薬物療法が主

**ここからは2023年1月～12月の「がん診療」についてお伺いします。**

問９．医師の方にお尋ねします。
2023年に、レジメン登録が遅かったために、患者へのタイムリーな投薬が遅れたことがありましたか。

１．あった　２．ややあった　３．どちらともいえない　４．あまりなかった　５．なかった

問10．2023年に、看護師による痛みのモニタリングの結果で痛むがあるとした患者のうち、その結果が主治医（チーム）に速やかに伝えられた患者の割合はどの程度ですか。

１．0～24%　２．25～49%　３．50～74%　４．75～99%　５．100%　６．わからない

問11．2023年に、看護師による痛みのモニタリングの結果が主治医（チーム）に伝えられた患者のうち、主治医（チーム）が速やかに必要な緩和ケアを行った患者の割合はどの程度ですか。

１．0～24%　２．25～49%　３．50～74%　４．75～99%　５．100%　６．わからない

問12．2023年に、看護師による痛みのモニタリングの結果が主治医（チーム）に伝えられた患者において、主治医（チーム）では対応が十分に行えない患者のうち、主治医（チーム）から速やかに緩和ケアチームに紹介が行われた患者の割合はどの程度ですか。

１．0～24%　２．25～49%　３．50～74%　４．75～99%　５．100%　６．わからない

**ここからは2023年1月～12月に新たに担当したがん患者への「説明や情報提供の状況」についてお伺いします。**

問13．治療方針（告知等）の説明の際に、医師以外の職種も参加している割合はどの程度ですか。

１．0～24%　２．25～49%　３．50～74%　４．75～99%　５．100%　６．わからない

問14．治療スケジュールの見通しについて、治療方針の決定までに、十分な情報を提供できた患者の割合はどの程度ですか。

１．0～24%　２．25～49%　３．50～74%　４．75～99%　５．100%　６．わからない

問15．医療費について、治療方針の決定までに、十分な情報を提供できた患者の割合はどの程度ですか。

１．0～24%　２．25～49%　３．50～74%　４．75～99%　５．100%　６．わからない

問16．就労の継続について、治療開始前に、十分な情報を提供できた患者の割合はどの程度ですか。

１．0%　２．1～5%　３．6～10%　４．11～20%　５．21～50%　６．51～100%　７．わからない

問17．アピアランスケアについて、治療開始前に、十分な情報提供を行った患者の割合はどの程度ですか。

１．0%　２．1～5%　３．6～10%　４．11～20%　５．21～50%　６．51～100%　７．わからない

問18．がん診療連携拠点病院等に設置されている「がん相談支援センター」について、十分な情報提供を行った患者の割合はどの程度ですか。

１．0%　２．1～5%　３．6～10%　４．11～20%　５．21～50%　６．51～100%　７．わからない

問19．患者サロン（ゆんたく会）、ピアサポート、患者会について、十分な情報提供を行った患者の割合はどの程度ですか。

１．0%　２．1～5%　３．6～10%　４．11～20%　５．21～50%　６．51～100%　７．わからない

問20．薬物療法の開始前に、副作用の出る時期の説明も含めて、十分な説明を行った患者の割合はどの程度ですか。

１．0～24%　２．25～49%　３．50～74%　４．75～99%　５．100%　６．わからない

問21．がんゲノム医療に関する十分な情報提供をした割合はどの程度ですか。

１．0%　２．1～5%　３．6～10%　４．11～20%　５．21～50%　６．51～100%　７．わからない

問22．医師と看護師の方にお尋ねします。
妊孕性温存療法が必要な患者のうち、実際に妊孕性温存療法の説明を行った患者の割合はどの程度ですか。

１．0～24%　２．25～49%　３．50～74%　４．75～99%　５．100%　６．わからない

**ここからは2023年1月～12月に新たに担当したがん患者への「診療の状況」についてお伺いします。**

問23．手術を受けた患者のうち、質の高い最適な手術を提供できた患者の割合はどの程度ですか。

１．0～24%　２．25～49%　３．50～74%　４．75～99%　５．100%　６．わからない

問24．放射線治療を受けた患者のうち、その適応の判断を多職種で議論された上で、提供できた患者の割合はどの程度ですか。

１．0～24%　２．25～49%　３．50～74%　４．75～99%　５．100%　６．わからない

問25．薬物療法を受けた患者のうち、質の高い薬物療法を提供できた患者の割合はどの程度ですか。

１．0～24%　２．25～49%　３．50～74%　４．75～99%　５．100%　６．わからない

問26．在宅医療を希望された患者のうち、実際に在宅医療に移行した患者の割合はどの程度ですか。

１．0～24%　２．25～49%　３．50～74%　４．75～99%　５．100%　６．わからない

# 第2回医療者調査　最終案　2024.2.5

問27.　リハビリテーションを行った患者の割合はどの程度ですか。

| |
|---|
| 1．0%　2．1～5%　3．6～10%　4．11～20%　5．21～50%　6．51～100%　7．わからない |

問28.　高齢者のがん患者に対して、治療前に「※高齢者機能評価」を行った割合はどの程度ですか。
※高齢者機能評価：高齢者の身体的、社会的機能を総合的に評価する手法です。CGA7、G8、VES-13、fTRST、MINI-COG、Vitality index 等

| |
|---|
| 1．0%　2．1～5%　3．6～10%　4．11～20%　5．21～50%　6．51～100%　7．わからない |

**ここからは2023年1月～12月に新たに担当したがん患者の「他医療機関への紹介」についてお伺いします。**

問29.　希少がん患者のうち、診断又は治療目的で、県立中部病院、琉球大学病院または本土の専門医療機関に紹介した割合はどの程度ですか。※県立中部病院と琉球大学病院に勤務されている方は最後の「この質問の対象外」をお選びください。

| |
|---|
| 1．0～24%　2．25～49%　3．50～74%　4．75～99%　5．100%　6．わからない<br>7．この質問の対象外 |

問30.　上記医療機関に紹介できなかった理由について、具体的にお書きください。（長文が書き込めます）
紹介できなかった理由

| |
|---|
| |

問31.　難治がん患者のうち、診断又は治療目的で、沖縄県における「掲載要件を満たす、がん診療を行う県内医療施設一覧」（リンク参照）または本土の専門医療機関に紹介した割合はどの程度ですか。（自施設が施設一覧に記載されている場合も含む）
がん診療を行う県内医療施設一覧：https://www.pref.okinawa.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/006/327/gansinsyoiryosisetur5.pdf

| |
|---|
| 1．0～24%　2．25～49%　3．50～74%　4．75～99%　5．100%　6．わからない |

問32.　上記医療機関に紹介できなかった理由について、具体的にお書きください。（長文が書き込めます）
紹介できなかった理由

| |
|---|
| |

問33.　県立中部病院、那覇市立病院、琉球大学病院以外の方にのみお尋ねします。
AYA世代のがん患者のうち、診断又は治療目的で、県内のがん診療連携拠点病院（県立中部病院、那覇市立病院または琉球大学病院）または本土の専門医療機関に紹介した割合はどの程度ですか。

| |
|---|
| 1．0～24%　2．25～49%　3．50～74%　4．75～99%　5．100%　6．わからない |

問34.　上記医療機関に紹介できなかった理由について、具体的にお書きください。（長文が書き込めます）
紹介できなかった理由

| |
|---|
| |

**ここからは2023年1月～12月に新たに担当したがん患者への「離島・へき地の医療体制」についてお伺いします。**

問35.　北部地区医師会病院、県立北部病院、たいら内科クリニック、宮古病院、八重山病院の方にのみお尋ねします。
離島やへき地に住む患者において、自施設から本島の専門医療機関に送った方が良いと評価した患者のうち、スムーズに送ることができた患者の割合はどの程度ですか。

| |
|---|
| 1．0～24%　2．25～49%　3．50～74%　4．75～99%　5．100%　6．わからない |

問36.　北部地区医師会病院、県立北部病院、たいら内科クリニック、宮古病院、八重山病院の方にのみお尋ねします。
離島やへき地に住む患者のうち、中部医療圏や南部医療圏との医療格差が明らかに感じられた患者の割合はどの程度ですか。

| |
|---|
| 1．0～24%　2．25～49%　3．50～74%　4．75～99%　5．100%　6．わからない |

問37.　離島の医療施設勤務者を含む全ての医療従事者にお尋ねします。
離島やへき地に住む患者のうち、なるべく少ない回数で通院が終わるように配慮した患者の割合はどの程度ですか。

| |
|---|
| 1．0～24%　2．25～49%　3．50～74%　4．75～99%　5．100%　6．わからない |

**ここからは沖縄県のがん医療体制等についてお伺いします。**

問38.　沖縄県内において、がん医療の適切な集約化と機能分化が十分にできていると思いますか。

| |
|---|
| 1．そう思う　2．おおむねそう思う　3．どちらともいえない<br>4．あまりそう思わない　5．そう思わない |

問39.　医師以外の医療スタッフの方にお尋ねします。
がん患者のケアに関して、自分の意見を医師に対して自由に言えますか。

| |
|---|
| 1．言える　2．おおむね言える　3．どちらともいえない　4．あまり言えない　5．言えない |

問40.　医師の方にお尋ねします。
他の医療スタッフの話に耳を傾けていますか。

| |
|---|
| 1．傾けている　2．おおむね傾けている　3．どちらともいえない<br>4．あまり傾けていない　5．傾けていない |

問41.　今の職場は、あなたが必要な知識を備えた専門的人材になれる環境やキャリア形成（専門資格を取得するなど）を支援してくれていますか。

| |
|---|
| 1．支援してくれている　2．おおむね支援してくれている　3．どちらともいえない<br>4．あまり支援してくれていない　5．支援してくれていない |

**調査は以上です。ご協力ありがとうございました。**

# 第2回　医療者調査報告書
# 付属資料

NPO 法人　疾病対策情報センター

令和6年9月３０日

# 目次

1. 調査概要 ..... 3
2. 調査結果概要 ..... 6
3. 調査結果詳細（平均スコア・実現率） ..... 11
がん診療（問9-12） ..... 12
説明や情報提供の状況（問13-22） ..... 16
診療の状況（問23-28） ..... 26
他医療機関への紹介（問29-34） ..... 32
離島・へき地の医療体制（問35-37） ..... 35
沖縄県のがん医療体制等（問38-41） ..... 38
4. 全体の注意点について ..... 42
5. 今後にむけた提言 ..... 43

本資料の位置づけ：

第2回医療者調査においては、海邦総研が受託して一定の集計に基づく報告書は提出されている。
本付属資料においては海邦報告書を補完し、解釈の注意点を明確にすることを目的に作成した。
その際
・遅れて提出された8名の回答者を追加（ただし、ほとんど割合などは変化していない。）
・数値の選択肢がそれぞれ異なることに関する考察
・各問いにおいて「わからない」と回答した割合も含めた解釈
・全体として、回答傾向「わからない」の多さから考えられる質問紙作成への提案
を追加している。

主としては海邦総研の報告書を参照しながら解釈を進めることを推奨する。

# 1.　調査概要

### (2) 調査対象者

回答総数は1274票、うち2023年にがん患者に携わっていない者、同意のない者の計316票は除し、最終的な回答者数958名である。なお、海邦総研の報告書では951名となっているが、遅れて7名の回答が追加された。

### (3) 調査実施医療施設

参加施設は報告のとおりであるが、地域ごとに病院を提示すると以下のようである。

依頼対象施設と種別(26施設)

| | | |
|---|---|---|
| 北部 | 北部地区医師会病院 | 地域がん診療病院 |
| | 北部病院 | |
| | たいら内科クリニック | |
| 中部 | 中部病院 | 地域がん診療連携拠点病院 |
| | 中頭病院 | |
| | 中部徳洲会病院 | |
| | ハートライフ病院 | |
| | 沖縄病院 | |
| 南部 | 琉球大学病院 | 都道府県がん診療連携拠点病院 |
| | 那覇市立病院 | 地域がん診療連携拠点病院 |
| | アドベンチストメディカルセンター | |
| | 与那原中央病院 | |
| | 浦添総合病院 | |
| | マンマ家クリニック | |
| | 宮良クリニック | |
| | 那覇西クリニックまかび | |
| | 那覇西クリニック | |
| | 沖縄赤十字病院 | |
| | 大浜第一病院 | |
| | 沖縄協同病院 | |
| | 南部医療センター・こども医療センター | |
| | 豊見城中央病院 | |
| | 友愛医療センター | |
| | 南部徳洲会病院 | |
| 宮古 | 宮古病院 | 地域がん診療病院 |
| 八重山 | 八重山病院 | 地域がん診療病院 |

**(4)　調査期間**

2024年2月13日～3月31日ではるが、実際には4月10日まで回答あり。

**(5)　回答者のプロフィール**

地域ごとの回答者の分布は以下のようである。なお、データは回答者の自己申告による。

**＜勤務状況＞**

| 医療圏 | 施設種別 | 医師 | 看護師 | 薬剤師 | MSW | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 北部 | がん診療連携拠点病院 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| N=49 | 地域がん診療病院 | 5 | 20 | 6 | 6 | 37 |
| | その他 | 4 | 2 | 3 | 2 | 11 |
| 中部 | がん診療連携拠点病院 | 12 | 54 | 0 | 2 | 68 |
| N=219 | 地域がん診療病院 | 2 | 4 | 0 | 1 | 7 |
| | その他 | 44 | 88 | 10 | 2 | 144 |
| 南部 | がん診療連携拠点病院 | 76 | 197 | 18 | 10 | 301 |
| N=509 | 地域がん診療病院 | 0 | 3 | 0 | 3 | 6 |
| | その他 | 50 | 117 | 17 | 18 | 202 |
| 宮古 | がん診療連携拠点病院 | 2 | 1 | 0 | 0 | 3 |
| N=45 | 地域がん診療病院 | 14 | 20 | 6 | 2 | 42 |
| 八重山 | がん診療連携拠点病院 | 0 | 3 | 1 | 0 | 4 |
| N=136 | 地域がん診療病院 | 10 | 115 | 3 | 3 | 131 |
| | その他 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 計 | | 220 | 625 | 64 | 49 | 958 |

灰色のセルは当該医療圏に存在しない施設種別。

16名（1.7%）施設種別の自己申告には当該地域に存在しないはずの施設種別が出ている。このことから、施設種別については、一定の不正確な面があると考えられる。尚、施設名を回答において取得していないため、医療圏の正確さや、実際の施設種別の正確さは不明である。

**＜回答者属性＞**

海邦総研の報告書が作成されて以降、追加分の７名の属性は以下のようである。

**職種**：看護師4名、医師１名、MSW１名、薬剤師１名
**性別**：女性５名、男性２名
**年代別**：20代２名、３０代１名、４０代２名、５０代１名、６０代１名
**医療圏**：南部５名、中部２名
**医師の専門分野**：薬物療法１名

# 2.　調査結果概要

## (1). 本調査の分析方法

**○結果解釈の留意点**

・各回答への「わからない」「不明」は除外していることから各項目への回答総数は変化する。よって、「わからない」「不明」の多い回答の解釈には注意が必要である。

**○報告書に提示の結果の算出法と限界**

以下、海邦総研の考案した「実現率」「平均スコア」を総称して「海邦スコア」と呼ぶ。海邦スコアの算出法の詳細は、海邦総研のレポートを参照されたいが、簡単な概要は以下のとおりである。

・実現率：

頻度を回答してもらう質問を集計する際に、回答選択肢が X~Y%とならば、その中央の値（(X+Y）/2）でその回答選択肢の頻度を代表したうえで、それらを平均して、「実現率」を出すというもの。

・平均スコア：

質問文にどの程度同意するか、の5段階(まったくそう思わない～そう思う)にそれぞれに対して、最も否定的な選択肢は―50、次の選択肢は―25、中立には０、より肯定的には25、最も肯定的な選択肢に50を割り付け、回答の分布に従って、平均点を算出するというもの。

実現率は、回答選択肢の設定により、とりうる値が変化することに注意が必要である。
回答選択肢の数値の範囲は問によって２つのパターンがあるため、パターンを超えて、比較ができない。特に、パターン B は、そもそも頻度が低いと予想される事項について、低頻度の選択肢を詳細に聞くために作られている。

**パターン A（実現率）** -回答選択肢が 0-24%、25-49%、50-74%、75-99%、100%
この場合には、海邦スコアは全ての回答が最下位(0－24%)ならば、12%となり、最上位(100%)の時には100%となる。つまり、12%～100%の値をとりうる。(Q10-15, Q20,Q22-Q26,Q29-Q37)
**パターン B （実現率）**－回答選択肢が、0% 、1-5%、6-10%、11-20%、21-50%、51-100%
この場合には、海邦スコアは、全ての回答が最下位(0%)の時には0%、最上位（51－100%）の時には、75.5%となる。つまり、0%～75.5%の値をとりうる。(Q16-19, Q21, Q27, Q28,)
**パターン C（平均スコア）**―「そう思う～そう思わない」の5段階の場合には、上記の通り、－100、－50、0,50,100を割り付ける。(Q9、Q38-41）ここでは、ポジティブな方が正に算出される。

**(2)（3）海邦スコア全体一覧**

上述の理由から、パターンの違う質問同士を比べることには限界があり、そのことを勘案してパターンごとの実現率、平均スコアおよび解釈を提示する。なお、本結果は遅れて参加した７名を追加した結果である。各項目のグラフにおいては、パターン A は緑、パターン B は赤、パターン C はオレンジ（マイナスは赤）で色分けした。

| 問番号 | 選択肢パターン：パターンA | 「実現率」 | 最多回答 |
|---|---|---|---|
| 10 | 痛みのモニタリング結果の主治医（チーム）への速やかな伝達 | 75.2% | 75-99% |
| 11 | 痛みのモニタリング結果を受け主治医（チーム）が継続ケア実施 | 71.4% | 75-99% |
| 12 | 痛みについて主治医（チーム）から緩和ケアチームへの迅速な紹介 | 59.5% | 50-74% |
| 13 | 治療方針説明時の医師以外の職種の参加 | 68.6% | 75-99% |
| 14 | 治療スケジュール見通しの十分な情報提供 | 69.7% | 75-99% |
| 15 | 医療費の十分な情報提供 | 47.7% | 0-24,25-49%同数 |
| 20 | 薬物療法開始前の、副作用時期を含む十分な説明 | 79.8% | 75-99% |
| 22 | （医師・看護師のみ）妊孕性温存療法が必要な患者への説明割合 | 49.1% | 0-24% |
| 23 | 質の高い手術療法の提供割合 | 78.2% | 75-99% |
| 24 | 多職種連携で適応議論の上、質の高い放射線療法の提供割合 | 65.4% | 75-99% |
| 25 | 質の高い薬物療法の提供割合 | 74.8% | 75-99% |
| 26 | 希望した患者のうち実際の在宅療養実行割合 | 62.6% | 75-99% |
| 29 | （県立中部、琉大以外）<br>希少がん患者の県立中部、琉大or県外病院への紹介割合 | 42.8% | 0-24% |
| 31 | （全施設）<br>難治がん患者のうち、一覧掲載施設or県外病院紹介 | 37.6% | 0-24% |
| 33 | （拠点以外）<br>AYA世代の患者の拠点病院or県外病院紹介 | 35.0% | 0-24% |
| 35 | （北部医師会、県立北部、たいら、宮古、八重山が対象）<br>離島僻地在住の患者についてスムーズな紹介が可能だった割合 | 70.2% | 75-99% |
| 36 | 離島僻地在住の患者について医療格差が明らかに感じられた割合 | 53.0% | 50-74% |
| | （全医療従事者に） | | |
| 37 | 離島僻地在住の患者について通院回数を少なくする配慮した患者割合 | 67.6% | 75-99% |

| 選択肢パターン：パターンB | | 「実現率」 | 最頻値 |
|---|---|---|---|
| 16 | 就労継続に関する十分な情報提供 | 35.1% | 51-100% |
| 17 | アピアランスケアに関する十分な情報提供 | 37.9% | 51-100% |
| 18 | がん相談支援センターに関する十分な情報提供 | 31.9% | 51-100% |
| 19 | 患者サロン、ピアサポート、患者会に関する十分な情報提供 | 22.2% | 0% |
| 21 | がんゲノム医療に関する十分な情報提供 | 23.4% | 0% |
| 27 | リハビリテーション実施した割合 | 57.5% | 51-100% |
| 28 | 高齢がん患者への治療開始前の高齢者機能評価 | 26.0% | 0% |

| 選択肢パターン：パターンC | | 「平均スコア」 | 最頻値 |
|---|---|---|---|
| 9 | 医師のみ）レジメン登録の遅延による投薬の遅れたことがあった | 64.5 | なかった |
| 38 | 県内におけるがん医療の集約化と機能分化ができている | -2.5 | どちらともいえない |
| 39 | 医師以外）医師へ意見が自由に言えるか | 13.9 | おおむねいえる |
| 40 | 医師のみ）他スタッフの意見に耳を傾けているか | 63.9 | おおむね傾けている |
| 41 | 職場がキャリア育成を支援してくれている | 30.6 | おおむね支援してくれている |

**<全体結果の解釈>**
全体結果は、遅れて提出した7名を加えても数字は海邦総研のものとほとんど変化しなかった。

**-痛みのモニタリング**
いずれへの回答も高いものであったが、職種横断的に全体を見ると、主治医への伝達（Q10)、主治医自身の対応（Q11）は高い割合で実施されているとされるものの、主治医で不十分な患者への健和ケアチームへの迅速な紹介（Q11）比較して不十分と考えられている。

**-患者への情報提供・説明**
パターン A で選択肢が提供された中では、医療費と妊孕性温存療法について低いとみられている点には留意すべきである。
そもそも結果が低いと想定されたパターンＢの項目をパターンＡと比較できないが、就労継続（Q16)、アピアランス（Q17）に関する情報提供よりも、がん相談支援センターについての情報（Q18）がわずかながら低いのは周知の必要性を示すものと言える。
ピアサポート（Q19）とがんゲノム医療（Q20）に関する情報提供の低さについても対策を考える必要がある。

**-質の高い医療**
いずれも最多回答は100%を除く高い選択肢が選ばれているが、全体としては、放射線療法と在宅療法次項割合が相対的に低くなっている。

**-リハビリテーション、高齢者機能評価**
リハビリテーションは、低いことが予想されてパターン B となっているものの、最多回答は51-100%となっていた。一方で、高齢者機能評価の最多回答は、0%であり、明白に普及が無いことを示している。

**-特殊な患者の紹介、離島僻地からの紹介**
希少がん、難治がん、AYA 世代ともに紹介の割合は低い。様々な理由が考えられる。
自由記載のでは、対象患者がいない、患者希望なし、自院で対応可能、自分が紹介する立場にないというコメントが繰り返しみられた以外に、受け入れ体制不十分、難治がんについては定義が不明だからわからない、というコメントがあった。
一方で、離島僻地在住の患者については、スムーズな紹介が可能だった患者の割合は高く（Q35）また、通院回数を少なくする配慮はかなり行われていると考えられる。（Q37）一方、医療格差が感じられたという回答は、少なからず存在した（Q36）

**-意見の言いやすさ：コミュニケーション**
Q39で医師以外の職種に「医師に自由に意見が言えるか」医師に、「他のスタッフの話に耳を傾けているか」を問うており、どちらも最多回答は「おおむね」であるものの、他の分布はかたよりがあり、平均スコアを出すと、前者が13.9（「どちらともいえない」と「おおむね」の間)、後者が63.9（「おおむね」

と「かたむけている」の間）になる。おそらく最多回答からは、おおむね、が多いのだろうが、一部に否定的な意見（感想）があると考えられる。

**-その他：レジメン登録、機能分化、キャリア支援**

レジメン登録による投薬遅延について、最多回答は「なかった」となっている。また、キャリア支援については「おおむね」が最多回答であった。一方で、県内のがん医療の集約化と機能分化ができているか、については、「そう思わない」の回答が多数をしめ、平均スコアがマイナスになっている。

**<結果解釈の注意>**

十分な情報提供ができた患者の割合を問う質問は、回答者によっては分母と分子の想定が異なる可能性もある。分母は、病院の患者全体、自分の担当患者の可能性があるし、提供も、誰かが情報提供している割合を考える場合もあれば、自分が情報提供した割合を思う可能性がある。例えば、Q16の就労継続の十分な情報提供は、薬剤師が1-5%との回答が最も多いのは、薬剤師がいきなり就労継続について話をすることは無いだろうし、MSW も最多回答は21-50%であるものの、0%というものが20%いる。これも、就労の課題が話題にならない場合が考えられるだろう。

質の高い治療（手術、放射線、薬物）を提供できた患者の割合は、手術、放射線について、薬剤師が0-24%と回答した者が最も多い。(MSW は高い回答も多いが)

# 3.　調査結果詳細（平均スコア・実現率）

# がん診療（問9-12）

**問９「レジメン登録の遅延による投薬の遅れ（医師のみへの質問）」**

2023年に、レジメン登録が遅かったために、患者へのタイムリーな投薬が遅れたことがありましたか。

海邦総研の報告書 p.72.73参照

**＜全体結果について＞**

| | N | % |
|---|---|---|
| そう思う | 1 | 0.5 |
| おおむねそう思う | 10 | 4.6 |
| どちらともいえない | 37 | 16.8 |
| あまりそう思わない | 48 | 21.8 |
| そう思わない | 124 | 56.4 |
| Total | 220 | 100 |

本問への回答の分布は上記の通り。投薬の遅れは、患者のアウトカムに影響することであり、本来は「なかった」（＝そう思わない）と回答するのが望ましいため、その回答に引っ張られる傾向が働くと考えられる。また、本問への平均スコアの意味も解釈は容易ではないが、回答があった人のうち、平均で半分以上の人が「そのようなことはなかった（らしい）」と回答していることを意味していると考えられる。

**＜カテゴリー別の解析結果について＞**

本問は医師のみへの問であり回答者は全体で220と少ない。そのため、カテゴリー別にすると数が極端に少ないカテゴリーが存在する。

男女差はみられなかった。報告書では「20代と60代が低かった」とされているものの、p.72の集計表からわかるようにこれらの年齢層は他に比べて回答数の少ない年齢層であり、安定した数値と言えない。例えば、20代は11名しかおらず、回答のあった11名の分布を50代62名と比較して解釈を提供することは困難である。そのため、回答数が極端に他の層と異なる20代、60代以上を除くと30,40,50代で結果は大きくは変わらないものの、それでも50代は「なかった」の回答のパーセンテージは高い。

医療圏、医療施設、医師の専門分野においても、極端に回答数が他と比べて低い層以外を比較すると、結果はほぼ変わらない。

## 問10「モニタリング結果の主治医（チーム）への速やかな伝達」

2023年に、看護師による痛みのモニタリング結果で痛みがあるとした患者のうち、その結果が主治医（チーム）に速やかに伝えられた患者の割合はどの程度ですか。

海邦総研の報告書 p.74.75参照

**＜全体結果について＞**

| | N | % |
|---|---|---|
| 0-24% | 22 | 2.3 |
| 25-49% | 52 | 5.4 |
| 50-74% | 160 | 16.7 |
| 75-99% | 278 | 29.0 |
| 100% | 90 | 9.4 |
| わからない | 356 | 37.2 |
| Total | 958 | 100 |

本問への回答は、「わからない」が全体の37%と最大であるが、また、速やかに伝えられたかどうかの感覚は職種や個人の期待の高低に影響されるものであることから、それを問われても困るという意味で「分からない」が増えるのも妥当かもしれない。

**＜カテゴリー別の解析結果について＞**

職種別では MSW と薬剤師はそれぞれ49名、64名しかおらず、医師220名、看護師625名より圧倒的に少ない。よって全職種を同列に比べることには多少無理がある。医師と看護師のみを比較すると、報告書p.74の分布であるが、看護師の間では「わからない」との回答が最大で、医師は比較的「速やかに伝わった」とする回答が多い以外は、医師と看護師の間では回答に大きな差はない。

男女間の分布にはほぼ差がなく、年齢は高くなると若干「速やかに伝わった」とする回答が多くなるものの、大きくは違わない。

医療圏別にみると、人口、患者数、病院数などの比較的規模の小さい医療圏の方が「わからない」と回答するパーセンテージが高く、75%以上の回答も少ないことがわかる。ただし分母が小さいと、数名の違いでも大きなパーセントの差となることに注意が必要である。

尚、海邦報告書では医師の専門分野に関しては、報告書では「放射線が主」が高かったと結論付けているが、実際、該当カテゴリーの人数は8名しかおらず、それ以外の二つの分野の分布に大きな差があるとは言い難い。

## 問11「モニタリング結果を受け、主治医（チーム）が緩和ケア実施」

2023年に、看護師による痛みのモニタリング結果が主治医（チーム）に伝えられた患者のうち、主治医（チーム）が速やかに必要な緩和結果を行った患者の割合はどの程度ですか。

海邦総研の報告書 p.76.77参照

**<全体結果について>**

| | N | % |
|---|---|---|
| 0-24% | 37 | 3.9 |
| 25-49% | 72 | 7.5 |
| 50-74% | 156 | 16.3 |
| 75-99% | 256 | 26.7 |
| 100% | 75 | 7.8 |
| わからない | 362 | 37.8 |
| Total | 958 | 100 |

本問への回答も、「わからない」が全体の37%と最大である。また、本問は問10の内容下記の表のとおり、分布上も相関が強い。問10で「わからない」と回答した回答者356人のうち、本問へも「わからない」と回答したのは326名であるが、多くの回答者が「医師に速やかに伝えられていること」と「医師が必要な緩和を行っていること」は同様の印象をもとに回答していると推察される。

| Q11 / Q10 | 0-24% | 25-49% | 50-74% | 75-99% | 100% | わからない | Total |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 0-24% | 17 | 1 | 1 | 2 | 0 | 1 | 22 |
| 25-49% | 11 | 22 | 10 | 5 | 0 | 4 | 52 |
| 50-74% | 4 | 33 | 76 | 33 | 2 | 12 | 160 |
| 75-99% | 0 | 12 | 56 | 178 | 19 | 13 | 278 |
| 100% | 2 | 2 | 6 | 25 | 49 | 6 | 90 |
| わからない | 3 | 2 | 7 | 13 | 5 | 326 | 356 |
| Total | 37 | 72 | 156 | 256 | 75 | 362 | 958 |

**<u>＜カテゴリー別の解析結果について＞</u>**

職種別では、問10と同様に医師と看護師を比較すると、p.76 が示す通り医師のほうが看護師よりもポジティブな回答をしている。看護師は「わからない」との回答が最大で、35.7%である。

それ以外のカテゴリーについては、相関性の高い問題であり、ほぼ Q10 と同様の結果である。

## 問12「主治医（チーム）から緩和ケアチームへの迅速な紹介」

2023年に、看護師による痛みのモニタリング結果が主治医（チーム）に伝えられた患者において、主治医（チーム）では対応が十分に行えない患者のうち、主治医（チーム）から速やかに緩和ケアチームに紹介が行われた患者の割合はどの程度ですか。

海邦総研の報告書 p.78.79参照

**<全体結果について>**

| | N | % |
|---|---|---|
| 0-24% | 83 | 8.7 |
| 25-49% | 103 | 10.8 |
| 50-74% | 147 | 15.3 |
| 75-99% | 136 | 14.2 |
| 100% | 53 | 5.5 |
| わからない | 436 | 45.5 |
| Total | 958 | 100 |

本問も、約半数が「わからない」を選択している。本問は前述の問10,11と関連のある問いが、問自体に多くの要素を含んでおり、より回答しにくくなっていることが「わからない」と回答する人の率を上げる要因になった可能性がある。

**＜カテゴリー別の解析結果について＞**

半数近くが「わからない」を選択していることを考慮したうえで、職種別にみてみると、p.76の集計表が示すように、医師と看護師間の比較では医師の方がややポジティブな回答をしていることがわかる。医療圏別の回答では、規模の小さな医療圏が、「わからない」の回答割合が高いが、その他の分布に差があるとは言い難い。

医師の専門分野に関しては、「薬物が主」より「手術が主」の医師が比較的高いパーセンテージをつけてはいるが、「放射線が主」の医師は8名しかいないため、比較対象としては適当とは言えない。

# 説明や情報提供の状況（問13-22）

**問13「治療方針説明時の医師以外の職種参加」**

治療方針（告知等）の説明の際に、医師外の職種も参加している割合はどの程度ですか。

海邦総研の報告書 p.80,81参照

**<全体結果について>**

| | N | % |
|---|---|---|
| 0-24% | 73 | 7.6 |
| 25-49% | 94 | 9.8 |
| 50-74% | 181 | 18.9 |
| 75-99% | 244 | 25.5 |
| 100% | 121 | 12.6 |
| わからない | 245 | 25.6 |
| Total | 958 | 100 |

本問の回答分布は「わからない」が25.6%と最大ではあるものの、比較的回答にばらつきがある結果となっている。

**＜カテゴリー別の解析結果について＞**

医師と看護師を比較すると、看護師は全体の25%が「わからない」と回答しているのに対し、医師は50%未満を回答する確率が高い。医師は説明に必ず参加していることから、看護師が感じるより医師の方が「参加していない」と感じていることを表している。

年代別には若い世代の方が「参加している」と感じている。質問を振り返って考えると、回答者自身が参加している割合なのか、回答者のかかわる患者に対して参加している割合なのか、一般論として施設全体で参加している割合なのかの区別がつきづらい。若年回答者のほうが割合が高い傾向となるのは、実際に若年の医療者の方が多職種の同席が多い可能性や、教育として「多職種が参加するべき」とされているためその引き上げられた結果の回答分布の可能性もある。

医療圏別の回答は、比較的規模の小さい医療圏の方が「わからない」のパーセンテージが高く、ポジティブな回答のパーセンテージも低めである。

医師の専門分野に関しては、数の少ない「放射線が主」の分野を除いて、その他の二つに大きな差があるとはいえない。

## 問14「治療スケジュール見通しの十分な情報提供」

治療スケジュールの見通しについて、治療方針の決定までに、十分な情報を提供できた患者の割合はどの程度ですか。

海邦総研の報告書 p.82,83参照

**<全体結果について>**

| | N | % |
|---|---|---|
| 0-24% | 24 | 2.5 |
| 25-49% | 78 | 8.1 |
| 50-74% | 179 | 18.7 |
| 75-99% | 217 | 22.7 |
| 100% | 51 | 5.3 |
| わからない | 409 | 42.7 |
| Total | 958 | 100 |

全体の約半数が「わからない」を選択している。「十分な情報を提供できた」という「十分な」という感覚は回答者の期待値によって異なる。また、本問は薬剤師やＭＳＷにも回答を求めているが、治療の見通しを持てているかどうかについてそれらの職種が患者の見通しの情報提供に関する評価が可能であるかは不明であることから、これらの二つの職種に「わからない」が多い。

**＜カテゴリー別の解析結果について＞**

p.82に示されるように本問について医師と看護師の間では回答の分布が大きく異なり、看護師は半数近くが「わからない」としているのに対し、医師は半数以上が「十分な情報提供をできた」と考えていることがわかる。

年代別には、50代以上が「75%以上」を回答する可能性が高く、若年になるほど「わからない」と回答している確率が高い。「十分な情報」という明確な基準が存在するわけではないが、本回答のパーセンテージが経験とともに「十分な情報提供」ができるようになるからなのか、医療経験年数がながくなるほど不確かさが少なくなるからなのか、定かではない。

医療圏別の回答は、「わからない」の回答、および、ポジティブな回答のパーセンテージが医療圏の大きさ（人口、患者数、病院数）と反比例しているようにみえる。要は、規模の小さな医療圏ほど、「わからない」との回答が大きくなり、ポジティブな回答のパーセンテージは低くなっている。

医師の専門分野に関しては、「手術が主」の医師が「薬物が主」の医師よりポジティブな回答をしていることがわかる。

## 問15「医療費の十分な情報提供」

医療費について、治療方針の決定までに、十分な情報を提供できた患者の割合はどの程度ですか。

海邦総研の報告書 p.83,84参照

**<全体結果について>**

| | N | % |
|---|---|---|
| 0-24% | 122 | 12.7 |
| 25-49% | 122 | 12.7 |
| 50-74% | 119 | 12.4 |
| 75-99% | 76 | 7.9 |
| 100% | 19 | 2.0 |
| わからない | 500 | 52.2 |
| Total | 958 | 100 |

全体の半数以上が「わからない」を選択している。本問も、Q14と同様、「十分な情報を提供できた」という「十分な」という感覚は回答者によって異なり、医療者の考える「十分」と実際に情報提供をうける患者の「十分」は往々にして異なるものであるため、解釈には限界がある。また、臨床現場において薬剤師が患者の費用面について話す機会はあまり多いとは考えにくく、結果も薬剤師の84%が「わからない」を回答している（p.84）ことからわかるように本問を薬剤師にすることは適切とは言えない。

**＜カテゴリー別の解析結果について＞**

職業の内容の観点から考えると、MSW の回答内容は現状に近い可能性が高いが、回答者が48名しかいないため信頼度の高い数値とはいいがたい。看護師の60%近くが「わからない」を回答しており、看護師もあまりこのようなことを患者と話す機会が少ないことがうかがえる。それを留意したうえで、医師の回答もＭＳＷの回答も「0-24%」が最多となっており、十分な情報が提供できたと感じていないことがわかる。

男女別では男性のほうが「0-24%」を回答するパーセンテージが高く、女性には「わからない」との回答が多かったが、これは職種で交絡されている可能性が高い。年齢に関しては、若年ほど「わからない」と回答するパーセンテージが高いが、必ずしも年齢が高くなるほどポジティブな回答が多いとは言えない。

医療圏別の回答は、比較的規模の大きい南部と中部の分布は似通っているものの、「わからない」の回答が規模の小さな医療圏でより高くなり、半分以上が「わからない」を回答しているため、「わからない」が多い以外解釈が困難である。

医師の専門分野に関しては、確かに「放射線が主」が他と比べて異なる分布ではあるものの、数が少なすぎるため分野により違いがあるとは言い難い。

## 問16「就労継続可否の十分な情報提供」

就労の継続について、治療開始前に、十分な情報を提供できた患者の割合はどの程度ですか。

海邦総研の報告書 p.86,87参照

**<全体結果について>**

| | N | % |
|---|---|---|
| 0% | 34 | 3.6 |
| 1-5% | 37 | 3.9 |
| 6-10% | 47 | 4.9 |
| 11-20% | 57 | 6.0 |
| 21-50% | 109 | 11.4 |
| 51-100% | 117 | 12.2 |
| わからない | 557 | 58.1 |
| Total | 958 | 100 |

全体の約60%が「わからない」を選択している。

「十分な情報提供」を問う問題点は問14～と同様である。ただし、本問の回答選択肢は、前回までと異なり50%以上を一つの選択肢としている。50%までの回答選択肢の区切りも５%のものもあれば30%程度のもともあるため選択肢ごとの回答について比べるのは困難である。本問に関しては、「わからない」以外を回答した40%のなかでは「51－100%」が最多となっている。

**＜カテゴリー別の解析結果について＞**

本問も看護師の62%が「わからない」を回答しており、薬剤師と MSW に至っては約70%もの回答者が「わからない」を回答している。医師と看護師を比較すると医師の方がポジティブな回答が多いものの、医師の考える「十分な情報」と看護師のそれは違う可能性が高い。

男女別の回答に関しては男性の方がややポジティブな回答をしており、女性に「わからない」が多いが、これは職業で交絡されている可能性が高い。年齢に関しては、若年ほど「わからない」と回答するパーセンテージが高く、年齢が高くなるほどポジティブな回答が多いと言える。必要だと感じる情報量に世代間で違いがある可能性がある。

医療圏別の回答も、他の問いと同様に少数分母の問題がある。しかし、北部医療圏では「わからない」がやや少なく、「０%」の回答がやや多い。

医師の専門分野に関しては、「手術が主」の医師の回答にポジティブな回答が多いである。薬物を必要とする患者の方が療養生活も長くなる可能性が高いため、より多くの情報提供を必要としており、ニーズが充足されていないと医療者側が感じる可能性も考えられた。

## 問17「アピアランスケアの十分な情報提供」

アピアランスケアについて、治療開始前に、十分な情報を提供できた患者の割合はどの程度ですか。

海邦総研の報告書 p.88,89参照

**<全体結果について>**

| | N | % |
|---|---|---|
| 0% | 33 | 3.4 |
| 1-5% | 33 | 3.4 |
| 6-10% | 44 | 4.6 |
| 11-20% | 43 | 4.5 |
| 21-50% | 115 | 12.0 |
| 51-100% | 132 | 13.8 |
| わからない | 558 | 58.3 |
| Total | 958 | 100 |

全体の約60%が「わからない」を選択している。
「十分な情報提供」を問うていることは問14、さらに回答選択肢で51%以上が一つにまとめられている問題は問15と同様である。

**<u>＜カテゴリー別の解析結果について＞</u>**

本問も看護師の66%が「わからない」を回答しており、看護師が治療前にアピアランスについて患者と話す機会が少ないことがうかがえる。「わからない」以外を回答した人の分布では、医師が比較的ポジティブな回答をしており、MSW がネガティブな回答をしていることがわかる。
男女別と年齢の回答に関しては問16と同様である。
医療圏別の回答も、問15と同様である。
医師の専門分野に関しては、「手術が主」の医師の回答にポジティブな回答が多いである。薬物を必要とする患者の方がアピアランスの変化の影響を受ける可能性が高いため、より多くの情報提供を必要としており、ニーズが充足されていないと医療者側が感じる可能性も考えられた。

## 問18「がん相談支援センターに関する十分な情報提供」

がん診療連携拠点病院等に設置されている「がん相談支援センター」について、十分な情報提供を行った患者の割合はどの程度ですか。

海邦総研の報告書 p.90,91参照

**<全体結果について>**

| | N | % |
|---|---|---|
| 0% | 74 | 7.7 |
| 1-5% | 39 | 4.1 |
| 6-10% | 39 | 4.1 |
| 11-20% | 44 | 4.6 |
| 21-50% | 93 | 9.7 |
| 51-100% | 110 | 11.5 |
| わからない | 559 | 58.4 |
| Total | 958 | 100 |

全体の約60%が「わからない」を選択している。
「十分な情報提供」を問うていることは問14、さらに回答選択肢で51%以上が一つにまとめられている問題は問15と同様である。本問においては、回答のあった40%のうち、10%程度しか半分以上を選択していない。本問は「がん相談支援センターについて十分な情報提供を行ったか」を問うているが、「がん相談支援センター」の情報提供も多岐な要素・レベルが考えられ、十分といったときに回答者により想定されるものが特に大きくことなる可能性がある。

**＜カテゴリー別の解析結果について＞**

職種別には「わからない」以外を回答した人の中では医師に「50%以上」の回答は多いが、同時に「０%」の回答も医師に多かった。本問の回答が適切かについて疑わしい薬剤師の人口を除いては、看護師のうち「わからない」と回答した人が64%もいたことは注目すべき点であり、医療者の中でも周知が必要な分野と考えられる。
男女別、年齢別に関しては問16とほぼ同様であるものの、60代以上のカテゴリーにおいては「0%」も「51%-100%」についで多い結果となっている。
医療圏別の回答に関しては、規模の大きい医療圏の回答が似通っている点、規模の小さい医療圏で「わからない」が多いことには変わりはないが、北部医療圏のみは例外であり、「わからない」の率も比較的少なく、「51%-100%」を回答するパーセンテージが他より高い。医療施設別では、「その他の医療機関」に「0%」の回答が他に比べて多い。
以上まとめると、「がん相談支援センター」の情報提供度合いを知るには、患者への調査のほうが適切な方法と考えられる。
医師の専門領域に関しては、「放射線が主」の医師が他と違う回答分布ではあるものの、８名の回答であるためなんらかの解釈を提供するのは困難である。

## 問19「患者サロン、ピアサポート、患者会に関する十分な情報提供」

患者サロン（ゆんたく会)、ピアサポート、患者会について、十分な情報提供を行った患者の割合はどの程度ですか。

海邦総研の報告書 p.92,93参照

**<全体結果について>**

| | N | % |
|---|---|---|
| 0% | 118 | 12.3 |
| 1-5% | 58 | 6.1 |
| 6-10% | 53 | 5.5 |
| 11-20% | 49 | 5.1 |
| 21-50% | 90 | 9.4 |
| 51-100% | 68 | 7.1 |
| わからない | 522 | 54.5 |
| Total | 958 | 100 |

全体の約60%が「わからない」を選択している。
「十分な情報提供」を問うていることは問14、さらに回答選択肢で51%以上が一つにまとめられている問題は問15と同様である。本問においては、回答のあった約40%のうち、10%以下しか半分以上を選択していない。「わからない」以外の最多の回答が0%であることから、本問に関しての情報の周知度は極めて低い可能性がある。

**＜カテゴリー別の解析結果について＞**

職種別には「わからない」以外を回答した人の中では医師に「０％」の回答は多い。本問の回答が適切かについて疑わしい薬剤師の人口を除いては、看護師のうち「わからない」と回答した人が58%もいたことは注目すべき点であり、医療者の中でも周知が必要な分野と考えられる。
男女別、年齢別に関しては問16とほぼ同様である。
医療圏別の回答に関しては、問16とほぼ同様である。規模の大きい医療圏の回答が似通っている点、規模の小さい医療圏で「わからない」が多くポジティブな回答が少ない。
医師の専門領域に関しては、「放射線が主」の医師が他と違う回答分布ではあるものの、８名の回答であるためなんらかの解釈を提供するのは困難である。「手術が主」に比べて「薬物療法が主」の医師の方が「０％」の回答が多い。

## 問20「副作用を含めた薬物療法に関する十分な情報提供」

薬物療法の開始前に、副作用の出る時期の説明も含めて、十分な説明を行った患者の割合はどの程度ですか。

海邦総研の報告書 p.94,95参照

**<全体結果について>**

| | N | % |
|---|---|---|
| 0-24% | 31 | 3.2 |
| 25-49% | 36 | 3.8 |
| 50-74% | 116 | 12.1 |
| 75-99% | 300 | 31.3 |
| 100% | 178 | 18.6 |
| わからない | 297 | 31.0 |
| Total | 958 | 100 |

全体の約30%が「わからない」を選択しているが、他の問に比べると「わからない」の回答の割合が比較的少ない。また、「わからない」を回答した以外の回答も過半数以上が75%以上を回答しており、医療者が比較的「十分な情報提供をした」を考えていることが明らかである。本問は全員の回答が求められる問となっているが、MSW の回答の65%が「わからない」を回答していることからも明らかなように、MSW に質問することが適切かについては疑問である。

**＜カテゴリー別の解析結果について＞**

職種別では MSW 以外、回答の傾向としては同様である。中でも医師の回答には75%以上のポジティブな回答が目立ち、看護師は最多の33%が「わからない」を回答した。

年齢別には、60代以上の回答者数は他の層と比較して1/4程度しか存在しないものの、ポジティブな回答が目立つ結果となった。

医療圏別の回答に関しては、規模の大きい医療圏の回答が似通っている点、規模の小さい医療圏で「わからない」が多くみられた。宮古と八重山の最も規模の小さい医療圏では100%を回答する回答者が他の医療圏と比較して圧倒的に少なかった。

医師の専門領域に関しては、「放射線が主」の医師が他と違う回答分布ではあるものの、８名の回答であるためなんらかの解釈を提供するのは困難である。さらに、本問は「放射線が主」の医師には比較的把握しにくい問であった可能性もある。

## 問21「がんゲノム医療に関する十分な情報提供」

がんゲノム医療に関する十分な情報提供をした割合はどの程度ですか

海邦総研の報告書 p.96,97参照

**<全体結果について>**

| | N | % |
|---|---|---|
| 0% | 96 | 10.0 |
| 1-5% | 53 | 5.5 |
| 6-10% | 33 | 3.4 |
| 11-20% | 43 | 4.5 |
| 21-50% | 56 | 5.9 |
| 51-100% | 67 | 7.0 |
| わからない | 610 | 63.7 |
| Total | 958 | 100 |

全体の60%以上が「わからない」を選択している。
「十分な情報提供」を問うていることは問14、さらに回答選択肢で51%以上が一つにまとめられている問題は問15と同様である。本問においては、回答のあった40%弱のうち、10%以下しか半分以上を選択していない。「わからない」以外の最多の回答が0%であることからも、本問に関しての情報の周知度は極めて低い可能性がある。また、本問は薬剤師に加えて MSW へ質問することも適切とは言い難い。

**＜カテゴリー別の解析結果について＞**

職種別には、医師以外の回答の70%以上が「わからない」を回答しており、医師以外の回答よりなんらか有用な解釈ができると言い難い。また、医師の回答の中でも「わからない」以外では「0%」が最多の20%となっており、周知度の低い情報であることがわかる。
男女別、年齢別に関しては問16とほぼ同様である。20-40代の回答では、「わからない」の回答以外は、「０％」が最多の回答となっている。
医療圏別の回答に関しては、問16とほぼ同様ではあるものの、本問はどの医療圏においても「わからない」の回答が圧倒的最多である。
医師の専門領域に関しては、「放射線が主」の医師が他と違う回答分布ではあるものの、８名の回答であるためなんらかの解釈を提供するのは困難である。

## 問22「妊孕性温存療法が必要な患者への同療法の説明（医師と看護師のみ）」

医師と看護師の方にお尋ねします。妊孕性温存療法が必要な患者のうち、実際に妊孕性温存療法の説明を行った患者の割合はどの程度ですか。

海邦総研の報告書 p.98,99参照

**<全体結果について>**

| | N | % |
|---|---|---|
| 0-24% | 123 | 14.6 |
| 25-49% | 39 | 4.6 |
| 50-74% | 36 | 4.3 |
| 75-99% | 60 | 7.1 |
| 100% | 45 | 5.3 |
| わからない | 542 | 64.1 |
| Total | 845 | 100 |

全体の60%以上が「わからない」を選択している。また、回答のあった40%弱のうち、「0-24%」が最多の14.6%となっており、課題のある結果となっている。また「必要な患者のうち」との文言があるが、回答者によって回答基準が様々である可能性のある問である。よって、「わからない」の回答が、「必要な患者」がわからないのか、「説明がされたか」がわからないのか、その両方であるのかは不明である。

**＜カテゴリー別の解析結果について＞**

職種別には、看護師の70%以上が「わからない」を回答している点に留意すべきである。また、医師も40%近くが「わからない」を回答している。本問に関しては、「わからない」回答が、「妊孕性」についての説明についてのイメージがわかないという可能性もあるとすると、必要であるが説明がなされない患者が多くいる可能性を表している可能性もある。

男女別、年齢別に関しては問16とほぼ同様である。

医療圏別の回答に関しては、問16とほぼ同様ではあるものの、本問はどの医療圏においても「わからない」の回答が圧倒的最多であり、北部医療圏の「0-24%」の回答のパーセンテージは他より多くなっている。しかし、回答者の数なども勘案すると本医療圏の回答が他の医療圏と大きく異なっているとは言い難い。

医師の専門領域に関しては、「放射線が主」の医師が他と違う回答分布ではあるものの、８名の回答であるためなんらかの解釈を提供するのは困難である。

# 診療の状況（問23-28）

## 問23「質の高い最適な手術の提供」

手術を受けた患者のうち、質の高い最適な手術を提供できた患者の割合はどの程度ですか。

海邦総研の報告書 p.100,101参照

**<全体結果について>**

| | N | % |
|---|---|---|
| 0-24% | 13 | 1.4 |
| 25-49% | 22 | 2.3 |
| 50-74% | 88 | 9.2 |
| 75-99% | 215 | 22.4 |
| 100% | 60 | 6.3 |
| わからない | 560 | 58.5 |
| Total | 958 | 100 |

全体の約60%が「わからない」を選択している。本問は、「質の高い手術」をできたかどうかについての問であり、「質の高い」が何を指すかについては回答者により想定するものが異なると考えられる。また、本問も本来「できた」と回答することが望ましい問であり、低いパーセンテージを選びにくい質問である。さらに、手術室に勤務する看護師は少数いるものの、手術を実施するのは医師であり、本問を医師以外に聞くことは適切ではない可能性がある。実際、薬剤師と MSW の回答の80%以上が「わからない」を回答している。

**＜カテゴリー別の解析結果について＞**

職種別には、薬剤師の88.9%、MSW の81.3%、看護師の61.5%が「わからない」を回答しており、本分布を医師のものと比較することはできない。医師の回答も、75%以上の回答が多いものの、「わからない」に35%もの回答が存在し、答えにくい問であることがわかる。

男女別に関しては女性の方が「わからない」の回答が多く、ポジティブな回答が少なかったが、これは職種で交絡されている可能性が高い。年齢に関しては、若年ほど「わからない」と回答するパーセンテージが高く、年齢が高くなるほどポジティブな回答が多いと言える。

医療圏別の回答は、比較的規模の大きい南部と中部の分布は似通っているものの、「わからない」の回答が規模の小さな医療圏でより高くなり、半分以上が「わからない」を回答しているため、「わからない」が多い以外解釈が困難である。規模の大きな医療圏では若干ポジティブな回答が多いと言える可能性はある。

医師の専門領域に関しては、「手術が主」の医師が他と違う回答分布であり、ポジティブな回答が多い。

## 問24「多職種で議論した上での放射線治療実施」

放射線治療を受けた患者のうち、その適応の判断を多職種で議論された上で、提供できた患者の割合はどの程度ですか。

海邦総研の報告書 p.102,103参照

**<全体結果について>**

| | N | % |
|---|---|---|
| 0-24% | 51 | 5.3 |
| 25-49% | 51 | 5.3 |
| 50-74% | 79 | 8.3 |
| 75-99% | 138 | 14.4 |
| 100% | 42 | 4.4 |
| わからない | 597 | 62.3 |
| Total | 958 | 100 |

全体の60%以上が「わからない」を選択している。放射線の適応の判断は臨床現場では医師（場合によっては看護師）以外に行うことがなく、本問も薬剤師や MSW には不適当な問である。また、「適応の判断」が何を指すかに関しても不明瞭である。

**＜カテゴリー別の解析結果について＞**

職種別に関しては問23と同様の結果である。

男女別、年齢に関しても問23と同様であるものの、60代以上はポジティブな回答と同時にネガティブな回答（「0-24%」）を選ぶ割合が最も高かった。

医療圏別の回答も問23と同様であるが、北部医療圏では回答の91%が「わからない」を選択していることは留意すべき点である。

医師の専門領域に関しては、「薬物療法が主」の医師が「100%」を回答するパーセンテージが低かったものの、他と同様「放射線が主」の医師が８名しかいないため、有用な解釈をすることが困難である。

## 問25「質の高い薬物療法の提供」

薬物療法を受けた患者のうち、質の高い薬物療法を提供できた患者の割合はどの程度ですか。

海邦総研の報告書 p.104,105参照

**<全体結果について>**

| | N | % |
|---|---|---|
| 0-24% | 16 | 1.7 |
| 25-49% | 35 | 3.7 |
| 50-74% | 145 | 15.1 |
| 75-99% | 249 | 26.0 |
| 100% | 45 | 4.7 |
| わからない | 468 | 48.9 |
| Total | 958 | 100 |

全体の約半数が「わからない」を選択している。全体の解釈に関しては問23と同様であるが、投薬に関しては看護師や薬剤師もかかわっているため、MSW のみ80%以上「わからない」を回答している。

**＜カテゴリー別の解析結果について＞**

職種別に関しては看護師の55.4%、薬剤師の46.0%が「わからない」を選択しており、医師の２倍程度になっている。「わからない」以外を回答は、医師に75%以上の回答者が多く、100%も特に多かった。
男女別、年齢に関しては問23と同様である。
医療圏別の回答も問23と同様である。
医師の専門領域に関しては、「放射線が主」の医師が他と異なる回答をしており「わからない」や「0%」が圧倒的に多いものの、専門分野から考察するに本結果はある意味必然であり、さらに８名の結果であることを留意すべきである。

## 問26「患者の希望を受けての在宅医療移行」

在宅医療を希望された患者のうち、実際に在宅医療に移行した患者の割合はどの程度ですか。

海邦総研の報告書 p.106,107参照

**<全体結果について>**

| | N | % |
|---|---|---|
| 0-24% | 55 | 5.7 |
| 25-49% | 105 | 11.0 |
| 50-74% | 158 | 16.5 |
| 75-99% | 177 | 18.5 |
| 100% | 34 | 3.6 |
| わからない | 429 | 44.8 |
| Total | 958 | 100 |

全体の約半数が「わからない」を選択している。薬剤師が患者の在宅移行に直接かかわることは少なく、実際に薬剤師の80%以上が「わからない」を回答している。

**＜カテゴリー別の解析結果について＞**

職種別に関しては医師、看護師、MSW の回答に大差はない。看護師は患者の療養生活の支援をする職種であり、在宅移行の希望があれば看護師の耳にも入るはずであるが、その約半数が「わからない」を回答していることは留意点かもしれない。

男女別、年齢に関しては問23と同様であるが、年齢が上がるごとにポジティブな回答が増えている率は他と比較して大きくなく、さらに増加しているのは「100%」の回答のみである。

医療圏別の回答は、「わからない」の回答が規模の小さな医療圏で多いのは他と同じであるものの、都医療圏では「100%」の回答が他と比較して多い。しかし、該当医療圏の回答者は他と比較して圧倒的に少ないことは留意すべきである。

医師の専門領域に関しては、「薬物療法が主」の医師が「わからない」を回答する率が低く「放射線が主」で高かったが、この回答も専門領域から考えると必然である。それ以外の回答に関しては、「手術が主」と「薬物療法が主」で大差があるとは言えない。

## 問27「リハビリテーションの実施」

リハビリテーションを行った患者の割合はどの程度ですか。

海邦総研の報告書 p.108,109参照

**<全体結果について>**

| | N | % |
|---|---|---|
| 0% | 15 | 1.6 |
| 1-5% | 18 | 1.9 |
| 6-10% | 17 | 1.8 |
| 11-20% | 20 | 2.1 |
| 21-50% | 118 | 12.3 |
| 51-100% | 345 | 36.0 |
| わからない | 425 | 44.4 |
| Total | 958 | 100 |

全体の44.4%が「わからない」を回答している。本問は選択肢が50%以下を詳細に見せるようにつくられているようだが、「わからない」以外を回答した50%のうちの過半数が「51-100%」を選択している。また、薬剤師は患者のリハビリテーションにかかわることは少なく、「わからない」の回答が90%を超えている。

**＜カテゴリー別の解析結果について＞**

職種別には、薬剤師の90.5%、MSW 及び看護師の半数が「わからない」を回答している。「わからない」以外の回答では、医師にポジティブな回答がやや多いが、「51%-100%」はとても開きの大きいカテゴリーであるため解釈がやや困難である。

男女別、年齢に関しては、ほぼ差がない。

医療圏別の回答は、比較的規模の大きい南部と中部の分布は似通っているものの、「わからない」の回答が規模の小さな医療圏でより高くなり、半分以上が「わからない」を回答しているため、「わからない」が多い以外解釈が困難である。

医師の専門領域に関しては、「放射線が主」の医師が他と違う回答分布であるが、回答者は８名のみである。

## 問28「高齢がん患者への「高齢者機能評価」」

高齢者のがん患者に対して、治療前に「※高齢者機能評価」を行った割合はどの程度ですか。

海邦総研の報告書 p.110,111参照

**<全体結果について>**

| | N | % |
|---|---|---|
| 0% | 104 | 10.9 |
| 1-5% | 24 | 2.5 |
| 6-10% | 24 | 2.5 |
| 11-20% | 22 | 2.3 |
| 21-50% | 48 | 5.0 |
| 51-100% | 70 | 7.3 |
| わからない | 666 | 69.5 |
| Total | 958 | 100 |

全体の約70%が「わからない」を回答しており、「わからない」以外では「０%」が最大と周知が必要な内容である。この「わからない」が「高齢者機能評価」がわからないのか、評価を行った割合がわからないのかは不明であり、両方の可能性もある。

**＜カテゴリー別の解析結果について＞**

職種別には、医師以外、「わからない」を回答しているのが看護師の77.9%、薬剤師の90.5%、MSW の83.3%と「わからない」以外の解釈が不可能である。医師の中でも、「わからない」以外の回答が「0%」が最大と周知度が低いことがうかがえる。

男女別に関しては、女性に「わからない」が多い以外ほぼ差がない。年齢に関しては、若年ほど「わからない」が多いが、ポジティブな回答もネガティブな回答も高齢になるほど多くなっている。

医療圏別の回答は、問23と同様であるが、中部医療圏のみ「51-100%」の回答が際立って多かった。その他、規模の大きな医療圏ですら「わからない」の回答が圧倒的多数である。

医師の専門領域に関しては、問27と同様である。

# 他医療機関への紹介（問29-34）

**問29「希少がん患者の中部病院、琉大病院、県外医療機関への紹介」**

希少がん患者のうち、診断又は治療目的で、県立中部病院、琉球大学病院または本土の専門医療機関に紹介した割合はどの程度ですか。

海邦総研の報告書 p.112,113参照

**<全体結果について>**

| | N | % |
|---|---|---|
| 0-24% | 94 | 15.9 |
| 25-49% | 24 | 4.1 |
| 50-74% | 25 | 4.2 |
| 75-99% | 24 | 4.1 |
| 100% | 27 | 4.6 |
| わからない | 399 | 67.3 |
| Total | 593 | 100 |

「この質問の対象外」を回答した365名（38%）を除いた分布である。回答者の67%が「わからない」を回答している。「わからない」の回答以外では「0-24%」が最大の回答となっており、紹介なされていない可能性が高い。また、本問を医師以外に質問することは適当とは言えない。

**＜カテゴリー別の解析結果について＞**

職種別で「この質問の対象外」を回答した365名（38%）を除いた分布は以下の通りである。

| | 医師(126 名) | 看護師(383 名) | 薬剤師(43 名) | MSW(41 名) |
|---|---|---|---|---|
| 0-24% | 38.1% | 9.6% | 6.9% | 14.6% |
| 25-49% | 5.5% | 4.1% | 2.3% | 0% |
| 50-74% | 5.5% | 4.7% | 0% | 0% |
| 75-99% | 6.3% | 3.9% | 0% | 2.4% |
| 100% | 12.7% | 2.3% | 0% | 4.8% |
| わからない | 31.7% | 75.2% | 90.7% | 78.0% |

医師以外、圧倒的多数が「わからない」を回答している。医師の回答でも「わからない」以外は「0-24%」が最大の回答であり、紹介されていない可能性を表している。

男女別の回答は、職業で交絡されている以外は差があるとは言い難い。年齢別は、若いほど「わからない」の回答が多くなり、100%の回答は年齢が上がるごとに高くなるものの、「0-24%」の回答も年齢の増加とともに多くなった。

医療県別では、以下の通り、どの医療圏でも「わからない」が60%を越えており、中部と南部以外では70%を越えていた。「わからない」が多すぎるため比較は適当とは言えないが、どの医療圏においても「わからない」以外では「0-24%」のパーセンテージが高かった。

医師の専門分野別では、「手術が主」の医師以外、「100%」の回答者はいなかった。ただし、専門を考慮すると必然的な回答である。

## 問31「難治がん患者の県内・県外医療機関への紹介」

難治がん患者のうち、診断又は治療目的で、沖縄県における「掲載要件を満たす、がん診療を行う県内医療施設一覧」または本土の専門医療機関に紹介した割合はどの程度ですか。

海邦総研の報告書 p.116,117参照

**<全体結果について>**

| | N | % |
|---|---|---|
| 0-24% | 127 | 13.3 |
| 25-49% | 24 | 2.5 |
| 50-74% | 22 | 2.3 |
| 75-99% | 30 | 3.1 |
| 100% | 20 | 2.1 |
| わからない | 735 | 76.7 |
| Total | 958 | 100 |

回答者の76.7%が「わからない」を回答している。その他の点については問29と同様である。

**＜カテゴリー別の解析結果について＞**

問29と同様の結果である。

医師の専門分野別の回答は、「薬物療法が主」の医師にも「100%」の回答が3.3%存在したが、「手術が主」の医師の方がポジティブな回答が比較的多いである。

## 問33「AYA 世代がん患者の県内・県外医療機関への紹介」

県立中部病院、那覇市立病院、琉球大学病院以外の方にのみお尋ねします。AYA 世代のがん患者のうち、県内のがん診療連携拠点病院または本土の専門医療機関に紹介した割合はどの程度ですか。

海邦総研の報告書 p.120,121参照

**<全体結果について>**

| | N | % |
|---|---|---|
| 0-24% | 88 | 15.2 |
| 25-49% | 20 | 3.4 |
| 50-74% | 15 | 2.6 |
| 75-99% | 14 | 2.4 |
| 100% | 13 | 2.2 |
| わからない | 431 | 74.2 |
| Total | 581 | 100 |

回答者の74.2%が「わからない」を回答している。その他の点については問29と同様である。

**＜カテゴリー別の解析結果について＞**

問29と同様の結果である。

医師の専門分野別の回答は、問30と同様である。

# 離島・へき地の医療体制（問35-37）

**問35「離島・へき地患者の本島医療機関へのスムーズな送り出し」**

北部地区医師会病院、県立北部病院、たいら内科クリニック、宮古病院、八重山病院の医療者の方にのみお尋ねします。離島やへき地に住む患者において、自施設から本島の専門医療機関に送った方が良いと評価した患者のうち、スムーズに送ることができた患者の割合はどの程度ですか。

海邦総研の報告書 p.124,125参照

**<全体結果について>**

| | N | % |
|---|---|---|
| 0-24% | 7 | 3.0 |
| 25-49% | 14 | 6.1 |
| 50-74% | 23 | 10.0 |
| 75-99% | 40 | 17.4 |
| 100% | 13 | 5.7 |
| わからない | 133 | 57.8 |
| Total | 230 | 100 |

全体の約60%が「わからない」を選択している。また、「スムーズな送り出し」ができたかどうかについては回答者によって判断基準が異なる可能性がある。問の中に「自施設から本島の専門医療機関に送った方が良いと評価した患者」とあるが、この評価ができるのは医師である可能性が高く、本問を医師以外の職種に問うのは適切とは言い難い。

**＜カテゴリー別の解析結果について＞**

職種別には、薬剤師100%、MSW の76.9%、看護師の61.1%が「わからない」を回答しており、本問が医師以外にとって答えにくい問であることがわかる。医師の中では60%が「75%以上」回答しており他の職種よりポジティブな回答が多くみられる。

男女別に関しては女性の方が「わからない」の回答が多く、ポジティブな回答が若干少なかったが、これは職種で交絡されている可能性が高い。年齢に関しては、20代にネガティブな回答が多く、年齢が高くなるほどポジティブな回答が多いと言える。

医療圏別の回答は、比較されている３つの医療圏内で差があるとは言えない。

医師の専門領域に関しては、そもそも回答者が36名しかおらず、「放射線が主」は0人しかいないため比較が適切とは言えない。

## 問36「離島・へき地と本島との医療格差解消」

北部地区医師会病院、県立北部病院、たいら内科クリニック、宮古病院、八重山病院の医療者の方にのみお聞きします。離島やへき地に住むがん患者に対する医療において、中部医療圏や南部医療圏との医療格差が明らかに感じられた患者の割合はどの程度ですか。

海邦総研の報告書 p.126,127参照

**<全体結果について>**

| | N | % |
|---|---|---|
| 0-24% | 27 | 11.7 |
| 25-49% | 18 | 7.8 |
| 50-74% | 34 | 14.8 |
| 75-99% | 10 | 4.4 |
| 100% | 16 | 7.0 |
| わからない | 125 | 54.4 |
| Total | 230 | 100 |

全体の約60%が「わからない」を選択している。「医療格差が明らかに感じられた患者」とは何を指すのかは不明瞭である。回答者によっては何の「格差」なのかは異なる可能性がある。

**＜カテゴリー別の解析結果について＞**

職種別の回答は、職種によってばらつきが大きいことがわかる。「わからない」の回答は医師が一番低く19.4%でありその他は60%以上であった。医師の回答は「0-24%」および「100%」が他の職種より多く両極端である。本問は職種によって想定されるものが異なる可能性が高いことからこのような結果になったことも考えられる。

男女別に関しては女性の方が「わからない」の回答が多く、ネガティブおよびポジティブな回答が多かったが、これは職種で交絡されている可能性が高い。年齢に関しては、20代にネガティブな回答が多く、年齢が高くなるほどポジティブな回答が多いと言える。

医療圏別の回答は、宮古医療圏でポジティブな回答およびネガティブな回答が多いが、そもそも45名のみの回答であり断定的なことは言い難い。

医師の専門領域に関しては、そもそも回答者が36名しかおらず、「放射線が主」は0人しかいないため比較は適切とは言えないが、「手術が主」と「薬物療法が主」の医師では「手術が主」の医師に「0－24%」の回答が多くみられた。

## 問37「離島・へき地患者に対する通院回数への配慮」

離島の医療施設勤務者を含む全ての医療従事者にお尋ねします。離島やへき地に住むがん患者のうち、なるべく少ない回数で通院が終わるように配慮した患者の割合はどの程度ですか。

海邦総研の報告書 p.128,129参照

**<全体結果について>**

| | N | % |
|---|---|---|
| 0-24% | 34 | 3.6 |
| 25-49% | 43 | 4.5 |
| 50-74% | 83 | 8.7 |
| 75-99% | 114 | 11.9 |
| 100% | 46 | 4.8 |
| わからない | 638 | 66.6 |
| Total | 958 | 100 |

全体の66%が「わからない」を選択している。また、「少ない回数で通院が終わる」よう調節できるのは主に医師であり、その他の職種に本問を問うのは適切とは言い難い。

**＜カテゴリー別の解析結果について＞**

職種別の回答は、看護師の74.9%、薬剤師の84.1%、MSW の79.2%が「わからない」を回答している。医師の中で「わからない」以外の回答は「75%-99%」が最多となり、比較的努力している項目であるかもしれない。

男女別に関しては問36と同様である。年齢に関しては年齢が若いほど「わからない」が多く、年齢が高くなるほど「100%」の回答が多くなっている。

医療圏別の回答は、宮古でややポジティブな回答が多いものの、全体的に似通っている。

医師の専門領域に関しては、「薬物療法が主」の医師が若干ネガティブな回答をしているものの差があるとは言い難い。

# 沖縄県のがん医療体制等（問38-41）

**問38　県内における集約化と機能分化**

沖縄県内において、がん医療の適切な集約化と機能分化が十分にできていると思いますか。

海邦総研の報告書 p130,131参照

**<全体結果について>**

| | N | % |
|---|---|---|
| そう思う | 14 | 1.5 |
| おおむねそう思う | 230 | 24.1 |
| どちらとも言えない | 458 | 47.8 |
| あまりそう思わない | 206 | 21.5 |
| そう思わない | 50 | 5.2 |
| | 958 | 100.0 |

ここから後の質問は「わからない」という選択肢が設定されていなかった。ただし、「どちらともいえない」に吸収されている可能性がある。集約化・機能分化については、概念的に「十分」な機能分化は主観的であり、回答者によって何を意味しているのかは異なる可能性があることと、ほぼ対称の分布となっており最多回答がどちらともいえない、となっている。

**＜カテゴリー別の解析結果について＞**

これは職種にかかわらず、どちらともいえないが最多である傾向にある。
ただし、否定的な回答「あまりそう思わない」「そう思わない」は医師で特に多く、他の職種が「どちらともいえない」と多く回答していることが全体に影響しているといえる。もし「どちらともいえない」が「わからない」という意味に近いとすれば、医師がその役割において、機能分化の不十分さを感じることが多いということを表している可能性がある。放射線治療を専門とするものは8名が分母とはいえ、4名が「そう思わない」としていることから、放射線治療の専門家の働き方・機能についてはより深く検討の機会があってもよいのかもしれない。

**問39　医師への意見の言いやすさ**

医師以外の医療スタッフの方にお聞きします。がん患者のケアに関して、自分の意見を医師に対して自由に言えますか

海邦総研の報告書 p.132,133参照

**<全体結果について>**

| | N | % |
|---|---|---|
| 言える | 41 | 5.6 |
| おおむね言える | 284 | 38.6 |
| どちらとも言えない | 266 | 36.1 |
| あまり言えない | 128 | 17.4 |
| 言えない | 17 | 2.3 |
| Total | 738 | 100.0 |

医師への意見の言いやすさは、「おおむねいえる」が最多であるとはいえ、どちらともいえない、も同数あることに注目すべきかもしれない。「言えない」、「あまり言えない」も5分の１とある。

**＜カテゴリー別の解析結果について＞**

職種別については、看護師では「どちらともいえない」という回答が最多となっており、他の職種において、「おおむね言える」が最多であることと対照的である。地域別にいても、本島では「おおむねいえる」が最多となるのに対して、宮古・八重山では「どちらともいえない」が最多であった。

医師と、他のスタッフとの関係については職種ごとに関係性が異なるのは自然であるものの、チーム医療には重要な要素であることから、肯定的回答がより多くなるほうが望ましい。

## 問40　他スタッフの意見の尊重

医師の方にお聞きします。他の医療スタッフの話に耳を傾けていますか

海邦総研の報告書 p.134，135参照

**<全体結果について>**

| | N | % |
|---|---|---|
| 傾けている | 82 | 37.3 |
| おおむね傾けている | 119 | 54.1 |
| どちらともいえない | 17 | 7.7 |
| あまり傾 けていない | 2 | 0.9 |
| 傾けていない | 0 | 0.0 |
| Total | 220 | 100.0 |

**＜カテゴリー別の解析結果について＞**

医師は、その立場から、「傾けている」「おおむね傾けている」が最多となっており「どちらともいえない」「あまり傾けていない」が、反省的な意見なのか、これらの回答者の要求水準が高いのかは考察の余地がある。

年代別の分析では「おおむね」との回答が40台以外では最多であるのに対して、40台で「傾けている」が最多となっている。また、20代では回答者数は11名ではあるものの、「どちらともいえない」「あまり傾けていない」が多いし、30代でもより高年齢よりも同様の傾向がみられることから、「耳を傾ける」という表現が、上下関係のニュアンスを含むために、職位や立場が回答の傾向に関係する可能性もある。

**問41　職場のキャリア育成環境**

今の職場は、あなたが必要な知識を備えた専門的人材になれる環境やキャリア形成（専門資格を取得するなど）を、支援してくれていますか。

海邦総研の報告書 p.136,137参照

**<全体結果について>**

| | N | % |
|---|---|---|
| 支援してくれている | 110 | 11.5 |
| おおむね支援してくれている | 471 | 49.2 |
| どちらともいえない | 292 | 30.5 |
| あまり支援してくれない | 66 | 6.9 |
| 支援してくれていない | 19 | 2.0 |
| Total | 958 | 100.0 |

約半数がおおむね支援してくれている、と回答があり、次いで「どちらともいえない」が3割となっている。

**＜カテゴリー別の解析結果について＞**

医療ソーシャルワーカー、薬剤師では約70％が肯定的（「支援してくれている」「おおむね」）と回答しているのに対して、医師は64％、看護師は56％と少し肯定的回答の割合は低めとなる。また、宮古・八重山では「どちらともいえない」が最多となっていることは、実態と地域性、あるいは職種の分布を加味して検討する必要性があると考えられる。

# 4.　全体の注意点について

全体として「わからない」との回答が非常に多く（60%以上)、「わからない」が、回答者が当該質問を回答する立場にないということでよいのかが疑問であったため、解釈が困難であった。特に「診療の状況」や「他医療機関への紹介」に関する質問は、全職種に一律に行われているため、職種によっては不適切な質問が必須回答となっている場合が多くみられる。

中でも、全体として、看護師の「わからない」という回答が際立っている。看護師の専門である療養に関与する質問であるにもかかわらず、「わからない」とするケースも目立ち、看護師の裁量が低いのか、質問の意図が理解できていないのか不明である。また、女性が「わからない」と答えやすいのか、看護師全体の傾向なのかも判断が難しい。

ただし、これは質問の構成の影響も否定できない。質問内容が複数の要素を細かく設定している場合に、回答が「わからない」とされた場合、その「わからない」が、自らの意見がないのか、質問がわからないのか、様々考えられる。問によっては回答の想定するものが回答者によって異なる可能性が高い（例：問36)。

年代別では、全体的に、若年層は「わからない」と回答する割合が高く、高齢者ほどポジティブな回答を示す傾向がある。若年層の「わからない」の回答は、職種、職場における経験が少ない、あるいは責任が軽いことから考えが及んでいない可能性もある。

医療施設種別においては、見かけ上は大きな回答傾向の差は目立てなかった。しかし、地域がん診療病院における「わからない」との回答が圧倒的に多く、この部分においては、医療施設以外の要因が影響している可能性を念頭に置いておくことが必要である。

患者数や病院数の観点から小規模な医療圏では「わからない」との回答が顕著に目立ち、さらに多くの質問においてネガティブな回答が見られた。ただし、回答数が少ないため、一般化には注意が必要である。

職種別の分析については、割合を比較する際には分母の大きさに注意する必要がある。特に、医師の専門別では、「放射線が主」の医師は、8名であることから、異なる回答分布が、専門性の違いのために質問対象となっている事項に対する見方が異なるのか、分母が少ないことによる統計的な不安定性によるものなのかは不明である。同様に医療ソーシャルワーカーは全体で48名、北部医療圏、都医療圏の回答はそれぞれ49名、45名であることから、これらの特徴についての考察は行いづらい。

# 5.　今後にむけた提言

１．調査方法についての提言

（質問項目について）

今回の医療者調査については、「わからない」という回答が非常に多かったが、そもそも質問項目を策定する際に、質問内容が回答者には「わからない」ということが想定されていたために、当該選択肢を設けたと考えられる。しかし、今回調査をしてみて、予想以上に「わからない」と回答されたと考えられ、それぞれ果たして医療者に対して質問すべき事項であったのかを再検討する必要がある。

特に今回、「〇〇であった患者の割合がどの程度か」を問い、具体的な数値の範囲を選択する質問するものが多数を占めたが、数値というのは真実が存在することから、実際にその知識がなければ「わからない」と回答するのは自然なことである。しかし、真の値を知るものはおそらくめったにないことから、事実上「印象」あるいは「感覚」で答えることを依頼しているため、質問表現はより直接的に「あなたの感覚に最も近い数字を選択してください」として数値選択肢を回答するか、「どのぐらいかと思いますか？」として「ほとんどすべて」「だいたい」といった、印象の質問として、正解を問うのではなく主観を問うことが直感的に明らかにしたほうが回答しやすいと考えられる。

また、論理的には割合には分母、対象者を明確にする必要がある。対象が「施設全体で該当する患者」「あなたが関わった中で該当する患者」なのか、はたまた、「沖縄全体の該当する患者」なのかの指定が設問になかったため、回答者が想定しているものが異なる可能性がある。これは職種ごとの回答傾向に一部反映されている可能性があり、今後は明確にする必要がある。

また、数値を問う際には選択肢は統一したほうが良い。範囲の中央の値をベースに平均を出す計算法は、選択肢が異なると取りうる値の範囲も異なってしまうこともあり、比較ができないし、想定する回答とレベルが異なってしまうと、回答者の思う数値の範囲をとらえられないこともある。

ロジックモデルをもとに質問項目を設定する手法により今回の医療者調査の項目が決定されているものの、医療者への質問に対する回答が測定したい指標を一定以上正確に反映するのかどうかも含めて、再検討する必要がある。また、今回の結果を踏まえて、ロジックモデルの内容を変えることも考える必要がある。

（手順について）

以上のようなことは、時間が限られた中で質問紙を作成するには気が付くのは難しいことがある。そのような問題を効率よく認知するには、パイロット調査をすることが最適である。それも、認知面接 Cognitive (debriefing) interview といって、回答者に回答を見ながら、何を考えて回答したのかを話してもらい、その回答思考や想定が調査者が意図したことから外れていないかをチェックし、外れていたら、質問紙の表現を変更する手法である。通り一遍のパイロット調査と意見募集では絶対に得られない反応が得られるので、重要な調査を行う際には必須の手法である。

## ３．沖縄のがん診療に対する提言

（患者への情報提供）

情報提供について、特に低めの傾向の回答が多いものは、医療費、妊孕性温存療法についてであった。医療費は患者にとっても相談しづらいこともあり、また病状によって大きく変動することや、高額療養費制度が月単位の支出と、個人の収入によって異なる程度で適用されることから、一律の情報提供はしづらい一面がある。また妊孕性についても個人の状況によって希望がわかれることは容易に想像がつき、また一般には話しづらい。それを解決するためには、一定の手順を定めて対象者のスクリーニングを行うことが有用である可能性がある。例えば、医療費については、主に米国においては医療費を治療の有害事象の一つととらえて「医療費毒性」（Financial Toxicity）と称し、その検出を Financial Toxicity Screening として、医療費の不安がある患者を早期に洗い出して対応するといったことが行われている。また妊孕性についても初診において「挙児希望」をスクリーニングして希望がある場合には対応をかけることが有用と考えられる。

また、患者サロン、ピアサポート、患者会に関する情報、がん相談支援センターの情報提供も少ない結果となっていることから、これら「相談」先の情報提供はシステム化することが重要である。これらは特に医師の回答が低い傾向があるのも特徴かもしれない。施設としての一定の情報提供体制を構築することが必要であり、また、専門性を明確に分けて担当分野と考えられる職種の担当とすることも工夫の一つと考えられる。

（離島・僻地連携）

離島へき地との連携は数値には表れづらい個別性がある。個別自由回答については多くが「患者が希望しない」といった回答がみられており、どういった状況を目指すのかといったことを明確化していく必要があり、それに沿った質問紙によるモニターを行っていくことが望まれる。

（医師とスタッフのコミュニケーション）

医師以外の報告では、医師とのコミュニケーションは、肯定的な回答は多数派であるものの、看護師が他の職種に比べて、「中立（どちらともいえない）」的な回答が多かった。これは、医師と医療全般にわたって意見交換して診療を進めていく際には、意見を言えないことも一定数あるということであると考えられる。一方で医師への「耳を傾けているか」の質問は、職種に限ったことではないため、対応関係をとることが難しい。限られた時間の中で納得のいくまでコミュニケーションをとることは難しいが、少なくとも意見を言える、と回答できるような環境の構築は必要であり組織として工夫を考えていくことが必要である。

資料８－３

沖縄県がん診療連携協議会
委員各位

2024 年 10 月 29 日
ベンチマーク部会長
増田昌人

# 第２回医療者調査の結果に基づく提案

第４次沖縄県がん対策推進計画（沖縄県がん診療連携協議会版）（以下、第４次沖縄県がん計画（協議会版））の進捗評価のために行われた今年２月～３月に行われた沖縄県がん診療連携協議会主催第２回医療者調査において、実現率（資料８－１　6 ページ参照）が 30%未満の特に低い項目が３分野、平均スコア（資料８－１　6 ページ参照）が特に低い項目が２分野あった。

① 患者サロン、ピアサポート、患者会に関する十分な情報提供　実現率 22.2%
②がんゲノム医療に関する十分な情報提供　実現率 23.4%
③高齢がん患者への治療開始前の高齢者機能評価　実現率 26.0%
④県内におけるがん医療の集約化と機能分化　平均スコア：－2.5
⑤医師への意見の言いやすさ（医師以外が回答）　平均スコア：13.9

＊詳細は、資料８－１（海邦総研作成報告書）および８－２（NPO 法人疾病対策情報センター作成資料）を参照。

このうち、①～③に関しては、基本的には医療者の認識不足や説明不足がその理由である。このため、協議会として、がん診療連携拠点病院等 6 施設と『掲載要件を満たす、がん診療を行う県内医療施設』20 施設に対して、上記①～③の項目については、要望書（次ページ以降）を送ることを提案する。

また、④に関しては、2012 年度（第６次沖縄県医療計画時）と 2018 年度（第７次沖縄県医療計画時）と同様に、今年度も第８次沖縄県医療計画に基づき、いわゆる『掲載要件』を決めるために、沖縄県から琉球大学への委託に関する要望書を協議会として提案する。

⑤に関しては、各病院へ医師以外の医療者から医師へ意見が検討を促すための方策を、各医療機関で行ってほしい旨の要望書を送ることを提案する。

2024 年 10 月 30 日

『掲載要件を満たす、がん診療を行う県内医療施設』
〇〇〇〇院長

沖縄県がん診療連携協議会議長
（琉球大病院長）
大屋祐輔

第 2 回医療者調査の結果に基づく要望書

沖縄県がん診療連携協議会（以下、協議会）では、第 4 次沖縄県がん対策推進計画（沖縄県がん診療連携協議会版）の進捗評価のために、本年 2 月～ 3 月に沖縄県がん診療連携協議会主催第 2 回医療者調査を行いました。その際には、貴院に多大なご協力をいただきました。改めて、お礼を申し上げます。

今回、その結果を同封の資料 1 報告書（海邦総研作成）と資料 2（NPO 法人疾病対策情報センター）にまとめましたので、貴院内で共有をしていただければと思います。

この結果を受けて本協議会では、第 3 回協議会で審議を行い、特に達成が不十分な 4 項目についは、その達成に向けて、県内の主要医療機関に特別に要望を行い、ご協力をお願いすることにしました。

以下の項目につき、ぜひ貴院でも担当分野の委員会等で協議の上、医療職の方々に周知、達成を図っていただきますようにお願い申し上げます。

記

以下のことを、貴院全体で取り組んでいただくことをお願いいたします。

1　医師を含む担当職員から患者サロン、ピアサポート、患者会に関する十分な情報提供を、診断がついた初期の段階で患者さんに十分行うこと
2　担当医からがんゲノム医療に関する情報提供を患者さんに十分行うとともに、標準治療がない患者に対しては治療開始前に、標準治療がある患者に対してはその治療修了が見込まれる際に、がん遺伝子パネル検査を行うことを一度は検討すること
3　65 歳以上のがん患者に治療をする際には、全例に高齢者機能評価を行うこと
4　医師以外の医療職が、医師に対して自由に意見が言えるような体制整備を行うこと

以上

2024 年 10 月 30 日

沖縄県知事
玉城デニー殿

沖縄県がん診療連携協議会議長
（琉球大病院長）
大屋祐輔

第 2 回医療者調査の結果に基づく要望書

沖縄県がん診療連携協議会（以下、協議会）では、第 4 次沖縄県がん対策推進計画（沖縄県がん診療連携協議会版）の進捗評価のために、本年 2 月～ 3 月に沖縄県がん診療連携協議会主催第 2 回医療者調査を行いました。対象は、県庁ホームページに掲載されている『掲載要件を満たす、がん診療を行う県内医療施設』26 施設に勤務する医療者（医師、看護師、薬剤師、医療ソーシャルワーカー）で、1,267 名から回答が得られました。

今回、その結果を同封の資料 1 報告書（海邦総研作成）と資料 2 （NPO 法人疾病対策情報センター）にまとめましたので、ご参照ください。

この結果を受けて本協議会では、１１月 8 日の第 3 回協議会で審議を行い、特に達成が不十分な項目について行い、対応策を検討いたしました。

その中で、県内におけるがん医療の集約化と機能分化については、平均スコアが－2.5 ポイントと特別に低く、これに関しては、沖縄県の担当部署と共同で改善を図る必要があるという意見が出ました。そこで、その解決策の一つとして、以下を要望いたしますので、よろしくお取り計らいをお願い申し上げます。

記

第 8 次沖縄県医療計画に基づき、『掲載要件を満たす、がん診療を行う県内医療施設』の選定のための掲載要件を決めることを、沖縄県から琉球大学への委託していただくこと
＊2012 年度（第 6 次沖縄県医療計画時）と 2018 年度（第 7 次沖縄県医療計画時）に、同様の委託事業は行われています。

以上

## （１） 本調査の分析方法

本調査は、適切な医療や情報の提供に関し、「75～99%」など一定の幅を持った選択肢を設け、その実施状況を尋ねている。回答結果をそのまま集計し、「『75～99%』に◯%の回答が集まった」とする調査結果のみでは、結果の全体像が把握しづらいと思われるため、以下の方法で結果概要を取りまとめた。

① 各選択肢の平均の値を「代表値」とする。
② 代表値に各回答者数を掛ける。
③ 掛けた値の合計を、総回答者数で割る（※算出に際し、「わからない」の回答は除外）。
④ 算出された値を、その質問に対する**「実現率」**とみなす。

※「実現率」算出例

| 選択肢 | 代表値（選択肢の平均値） | 回答者数 | 代表値×各回答者数 | |
|---|---|---|---|---|
| 0～24% | 12 | 22 | 264 | |
| 25～49% | 37 | 52 | 1924 | |
| 50～74% | 62 | 159 | 9858 | |
| 75～99% | 87 | 277 | 24099 | |
| 100% | 100 | 90 | 9000 | |
| | 小計 | 600 | 45145 | 75.2 |

↑実現率

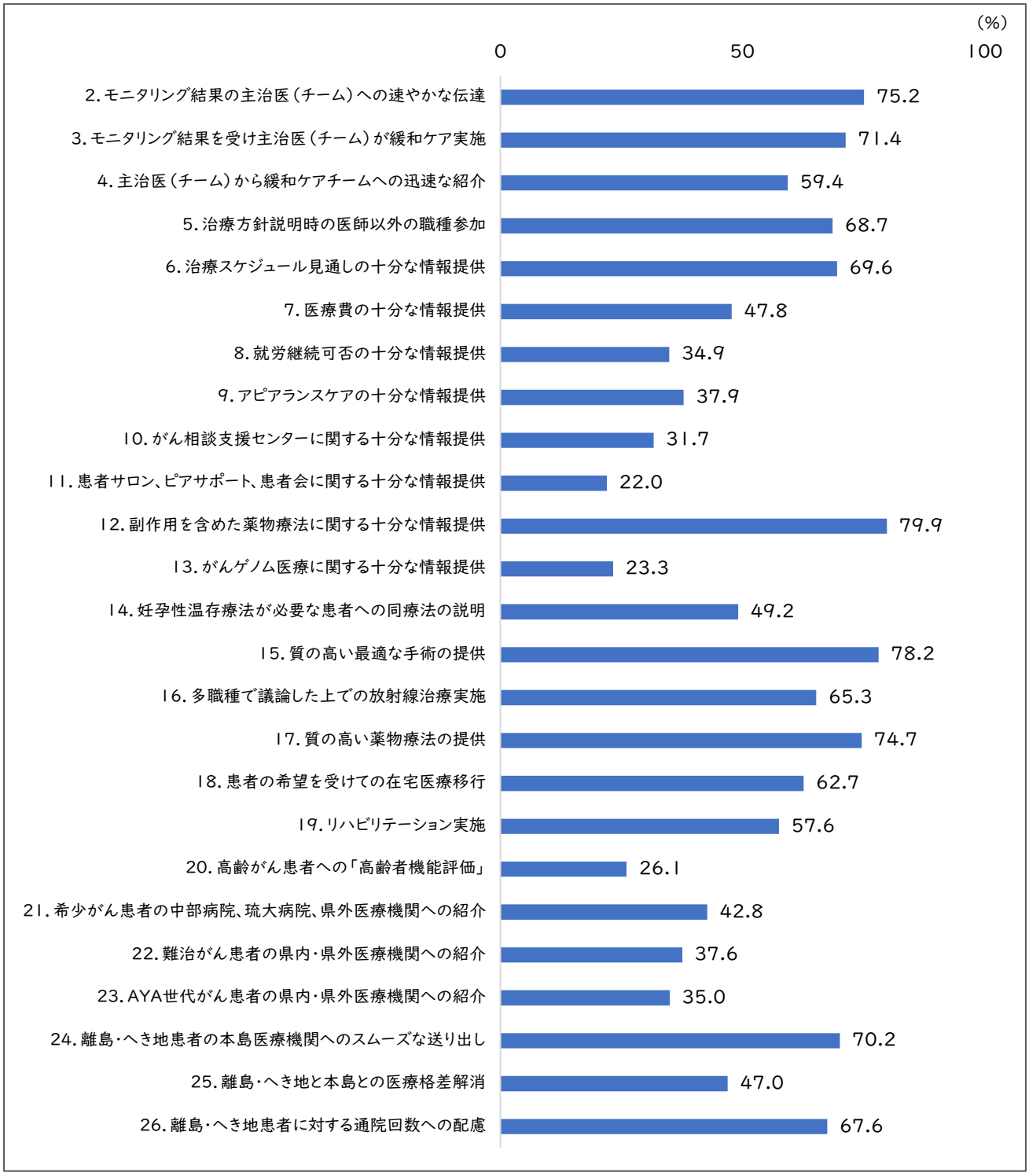
（代表値×各回答者数の小計を回答者総数で割った値）

上記のような、一定の幅を持つ選択肢以外に、「そう思う」「あまりなかった」など定性的な選択肢を設けた質問もある。それらの質問については、以下の方法で結果概要を取りまとめた。

① 「そう思う（なかった）」＝100、「おおむねそう思う（あまりなかった）」＝50、「どちらともいえない」＝0、「あまりそう思わない（ややあった）」＝-50、「そう思わない（あった）」＝-100 とスコアを設定する。
② スコアに各回答者数を掛ける。
③ 掛けた値の合計を、総回答者数で割る（※算出に際し、「わからない」の回答は除外）。
④ 算出された値を、その質問に対する**「平均スコア」**とみなす（-100～100 の幅で算出される）

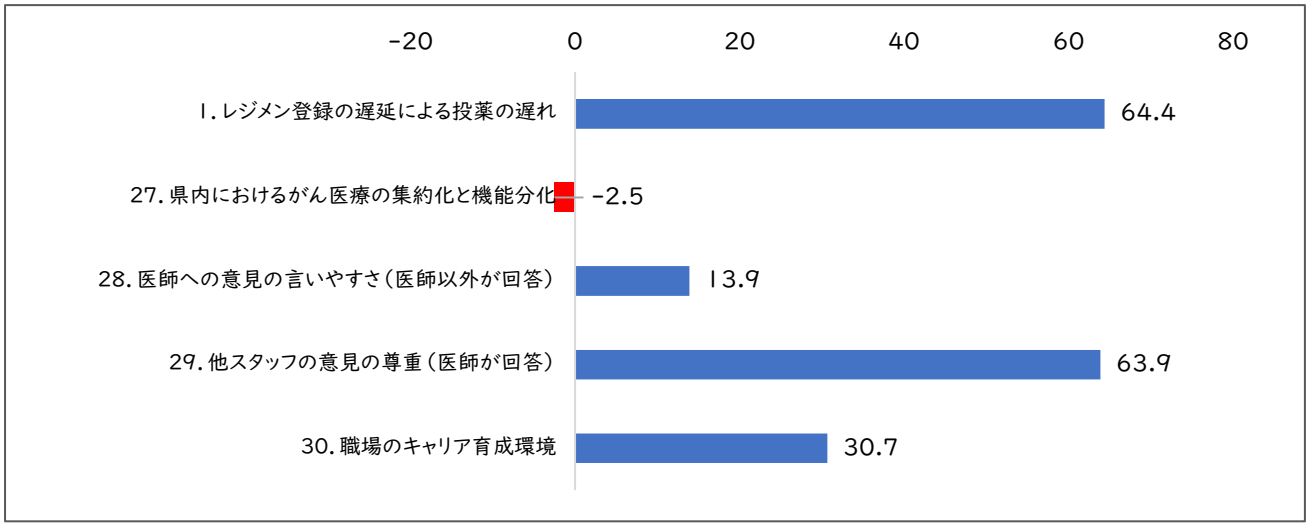
次ページ以降に、各質問の**「実現率」**と**「平均スコア」**を一覧でまとめた。

## （２） 各項目の実現率一覧




※「質問 25」に前述計算式を適用した場合、算出値は「格差残存率」を表すことになるため、100 から算出値を差し引いた「格差解消率」をグラフに記載している。

（３） 各項目の平均スコア一覧



## （11）患者サロン、ピアサポート、患者会に関する十分な情報提供

**実現率：22.0%**

Q. 患者サロン（ゆんたく会）、ピアサポート、患者会について、十分な情報提供を行った患者の割合はどの程度ですか。

**【全体、職種別】**

- 全体では「0%」が12.4%と最も多く、ついで「21～50%」が9.5%、「51～100%」が6.9%、「1～5%」が6.0%、「6～10%」が5.5%、「11～20%」が5.2%と続いた。
- 職種別では、「0%」に「医師」と「医療ソーシャルワーカー」の回答が多かった。

（%）

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 職種 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=219) | 看護師 (n=621) | 薬剤師 (n=63) | 医療ソーシャルワーカー (n=48) |
| 0% | 12.4 | **26.9** | 7.6 | 4.8 | **18.8** |
| 1～5% | 6.0 | 7.8 | 5.6 | 0.0 | 10.4 |
| 6～10% | 5.5 | 8.2 | 5.0 | 1.6 | 4.2 |
| 11～20% | 5.2 | 7.3 | 4.7 | 0.0 | 8.3 |
| 21～50% | 9.5 | 7.8 | 10.6 | 6.3 | 6.3 |
| 51～100% | 6.9 | 6.4 | 8.1 | 1.6 | 2.1 |
| わからない | 54.6 | 35.6 | 58.5 | **85.7** | 50.0 |

**【性別、年代別】**

- 年代別では、「51～100%」に60代以上が多く、「わからない」が20代に多かった。

（%）

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 性別 | | 年代別 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 男性 (n=317) | 女性 (n=622) | 20代 (n=206) | 30代 (n=251) | 40代 (n=259) | 50代 (n=178) | 60代以上 (n=57) |
| 0% | 12.4 | **18.9** | 9.2 | 10.7 | 13.5 | 13.1 | 10.7 | 15.8 |
| 1～5% | 6.0 | 6.0 | 5.8 | 4.4 | 5.2 | 6.2 | 7.9 | 8.8 |
| 6～10% | 5.5 | 6.9 | 4.8 | 5.8 | 6.4 | 4.6 | 4.5 | 7.0 |
| 11～20% | 5.2 | 5.4 | 5.0 | 3.4 | 4.4 | 6.6 | 5.6 | 7.0 |
| 21～50% | 9.5 | 6.9 | 10.8 | 7.3 | 8.0 | 11.2 | 12.9 | 5.3 |
| 51～100% | 6.9 | 5.0 | 8.0 | 5.3 | 3.6 | 8.9 | 7.3 | **17.5** |
| わからない | 54.6 | 50.8 | 56.4 | **63.1** | 59.0 | 49.4 | 51.1 | 38.6 |

【医療圏別】

➢ 医療圏別では、「わからない」が宮古と八重山に多く、「1～5%」が宮古に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 医療圏 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 北部医療圏 (n=49) | 中部医療圏 (n=217) | 南部医療圏 (n=504) | 宮古医療圏 (n=45) | 八重山医療圏 (n=136) |
| 0% | 12.4 | 14.3 | 16.1 | 10.9 | 11.1 | 11.8 |
| 1～5% | 6.0 | 8.2 | 7.8 | 4.8 | **11.1** | 5.1 |
| 6～10% | 5.5 | 2.0 | 4.6 | 7.3 | 0.0 | 2.9 |
| 11～20% | 5.2 | 2.0 | 4.1 | 6.2 | 2.2 | 5.1 |
| 21～50% | 9.5 | 8.2 | 7.8 | 12.1 | 2.2 | 5.1 |
| 51～100% | 6.9 | 8.2 | 9.2 | 6.7 | 4.4 | 4.4 |
| わからない | 54.6 | 57.1 | 50.2 | 52.0 | **68.9** | **65.4** |

【医療施設別】

➢ 医療施設別では、「わからない」が地域がん診療病院に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 医療施設分類 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 都道府県または地域がん診療連携拠点病院 (n=373) | 地域がん診療病院 (n=223) | その他の医療機関 (n=355) |
| 0% | 12.4 | 9.7 | 10.8 | 16.3 |
| 1～5% | 6.0 | 5.4 | 6.7 | 6.2 |
| 6～10% | 5.5 | 7.5 | 2.7 | 5.1 |
| 11～20% | 5.2 | 5.6 | 5.4 | 4.5 |
| 21～50% | 9.5 | 11.8 | 5.8 | 9.3 |
| 51～100% | 6.9 | 7.8 | 5.4 | 7.0 |
| わからない | 54.6 | 52.3 | **63.2** | 51.5 |

【医師の主たる分野別】

➢ 医師の主たる分野別では、「0%」の回答が各分野に多く、「51～100%」の回答が「放射線治療が主」の医師に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 職種 | 医師の主たる分野 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=219) | 手術が主 (n=120) | 放射線治療が主 (n=8) | 薬物療法が主 (n=91) |
| 0% | 12.4 | **26.9** | **22.5** | **37.5** | **31.9** |
| 1～5% | 6.0 | 7.8 | 7.5 | **12.5** | 7.7 |
| 6～10% | 5.5 | 8.2 | 9.2 | 0.0 | 7.7 |
| 11～20% | 5.2 | 7.3 | 6.7 | 0.0 | 8.8 |
| 21～50% | 9.5 | 7.8 | 10.0 | 0.0 | 5.5 |
| 51～100% | 6.9 | 6.4 | 7.5 | **25.0** | 3.3 |
| わからない | 54.6 | 35.6 | 36.7 | 25.0 | 35.2 |

## 問19「患者サロン、ピアサポート、患者会に関する十分な情報提供」

患者サロン（ゆんたく会)、ピアサポート、患者会について、十分な情報提供を行った患者の割合はどの程度ですか。

海邦総研の報告書 p.92,93参照

**<全体結果について>**

| | N | % |
|---|---|---|
| 0% | 118 | 12.3 |
| 1-5% | 58 | 6.1 |
| 6-10% | 53 | 5.5 |
| 11-20% | 49 | 5.1 |
| 21-50% | 90 | 9.4 |
| 51-100% | 68 | 7.1 |
| わからない | 522 | 54.5 |
| Total | 958 | 100 |

全体の約60%が「わからない」を選択している。
「十分な情報提供」を問うていることは問14、さらに回答選択肢で51%以上が一つにまとめられている問題は問15と同様である。本問においては、回答のあった約40%のうち、10%以下しか半分以上を選択していない。「わからない」以外の最多の回答が0%であることから、本問に関しての情報の周知度は極めて低い可能性がある。

**＜カテゴリー別の解析結果について＞**

職種別には「わからない」以外を回答した人の中では医師に「０％」の回答は多い。本問の回答が適切かについて疑わしい薬剤師の人口を除いては、看護師のうち「わからない」と回答した人が58%もいたことは注目すべき点であり、医療者の中でも周知が必要な分野と考えられる。
男女別、年齢別に関しては問16とほぼ同様である。
医療圏別の回答に関しては、問16とほぼ同様である。規模の大きい医療圏の回答が似通っている点、規模の小さい医療圏で「わからない」が多くポジティブな回答が少ない。
医師の専門領域に関しては、「放射線が主」の医師が他と違う回答分布ではあるものの、８名の回答であるためなんらかの解釈を提供するのは困難である。「手術が主」に比べて「薬物療法が主」の医師の方が「０％」の回答が多い。

## （13）がんゲノム医療に関する十分な情報提供

**実現率：23.3%**

Q. がんゲノム医療に関する十分な情報提供をした割合はどの程度ですか。

**【全体、職種別】**

- 全体では「0%」が 10.1%と最も多く、ついで「51～100%」が 6.9%、「21～50%」が 5.8%、「1～5%」が 5.5%、「11～20%」が 4.5%、「6～10%」が 3.5%と続いた。
- 職種別では、「0%」「51～100%」「21～50%」に医師の回答が多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 職種 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=219) | 看護師 (n=621) | 薬剤師 (n=63) | 医療ソーシャルワーカー (n=48) |
| 0% | 10.1 | **20.1** | 6.4 | 11.1 | 10.4 |
| 1～5% | 5.5 | 8.2 | 5.0 | 1.6 | 4.2 |
| 6～10% | 3.5 | 6.8 | 2.6 | 1.6 | 2.1 |
| 11～20% | 4.5 | 6.8 | 4.0 | 3.2 | 2.1 |
| 21～50% | 5.8 | **14.2** | 3.5 | 0.0 | 4.2 |
| 51～100% | 6.9 | **17.4** | 4.0 | 3.2 | 2.1 |
| わからない | 63.7 | 26.5 | **74.4** | **79.4** | **75.0** |

**【性別、年代別】**

- 年代別では、「51～100%」と「6～10%」に 60 代以上の回答が多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 性別 | | 年代別 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 男性 (n=317) | 女性 (n=622) | 20代 (n=206) | 30代 (n=251) | 40代 (n=259) | 50代 (n=178) | 60代以上 (n=57) |
| 0% | 10.1 | **15.1** | 7.4 | 7.3 | 12.0 | 10.0 | 9.6 | 14.0 |
| 1～5% | 5.5 | 4.7 | 5.6 | 2.9 | 6.4 | 6.6 | 5.6 | 5.3 |
| 6～10% | 3.5 | 4.7 | 2.9 | 2.9 | 3.6 | 2.3 | 3.4 | **10.5** |
| 11～20% | 4.5 | 5.4 | 4.0 | 3.4 | 5.2 | 3.1 | 6.7 | 5.3 |
| 21～50% | 5.8 | 8.5 | 4.5 | 2.9 | 3.6 | 8.1 | 8.4 | 7.0 |
| 51～100% | 6.9 | 11.4 | 4.8 | 4.9 | 4.0 | 7.3 | 10.7 | **14.0** |
| わからない | 63.7 | 50.2 | **70.7** | **75.7** | 65.3 | 62.5 | 55.6 | 43.9 |

【医療圏別】

➢ 医療圏別では、「0%」が北部に多く、「わからない」が八重山、宮古に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 医療圏 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 北部医療圏 (n=49) | 中部医療圏 (n=217) | 南部医療圏 (n=504) | 宮古医療圏 (n=45) | 八重山医療圏 (n=136) |
| 0% | 10.1 | **16.3** | 9.7 | 9.1 | 11.1 | 11.8 |
| 1～5% | 5.5 | 4.1 | 6.0 | 5.6 | 8.9 | 3.7 |
| 6～10% | 3.5 | 0.0 | 5.5 | 3.6 | 2.2 | 1.5 |
| 11～20% | 4.5 | 6.1 | 5.1 | 5.0 | 2.2 | 2.2 |
| 21～50% | 5.8 | 6.1 | 8.3 | 6.0 | 4.4 | 1.5 |
| 51～100% | 6.9 | 2.0 | 8.8 | 7.7 | 2.2 | 4.4 |
| わからない | 63.7 | 65.3 | 56.7 | 63.1 | **68.9** | **75.0** |

【医療施設別】

➢ 医療施設別では、「わからない」の回答が地域がん診療病院に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 医療施設分類 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 都道府県または地域がん診療連携拠点病院 (n=373) | 地域がん診療病院 (n=223) | その他の医療機関 (n=355) |
| 0% | 10.1 | 8.0 | 12.1 | 11.0 |
| 1～5% | 5.5 | 4.6 | 4.5 | 7.0 |
| 6～10% | 3.5 | 3.8 | 1.8 | 4.2 |
| 11～20% | 4.5 | 5.9 | 3.1 | 3.9 |
| 21～50% | 5.8 | 7.2 | 2.7 | 6.2 |
| 51～100% | 6.9 | 6.7 | 3.6 | 9.3 |
| わからない | 63.7 | 63.8 | **72.2** | 58.3 |

【医師の主たる分野別】

➢ 医師の主たる分野別では、「0%」の回答が「放射線治療が主」の医師に多く、「51～100%」の回答が「手術が主」「薬物療法が主」の医師に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 職種 | 医師の主たる分野 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=219) | 手術が主 (n=120) | 放射線治療が主 (n=8) | 薬物療法が主 (n=91) |
| 0% | 10.1 | **20.1** | **18.3** | **37.5** | **20.9** |
| 1～5% | 5.5 | 8.2 | 8.3 | 0.0 | 8.8 |
| 6～10% | 3.5 | 6.8 | **10.0** | **12.5** | 2.2 |
| 11～20% | 4.5 | 6.8 | 7.5 | **12.5** | 5.5 |
| 21～50% | 5.8 | **14.2** | **12.5** | **12.5** | **16.5** |
| 51～100% | 6.9 | **17.4** | **17.5** | 0.0 | **18.7** |
| わからない | 63.7 | 26.5 | 25.8 | 25.0 | 27.5 |

## 問21「がんゲノム医療に関する十分な情報提供」

がんゲノム医療に関する十分な情報提供をした割合はどの程度ですか

海邦総研の報告書 p.96,97参照

**<全体結果について>**

| | N | % |
|---|---|---|
| 0% | 96 | 10.0 |
| 1-5% | 53 | 5.5 |
| 6-10% | 33 | 3.4 |
| 11-20% | 43 | 4.5 |
| 21-50% | 56 | 5.9 |
| 51-100% | 67 | 7.0 |
| わからない | 610 | 63.7 |
| Total | 958 | 100 |

全体の60%以上が「わからない」を選択している。
「十分な情報提供」を問うていることは問14、さらに回答選択肢で51%以上が一つにまとめられている問題は問15と同様である。本問においては、回答のあった40%弱のうち、10%以下しか半分以上を選択していない。「わからない」以外の最多の回答が0%であることからも、本問に関しての情報の周知度は極めて低い可能性がある。また、本問は薬剤師に加えて MSW へ質問することも適切とは言い難い。

**＜カテゴリー別の解析結果について＞**

職種別には、医師以外の回答の70%以上が「わからない」を回答しており、医師以外の回答よりなんらか有用な解釈ができると言い難い。また、医師の回答の中でも「わからない」以外では「0%」が最多の20%となっており、周知度の低い情報であることがわかる。
男女別、年齢別に関しては問16とほぼ同様である。20-40代の回答では、「わからない」の回答以外は、「０％」が最多の回答となっている。
医療圏別の回答に関しては、問16とほぼ同様ではあるものの、本問はどの医療圏においても「わからない」の回答が圧倒的最多である。
医師の専門領域に関しては、「放射線が主」の医師が他と違う回答分布ではあるものの、８名の回答であるためなんらかの解釈を提供するのは困難である。

## （20）高齢がん患者への「高齢者機能評価」

**実現率：26.1%**

Q. 高齢者のがん患者に対して、治療前に「※高齢者機能評価」を行った割合はどの程度ですか。

**【全体、職種別】**

- 全体では「0%」が 10.8%と最も多く、ついで「51～100%」が 7.4%、「21～50%」が 4.9%、「1～5%」と「6～10%」がそれぞれ 2.5%、「11～20%」が 2.3%と続いた。
- 職種別では、「0%」と「51～100%」に医師の回答が多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 職種 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=219) | 看護師 (n=621) | 薬剤師 (n=63) | 医療ソーシャルワーカー (n=48) |
| 0% | 10.8 | **26.9** | 6.3 | 4.8 | 4.2 |
| 1～5% | 2.5 | 4.1 | 2.1 | 0.0 | 4.2 |
| 6～10% | 2.5 | 5.9 | 1.4 | 3.2 | 0.0 |
| 11～20% | 2.3 | 5.5 | 1.6 | 0.0 | 0.0 |
| 21～50% | 4.9 | 7.3 | 4.8 | 0.0 | 2.1 |
| 51～100% | 7.4 | **13.7** | 5.8 | 1.6 | 6.3 |
| わからない | 69.5 | 36.5 | **77.9** | **90.5** | **83.3** |

**【性別、年代別】**

- 年代別では、「0%」「51～100%」に 60 代以上が多く、「わからない」に 20 代が多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 性別 | | 年代別 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 男性 (n=317) | 女性 (n=622) | 20代 (n=206) | 30代 (n=251) | 40代 (n=259) | 50代 (n=178) | 60代以上 (n=57) |
| 0% | 10.8 | **18.0** | 7.1 | 3.9 | 10.8 | 11.6 | 15.7 | **17.5** |
| 1～5% | 2.5 | 3.2 | 2.3 | 1.0 | 2.0 | 3.5 | 2.8 | 5.3 |
| 6～10% | 2.5 | 4.1 | 1.8 | 2.4 | 1.6 | 1.5 | 3.9 | 7.0 |
| 11～20% | 2.3 | 4.4 | 1.1 | 1.9 | 1.6 | 1.5 | 4.5 | 3.5 |
| 21～50% | 4.9 | 5.0 | 5.0 | 6.8 | 3.6 | 2.7 | 9.0 | 1.8 |
| 51～100% | 7.4 | 9.8 | 6.3 | 2.9 | 6.4 | 9.3 | 9.0 | **14.0** |
| わからない | 69.5 | 55.5 | **76.5** | **81.1** | 74.1 | 69.9 | 55.1 | 50.9 |

**【医療圏別】**

➢ 医療圏別では、「0%」に宮古の回答が多く、「51～100%」に中部の回答が多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 医療圏 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 北部医療圏 (n=49) | 中部医療圏 (n=217) | 南部医療圏 (n=504) | 宮古医療圏 (n=45) | 八重山医療圏 (n=136) |
| 0% | 10.8 | 14.3 | 7.8 | 11.3 | **22.2** | 8.8 |
| 1～5% | 2.5 | 0.0 | 2.3 | 3.6 | 0.0 | 0.7 |
| 6～10% | 2.5 | 0.0 | 4.1 | 2.4 | 0.0 | 2.2 |
| 11～20% | 2.3 | 0.0 | 3.2 | 2.6 | 2.2 | 0.7 |
| 21～50% | 4.9 | 4.1 | 6.5 | 4.8 | 4.4 | 3.7 |
| 51～100% | 7.4 | 2.0 | **13.8** | 6.5 | 0.0 | 4.4 |
| わからない | 69.5 | **79.6** | 62.2 | 68.8 | 71.1 | **79.4** |

**【医療施設別】**

➢ 医療施設別では、「わからない」の回答が地域がん診療病院に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 医療施設分類 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 都道府県または地域がん診療連携拠点病院 (n=373) | 地域がん診療病院 (n=223) | その他の医療機関 (n=355) |
| 0% | 10.8 | 8.6 | 10.8 | 13.2 |
| 1～5% | 2.5 | 2.4 | 0.4 | 3.9 |
| 6～10% | 2.5 | 3.2 | 1.3 | 2.5 |
| 11～20% | 2.3 | 2.9 | 1.3 | 2.3 |
| 21～50% | 4.9 | 5.4 | 2.7 | 5.9 |
| 51～100% | 7.4 | 7.8 | 3.6 | 9.3 |
| わからない | 69.5 | 69.7 | **79.8** | 62.8 |

**【医師の主たる分野別】**

➢ 医師の主たる分野別では、「0%」の回答が各分野で多く、「51～100%」の回答が「放射線治療が主」「手術が主」の医師に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 職種 | 医師の主たる分野 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=219) | 手術が主 (n=120) | 放射線治療が主 (n=8) | 薬物療法が主 (n=91) |
| 0% | 10.8 | **26.9** | **24.2** | **50.0** | **28.6** |
| 1～5% | 2.5 | 4.1 | 6.7 | 0.0 | 1.1 |
| 6～10% | 2.5 | 5.9 | 4.2 | 0.0 | **8.8** |
| 11～20% | 2.3 | 5.5 | 5.8 | 0.0 | 5.5 |
| 21～50% | 4.9 | 7.3 | 5.0 | **12.5** | 9.9 |
| 51～100% | 7.4 | **13.7** | **15.8** | **25.0** | 9.9 |
| わからない | 69.5 | 36.5 | 38.3 | 12.5 | 36.3 |

## 問28「高齢がん患者への「高齢者機能評価」」

高齢者のがん患者に対して、治療前に「※高齢者機能評価」を行った割合はどの程度ですか。

海邦総研の報告書 p.110,111参照

**<全体結果について>**

| | N | % |
|---|---|---|
| 0% | 104 | 10.9 |
| 1-5% | 24 | 2.5 |
| 6-10% | 24 | 2.5 |
| 11-20% | 22 | 2.3 |
| 21-50% | 48 | 5.0 |
| 51-100% | 70 | 7.3 |
| わからない | 666 | 69.5 |
| Total | 958 | 100 |

全体の約70%が「わからない」を回答しており、「わからない」以外では「０%」が最大と周知が必要な内容である。この「わからない」が「高齢者機能評価」がわからないのか、評価を行った割合がわからないのかは不明であり、両方の可能性もある。

**＜カテゴリー別の解析結果について＞**

職種別には、医師以外、「わからない」を回答しているのが看護師の77.9%、薬剤師の90.5%、MSW の83.3%と「わからない」以外の解釈が不可能である。医師の中でも、「わからない」以外の回答が「0%」が最大と周知度が低いことがうかがえる。

男女別に関しては、女性に「わからない」が多い以外ほぼ差がない。年齢に関しては、若年ほど「わからない」が多いが、ポジティブな回答もネガティブな回答も高齢になるほど多くなっている。

医療圏別の回答は、問23と同様であるが、中部医療圏のみ「51-100%」の回答が際立って多かった。その他、規模の大きな医療圏ですら「わからない」の回答が圧倒的多数である。

医師の専門領域に関しては、問27と同様である。

## （27）県内におけるがん医療の集約化と機能分化

**平均スコア：-2.5**

Q. 沖縄県内において、がん医療の適切な集約化と機能分化が十分にできていると思いますか。

**【全体、職種別】**

- 全体では「どちらともいえない」が 47.6%と最も多く、ついで「おおむねそう思う」が 24.1%、「あまりそう思わない」が 21.7%、「そう思わない」が 5.2%、「そう思う」が 1.5%と続いた。
- 職種別では、「あまりそう思わない」「そう思わない」に医師の回答が多かった。

（%）

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 職種 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=219) | 看護師 (n=621) | 薬剤師 (n=63) | 医療ソーシャルワーカー (n=48) |
| そう思う | 1.5 | 1.8 | 1.4 | 1.6 | 0.0 |
| おおむねそう思う | 24.1 | 20.5 | 24.6 | 28.6 | 27.1 |
| どちらともいえない | 47.6 | 32.9 | 52.3 | 50.8 | 50.0 |
| あまりそう思わない | 21.7 | **31.5** | 18.5 | 17.5 | 22.9 |
| そう思わない | 5.2 | **13.2** | 3.1 | 1.6 | 0.0 |

**【性別、年代別】**

- 年代別では、「あまりそう思わない」に 50 代、「おおむねそう思う」に 20 代の回答がそれぞれ多かった。

（%）

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 性別 | | 年代別 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 男性 (n=317) | 女性 (n=622) | 20代 (n=206) | 30代 (n=251) | 40代 (n=259) | 50代 (n=178) | 60代以上 (n=57) |
| そう思う | 1.5 | 1.6 | 1.4 | 2.4 | 0.8 | 0.8 | 2.8 | 0.0 |
| おおむねそう思う | 24.1 | 26.2 | 23.3 | **38.3** | 20.3 | 19.3 | 19.7 | 24.6 |
| どちらともいえない | 47.6 | 39.7 | 51.3 | 51.5 | 51.0 | 47.5 | 39.3 | 45.6 |
| あまりそう思わない | 21.7 | 23.7 | 20.6 | 7.8 | 24.3 | 23.9 | **30.9** | 21.1 |
| そう思わない | 5.2 | 8.8 | 3.4 | 0.0 | 3.6 | 8.5 | 7.3 | 8.8 |

【医療圏別】

➢ 医療圏別では、「どちらともいえない」の回答が八重山、宮古に、「あまりそう思わない」の回答が北部にそれぞれ多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 医療圏 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 北部医療圏 (n=49) | 中部医療圏 (n=217) | 南部医療圏 (n=504) | 宮古医療圏 (n=45) | 八重山医療圏 (n=136) |
| そう思う | 1.5 | 2.0 | 0.5 | 1.8 | 0.0 | 2.2 |
| おおむねそう思う | 24.1 | 20.4 | 25.8 | 25.4 | 17.8 | 19.9 |
| どちらともいえない | 47.6 | 44.9 | 43.8 | 45.8 | **55.6** | **58.8** |
| あまりそう思わない | 21.7 | **30.6** | 24.4 | 20.8 | 24.4 | 16.2 |
| そう思わない | 5.2 | 2.0 | 5.5 | 6.2 | 2.2 | 2.9 |

【医療施設別】

➢ 医療施設別では、「どちらともいえない」の回答が地域がん診療病院に、「あまりそう思わない」の回答がその他の医療機関にそれぞれ多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 医療施設分類 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 都道府県または地域がん診療連携拠点病院 (n=373) | 地域がん診療病院 (n=223) | その他の医療機関 (n=355) |
| そう思う | 1.5 | 1.3 | 1.8 | 1.4 |
| おおむねそう思う | 24.1 | 29.0 | 19.7 | 21.7 |
| どちらともいえない | 47.6 | 46.4 | **56.1** | 43.7 |
| あまりそう思わない | 21.7 | 18.0 | 19.7 | **26.8** |
| そう思わない | 5.2 | 5.4 | 2.7 | 6.5 |

【医師の主たる分野別】

➢ 医師の主たる分野別では、「そう思わない」の回答が「放射線治療が主」の医師に多く、「あまりそう思わない」の回答が「薬物療法が主」「手術が主」の医師に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=951) | 職種 | 医師の主たる分野 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=219) | 手術が主 (n=120) | 放射線治療が主 (n=8) | 薬物療法が主 (n=91) |
| そう思う | 1.5 | 1.8 | 3.3 | 0.0 | 0.0 |
| おおむねそう思う | 24.1 | 20.5 | 20.8 | 0.0 | 22.0 |
| どちらともいえない | 47.6 | 32.9 | 34.2 | 25.0 | 31.9 |
| あまりそう思わない | 21.7 | **31.5** | **28.3** | 25.0 | **36.3** |
| そう思わない | 5.2 | **13.2** | **13.3** | **50.0** | 9.9 |

# 沖縄県のがん医療体制等（問38-41）

**問38　県内における集約化と機能分化**

沖縄県内において、がん医療の適切な集約化と機能分化が十分にできていると思いますか。

海邦総研の報告書 p130,131参照

**<全体結果について>**

| | N | % |
|---|---|---|
| そう思う | 14 | 1.5 |
| おおむねそう思う | 230 | 24.1 |
| どちらとも言えない | 458 | 47.8 |
| あまりそう思わない | 206 | 21.5 |
| そう思わない | 50 | 5.2 |
| | 958 | 100.0 |

ここから後の質問は「わからない」という選択肢が設定されていなかった。ただし、「どちらともいえない」に吸収されている可能性がある。集約化・機能分化については、概念的に「十分」な機能分化は主観的であり、回答者によって何を意味しているのかは異なる可能性があることと、ほぼ対称の分布となっており最多回答がどちらともいえない、となっている。

**＜カテゴリー別の解析結果について＞**

これは職種にかかわらず、どちらともいえないが最多である傾向にある。
ただし、否定的な回答「あまりそう思わない」「そう思わない」は医師で特に多く、他の職種が「どちらともいえない」と多く回答していることが全体に影響しているといえる。もし「どちらともいえない」が「わからない」という意味に近いとすれば、医師がその役割において、機能分化の不十分さを感じることが多いということを表している可能性がある。放射線治療を専門とするものは8名が分母とはいえ、4名が「そう思わない」としていることから、放射線治療の専門家の働き方・機能についてはより深く検討の機会があってもよいのかもしれない。

## (28) 医師への意見の言いやすさ(医師以外が回答)

**平均スコア:13.9　(前回調査:17.2)**

Q. 医師以外の医療スタッフの方にお聞きします。がん患者のケアに関して、自分の意見を医師に対して自由に言えますか。

**【全体、職種別】**

- 全体では「おおむね言える」が 38.5%と最も多く、ついで「どちらともいえない」が 36.2%、「あまり言えない」が 17.3%、「言える」が 5.6%、「言えない」が 2.3%と続いた。
- 職種別では、「おおむね言える」に医療ソーシャルワーカー、薬剤師の回答が多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=732) | 職種 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 (n=0) | 看護師 (n=621) | 薬剤師 (n=63) | 医療ソーシャルワーカー (n=48) |
| 言える | 5.6 | 0.0 | 5.5 | 9.5 | 2.1 |
| おおむね言える | 38.5 | 0.0 | 36.4 | **44.4** | **58.3** |
| どちらともいえない | 36.2 | 0.0 | 37.5 | 33.3 | 22.9 |
| あまり言えない | 17.3 | 0.0 | 18.0 | 12.7 | 14.6 |
| 言えない | 2.3 | 0.0 | 2.6 | 0.0 | 2.1 |

**【性別、年代別】**

- 性別では、「おおむね言える」に男性の回答が多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=732) | 性別 | | 年代別 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 男性 (n=146) | 女性 (n=578) | 20代 (n=195) | 30代 (n=195) | 40代 (n=203) | 50代 (n=116) | 60代以上 (n=23) |
| 言える | 5.6 | 4.1 | 6.1 | 6.2 | 4.1 | 5.4 | 7.8 | 4.3 |
| おおむね言える | 38.5 | **44.5** | 37.4 | 37.4 | 42.1 | 36.5 | 38.8 | 34.8 |
| どちらともいえない | 36.2 | 33.6 | 36.5 | 35.4 | 33.3 | 39.9 | 35.3 | 39.1 |
| あまり言えない | 17.3 | 16.4 | 17.5 | 20.0 | 17.9 | 16.3 | 13.8 | 17.4 |
| 言えない | 2.3 | 1.4 | 2.6 | 1.0 | 2.6 | 2.0 | 4.3 | 4.3 |

【医療圏別】

➢ 医療圏別では、「どちらともいえない」の回答が宮古に、「おおむね言える」の回答が北部にそれぞれ多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=732) | 医療圏 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 北部医療圏 (n=40) | 中部医療圏 (n=159) | 南部医療圏 (n=379) | 宮古医療圏 (n=29) | 八重山医療圏 (n=125) |
| 言える | 5.6 | 5.0 | 5.7 | 6.1 | 3.4 | 4.8 |
| おおむね言える | 38.5 | **45.0** | 39.0 | 40.9 | 27.6 | 31.2 |
| どちらともいえない | 36.2 | 37.5 | 36.5 | 33.2 | **51.7** | 40.8 |
| あまり言えない | 17.3 | 12.5 | 17.0 | 17.7 | 17.2 | 18.4 |
| 言えない | 2.3 | 0.0 | 1.9 | 2.1 | 0.0 | 4.8 |

【医療施設別】

➢ 医療施設別では、「どちらともいえない」の回答が地域がん診療病院に多かった。

(%)

| 選択肢 | 全体 (n=732) | 医療施設分類 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 都道府県または地域がん診療連携拠点病院 (n=284) | 地域がん診療病院 (n=192) | その他の医療機関 (n=256) |
| 言える | 5.6 | 4.2 | 4.7 | 7.8 |
| おおむね言える | 38.5 | 40.8 | 33.3 | 39.8 |
| どちらともいえない | 36.2 | 33.8 | **41.7** | 34.8 |
| あまり言えない | 17.3 | 19.4 | 17.7 | 14.8 |
| 言えない | 2.3 | 1.8 | 2.6 | 2.7 |

**問39　医師への意見の言いやすさ**

医師以外の医療スタッフの方にお聞きします。がん患者のケアに関して、自分の意見を医師に対して自由に言えますか

海邦総研の報告書 p.132,133参照

**<全体結果について>**

| | N | % |
|---|---|---|
| 言える | 41 | 5.6 |
| おおむね言える | 284 | 38.6 |
| どちらとも言えない | 266 | 36.1 |
| あまり言えない | 128 | 17.4 |
| 言えない | 17 | 2.3 |
| Total | 738 | 100.0 |

医師への意見の言いやすさは、「おおむねいえる」が最多であるとはいえ、どちらともいえない、も同数あることに注目すべきかもしれない。「言えない」、「あまり言えない」も5分の１とある。

**＜カテゴリー別の解析結果について＞**

職種別については、看護師では「どちらともいえない」という回答が最多となっており、他の職種において、「おおむね言える」が最多であることと対照的である。地域別にいても、本島では「おおむねいえる」が最多となるのに対して、宮古・八重山では「どちらともいえない」が最多であった。

医師と、他のスタッフとの関係については職種ごとに関係性が異なるのは自然であるものの、チーム医療には重要な要素であることから、肯定的回答がより多くなるほうが望ましい。